けいはんな万博2025
事業報告書

『未来社会への貢献～次世代への解～』

けいはんな万博
2025

けいはんな万博 2025 運営協議会

「けいはんな万博 2025」事業報告書◉目次

ごあいさつ

堀場厚　けいはんな万博 2025 運営協議会共同代表
（公財）関西文化学術研究都市推進機構理事長……4

松本紘　けいはんなで大阪・関西万博を考える会 座長
（仮称）けいはんな万博開催準備会 会長
けいはんな万博 2025 運営協議会 共同代表
（公財）国際高等研究所 前所長）……5

けいはんな学研都市……6
けいはんな万博 2025 開催に至る経緯……10

【総括】……19

第1章　万博運営・実装……21
万博運営・実装
○けいはんな万博　キックオフイベント……22
○けいはんな万博 2025 の概要……24
〇開会式……26
○けいはんな万博 in 夢洲……28
○けいはんな万博へようこそ……33
○けいはんな R&D フェア 2025……35
○せいか祭り 2025……36
○アバターロボット操縦体験 デモ展示……37
〇閉会セレモニー……38
○けいはんな万博 2025 成果とレガシー……40
○けいはんな宣言に向けて……43
○けいはんな宣言……44

第2章　科学・生活・文化・自然環境の調和……47
思想・社会
○新・けいはんな風土記……48
○「不確実性とともに生きる–次世代への鍵」……51
○「不確実性とともに生きる–未来への鍵」……52
○「エジソンの会、ゲーテの会、meta 鼎談
～国際高等研究所の交流事業～」……54

ウェルビーイング
○ウェルビーイングフェスティバル……56
○ロボカフェ……64
○シンポジウム「健康寿命伸長への提案
ウェルビーイングと『意識』の関係性」……65
○「古代都食」探求・開発シンポジウム……66

文化・芸術
○「けいはんなみゅーじあむ展」……68
○「ジャズフェスティバル／公園でバレエ」……69
○けいはんなお豆腐狂言 KYOGEN……70
○けいはんなプラザ・プチコンサート……71
○万博記念コンサート……72
○木津川アート 2025……73
○回遊型コンテンポラリーダンス公演……74
○観月の夕べ……75
○大阪交響楽団……76

第3章　持続的イノベーションの仕組み……79
人材・共創
○異分野交流セミナー
近未来創造ワークショップ 5回シリーズ……80
○けいはんな万博セミナー……82
○未来創造セッション 2024 ❶❷❸❹……84
○未来創造セッション 2025 ❶❷❸……86

エコシステム・実証・事業化
○オープンラボ・テックツアー……88
○オープンラボ・テックツアー 2025……90
○けいはんなグローバルスタートアップ
PoC チャレンジの歩みと成果……94

第4章　世界の知と産業への展開……103
ロボット・ICT
○アバターロボット操縦体験 デモ展示 ①②……104
○アバターチャレンジ 2023 プレ大会……106
○第1回アバターチャレンジ 2025 大会……107
○「ドローン ＆ XRフェス」……110
○アバター訪問……112
○五重奏を指揮するアバターロボット……113
○次世代モビリティ事業・草刈りロボット事業……114

展示・産業
○関西パビリオン 京都ゾーン……116
○ナイスポ！ NAIST EXPO 2025……118
○ ATR オープンハウス 2025
「社会課題と向き合う科学技術の最前線」……119
○京都スマートシティエキスポ 2025……120
○京都フードテック EXPO 2025……122

国際発信
○バイオインタラクション研究会
第 29 回ワークショップ……124
○第1回デコーディッド・ニューロフィード
バック国際シンポジウム……126
○きょうと国際学生サミット 2025……128
○地球環境ユースサミット 2025 in KYOTO
京都・けいはんなサミット……130
○生命の起源に関する国際シンポジウム……132
○ ATR 温故知新（故きを温ねて新しきを知る）
シンポジウム……134

第5章　将来展望とロードマップ……137
○「けいはんな大学」サミット……138
○ポスト万博シティけいはんなの未来図
SF アニメーション……140

【結論】……143

コラム……145
塩﨑一裕　奈良先端科学技術大学院大学　学長
（けいはんな万博 2025 運営協議会　座長）
……146
橋爪紳也　大阪公立大学　研究推進機構　特別教授
（けいはんな万博 2025 運営協議会　副座長）
……147
駒井章治　東京国際工科専門職大学　教授……148
小路田泰直　奈良女子大学　名誉教授……149
浅見徹　（株）国際電気通信基礎技術研究所（ATR）
代表取締役社長……150
鈴木博之　（株）国際電気通信基礎技術研究所（ATR）
代表取締役副社長……151
荒木康寛　（株）けいはんな　代表取締役社長
……152
河合智明　（公財）関西文化学術研究都市推進機構
常務理事……153

資料１　けいはんなで大阪・関西万博を考える会……157
資料２　（仮称）けいはんな万博全体構想……158
資料３「けいはんな万博」（仮称）について……164
資料４「けいはんな万博」（仮称）開催準備会の設立
……165
資料５　趣意書……166
資料６（仮称）けいはんな万博 2025　パンフ……167
資料７　けいはんな万博 2025　基本計画……172
資料８　けいはんな万博 2025 ポスター……180
資料９　けいはんな万博の運営協議会総会資料……182
○役員……187
○会則……188
○稟議書／事業承認稟議書類
収入伝票／支出伺い兼支払伝票……192
○みらるるチラシ……193
○開会式プログラム……194
○閉会セレモニープログラム……195
○資料索引リスト（草創期／ 2023 ／ 2024）……198
資料索引リスト（2025）……199
○フライヤー集……202
○編集後記……216

イベントの様子や動画は、こちらからご覧いただけます。
（けいはんな万博 2025 公式ホームページ）

ごあいさつ



けいはんな万博2025運営協議会 共同代表
（公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構 理事長）

堀場　厚

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）と時期を合わせて開催いたしました「けいはんな万博2025」は、おかげさまで20万人を超える皆様にご参加いただき、想定以上の成果を挙げることができました。

ご参加いただいた皆様、サポーター機関・参画機関の皆様、そして企画・計画の段階から事業実施に至るまで携わっていただいたすべての関係者の皆様に心から厚くお礼を申しあげます。

とりわけ、私とともに運営協議会の共同代表を務めてくださり、会期中の2025年６月にご逝去された松本 紘先生には、けいはんな学研都市のめざすべき未来像の検討から万博準備に至るまで、多岐にわたり議論を牽引していただき、多大なご指導を賜りました。ここに改めて哀悼の意を表し、心より感謝申しあげます。

けいはんな万博2025は、限られたリソースのなかで関係者が工夫を重ね、いわば手づくりで準備を進めてまいりました。その甲斐もあり、けいはんな学研都市の歴史の中でも最大規模であり、かつ大変有意義なイベントとなりました。

古代からの豊かな歴史文化と、世界水準の先端的研究開発が重層的に集積するけいはんな学研都市の魅力を多くの皆様に知っていただけたこと、そして企業・研究機関・大学のみならず、地方自治体、さらに学生も含めた地域住民の皆様が一体となり、熱意と力を結集できたことこそ、本イベントの大きな成果であると考えています。

もとより、けいはんな万博2025を開催することそのものが私たちのゴールではありません。今回の成果を踏まえ、今後さらに企業や研究機関等の集積を進め、研究開発力の向上や、その社会実装を促進していく必要があります。そのうえで、けいはんな学研都市が国力の向上に貢献し、健康で平和で豊かな未来社会の実現に寄与していくことこそ、真の成功であると考えています。

そうした思いを私たちは「けいはんな宣言」に込めました。科学技術が人々の生活や社会をどのように変えるのか、そしてどのように変えていくべきなのか、こうした視点を常に持ちながら、けいはんな学研都市は、豊かな未来の創造に向けて挑戦を続けてまいります。

この報告書は、そのような熱い想いを抱くけいはんな学研都市の現在地を、皆様にお伝えするものです。

今後とも関係者一同が力を結集して取り組んでまいりますので、けいはんな学研都市の取り組みに引き続きご支援ご協力を賜りますよう、心よりお願いいたします。



けいはんなで大阪・関西万博を考える会 座長
（仮称）けいはんな万博開催準備会 会長
けいはんな万博2025運営協議会 共同代表
（公益財団法人 国際高等研究所 前所長）

松本　紘

21世紀の今日、われわれは依然として人口問題、環境破壊や地球温暖化、飢餓や貧困、疫病、テロリズムや戦争など様々な課題に直面しています。

私は、科学技術の進歩の成果を、価値観の成熟、法体系や経済システムなど社会全体の進歩の下で適切に利用することにより、こうした課題は必ず解決され、素晴らしい「未来」を実現することができると信じます。

「大阪・関西万博」を契機として開催するけいはんな万博は、高い研究開発力と豊かな歴史文化を有するけいはんな学研都市の総力を挙げて、素晴らしい「未来」の実現に貢献しようとする試みです。

どうか皆さまの力強いご支援、ご協力、そして積極的なご参加をお願いいたします。

上記のごあいさつは、2022(令和４)年末に発行した「けいはんな万博」の広報資料に寄稿していただいたものです。

松本 紘 先生には、最初の準備の段階から常に議論を牽引していただき、けいはんな万博2025運営協議会の共同代表として多大なるご指導を賜りました。

松本先生は、けいはんな万博開催の最中、2025(令和７)年６月にご逝去されました。

謹んで哀悼の意を表し、感謝をささげます。

けいはんな万博２０２５運営協議会事務局

けいはんな学研都市

あゆみと現況

関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）は、1978（昭和53）年９月に発足した「関西学術研究都市調査懇談会」（通称・奥田懇）に始まります。京都大学の奥田東元総長らが中心となり、各界の協力を得て設立しました。奥田氏を突き動かしたのは、世界的なシンクタンク・ローマクラブが1972（昭和47）年に発表した報告書『成長の限界』です。当時の状況のまま人口増や経済成長が続けば、100年以内に地球上の資源は枯渇し、食糧は足りなくなり、成長どころか人類の存続さえ危ぶまれるとの警鐘を鳴らすものでした。世界的に反響を呼び、人類が持続して存続するための方策も研究されましたが、この地球上の危機を真正面から自分事として受け止めた一人が奥田氏でした。第１次オイルショックが起こり、日本が戦後の高度経済成長からの転換を迎えていた時期でもありました。

当時、奥田氏が日本の将来を危惧してまとめた理念に次のような記述があります。

「過去３世紀もの間、世界を主導してきた近代科学文明は人類社会の発展に大きな貢献をしてきたが、その一方で資源の枯渇、地球環境の汚染、南北格差の増大等の弊害のみならず、人間の倫理面にかかわる深刻な諸問題を生み出し、これらを克服し得ぬまま21世紀を迎えようとしている。今や人類は世界の英知を集結し、従来の近代科学技術文明を乗り越えて、全人類の一層の幸福推進に寄与する新しい地球文明を創造しなければならない重要な時期にある。西欧が生み出した文明の成果と自らの固有の東洋文化を統合することによって、めざましい社会経済の

発展を成し遂げた日本は、科学立国と文化立国を国是として新しい地球文明創出のために積極的な役割をになおうとしている。」

この理念を元に近畿の各大学、学会へ働きかけ、奥田懇の発足にこぎつけたのです。そして理念を実現するために、科学技術の新領域の研究開発の促進と、自然と人間の本性に正しく適合した新しい文明のあり方を探求する学術研究機関が集積した都市の設立を提起しました。それは個別の研究機関の寄せ集めではなく、学際的に自由に共同研究をして社会課題の解決に貢献する総合的かつ開かれた学術研究都市です。これがけいはんな学研都市の基本理念になっています。

奥田懇が、学術研究都市の実現に向けて国土庁や関西経済界などにも働きかけた結果、その必要性は国も経済界も認めるところとなりました。この動きとは別に、新たな文化・芸術活動の全国展開の中心となる「国民文化都市」を京都南部に立地するという構想が民族学者の梅棹忠夫氏によって提唱されていました。最終的に新領域の学術研究にしても文化・芸術的な視点が不可欠として文化的要素を加味した学研都市計画となり、1987（昭和62）年６月、「関西文化学術研究都市建設促進法」が施行されました。京都・大阪・奈良の府県境にまたがる学研都市の建設が国家プロジェクトとして本格的にスタートしたのです。奥田懇の提言から10年目のことです。

けいはんな学研都市づくりの本格化に向けて、さまざまな機関が発足しました。1984（昭和59）年に中核機関として財団法人国際高等研究所（IIAS）が創設されたのをはじめ、都市づくりをリードする財団法人関西文化学術研究都市推進機構（KRI）や、株式会社けいはんな（KHN）の設立に続き、株式会社国際電気通

信基礎技術研究所（ATR）、財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）などが相次いで立地しました。奥田懇で提唱された「連合大学院大学構想」も奈良先端科学技術大学院大学（NAIST）として実現しました。都市域も今では京都府精華町・木津川市・京田辺市、大阪府枚方市・交野市・四條畷市、奈良県奈良市・生駒市にまたがる総面積１万５千㌶の規模になっています。このうち研究機関・企業が立地する文化学術研究地区（クラスター）は12あり面積は３千６百㌶。158の研究機関と企業が集積しています。（2025年４月１日）

けいはんな学研都市では、先端的学術研究、産官学連携による新産業創出、未来を拓く知の創造などを目標に掲げ、10年ごとに開発フェーズを「ステージプラン」として示しています。

2016（平成28）年からの第４期ステージプランとなる「新たな都市創造プラン」では、

▽文化・学術研究の振興▽イノベーションの推進▽次世代スマートシティ形成▽ネットワーク型都市の運営を目標にけいはんな学研都市全体で取り組んでいます。さらに産官学や異業種が連携して新事業・新産業を創出する場として「けいはんなＲ＆Ｄイノベーションコンソーシアム」が設立されました。あらゆる研究機関や企業が力を合わせて社会課題の解決に当たる姿勢は一貫しています。

国内外のスタートアップ企業とも連携・協力関係を築いており、さまざまなプログラムを展開しています。また、けいはんな学研都市周辺の13大学及び８研究機関による「大学・研究機関」共創会議において、けいはんな学研都市が持つ強

みや課題、目指すべき方向性などについて、議論を重ね、未来の都市像や研究開発の方向性を提言・推進しています。

けいはんな学研都市のもう一つの大きな特徴は、住宅地と近接しているため研究開発や都市づくりに住民の意見を反映しやすいことです。生活者としての住民のアイデアや意見を活かす住民サポーター組織「Clubけいはんな」には４千人以上の登録があり、住民目線を活かした実証実験等を通じて、新事業創出に貢献しています。

2024（令和６）年１月には、国の「2025年大阪・関西万博アクションプラン」において、けいはんな学研都市が万博の成果を継承する「ポスト万博シティ」として位置付けられました。2025（令和７）年開催の「大阪・関西万博」と連携した「けいはんな万博2025」の開催を契機に、産官学連携の強化や国際交流の深化を図り、研究成果の実証・実装を推進する都市として、今後ますます、その役割が期待されています。

（名称等は当時のもの）

けいはんな万博2025 開催に至る経緯

「けいはんな未来」懇談会とリサーチコンプレックス

2015（平成27）年７月、国際高等研究所の研究活動の基幹プログラムとして、「けいはんな未来」懇談会が設置されました。

この懇談会は、けいはんな学研都市の30年後の未来を見据えて、「けいはんな」の特徴を生かしながら都市全体を成熟させていくための青写真をデザインすることを目的としたもので、松本紘・国際高等研究所副所長（当時）を座長に、産業、学術、行政の各分野を代表するメンバーが、長期的視点をもって都市のあり方について議論、検討を重ねました。

2016（平成28）年３月に、この懇談会の活動成果として「けいはんな学研都市の30年後に向けて」がまとめられ、現状を踏まえた上でのあるべき姿、ありたい姿、そこに到達するプロセス等が提案され、大学などとの新たな関係構築を基に、シンクタンク機能を中核とした知の協業および発信を進めていく方向性が示されました。この懇談会は、2018（平成30）年３月まで継続しました。

一方、けいはんな学研都市では、概ね10年ごとにその進むべき方向性を示すステージプランを策定していますが、その４期目にあたる「新たな都市創造プラン」が、2016年４月からスタートしました。

そこには、けいはんな学研都市の役割として、「世界の未来への貢献」が掲げられており、また、このプランの集大成となる最終年度が2025年（令和７）でした。後に「けいはんな万博」の開催に至る端緒となりました。2016年10月、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が所管するリサーチ コンプレックス推進プログラム[3]に、けいはんなからの提案が採択され、「けいはんなリサーチコンプレックス事業」がスタートしました。

これは、これまでけいはんなで培われてきた技術基盤の上に、i-Brain × ICTの概念を重層化し、事業創出の仕組みをイノベーションエコシステムへと発展さ

https://www.iias.or.jp/wp/wp-content/uploads/05ea1fa304430c2a17e00da5a3cb5db9.pdf
https://www.kri.or.jp/future/img/aratana_plan.pdf
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu16/009/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2016/10/28/1378694_3.pdf

せ、人のココロに寄り添う「超快適」な次世代型スマートシティの実現を目指す事業でした。

産官学に加え金融機関や住民など多彩なプレーヤーの連携によるイノベーション創出の複合基盤を構築することを旗印に、多数の大学、国の研究機関、関西経済界を代表する企業・経済団体、地方自治体等が幅広く参画し、社会課題を起点として、その解決のための事業化や地域政策を当初から織り込んで設計された事業である点に大きな特徴があり、それ以前には見られなかった「けいはんな」全体が一丸となって取り組むプロジェクトとなりました。

一例を挙げれば、国内外の優れたスタートアップを支援するアクセラレーションプログラムである「KGAP+事業」が開始されましたが、これは、研究成果や技術シーズの社会実装および事業化を促進する役割を担い、後には「けいはんな万博」におけるスタートアップ部会の基盤となりました。

また、異分野間の交流と共創を促進するため、「けいはんなリサーチコンプレックス異分野交流セミナー」を実施し、その一環として、定期的に「近未来創造ワークショップ」を開催しました 。計５回のワークショップに延べ155名が参加して議論が行われ、様々なプロジェクトやプラン（のちに「15のプラン」と呼ばれることになる）が取りまとめられました。

このワークショップの大きな特徴は、参加者が、組織を代表してではなく個人として参加した点にあります。立場や所属を超えて自由な議論が行われ、その成果として集約された内容が、後に「けいはんな万博」で展開されるロボット・アバター・ICT、サイエンス＆ アートの各部会の基礎となりました。

この事業は、2020（令和２）年３月まで継続しました。

「けいはんなで大阪・関西万博を考える会」

2018（平成30）年11月、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の開催が決定しました。

2019(令和元)年５月、けいはんな学研都市では、大阪・関西万博を、「けいはんな」を国内外にアピールする絶好の機会と捉え、「新たな都市創造プラン」推進の実行計画と位置付けて、大阪・関西万博の成功への貢献とけいはんなの成長発展を目的に、「けいはんなで大阪・関西万博を考える会」が設立されました。同会は松

本紘・国際高等研究所所長の提案により発足し、松本所長が座長に就任しました。

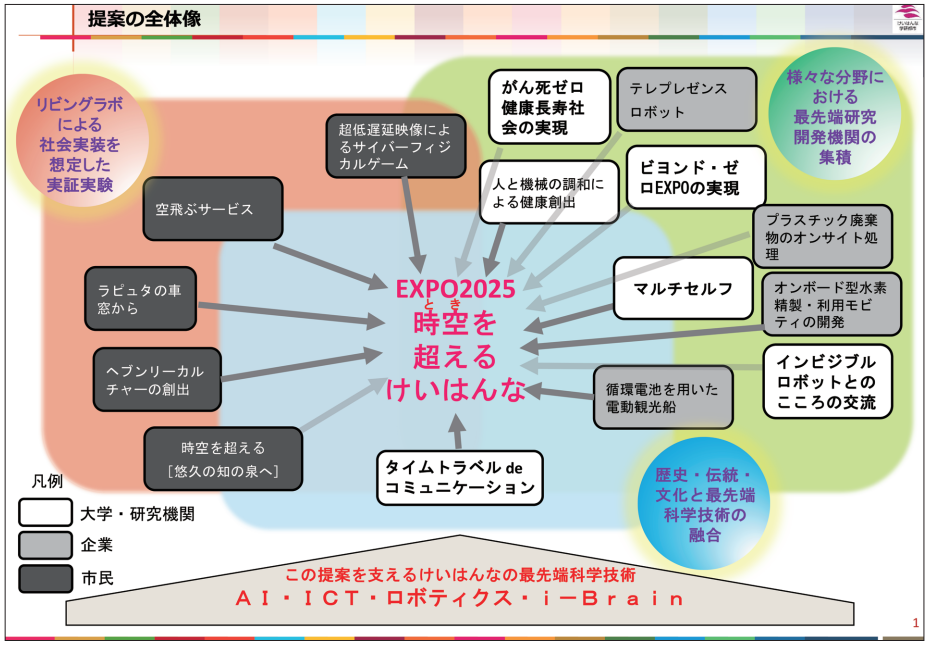
この考える会の考え方として、「いのち輝く未来社会」を理解するためには、単に最先端の科学技術を展示するだけではなく、心の豊かさや文化といった価値を考えることが不可欠だとされ、古代からの歴史文化と世界水準の研究開発が重なるけいはんな学研都市を、時空を超えて知と文化を結び直し未来文明を構想し続ける知的拠点とするための議論が重ねられました。

ここでリサーチコンプレックスの成果としてまとめた「15のプラン」は、2020（令和２）年 ６ 月、松本座長から、日本国際博覧会協会の石毛事務総長に提案されました。

2021（令和３）年６月、大阪・関西万博の開催決定などの外部環境の変化を受けて、「新たな都市創造プラン」のブラッシュアップがまとめられました。

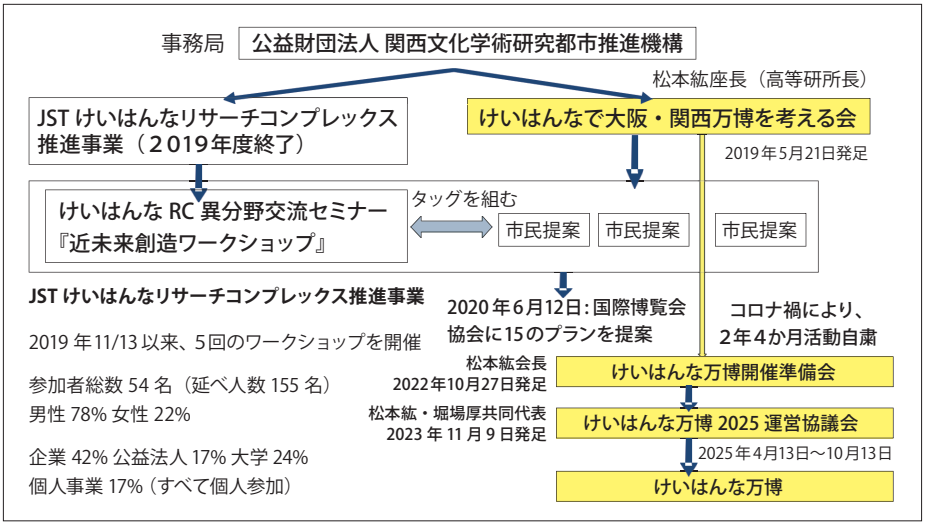
そこには、次のように記載されています。

「「2025 年大阪・関西万博」の開催を、日本を代表するサイエンスシティである、けいはんな学研都市の国内外へのアピールの絶好の機会と捉え、大阪・関西万博の成功ならびに SDGs達成に貢献するとともに、本都市の成長発展に大きく寄与することをねらいとして、令和元（2019）年に「けいはんなで大阪・関西万博を考える会」を創設した。この目的を達成するために、限られた資金や人材を最大限活用しながら、本都市の有するポテンシャルを最大限活かしたアピールを実現すべく、「考える会」のメンバーの有識者を中心に検討を進め、研究開発機能の



日本国際博覧会協会に提出した「15のプラン」

https://www.expo2025.or.jp/wp/wp-content/uploads/210204keihanna-expothink.pdf
「タイムトラベルdeコミュニケーション」は、研究機関から市民プランに継承されました。



「考える会」から「けいはんな万博」への流れ

集積や市民参画という地域特性を活かした15のプランを公益社団法人2025年日本国際博覧会協会に提案した。今後、具現化に向けた協議を関係機関と行う」

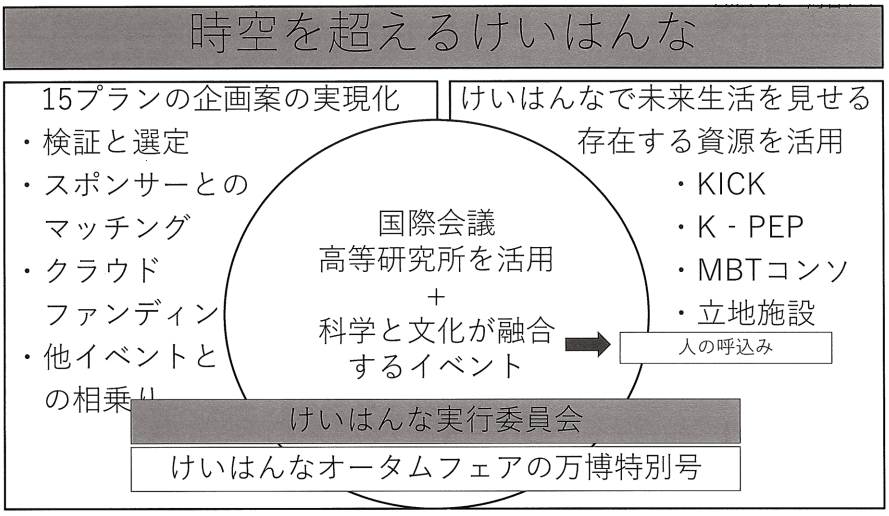
2016年度からの「新たな都市創造プラン」が掲げたビジョンに対して、いわばその実施計画として打ち出した答えが「けいはんなで大阪・関西万博を考える会」、「けいはんなリサーチコンプレックス事業」、「けいはんな万博」という一連の事業であったといえます。

しかし、リサーチコンプレックス終了後は活動資金を失ったことに加え、コロナ禍の影響により住民が集まって「考える会」の実施プランを深め、資金調達に必要となる「けいはんな万博」の骨子をまとめることができないまま月日が経過していきました。「けいはんなで大阪・関西万博を考える会」が「けいはんなリサーチコンプレックス事業」の活動と連携できたのに対し、「けいはんな万博」はそのような連携も人材もない状態のまま動き出さざるを得ない状況に置かれました。

（仮称）けいはんな万博の検討を開始

2019年末に始まったコロナ禍は2021年になっても収まらず、満足にけいはんな万博の検討を進めることができない状態が続きました。「新たな都市創造会議」も総会が５月21日、第１回幹事会が７月30日、イノベーション推進部会の第１回が９月９日、第２回が11月１日と集中検討には程遠い状態でした。

しかし、大阪・関西万博の内容や開催形態等が判ってくるにつれて、けいはんな学研都市内においても、連動したイベントを開催しようという機運が高まり、



イノベーション推進部会の夢

11月９日にイノベーション推進部会の中の研究開発推進WG「(通称) 万博WG」の第１回が開催され、「考える会」の「15のプラン」をはじめ、万博と連携して「けいはんな」でもイベントを行おうと検討をしました。

これまでも、けいはんな学研都市内では、秋に様々なイベントを展開する「オータムフェア」が行われてきましたが、これに先の15プラン等を加えて、図に示す「時空を超えるけいはんな」のタイトルで万博特別号として開催することが検討されました。

2021年度末、約半年間の検討を経て、「(仮称) けいはんな万博全体構想」がまとめられ、(仮称) けいはんな万博は、2025年９月頃に、２～３週間程度の日程で開催することが想定されていました。

残念ながら、この時の案に記載の「けいはんな実行委員会」や「けいはんなオータムフェアの万博特別号」は実現には至らず、文字通り「夢」と化しました。実際の胎動が始まるのは、日本社会がコロナ禍から正常化に向かう2022年後半からとなります。

(仮称) けいはんな万博開催準備会、また、関係者の検討会もCOVID-19の扱いが、2023年５月８日に「５類感染症」になるまで活発にはできませんでした。

(仮称) けいはんな万博開催準備会

2022（令和 ４ ）年度になると、草の根活動が始まり、第１に、リサーチコンプレックスの15プラン提案者を中心とした「けいはんな万博セミナー」が始動し、

第２に2021年末から活動支援者を集めていた「けいはんなアバターチャレンジ」が2022年にNPOを設立し、2023年11月には理事の寄付により2025年の技術的検証を行うプレ大会を開催しました。これは、2020年に万博協会に提案したサイバーフィジカルゲームが、技術面・法制度面の課題から実施困難と判明したため、より実現可能なイベントとして再設計する取り組みです。こうした草の根活動の進展と全体ビジョンの整理が進んだことで、いよいよ（仮称）けいはんな万博の開催に向け、どのような形で準備を進めていくかの検討が本格的に始まりました。

「(仮称）けいはんな万博開催準備会」を設置するため、設置要綱（案）などのフレームを固め、趣意書を作成して、都市内の立地機関等を個別に訪問して賛同をお願いした結果、10月に、44機関の参加を得て第１回の準備会を開催しました。

国際高等研究所の松本所長を会長に選出し、けいはんな万博の開催や全体構想等について活発な意見交換が行われました。この会議において、開催期間は９月だけでなく大阪・関西万博と同じ半年間にする方がよいとの意見が出され、改めて検討することになりました。

2023（令和５）年４月、第２回の準備会を開催しました。前回の意見を踏まえ、これから策定する基本計画の方向性等について議論し、テーマの設定や、開催のフレームを、半年間、けいはんな学研都市内全域に設定することなど、概ねの方向性が了承されました。

多くの機関に賛同のお願いを継続してきた結果、この時点で、賛同機関の数は104になっていました。

【参考資料】

○「(仮称）けいはんな万博2025」（資料編P167～170に掲載）

○広報用ポスター（資料編P180ページに掲載）

2023年６月、第３回の準備会を開催し、基本計画（素案）について議論し、了承されました。事業の名称から（仮称）がとれ、正式に「けいはんな万博2025」に決定しました。

基本計画を策定したことで準備会は一定の役割を終えたことから、今後、実際に事業を実行していく体制として、「準備会」から「運営協議会」に移行することを説明しました。すなわち、単に開催に賛同する「賛同機関」から、何らかのリソースを提供し実際の運営等にしっかりと携わっていただく「参画機関」になっ

てもらうようお願いしました。この時点での賛同機関の数は106でした。

【参考資料】

○「けいはんな万博2025　基本計画の概要」（資料編P172～179に掲載）

■けいはんな万博2025運営協議会

2023年11月、106の賛同機関のうち55機関が出席して、運営協議会の運営体制を構築するための会合を開催しました。

会則の制定、共同代表の選出、幹事会や部会の設置等について議論し決定されました。この時から、実際の運営等にしっかりと携わる「参画機関」を改めて募っていくこととなりました。

また、ロボット・アバター・ICT、ウェルビーイング、スタートアップ、サイエンス＆ アート、国際会議、広域連携、オープンラボの７つの部会を設置し、コンテンツの検討も進めていくことになりました。それまで「何をやりたいのかわからない」と言われていた「けいはんな万博」が初めて地に足の着いた活動へと移行した瞬間であり、協議会が発したメッセージは強い影響力を持ちました。2023年の10月までは、けいはんなの各種イベントで万博を目指すと明確に掲げて開催されるものはオータムフェアも含めほぼ皆無でしたが、協議会設立以降は、これがコンセンサスとなり、2024年に実施される既存イベントも万博の旗の下で設計されるようになりました。協議会発足直後に「けいはんなアバターチャレンジプレ大会」が開催されたことも、地域全体の機運醸成に寄与したと考えられます。

2024（令和６）年 １月、政府の策定する「2025年大阪・関西万博アクションプラン」の「ポスト万博シティの推進」の項に、関西文化学術研究都市とけいはんな万博2025の取組が掲載されました。これは、けいはんな万博2025が大阪・関西万博と連動していることが公式に認められたことを意味するものでした。

2024年度になり、開催まで１年を切った中で、様々な準備を加速していきます。まず、５月には、けいはんな万博2025のロゴマークを決定しました。同時に、４月から本格的な寄付集めに入りました。残念ながら、この時点では協議会発足後半年もたっていないこともあり、まだまだ議論が深められておらず、一言で納得させられる趣旨が未完成で、寄付集めは大変難航しました。2024年度は、そのため、個別イベントを積み重ねることによる機運醸成活動を行いました。

６月には、大阪うめきたで、「キックオフイベント」を開催し、広くけいはんな学研都市とけいはんな万博の開催をアピールしました。

また「オープンラボ・テックツアー」や「未来創造セッション」などのプレイベントも随時したほか、各地で開催される同種のプレイベントにも出展し、広報活動を行いました。

６月17日には、2024年度第１回目の運営協議会を開催し、各部会で約半年間かけて検討してきた様々なイベント、コンテンツのプランを紹介し、参画機関と認識を共有しました。また、参画機関の更なる拡大や、イベント、コンテンツの磨き上げの継続を図りました。ここで、初めてけいはんな万博の具体的イメージを広報できるようになり、資金集めに注力しました。

８月には待望のホームページを開設し、積極的に情報発信が図れるようになりました。

2025年２月、ロゴマークは、いつの間にかシンボルキャラクターと考えられるようになり、名前を公募したところ、多数の応募の中から「みらるる」に決定しました。

３月12日、2024年度第２回目の運営協議会を開催し、2024年度の取組の報告、2025年度の事業展開、予算等について議論し決定しました。この時点で、参画機関は68、サポーター（協賛金等出資機関）は28となっていました。（最終的には、参画機関は73、サポーター（協賛金等出資機関）は32となりました）

振り返ってみると、本事業は、2020年に「けいはんなで大阪・関西万博を考える会」が万博協会へ提案を行ったことを中心として始まりましたが、前述のとおりその後２年４か月は新型コロナウイルス感染症の影響や資金不足により具体的な検討が進まない状況が続きました。この結果、協賛金を集めるうえで最も重要となる万博の目標を明確に設計する時間が十分に確保できなかったことが大きな反省点となりました。しかし、運営協議会の発足を契機として住民意見の集約が急速に進み、2025年４月の大阪・関西万博開催に向けた体制をなんとか整えることができました。

私たちがけいはんな万博でやったこと

特定非営利活動法人けいはんなアバターチャレンジ　理事長　浅見　徹
（けいはんな万博 2025 運営協議会　幹事）

総括

けいはんな万博2025は、「未来社会への貢献 ～次世代への解～」をテーマに、従来の展示型イベントを超えた「実証型万博」として実施されました。本万博の本質は、単なる技術紹介にとどまらず、科学技術と人間社会の関係を再設計し、その成果を社会実装および国際展開へと接続する新たなモデルを提示した点にあります。

本万博の特徴は、「調和（理念）」「持続的イノベーション（仕組み）」「世界展開（実装）」という三層構造にあります。まず、「科学・生活・文化・自然環境の調和」という理念のもと、ウェルビーイングや文化・芸術、社会思想的議論を通じて、技術を人間中心の文脈に位置づける視点が提示されました。次に、この理念を具体化する仕組みとして、「共創・実証・事業化」を循環させる持続的イノベーションモデルが構築されました。多主体が参画する共創の場で課題が設定され、実証環境で社会適合性が検証され、その成果が事業化へと接続されることで、継続的な価値創出が可能となりました。さらに、これらの成果はロボティクスやICTを中心とした実証や産業展示、国際会議を通じて世界へ発信され、地域で生まれた調和型イノベーションが国際的な知的・産業ネットワークへと接続されました。ここでは、技術のみならず、社会モデルや価値観を含む「知の輸出」が志向されています。

一方で、本万博は当初から計画的に構築されたものではありません。2019年に開始された「万博を考える会」における議論を基盤としつつも、新型コロナウイルス感染症の影響により長期間活動が停滞するという非連続的な経過を辿りました。その結果、再始動時には時間的制約や資金面の課題が生じましたが、初期段階の議論が知的資産として機能し、短期間での構想再構築を可能としました。この経験は、平時からの議論基盤の重要性を示すものです。

以上を踏まえると、本万博は単なるイベントではなく、理念・仕組み・実装を一体化した社会モデルを提示した取り組みと位置づけられます。今後は、この基盤を活用し、社会実装フェーズ（2026～2028）、国際展開フェーズ（2029年以降）へと段階的に発展させていくことが重要です。特に、アバター、ロボティクス、ウェルビーイングの分野において、けいはんなが世界的拠点として機能することが期待されます。

第１章

万博運営・実装

けいはんな万博2025の運営は、従来の博覧会に見られる計画主導型のイベントとは異なり、不確実性の中で形成された社会的プロセスとして特徴づけられます。2019年に発足した「万博を考える会」では、市民、研究者、企業関係者が分野横断的に議論を行い、その成果は2020年に万博協会へ提案されました。

しかし、その直後に新型コロナウイルス感染症が拡大し、対面での活動はほぼ停止しました。リモート環境も十分に整っていなかったため、議論の継続が困難な状況が長期間続き、構想の具体化に大きな影響を与えました。2023年に活動が再開された後は、限られた時間の中で全体コンセプトを再構築する必要が生じ、多様な主体の提案を統合する形で全体像が形成されました。この過程では、計画の遅延や資金調達の難航といった課題も生じましたが、一方で柔軟な統合力を生む契機ともなりました。

本万博の運営は、事前に確定された計画を遂行するものではなく、不確実性に適応しながら進化するプロセスとして成立しています。この運営モデルは、今後の大規模プロジェクトに対して重要な実践的示唆を与えるものです。

運営の構成としては、キックオフイベントにより全体構想と方向性が提示され、その後、開会式および閉会セレモニーを通じて活動の開始と成果の総括が体系的に行われました。また、夢洲との連携イベントにより、大阪・関西万博との相互補完的な関係が構築され、けいはんなの実証活動が広域的な文脈の中で位置づけられました。これにより、地域単独ではなく広域圏としての価値創出が実現されています。

さらに、本万博では、実施と並行して成果の整理とレガシーの構築が進められました。「けいはんな宣言」として理念と方向性が明文化され、社会実装や国際展開に向けた指針が提示されています。このように、実施と将来展開を一体的に設計している点は、従来のイベント運営と大きく異なります。

運営の基本原則としては、「実証主義」「多主体連携」「継続性」の三点が挙げられます。実証主義においては、展示にとどまらず、実環境に近い条件下での技術検証やサービス実装が重視され、技術の有効性だけでなく社会受容性や運用上の課題が明らかにされました。多主体連携の観点では、研究機関、大学、企業、自治体、地域コミュニティが連携し、それぞれの強みを活かした共創体制が構築されました。さらに、継続性の観点では、万博終了後を見据え、得られた知見やネットワークを次のフェーズへと接続する枠組みが組み込まれています。

以上のように、本万博は「終了するイベント」ではなく、「継続するプロセス」として設計・運営されています。この点において、本万博は従来の博覧会とは異なる新たな運営モデルを提示したものと位置づけられます。

一方で、本万博は分散型かつボトムアップで進められたため、全体ビジョンの共有や進捗の可視化に課題も見られました。また、活動の担い手が一部に偏り、地域全体への浸透が十分でなかった点も、今後の重要な改善課題です。

けいはんな万博　キックオフイベント

～サイエンスシティ『けいはんな』から描く未来社会のデザイン～

2024年6月3日

事業名	けいはんな万博　キックオフイベント
部会名	広域連携部会
実施の形態	主催
参画機関	18社・団体　約30名
実施期間	2024年6月3日 10:00～16:00
実施場所	JR大阪駅前 グランフロント大阪 SHIPホール
事業の趣旨	けいはんな学研都市の存在価値やけいはんな万博開催の意義等について、基調講演やシンポジウム等を通じて発信し、他のサイエンスシティとも連携して、大阪・関西万博やけいはんな万博の開催に向けた機運醸成を図る。
事業内容	・シンポジウム 主催者挨拶（堀場共同代表） 来賓挨拶（小林けいはんな議連事務局長、信谷近経局局長） 基調講演（塩﨑奈良先端大学長） パネルディスカッション 大阪・関西万博の展示・実装技術の紹介 閉会挨拶（河合KRI常務） ・展示 CO2分離・回収、地中貯留技術（RITE） アバター紹介（ATR）/翻訳技術（NICT） ・誘客・万博映像：ミャクミャク、3府県のゆるキャラによる誘客
参加者数等	シンポジウム 計220名（リアル150名・オンライン70名） サブスペース　300名



イベント
チラシ

けいはんな学研都市は、1987年に都市建設がスタートし、人口25万人、文化学術研究施設は150を超え、情報通信、ロボット、環境エネルギー、ライフサイエンスなどの分野で研究成果や技術が蓄積されたサイエンスシティであり、６月３日（日）、JR大阪駅前、グランフロント大阪にて、「けいはんな万博2025」のお披露目の場となるけいはんな万博キックオフイベントを開催しました。テーマは「サイエンスシティ『けいはんな』から描く未来社会のデザイン」として、けいはんな学研都市の概要や都市の特徴を総括する基調講演、「けいはんは万博2025」の開催の意義とその後にめざすべき都市のあり方に向けたパネルディスカッション、および大阪・関西万博の会場で実装されるけいはんな発の先端技術の展示などを行いました。当日、シンポジウムには220名が参加し、屋外に設定したサブスペースでは、晴天の中、ミャクミャクはじめ３府県のゆるキャラがお出迎え。展示などを行うブースには300名以上が来場しました。

主催者挨拶では、堀場厚 けいはんな万博2025運営協議会共同代表が「大阪・関西万博で注目される絶好の機会に、『けいはんな万博』を通じて、けいはんな学研都市で進められているさまざまな研究開発を世界に向けて発信したい。スマートシティの実現



ミャクミャクも駆けつけたキックオフイベントの様子

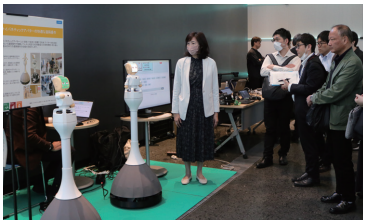

堀場厚 共同代表



パネルディカッションの様子 ※

【備考】※：左から 水瀬ゆず ゆずプラス代表取締役（モデレータ）、鈴木博之 ATR 代表取締役専務、西本尚弘 島津製作所 執行役員基盤技術研究所所長、塩﨑一裕 奈良先端大学長、河合智明 関西文化学術研究都市推進機構常務理事、髙橋安大 つくば市政策イノベーション部部長


若手技術者と学生による座談会


移動型サイバネティックアバター（ATR）


ゆるキャラのお出迎え（サブスペース）

やフードテック・ロボティクス等の活用を通じ、社会課題の解決が進むことを大いに期待している。」と述べ、「けいはんな万博」を足掛かりとした都市のさらなる発展に向けた意気込みを語りました。

続いて、けいはんな学研都市建設促進議員連盟の事務局長を務める小林茂樹 衆議院議員と、近畿経済産業局の信谷和重局長より来賓挨拶をいただきました。

基調講演では、塩﨑一裕 けいはんな万博2025運営協議会座長から「けいはんなのあゆみとポスト万博シティ実現に向けた展望」と題して講演し、「我々が抱える課題は、科学技術の進歩や蓄積された文化・叡智によって必ず解決される。未来を生きる子どもたち、若者たちにこそ、科学や文化の価値、意義を伝え、その発展を担ってもらいたい。」と述べました。

「サイエンスシティの価値、未来社会への貢献」と題したパネルディスカッションでは、けいはんなの立地企業・研究機関に加え、つくば市にも登壇いただき、サイエンスシティとしての強みやその強みを引き出すための課題解決、けいはんな学研都市およびポスト万博シティに向けた期待について、意見交換を行いました。サイエンスシティの強みである研究開発・実証実験の成果を内外に発信しビジネスへとつなげていくことの重要性や、けいはんなとつくばの両都市の発展に向けた拠点間連携の方向性を確認するとともに、住民の生活に最先端の科学技術を実装していく上での工夫・課題などについて積極的な意見が交わされました。

最後に、万博で実装されるけいはんな学研都市発の技術（ATR:移動型サイバネティックアバター/NICT:同時通訳技術/RITE:カーボンニュートラルを目指す技術）についてそれぞれの若手技術者より説明がなされたのち、若手技術者とけいはんな学研都市内の大学に通う学生との座談会が行われました。研究を始めるキッカケなどについて学生から積極的な質問が出されました。また、シンポジウム後の技術展示には、研究者、一般の方問わず訪れ、出展者と参加者同士で交流が行われました。

本キックオフイベントの開催を通じ、けいはんな学研都市の認知度向上や「けいはんな万博2025」に携わる関係者の一体感の醸成につなげることができました。

【参画機関】関西文化学術研究都市推進機構、
(株) けいはんな、京都府、大阪府、奈良県、つくば市、ATR、島津製作所、NICT、RITE、Halle Game Lab、
ゆずプラス、奈良先端大、京都府大、奈良女子大、京都大、東京国際工科専門職大、関西経済連合会※順不同

けいはんな万博2025の概要

1. 開催趣旨

「けいはんな万博2025」は、高い研究開発力と豊かな歴史文化資源に恵まれたけいはんな学研都市の総力を挙げて、素晴らしい未来社会の実現に貢献しようとする試みです。

楽しく期待感のある様々なコンテンツを展開することにより、科学技術や文化の力で人類が直面する様々な課題に解を与え、健康で平和で豊かな未来の実現に寄与したいと考えています。

「けいはんな万博2025」は、世界へと広がり、未来へと継続する取組です。

2. 開催概要

■テーマ

『未来社会への貢献 ～次世代への解～」

- ●世界の知と産業への「解」
- ●持続的イノベーションへの「解」
- ●科学・生活・文化・自然環境の調和への「解」

■基本方針

○けいはんな学研都市内の立地機関等が一体となって叡知を結集し、「健康」「平和」「豊かさ」に満ちた素晴らしい未来社会の実現に貢献。

○高い研究開発力や豊かな歴史文化資源等を積極的に活用することにより、科学と文化が融合したけいはんな学研都市の魅力を表現。

○すべての世代に届くような楽しさ、期待感のあるコンテンツを展開し、2025年以降も継続。

○賛同機関の連携協力を一層強化し、研究開発の創発、産業活性化、ビジネスチャンスの拡大を推進。

○国内外の人々との交流を促進する住民参加型の取組や、未来的エンターテインメントの展開を推進。

■事業名称

けいはんな万博2025（KEIHANNA EXPO 2025）

■開催時期

2025年（令和７年）４月～同年10月

■開催場所

けいはんな学研都市の全域が連携して一体的に実施

■イベント等の構成



けいはんな万博 2025

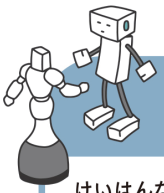
「未来社会への貢献 ～次世代への解～」

会期：2025年4月13日（日）～ 10月13日（月・祝）

会場：けいはんな学研都市エリア

けいはんな万博 2025
シンボルキャラクター
みらるる

4月13日の開会式を皮切りに、いよいよけいはんな万博がスタート！



ロボット・アバター ICT（情報通信技術）

けいはんな地区で研究が進むロボット・アバター・ICT（情報通信技術）をテーマとしたイベントで、ひととロボットがともに暮らす社会の新たな1ページを開きます。

- ドローン& XRフェス
- アバター（遠隔操縦ロボ）の競技会
- 吹奏楽とアバターのパレード

ウェルビーイング

「健康」「食」「環境」「こころ」をキーワードに、直面する社会課題について、科学技術や文化の力を活用した解決策を提示し、体験できる機会を創ることで、ウェルビーイングの未来を考えます。

- 健康の見える化や食の未来を体感
- 次世代の環境エネルギー技術の公開



スタートアップ

新しい分野へのチャレンジに挑むスタートアップ企業を応援します。新しいサービスや商品のアイデアが実現可能か、けいはんな学研都市で大実験！



- 事業アイディア発表会
- 実験成果の発表展示

サイエンス&アート

「芸術は、人間のセンスと技術によって生み出されるもの」。科学技術とひとが協奏し、共創する新しい文化の形をお楽しみください。

- 未来を体感！参加型科学イベント
- 研究者、哲学者、芸術家などの講演会



オープンラボ・テックツアー

けいはんなの企業、研究所が研究施設を開放。「科学技術のおもしろさ」と「けいはんな学研都市～周辺地域の歴史・文化・自然」を体験する訪問型イベント。

ポスト万博に向けた若者向けイベント

きょうと国際学生サミット・けいはんな地球環境ユースサミット（8月開催）、けいはんな大学サミット（9月開催）等を通じて、若者の意見を閉会式の「けいはんな宣言」に織り込みます。

けいはんな万博2025運営協議会

■お問合せ：公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構 事業推進部 TEL:0774-98-2245　E-mail: info@keihannaexpo.org

けいはんな万博2025 開催案内パンフレット

「けいはんな万博2025」開幕

2025年4月13日

関西文化学術研究都市が主な舞台となる「けいはんな万博2025」の開会式が１３日、精華町光台のけいはんなプラザで開かれた。木津川市出身のタレント横山由依さん（３２）のトークセッションや万博テーマソングの合唱が開幕に花を添えた。

開会式、トークや合唱で盛り上げ

４月13日、けいはんな学研都市中核施設のけいはんなプラザのメインホールに関係者、来賓、市民ら約700人が出席し、けいはんな万博2025の開会式がおこなわれました。

オープニングとして「高の原音楽芸術協会」のけいはんな親子オーケストラによる公式テーマ曲、ピアノ協奏曲バージョン「飛天の奏～けいはんなSTORY～」の演奏がありました。

式では、堀場厚・運営協議会共同代表（堀場製作所会長、関西文化学術研究都市推進機構理事長）が「けいはんなが培ってきたさまざまな研究成果や文化資源を披露し、その底力を世界の皆さんに感じていただきたい」と開会を宣言しました。続いて、来賓の西脇隆俊京都府知事や小林茂樹衆議院議員（関西文化学術研究都市建設促進議員連盟事務局長）、があいさつ。西脇知事は「分野や世代を超えて、新たな交流が生まれ、社会課題を解決するイノベーションが起きることを期待します」と述べました。

セレモニーに続き、子どもたちが歌詞やタイトルを考えたテーマソング「天使の歌～けいはんなDream」と「日時計～けいはんなハーモニー」を親子で歌いました。会場の皆さんも手を波のように揺らしながら、歌声を響かせ、最後に「けいはんな万博、ガンバロー」を三唱し会場を盛り上げました。

また、木津川市出身でAKB48の総監督を務めた、京都やましろ観光大使の横山由依さんも来賓として駆けつけ、高専生や小学生ら将来世代４人による「トークセッション」に参加し「けいはんな万博2025に



横山由依さん（京都やましろ観光大使）を交えたトークセッションで、けいはんな万博2025の見どころを紹介



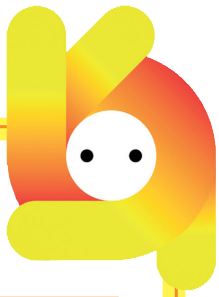
親子コーラスによるテーマソングの合唱などが展開され、約700人の参加者が半年間の成功を祈りました。

期待すること」をテーマに意見を交わしました。

そのトークセッションでは奈良先端科学技術大学院大学後期博士課程の吉田雄丸さんがファシリテーターを務めました。参加した一人で、ロボット競技の世界大会に出場した経験のある舞鶴高専２年の藤田瑞貴さん（京都府精華町出身）は「チームで勝ったときの達成感が好き。万博をきっかけに広めたいです」と夢を語りました。横山由依さんも「子どものときに『私のしごと館』でテレビスタジオを体験したことが現在につながっています」と明かし、「学研都市は『最先端のまち』で夢のある場所。未来に羽ばたく才能や技術がたくさんあって心躍ります」。子どもたちには「諦めないでトライし、好きなことを続けることが大事」とエールを送りました。

会場周辺では、和太鼓演奏（せいか太鼓波布理）やピアノ、バイオリン、フルートによるティータイムコンサート、地元特産品やスイーツ販売の物産展などの賑わいもあり、周囲からもけいはんな万博2025のオープンを飾りました。

けいはんな万博のシンボルキャラクター「みらるる」



太陽のように未来輝け シンボルキャラ 「みらるる」 けいはんな万博2025

「けいはんな万博2025」のシンボルキャラクター「みらるる」は、木津川市在住のデザイナー松田祥宏さん（59）が制作。

「地域の太陽のように輝く存在」を願い、「けいはんな」をアルファベット表記した時に使う「ｋ・ｈ・ｎ」の３文字を暖色で配置。

松田さんは「少し先の未来を感じる不思議な存在。万博の楽しいイメージをストレートに表現した」とコメント。

愛称は、６２２件の応募の中から最優秀作を選んだ。「途切れることなく続くさまを意味する『縷々（るる）』という言葉と、「会期中だけでなく『未来』にもつながってほしい」という思いが込められている。

けいはんな万博 in 夢洲

〜しろう! ふれよう! けいはんな〜

2025年4月23日・9月19日

事業名	けいはんな万博 in 夢洲 〜しろう! ふれよう! けいはんな〜
部会名	広域連携部会
実施形態	主催
参画機関	16社・団体　約170名
実施期間	2025年4月23日(水)・9月19日(金) 9:00〜日没頃
実施場所	大阪・関西万博　大阪ヘルスケアパビリオン リボーンステージ
事業趣旨	科学技術や文化の力で人類が直面するさまざまな課題に解を与えるエリアとしてけいはんなを知っていただくとともに次の世代に科学技術や文化に関心を広げる機会とした。
内容	体験展示、クイズラリー、ワークショップ、 ゆるキャラグリーティング
参加者	4月23日：2,000名 9月19日：3,000名 計：5,000人

けいはんなの魅力を夢洲で披露【企画編】

開催半年前となる2024年９月、広域連携部会では、けいはんな学研都市の強みや魅力を多くの方に知っていただく機会を設けることができないか検討を進めていました。2024年６月に開催した「けいはんな万博」キックオフイベント(P.26・27参照)の成果をふまえ、けいはんな学研都市の域外でけいはんなの魅力を発信することの重要性を再認識し、大阪・関西万博の会場内で「けいはんな学研都市」を知っていただくイベントの開催を模索しました。

イベントの企画にあたり、軸としたことは、けいはんな発の技術を直接体験する機会を通じて、①次世代に科学技術や文化に関心を広げること、②国内外問わず多くの人に科学技術や文化の力で人類が直面する社会課題に解を与えるエリアとしてけいはんな学研都市を知っていただくことの２点です。この２点をふまえて、けいはんな学研都市に立地する企業・研究機関16団体約170名の協力を得て、大阪ヘルスケアパビリオン リボーンステージにて、体験展示やクイズラリー、ワークショップを開催しました。



けいはんな万博in夢洲　関係者一同

【4月23日 開催】手探りのチャレンジ

夢洲への出展は、広報やスタッフ登録、当日準備など手探りでの実施となりましたが、４月23日は早朝の雨も止み、無事に開催することができました。会場は出入口を１か所とし、広場外周に展示ブースを配置した回遊型のレイアウトで設営し、多くの来場者に体験展示やワークショップへご参加いただきました。

体験展示には、奈良先端大学の展示に塩﨑一裕 奈良先端大学学長が来場し、学生らからの説明を受けたほか、渡邉繁樹 大阪府副知事、橋爪紳也 副座長もイベントの様子を見学しました。

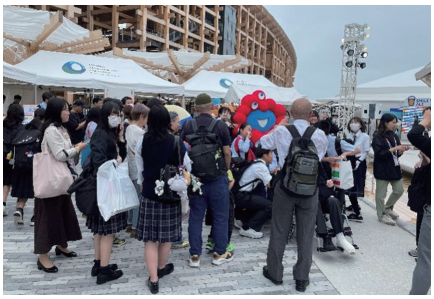
ワークショップには、社会見学で来場していた小学生が和束町によるお茶摘み体験に参加しました。さらに、ミャクミャク、もずやん（大阪府）、まゆまろ（京都府）、せんとくん（奈良県）、ふぉとんくん（QST※）が登場したゆるキャラグリーティングは非常に盛況となりました。

本イベントでは、当日中に記録動画を制作し、ステージ常設の200インチモニターで上映しました。動画は、来場者をはじめ、松本正義 関経連会長も現地で鑑賞しました。

※国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構



当日の様子(ワークショップ)



当日の様子(ゆるキャラグリーティング)

【9月19日 開催】人の流れと暑さ対策

関係者と４月の振り返りをしつつ、９月開催に向け、暑さ対策と会場混雑への対応に重点を置き、改善策を検討しました。特に暑さ対策は、喫緊の課題で、出展者の体調への配慮やVRやロボットを稼働させるためのコンピューターが暑さで破損しないよう対応が必要でした。加えて、来場者数も閉幕に近づくにつれ増えるなかで、より多くの方に安全に楽しんでいただけるよう動線の再考が必要でした。

そこで、会場のレイアウトを大幅に見直しました。会場内を一方通行で見ていただけるよう広場の内部に展示ブースを設けました。その結果、会場内のヒトの流れをスムーズにできたほか、暑さ対策としても、日陰を多くつくることができ、関係者の熱中症の発生をゼロに抑えることができました。

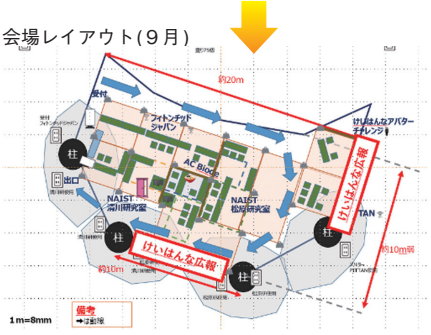
また、ワークショップについても、４月は事前予約制を採用しましたが、より多くの方に参加いただけるよう、当日実施中のプログラムを会場内で随時アナウンスし、参加いただく形式に変更しました。

その結果、より多くの来場者に楽しんでいただきました。

会場レイアウト(４月)



会場レイアウト(９月)



未来社会に触れていただくために
けいはんな大の学生といっしょにクイズ作成

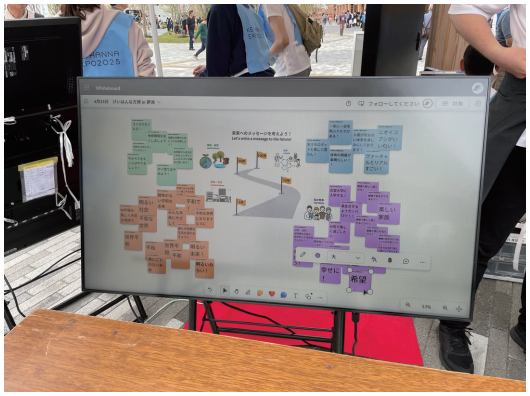
誰でも気軽に未来社会を感じることができるよう、「小学校低学年の子どもでも楽しんでもらえる企画」をめざし、イベントを検討しました。東レ建設によるワークショップ「トレファーム(高床式砂栽培)の楽しさ」では、腰の高さほどあるプランターを用いてバタビアレタスの植え付けを行い、屈まずに、かつ、アスファルトの上で作業ができることから子どもや車いすの方にも体験いただきました。フィトンチッドジャパンによる展示「香りで日本の森を旅してみませんか？」では、機能性のある木由来の成分フィトンチッドをわかりやすく伝えるため、木の香りを嗅いで樹種をあてるゲームを行い、楽しみながら学ぶことができました。


当日の様子(ワークショップ)


当日の様子(体験展示)

技術に触れるだけでなく、ともに未来社会を考える企画にできないか、東京国際工科専門職大学の教員やけいはんな大学*の学生とともに検討し、体験展示に関連したクイズを用意し、未来へのメッセージを集めるクイズラリーを開催しました。４月と９月あわせて、国内外問わず約1,700人が参加し、参加者からは、平和を願う声のほか、「AI技術がより良い未来にして欲しい」など体験展示で紹介した技術の進歩を願うメッセージもありました。

＊けいはんな大学・・・関西に立地する大学の学生が主体となって、企画立案から運営までを担当して「学生の学生による学生のための教養講座」を実行しており、通常「けいはんな大学」と称して活動。


参加者による未来へのメッセージ


当日の様子(クイズラリー)

スタンプラリーに長蛇の列
〜けいはんな地域との連携企画を実施

けいはんな学研都市への誘導につなげる工夫も行いました。万博会場でのけいはんなPRパネルの設置、けいはんな地区で開催される５つのイベントと連携してスタンプラリーを開催しました。

スタンプラリーでは、万博会場とけいはんな地域のイベント会場に、それぞれ会場限定スタンプを設置し両方のスタンプを集めるとノベルティを参加者にプレゼントする企画を実施しました。万博会場では、スタンプに長蛇の列ができただけでなく、「けいはんなに行きます」と話した来場者もいました。

さらには、けいはんな地区でのイベントに来場した来場者も。万博会場でのけいはんな地区への誘導は一定の成果がありました。



会場に設置したけいはんなPRパネル

＜万博会場設置＞　＜けいはんな地区設置＞

設置したスタンプ

けいはんなの魅力の発信の重要性

「けいはんな万博in夢洲」では２日間で計5,000人が来場しました。また、来場者1,000人を対象にアンケートを実施、回答者の８割が関西圏から来場した方でしたが、約半数の方がけいはんなを知らなかったと回答し、けいはんなの認知度向上の必要性を感じた一方で、イベントを通じて９割以上の方がけいはんなに「必ず行きたい」または、「機会があれば行きたい」と回答し、けいはんな発の技術は多くの方にとって魅力的に感じるものであると実感するとともに、けいはんな域外で、けいはんなについて発信していくことの重要性を認識しました。

来場者だけでなく、出展者にとってもイベントを実施したことは良い影響を及ぼしました。「日ごろビジネス向けの展示会にしか出展しないため、一般の方の率直な感想を聞ける点は新鮮だった」や「大人から子どもまで広く体験いただき、お客さんとともに豊かな気持ちになった」など多くの来場者との交流に関するコメントがありました。なかでも、最も多くあがったコメントとして「けいはんな立地機関内の繋がりが日ごろあまり無いなか、イベント通して他の機関の方と交流する機会を得た」というものでした。

本イベントを通じて生まれた立地機関同士の横の繋がりを大切にし、その成果を生かして、けいはんな万博終了後も、けいはんな学研都市の魅力を域外へ継続的に発信していきます。

◆来場者アンケート（回答数1,062件）

どこから来ましたか?	割合(%)
京阪神	68
京阪神以外の関西圏	13
関西以外	17
海外	2

けいはんなに興味を持ったか?	割合(%)
大いに興味を持った	41
まあまあ興味を持った	56
あまり興味を持たなかった	3

けいはんなを知っていたか?	割合(%)
知っていた	33
聞いたことはあった	16
知らなかった	51

けいはんなに訪れてみたいか?	割合(%)
必ず行きたい	24
機会があれば行きたい	74
行きたいとは思わない	2

◆来場者の声（抜粋）

・現地でもイベントやるなら覗きに行きたいです
・コンパクトな展示ながら中身の濃さが素晴らしいと思いました。これからも頑張ってください
・人と接するクイズラリー刺激があった。内容もとても良かった。汗による診断実用されると嬉しい
・若者たちが色んな事に挑戦して、未来が楽しみになりました
・けいはんなで働いてます。どんどん宣伝してください

◆イベントの出展者の声

・日ごろ、ビジネス向けの展示会にしか出展しないため、一般の方の率直な感想を聞ける点は新鮮だった
・大人から子どもまで広く体験いただき、喜んでいただいた。お客さんとともに豊かな気持ちになった
・けいはんなに立地する他の出展者とも交流を深めることができた

イラストに込めた思い『けいはんなの未来へ思いを馳せて』

イベントの出展内容をオマージュして忍ばせています。



『けいはんな万博 in 夢洲』の様子（動画）

あの日の記憶をもう一度



けいはんな万博 in 夢洲
ホームページ

※ホームページを開くと左のイラストが表示され、下へスクロールすると当日の様子を伝える映像をご覧いただけます。

体験展示一覧　①テーマ　【出展者】、②内容、③未来社会へのメッセージ
①環境にやさしい Plastalyst～触媒を使って低温でもえるごみを分解～　【AC Biode 株式会社】 ②触媒を活用し、低温で混合廃プラスチックや有機廃棄物を分解する技術をパネル展示 ③低温ケミカルリサイクルによって、廃プラスチック、海洋プラスチックごみなどの問題解決に貢献していきます
①香りで日本の森を旅してみませんか？【フィトンチッドジャパン株式会社】 ②機能性のある香り「フィトンチッド」を体感し、樹木エキスの香りから樹種を当てる体験 ③「森を活かし、森を生かす」…未来に森をのこす!
①アバターロボットで観光しよう!～けいはんなを散策～　【特定非営利活動法人けいはんなアバターチャレンジ】※ 1 ②けいはんな地区にあるアバターロボットを万博会場から操作する体験 ③VR なしで夢洲から35km にある1300年前の平城宮を散策しよう!
①「誰でも、どこでも、いつでも」汗による分析ができる小型マシン　【PITTAN 株式会社】 ②採取した汗を分析マシンにセットし体の状態を測定する体験 ③体の状態を簡便に可視化し行動変容を促すことで、一人ひとりの人生を最大限に楽しくすることです。
①MR 技術を使った扉をくぐってバーチャル旅行しよう! 【奈良先端科学技術大学院大学　サイバネティクス・リアリティ工学研究室、NTT ドコモ株式会社】 ②扉をくぐって現実バーチャル空間をつなぎバーチャル旅行を体験 ③情報通信の力で未来社会実現の先陣を切ります!
①見た目で味が変わる!?AR で味わう不思議フード 【奈良先端科学技術大学院大学　サイバネティクス・リアリティ工学研究室、電気通信大学、東京大学】 ②AI で食べ物の見た目を変換しその画像を AR で食べ物に重ねることで味覚に変化を及ぼす体験 ③科学技術で人間の可能性を拡げ、ひとりひとりに寄り添った社会を実現することです。
①産業自動化の未来を切り拓く AI ロボット技術 【奈良先端科学技術大学院大学　ロボットラーニング研究室、カナデビア、JST 未来創造事業、京都大学】 ②ごみクレーンの操作を自動化する AI システムの紹介・操作体験／研削ロボットの展示 ③情報通信の力で未来社会実現の先陣を切ります!

ワークショップ一覧　①テーマ【出展者】、②内容、③未来社会へのメッセージ
①界面活性剤を使った化学実験～ハンドソープの力を体験しよう～　【新日本理化株式会社】 ②ヒトと環境にやさしいハンドソープを使用した実験を通じて化学の魅力を体感する ③未来の健康社会にも界面活性剤はそばにあります!
①生命を感じさせるロボットデザインワークショップ 【奈良先端科学技術大学院大学　インタラクティブメディア設計学研究室】 ②果物と金属板を使って電気でペンギンロボットを稼働させ「いのち」への理解を深める ③生命とは…をあらためて問う
①トレファーム（高床式砂栽培）の楽しさ　【東レ建設株式会社】 ②高床式栽培の農業施設であるトレファームで楽しく、らくに安全に万博会場で農業体験 ③たのしく楽に安全に、多様な方が農作業に取り組んでいただいています
①お茶摘みを体験してみよう～宇治茶の主産地 和束町～　【和束町】 ②お茶摘みを体験し、800年受け継がれたお茶の文化と歴史に触れる ③日本の伝統文化のひとつ「茶文化」を未来へ繋ごう。
①光の不思議な現象を遊びながら観察しよう　【関西光量子科学研究所 きっづ光科学館ふぉとん】 ②工作や実験を通して光の現象を観察 ③小さな実験が、大きな発見につながる!　身のまわりの色々な「不思議」の中には、まだ誰も知らない大きな謎や発見がかくされているよ。だれでもかんたんにできる工作や実験をつうじて、科学の最先端を体験しよう!

【参画機関】
左表記以外の団体
■体験展示
大阪電気通信大学、
同志社大学、
奈良先端大学、
奈良学園大学、
テレモピレー、
山腰登記測量事務所、
シュルード設計
■クイズラリー
東京国際工科専門職大学、
大阪公立大学、同志社大学
■広域連携部会
関西文化学術研究都市推進機構、（株）けいはんな、
京都府、大阪府、奈良県、
東京国際工科専門職大、
関西経済連合会

けいはんな万博へようこそ

2025年5月1日



夢洲会場にアバターMCが登場


平城宮跡のアバターロボットを夢洲から遠隔操作し、観光案内

けいはんな万博2025の夢洲でのオープニングイベント「けいはんな万博へようこそ」が５月１日、関西パビリオン多目的エリアで開催されました。

「MEET UP KYOTO きょうと大集合」の一環。

イベントの進行役は、メタバース探求家の水瀬ゆずさんが務めるアバターMCで「今、約400キロ離れた横浜市の自宅にいます」と話し始め、起業した理由など自己紹介をしました。

地元の「高の原音楽芸術協会」は公式テーマ曲を演奏。地域の子どもたちから募集した歌詞などで作り上げた「日時計～けいはんなハーモニー」を合唱団のメンバーが披露しました。

けいはんな万博の見どころなどを映像で紹介した後、ゆずアバターが再び登場。アバターロボットに乗り移り、奈良市の「平城宮跡歴史公園」を案内人とともに訪れました。

平城宮は1300年前、奈良の都・平城京で天皇や皇族が住んだところで、中心的な建物が第一次大極殿です。2010年に完成した「復元建築」で幅約44メートル、高さ約27メートル。来場者は伝統的な木造工法とスケールの大きさを体感していました。

夢洲会場に〝戻り〟「上を向いて歩こう」を大合唱してイベントを締めくくりました。



けいはんな万博のテーマ曲の演奏

けいはんなR&Dフェア2025
科学で描こう ～けいはんなの未来キャンバス～

2025年10月4日

事業名	けいはんなＲ＆Ｄフェア2025 科学で描こう～けいはんなの未来キャンバス～
部会名	サイエンス&アート部会
実施の形態	主催：けいはんなR&Dフェア実行委員会 開催支援：けいはんな万博2025運営協議会
参画機関	(公社)関西経済連合会, (公財)関西文化学術研究都市推進機構, (株)国際電気通信基礎技術研究所, (国研)情報通信研究機構, (株)けいはんな, けいはんな学研都市活性化促進協議会, (株)島津製作所 基盤技術研究所, 同志社大学, 奈良先端科学技術大学院大学, NTT(株)NTTコミュニケーション科学基礎研究所, (国研)理化学研究所, (国研)量子科学技術研究開発機構 関西光量子科学研究所, ニデック(株)けいはんなテクノロジーセンター（以上、 実行委員会）, 他15企業・機関含め合計28企業・機関
実施時期	2025年10月4日（土）10：00―16：30
実施場所	けいはんなプラザ
事業の趣旨	けいはんなの最新研究成果発信と地域貢献を目的として開催。 特に万博開催の今年度は未来を担う子どもたちに科学の楽しさや研究の魅力をわかりやすく伝え、 科学への関心を育成する機会を創出するとともに、 地域の幅広い年齢層の方々に先端科学に触れていただけるイベントとして開催。
事業内容	【全34プログラム】 ・サイエンスショー　1件 (NHK理科番組プロデューサーによる光とアートのショー) ・講演1件（気象庁雲研究者による雲の仕組みの実験を交えた講演会） ・研究展示・体験デモブース　21件 ・ワークショップ（実験系・工作系）7件 ・大阪・関西万博PR展示　1件 ・けいはんな万博PR展示　1件 ・ミャクミャク記念撮影会　1件 ・京都府広報監まゆまろグリーティング　1件
参加者数等	来場者数：1,213名





「けいはんなＲ＆Ｄフェア2025」は、けいはんな地域の企業・大学・公的機関が連携し、最新研究成果を発信するイベントとして開催されました。

６回目となる今回は「科学で描こう ～けいはんなの未来キャンバス～」と題し、最新研究の展示・体験デモ、ワークショップなど34のプログラムを通じて子どもから大人まで幅広い年齢層の方に楽しみながら最先端科学を体感いただきました。

光のサイエンスショーでは、レーザーを使った実験を通して、光の屈折・散乱の原理を視覚的に学び、光の三原色を楽しむランプシェードづくりを行い、雲の講演では、雲の仕組みや大気光学現象、天気の変化の予測方法などが紹介され、子どもたちからも積極的に多くの質問が出ていました。

このほか、未来の情報通信技術の展示、３Ｄアバターとの対話体験、ロボット操縦、虹色スコープのワークショップなど、会場は終日賑わい、1,200名を超える来場がありました。

アンケートでは、回答者の98％が「満足」という高評価を得るとともに、最新研究や科学技術への高い関心がうかがえました。

次年度も引き続き、科学イベントを通じて広く研究成果の発信を行っていきたいと思います。



せいか祭り2025

2025年10月12日

事業名	せいか祭り2025
部会名	ロボット・アバター・ICT部会
実施の形態	イベント
参画機関	精華町、精華町商工会、京都やましろ農業協同組合精華町支店　など
実施期間	2025年10月12日（日）
実施場所	けいはんな記念公園、けいはんなプラザ、サンシード株式会社
事業の趣旨	地域交流や地域活動の活性化を図るとともに、町内にお住まいの方々の交流、さらには町内外の方々の交流などを促進する。
事業内容	けいはんな記念公園・けいはんなプラザを会場として、出店（展）・催しや学研ミュージックストリートなどを実施した。また、サンシード株式会社で事業所見学を実施した。
参加者数等	来場者数 約27,000名

2025年10月12日（日）に「せいか祭り2025」を開催し、途中降雨に見舞われましたが、約27,000名の方にご来場いただきました。



あいにくの曇り空

けいはんな記念公園会場では、精華町商工会などによる模擬店が軒をつらね、けいはんなプラザ会場では、まちづくり活動に取り組む各種団体などが集まって、展示や販売、体験、相談などのコーナーで賑わいました。

また、けいはんな記念公園芝生広場とけいはんなプラザメインホールで実施した「学研ミュージックストリート」では、力強いパフォーマンスで、祭りを盛り上げていただきました。





出店（展）の様子





学研ミュージックストリートの様子

けいはんな万博最終日のイベントとして、けいはんなプラザメインホールホワイエでは、けいはんな万博の４月からのハイライトを展示することで、これまでの取組を来場者に改めて振り返っていただく機会を設けました。



けいはんな万博2025
ハイライト展示の様子

例年より約１ヶ月前倒しの開催でしたが、町内外から多くの方にご来場いただき、アンケート結果からも、80%の方から「来年も行きたい。」とのご回答をいただきました。

皆様の熱い思い、期待に応えていけるよう、今後も「人がつながり夢を叶える学研都市精華町」にふさわしい「せいか祭り」を開催していきたいと考えております。

せいか祭り2025
アバターロボット操縦体験 デモ展示

2025年10月12日

せいか祭りにもアバター登場

けいはんな万博2025閉会セレモニーの翌日、けいはんな記念公園で開催された「せいか祭り2025」にアバター（遠隔操縦ロボット）を出展しました。



芝生広場に操縦ブースを設置し、水景園内に配置したアバターの遠隔操縦体験を提供しました。来場者の皆さまは、観月楼デッキや観月橋など水景園内を周遊するアバターと出会い、子どもから大人まで多くの方が興味深そうに近づいて会話を楽しんでいました。

操縦ブースでは、親子連れや子どもたちがスタッフのサポートを受けながら操縦を体験しました。自由に動かせることもあり、夢中になって操作する子どもの姿も見られました。

- 操縦体験者：30名以上
- 見学者：200名以上

アバターを実際に操縦した来場者だけでなく、公園内でアバターと出会った方々にも関心を持っていただき、多くの皆さまにアバター共生社会を共に考え、学び、体験する「けいはんなアバターチャレンジ」（2026年秋に開催）をご案内する機会にもなりました。

■ 芝生広場で水景園のアバターを操縦



■ 水景園のアバターを触れ合う子ども達





2026年秋、アバターチャレンジ2026を開催します

閉会セレモニー

2025年10月11日

大阪・関西万博に合わせて関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）を主舞台に展開されてきた「けいはんな万博2025」の閉会セレモニーが10月11日、京都府精華町のけいはんなプラザでおこなわれました。約600人が出席し、先端技術や未来社会を内外にアピールしてきた半年間の取り組みを振りかえり、二つの万博で披露された最先端技術を受け継いで社会実装を目指す「ポスト万博シティ」に向けての決意を新たにしました。

けいはんな万博2025は４月からけいはんな学研都市や大阪・関西万博会場などで計74のイベントを開催。20万人以上が来場しました。閉会セレモニーで、けいはんな万博2025運営協議会堀場厚共同代表は「地域の力を結集できたのは大きな成果。未来社会に貢献するサイエンスシティへのしっかりした推進体制をつくりたい」と決意を述べました。

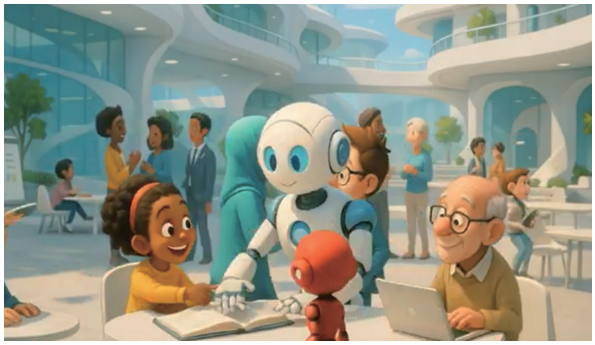
オープニングでは、100人以上の市民が ステージで、けいはんな万博2025のテーマソング『日時計～けいはんなハーモニー』を合唱。その後、大阪電気通信大学のアバター（遠隔操縦ロボット）が指揮を務め、『飛天の奏～けいはんなSTORY～』がピアノ五重奏で演奏されました。



指揮棒を振るアバターロボットKOCoA（ココア）が登場

来賓の京都府西脇知事のあいさつの後、けいはんな万博2025のハイライト映像が紹介され半年間の取組みについて観客とともに振り返りました。

続いて、けいはんな万博2025の成果などが社会実装されているであろう2050年のSFシナリオを原作とした「ポスト万博シティの未来図」がアニメーションで披露されました。



ポスト万博シティの未来図 SFアニメーション

８月に開催された「地球環境ユースサミット」や「「けいはんな大学」サミット」に参加した学生たちの代表が「けいはんな宣言に向けて～若い世代からの提案」を発表。協働とつながりをキーワードにした「けいはんなコミュニティ」の構築などを提案し、奈良先端科学技術大学院大学の吉田雄丸さんが堀場共同代表に提案書を手渡しました。



若い世代を代表して、けいはんな万博2025に参加した学生からの提案を発表

式の後半では、世界12カ国から寄せられた平和メッセージと合唱の映像に合わせて、「けいはんな万博合唱団」による合唱曲「Believe」が披露され、国境や世代を越えて響き合うハーモニーは、会場全体に一体感をもたらし、ホールには温かく力強い歌声が広がりました。



世界12カ国から寄せられたメッセージと合唱の映像

今回の万博では夢洲本会場の各パビリオンにおいて多彩な音楽イベントが開催されており、科学・技術のみならず、音楽や文化が人類の未来に果たす重要な役割を改めて感じさせる機会となりました。地球上では依然として紛争を抱える地域が存在しますが、平和を願い、声を合わせることで生まれる「音楽の力」を実感する心に残るひと時となりました。


けいはんな万博合唱団が「Believe」を合唱

フィナーレでは、会期中に寄せられた約300枚の「未来への願い」や「夢」が描かれたハート型のカードがホール天井から舞い降りる中、来場者全員から「けいはんなから」「世界へ」「平和な」「みらいを」と唱和し、セレモニーの締めくくりを迎えました。


ハート型のカードがホール天井から舞い降りた

舞い広がったカードは、来場者の手元に届き、それぞれが想いを込めてロビーに設置された木「ハートツリー」へと飾り付けました。ひとりひとりの願いが重なり合い、花が咲いたように彩られた「ハートツリー」を見守りながら、けいはんな万博2025は６カ月にわたる会期の幕を静かに下ろしました。


ハートツリーの前で、記念撮影をする学生たち

メインホール外では、３府県の公式キャラクター「まゆまろ」「もずやん」「せんとくん」と、夢洲本会場の「ミャクミャク」による撮影会が実施されました。４キャラクターが揃う珍しい機会となり、本会場との一体感や三府県の連携を感じられる、来場者にとって記念となるイベントとなりました。



「せんとくん」「まゆまろ」「ミャクミャク」「もずやん」

けいはんな万博2025の成果とレガシー

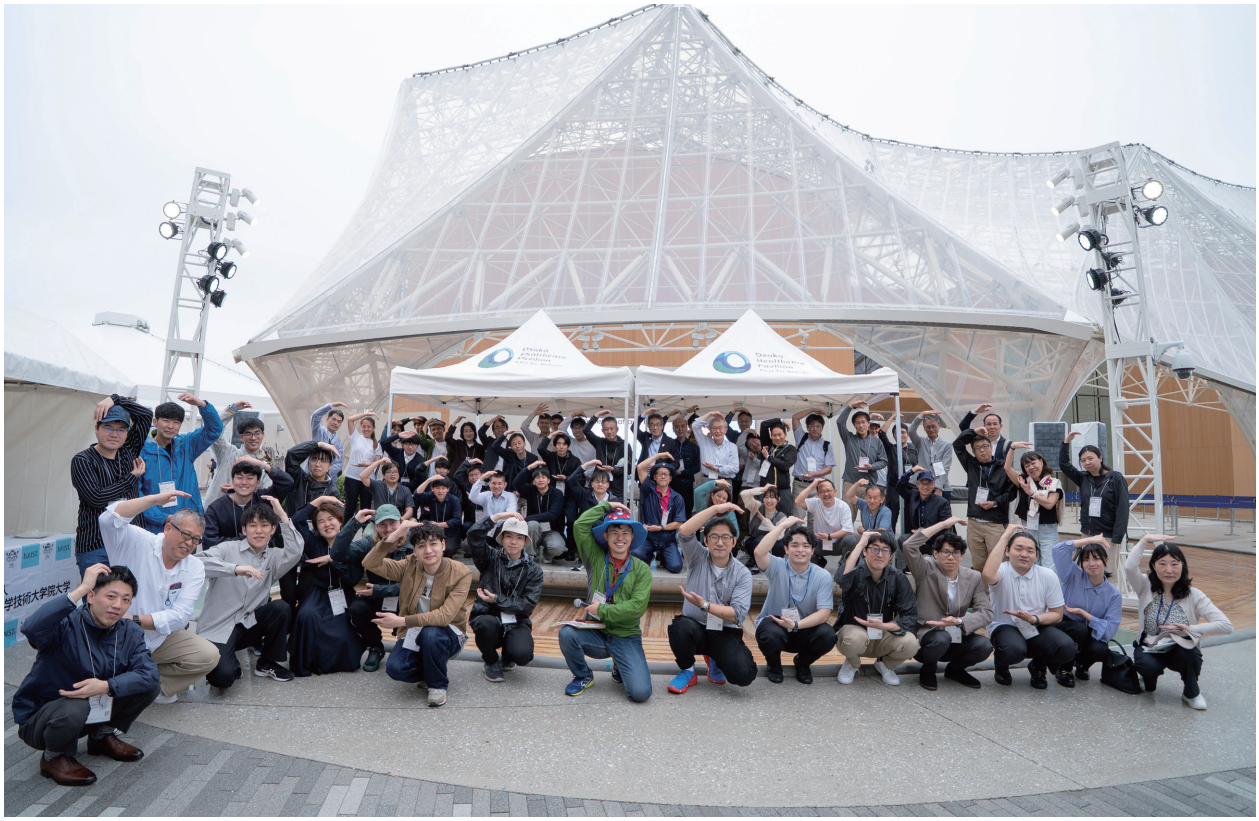
2025年4月23日、夢洲にて

2025年４月23日、大阪・関西万博会場の大阪ヘルスケアパビリオン前「Reborn広場」において、夢洲では初となる展示会、「けいはんな万博in夢洲」を開催いたしました。

本催事は、広域連携部会による力強い主導のもと、これまで個別に活動してきたけいはんな地域の企業や大学が同一の場に集い、初めて協働展示を実現させた画期的な取組となりました。これは、「けいはんなで大阪・関西万博を考える会」が掲げる「大学との新たな関係構築と知の協業による価値創出」という構想が、万博会場という象徴的な舞台で具現化した瞬間であり、まさに「けいはんなのReborn（再生）」を体現する歴史的な一歩となりました。夢洲では、この後さらに５回にわたって同様の情報発信を行いました。

けいはんな万博2025の成果

けいはんな万博2025は、産学公住など様々な立場の関係者が初めて一緒になって企画・実施したものですが、結果として、けいはんな学研都市始まって以来の最大のイベントとなりました。参加者等からいただいたご意見も踏まえ、その成果を次のように総括しています。





・単なる展示・イベントではなく、科学技術を人々の生活に結び付けて、技術の社会実装の試行を体感することで、科学技術が社会課題を解決する有効な手段であるとの理解を得て、最先端技術への受容性を高めることができた。これらにより、けいはんな学研都市が実証フィールドとして果たす科学技術と人間社会をつなぐ役割の有効性も検証された。
・けいはんな万博2025で設定した４つのテーマは、けいはんな学研都市の強みとなるテーマであることがあらためて確認できた。
・けいはんな学研都市を構成する８市町が連名で地域横断的に実施するイベントが実現し、けいはんな万博2025を通じて、大学・企業・団体・行政・住民といった多様な参加者の新たな人脈と信頼のネットワークが形成されたことにより、産学公住の連携の礎が強化された。
・連携イベントも含め74イベントにより約20万人の集客と100件を超えるメディアでの掲載があった。また国内外使節団の受け入れなどを通じ、広くけいはんな学研都市の知名度と存在感を高めることに寄与した。
・けいはんな万博2025で開催された「けいはんな大学」サミットという学生ネットワークを核に、企業・行政・大学が若者のビジョンを中心に据えて議論する、これまでのけいはんな学研都市にはない若者を中心とした共創型プラットフォームのひな形が形成された。ここではけいはんな学研都市を学びの場として、従来の知識取得ではない、不確実な未来を自らデザインする問いを生み出す力を学生に獲得させる新たなモデルとして成果を出した。

けいはんな宣言に向けて～若い世代からの提案

けいはんな万博2025のテーマは「未来社会への貢献～次世代への解～」であり、一貫して未来へのまなざしを持ち続けて展開してきましたが、そこには、上記の「けいはんな大学」サミットを始めとして、学生、子どもたちなど本当に多くの若い世代の参加者がありました。

若い世代の人たちこそ、まさに未来を生きる人たちであり、その思いを真摯に受け止め、実現できるような環境を整えていくことが重要であることから、10月の閉会セレモニーにおいて彼らの思いを表明してもらうことが決まりました。

半年間の様々なイベントに参加した彼らの代表が、その思いを「けいはんな宣言に向けて～若い世代からの提案」という形にして、堀場共同代表に手渡しました。

【参考資料】

○「けいはんな宣言に向けて～若い世代からの提案」（43ページに掲載）



けいはんな宣言

けいはんな万博2025の成果とレガシー、未来への提言を広く発信するということについては、基本計画策定の段階から決定していました。

実際にイベントの実施に携わってきた担当者等が起草チームを作り、半年間の成果を基に、1978年の「関西学術研究都市調査懇談会」(通称「奥田懇」)以来脈々と継承してきた都市草創の理念や、閉会セレモニーでの若い世代からの提案やアカデミアからの提言等も踏まえて、議論を重ねて原案を作成しました。

「けいはんな宣言」は、けいはんな万博2025の成果・レガシーを総括するものとして、2026年1月、けいはんな学研都市賀詞交歓会の場で堀場共同代表から発表されました。

【参考資料】

○「けいはんな宣言」(44ページに掲載)

けいはんな万博2025のレガシーの活用

けいはんな万博2025の企画・計画づくりから準備、開催に至るまでの過程で、大学、研究機関、行政、企業、団体など73機関が参画し、立場や組織を越えた人との出会いや信頼のネットワークが構築されました。

また、期間中にマスメディア等を通じて100件以上の情報発信を行ったことで、地域住民はもとより多くの人々にけいはんな学研都市とその取組を知っていただくことができ、交流や連携のネットワークがさらに大きく広がりました。

このように、けいはんな学研都市が一体となったネットワークやその成功体験をレガシーとして引き継ぎ、発展させていくことで、産学公住など多様な主体の相互理解を促進し、けいはんな学研都市で行われる研究開発の成果の社会的価値を高めるとともに、次世代の科学人材の育成などにつなげていきます。

ポスト万博シティの推進

令和6(2024)年1月に策定された「2025年大阪・関西万博アクションプランver.5」(国際博覧会推進本部)において、万博の活動を拡大継承可能なポテンシャルを有する地域として「ポスト万博シティの推進」の実施場所に公式に位置付けられたけいはんな学研都市は、会期前・会期中から万博と連動し、万博終了後の成果の継承を意識した活動として、まさにけいはんな万博2025を開催しました。

会期が終わった後、「いのちの未来」パビリオンで展示されたアンドロイドや「RITE未来の森」のガイダンスホール、「アースマート」で展示された「いのちのはかり」等もけいはんな学研都市において公開されます。これからも、技術交流や人的交流・世界に向けた発信等を継続的して実施していきます。

けいはんな万博の成果は、2035年までのけいはんな学研都市の姿を決める新たなステージプランの中に確実に反映され、未来社会に貢献するレガシーとして継承されていきます。

けいはんな宣言に向けて ～若い世代からの提案

私たちは、2025大阪・関西万博、けいはんな万博2025に参加・体験し、最先端の科学技術、歴史・文化・思想、多様なひとびととの交流によるつながりの大切さ等、多くのことを学びました。

今地球は、環境問題や地政学的問題（分極化・分断化）、AIが社会に与える影響など多くの課題を抱えています。

私たちは、それらに目を背けることなく、こうした課題解決に取り組んでいけば、必ずや希望の持てる明るい未来を実現できると考えています。

この未来を実現するために、私たちは「けいはんな」が次のような都市となることを強く願い、私たち自身もその実現に向けて積極的に協力します。

1.実験都市から実装都市へ、そして更なる発展へ

AI/ロボティクス、健康・医療、食、環境・エネルギー関連部門など、世界トップレベルの科学技術や製品を学び、実証実験を体験しました。

これらを社会に着実に実装し、新たな産業の創出を通じて、都市がさらに発展することを願っています。

そのためのプラットフォームや環境が整った、国内外の研究者やスタートアップが集う魅力的な都市を築いてください。

2.新たな文化を育む都市へ

長い歴史と豊かな文化、それらに基づく「温和な思想」と、最先端の科学技術が融合し、「いのち輝く未来社会」を築く新たな「地球文化」の創出に貢献できる都市となることを願っています。

そのために「科学技術×アート・エンターテインメント」「AI×文化」などをテーマにしたフェスティバルの開催や、成果の国内外への発信を通じた、文化の創造と交流に私たちも関わりたいと思います。

また、誰もがいつでも最新の科学技術やアート、アーカイブに触れることができ、新たなアイデアが生まれる場となることを期待しています。

3.常に「何かが生まれる」わくわく感に満ち溢れた都市へ

こどもから高齢者まで、学生・研究者・企業人など誰もが気軽に集い、学び合える場（けいはんなコミュニティ／コモンズ）を構築し、そこから持続的な協働・共創が生まれる都市となることを願っています。

私たちも、こうした場づくりに積極的に関わり、ウェルビーイングな都市の実現に貢献します。

4.希望に満ちた未来を自らの手で

私たちは、けいはんなが未来への希望を育む都市となることを強く望みます。

その実現に向けた活動に、私たち自身も積極的に参加し協力しながら、「希望に満ちた明るい未来」を共に築いていくことを、ここに提案します。

けいはんな宣言に向けて～若い世代からの提案

近畿大学附属豊岡高等学校　井川　祥来
京都府立洛西高等学校　田村　鈴
大阪電気通信大学　伊藤　美柚
東京国際工科専門職大学　森岡　継悟
奈良先端科学技術大学院大学　吉田　雄丸

けいはんな宣言

けいはんな学研都市は、「科学と文化の融合により新たな地球文明の創出をめざす」という理念のもと、およそ40年にわたり歩みを進めてきました。この間、さまざまな研究開発の成果を積み重ね、現在では、人口約25万人、そして約160の研究機関や大学、企業などが集積するサイエンスシティへと成長しています。

2025年、「大阪・関西万博」のテーマに共感するとともに、けいはんな学研都市の魅力や強みを国内外に発信する好機と捉え、73の機関が参画して「けいはんな万博2025」を開催しました。

「未来社会への貢献～次世代への解～」をテーマに掲げ、ロボット・アバター・ICT、ウェルビーイング、スタートアップ、サイエンス＆アートなどの分野で74ものイベントを展開した結果、20万人を超える参加者にけいはんな学研都市の価値を伝え、その存在感を高めることができました。

また、けいはんな学研都市には、未来社会に貢献し得る研究開発のシーズや強みが数多く存在することを改めて確認する機会ともなり、加えて、産学公住など異なる立場を越えて熱い想いを持つ人々が協働し、共創のネットワークが幾重にも築かれたことは大きな成果となりました。

けいはんな学研都市は、都市草創の理念やこれまでの成果を受け継ぎ、豊かな歴史文化資源や、住民の暮らしが息づく多様性のあるサイエンスシティという利点を生かし、これからもより良い未来社会の実現に貢献するため、以下に掲げるような都市になることをめざし着実に歩みを進めていくことを宣言します。

一、様々な立場の人々が気軽に集うコモンズが整い、共に考え、共に学び、共に創る共創のネットワークが一層広がる中で、人材を育て、新たな文化や価値観、研究開発のアイデアを生み出す都市

一、絶えずイノベーションを生み出し、社会における実証、実装を促進することで持続可能な事業や産業を育む都市

一、豊かな歴史文化に基づく多様な叡智を集め、科学技術を人間の幸福につなげる理念と成果を、日本全国、さらに世界へと発信する都市

一、誰もが科学の進歩や文化の豊かさを享受し、夢や希望に満ちた未来への高揚感を感じられる都市

一、誰ひとり取り残さず、あらゆる人々が健康で平和で豊かに暮らせるウェルビーイングに満ちあふれた都市

これらを実現するため、けいはんな学研都市が一体となって挑戦を続けます。

令和８年１月９日
けいはんな万博2025運営協議会

サポーターのみなさま

住友電工 Connect with Innovation
HORIBA
SHIMADZU Excellence in Science
SEKISUI HOUSE
Daiwa House®
レンゴー
OMRON
森半 morihan 共栄製茶 株式会社
HIRANO TECSEED
福寿園
ロートは、ハートだ。 ROHTO
ATR
KAGOYA JAPAN
colt Data Centre Services
MANYO TOOLING SYSTEMS
ICHIGUCHI
Kanyaku 環境衛生薬品株式会社
京都山城ロータリークラブ
新日本理化株式会社
TECHNOFLEX
MIZUHO
株式会社 井上製作所
Will Co.Ltd. Ultra-fine precision machining
ERS 環境総合リサーチ
山城経済懇話会
京都府 KYOTO
大阪府
NARA PREFECTURE 奈良県
関西経済連合会 Kansai Economic Federation

参画機関

イーセップ株式会社　エースジャパン株式会社　大阪電気通信大学　株式会社 FD クリエイト　大阪府　オムロン株式会社
金沢工業大学　環境衛生薬品株式会社　公益社団法人関西経済連合会　関西大学　木津川市　木津川を美しくする会
共栄製茶株式会社　京セラ株式会社　京田辺市　京都光華女子大学　公益財団法人京都産業２１　京都大学農学研究科
一般社団法人京都ドローン協会　京都日本文化資源研究所　京都府　京都府立大学　京都府モラロジー協議会 南地区会
公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー　けいはんな記念公園　特定非営利活動法人けいはんなアバターチャレンジ
国立国会図書館　滋賀大学　けいはんなフィルハーモニー管弦楽団　公益財団法人国際高等研究所　四條畷市
株式会社国際電気通信基礎技術研究所　サントリーホールディングス株式会社　株式会社 CCH サウンド　株式会社島津製作所
株式会社 SHIN-JIGEN　新日本理化株式会社　国立研究開発法人情報通信機構　せいか音頭保存会　せいか太鼓 波布理　精華町
精華町商工会　積水ハウス株式会社　大和ハウス工業株式会社　高の原音楽芸術協会　テルモピレー株式会社
公益財団法人地球環境産業技術研究機構　東レ建設株式会社　東京国際工科専門職大学　奈良県　奈良学園大学　奈良県立医科大学
奈良女子大学　奈良先端科学技術大学院大学　ACS 株式会社　株式会社日本政策金融公庫　株式会社 Halle Game Lab
一般社団法人プレプラ　未来食開発研究センター株式会社　枚方市　株式会社福寿園　任意団体ミラトリエ　山腰登記測量事務所
山城喫茶文化連盟　ゆめ伴プロジェクト（&TEAM EXPO2025 折り鶴 JAPAN）　国立研究開発法人理化学研究所
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構　山城経済懇話会　株式会社 Universal Robot Lab　ロート製薬株式会社　和束町
株式会社けいはんな　公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構

第２章

科学・生活・文化・自然環境の調和

けいはんな万博は、単なる技術展示にとどまらず、科学技術と人間の生活、文化、自然環境との調和を重視した点に大きな特徴があります。技術を中心に据えるのではなく、人間の幸福（ウェルビーイング）や社会的受容性を基軸として、未来社会の在り方を多角的に提示した点に意義があります。

まず、社会・思想的側面では、「新・けいはんな風土記」や「不確実性とともに生きる」セッションを通じて、技術進展に伴う不確実性を前提とした新たな社会観が提示されました。これにより、科学と人文知の融合的な議論の場が形成され、分野横断的な視点の重要性が示されています。また、エジソンとゲーテを軸とした鼎談は、科学と人文の統合を知的に支える取り組みとして位置づけられます。

次に、ウェルビーイングの観点では、ウェルビーイングフェスティバルやロボカフェ、健康寿命に関するシンポジウムなどを通じて、技術が生活の質の向上にどのように寄与し得るかが具体的に示されました。特に、ロボティクスやICT技術が高齢化社会や地域コミュニティにおいて果たす役割が可視化され、「人間中心の技術活用」という方向性が明確に示されています。

さらに、文化・芸術の領域では、ミュージアム展示、音楽・舞台芸術、狂言やアートイベントなど、多様なプログラムが展開されました。これらは科学技術と文化の融合を体現するものであり、来場者に対して感性と知性の双方に訴える体験を提供しました。観月の夕べや地域祭りは、自然と文化、生活が一体となった調和の具体例です。また、古代都食シンポジウムのように、歴史文化と現代技術を接続する試みも行われ、地域文化資源の再評価と国際発信の可能性が示されました。

これらの取り組みを通じて、本万博は、技術と生活、文化、自然環境が相互に作用しながら共進化する未来社会モデルを提示しています。すなわち、科学技術を「目的」ではなく「手段」として位置づけ、人間と社会の中で活用するという理念が具体化されたものです。この理念は、今後の社会実装および国際展開においても中核的な指針となり、けいはんなが世界に発信すべき未来社会像の基盤を形成するものです。

けいはんな万博 2025 記念
新・けいはんな風土記

けいはんな万博2025を創造性あふれる万博にするために、「けいはんな」という地域の歴史を明らかにし、地域住民や万博に関わる方々が、この地の果たしてきた役割や先人の知恵を学び、未来の展望を考える契機となる教材として『新・けいはんな風土記』（四六判、256ページ、敬文舎刊）を作成しました。

大阪・関西万博にあわせて企画されましたが、けいはんなには1990（平成２）年に発刊された『けいはんな風土記』（門脇禎二監修、256ページ、同朋舎出版）があります。同書は学研都市の創設期にあたり、地域アイデンティティーの確立を目的として、歴史的・文化的背景を掘り下げた地域誌としての役割を果たしていました。

今回の『新・けいはんな風土記』は、前作の構成を踏襲しつつ、より広範な歴史的・国際的・思想的視点を加えた内容となっています。けいはんな万博のテーマである「未来への貢献～次世代への解～」を見据え、けいはんな地域を「日本の縮図」として捉える視点や、「お茶と平和」を軸に日本文化の平和的側面を世界へ発信する意図が特徴的です。

表紙の帯には、「大丈夫　心配するな　なんとかなる」（伝・一休さん遺言）、「お茶と平和の文化を、『けいはんな』から日本へ、世界へ、そして未来へ」と記されており、本書の象徴的なメッセージとなっています。また、研究者による専門論文も収録され、学術的な深みも備えた一冊となっています。



けいはんな万博2025記念出版
「新・けいはんな風土記」（四六判、256ページ、敬文舎刊）

本書の執筆・監修を担当した小路田泰直氏（奈良女子大学名誉教授、ATR連携研究員、歴史学）は、2024（令和６）年度後半から、４回シリーズの「未来創造セッション」において「新・けいはんな風土記～先人の知に学ぶ～」と題した講演を行っています。これらの講演内容には、本書の基盤ともいえるテーマや視点が含まれています。

今後は、地域文化を発信するためのツールとして、本書を展示や講演で紹介することをはじめ、地元の学校や大学における地域学・文化論の教材として活用することが期待されます。また、けいはんなから世界へ文化を発信する際の核となる役割も担うことが考えられます。

本書の構成（概略）は次のとおりです。

【概論】（小路田泰直）

- 大和王権の誕生
- 古代の反乱・仮説（邪馬台国）
- 治水の時代（淀川、木津川）
- 架橋と巨大首都の建設（聖武天皇、行基）
- 東大寺二月堂と鎮護国家
- 平安遷都と首都圏の成立
- 戦争と平和（応仁の乱から一揆）
- 茶の時代（煎茶の発明）
- 「日本の美」の発見と『茶の本』（岡倉天心の思想）
- 立憲制下の「けいはんな」
- 大正デモクラシーから第二次大戦後へ

【各論】

京都盆地の古墳築造動向（大久保徹也）／宮都の輪郭（内田忠賢）／行基と大仏／（斉藤恵美）／平安京と仮名文学の誕生（長田明日華）／色で読み 解く平安貴族社会（小菅真奈）／応仁の乱（田中希 生）自由民権運動の背景（八ヶ代美佳）

【鼎談】

小路田泰直、内田忠賢、斉藤恵美

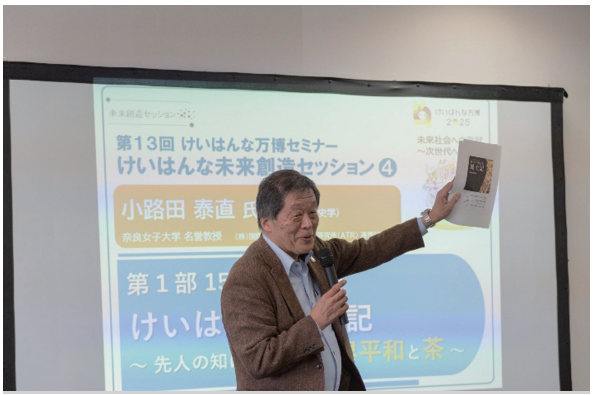


第10回けいはんな万博セミナー未来創造セッション①
「先人の知に学ぶ」


第11回けいはんな万博セミナー未来創造セッション②
「先人の知に学ぶ②行基から一休へ」



第12回けいはんな万博セミナー未来創造セッション③
「先人の知に学ぶ③平和の枠組み」



第13回けいはんな万博セミナー未来創造セッション④
「先人の知に学ぶ④世界平和と茶」

けいはんな万博2025 プレイベント国際シンポジウム「不確実性とともに生きる―次世代への鍵」

2024年11月30日

「未来を見据え、今、何を考え、何を学び、どう生きるか？」をテーマに、けいはんな万博2025プレイベント国際シンポジウム「不確実性とともに生きる―次世代への鍵」（主催　国際高等研究所　けいはんな万博2025運営協議会との共催）が2024年11月30日、国際高等研究所レクチャーホールで開かれました。

米ジョンズ・ホプキンス大学名誉教授で宇宙物理学者のマイケル・フィンケンタール氏と、京都大学大学院理学研究科教授で素粒子物理学者の橋本幸士氏の２人が基調講演をおこない、今回のサブテーマであるAIを論の中心に据えて、人類が直面する複雑な課題をそれぞれの研究分野からとらえた、幅広くかつ奥深い論考が披露されました。

フィンケンタール教授は「不確実性が支配する世界で不確実性とともに生きる―AIは助けになりうるか」と題して、複雑な世界における不確実性との共存とそこでAIが果たす役割について言及、学術研究と一般の理解との隔たりを指摘して、不確実性を自然科学と人文科学の異なる視点から解説されました。また、AIの未来について異なる意見を持つ２人の研究者と、ChatGPT-４にも触れ、AI開発における理論と応用に関わる課題、AIがその橋渡し役として果たしうる可能性が示唆されました。



講演したフィンケンタール教授（左上）と橋本教授（右上）

橋本教授は「学習物理学の創成」の演題で、自ら進む方向性を明らかにしたうえで、「物理学を学ぶ」という概念とAIとの関係について自説を述べられ、AIが新しい物理法則を発見する助けとなりうる可能性にも言及し、物理学の新領域創成にAIをどう活用できるか、深く掘り下げた話が展開されました。

シンポジウムの締めくくりとなるパネルディスカッションは、国際高等研究所主席研究員（京都大学名誉教授）の鈴木晶子氏をコーディネーターに両講演者が参加しておこなわれました。参加者の間からは不確実性やAI、人間の意識といった多様な視点が提起され、「AIの本質は自然がもたらしたものか、人間の創造物か」との問いを中心に議論は進み、AIの理解に向けた新たなアプローチが模索されました。また、AI技術の進展に伴うプラス面だけでなく、そこに潜む危険性についても意見が交わされ、多角的な視点から検討を進めていくことの重要性が改めて認識されました。

今回のシンポジウムを通じて、様々な立場の参加者が一堂に会し、現代社会が抱える重い課題を議論することの意義を再確認することができました。

けいはんな万博2025シンポジウム「不確実性とともに生きる－未来への鍵」

2025年9月21日

事業名	けいはんな万博2025シンポジウム「不確実性とともに生きる　－未来への鍵」
部会名	国際会議部会
実施の形態	公益財団法人国際高等研究所 けいはんな万博2025運営協議会との共催
参画機関	公益財団法人国際高等研究所 けいはんな万博2025運営協議会
実施期間	2025年9月21日
実施場所	けいはんなプラザ
事業の趣旨	科学技術や文化の力で人類が直面する様々な課題に解を与え、健康で平和で豊かな未来の実現に寄与することを目的とする
事業内容	9月21日 時間：13時30分～16時 内容：基調講演　山中伸弥氏、田中耕一氏 未来対話セッション　山中伸弥氏、田中耕一氏、大学院生、大学生、高校生との討論
参加者数等	950名



基調講演１　山中伸弥氏

不確実性の時代に、未来を見据えて今、何をなすべきかをともに考えるシンポジウム「不確実性とともに生きる－未来への鍵」が９月21日、けいはんなプラザ・メインホールで開かれました。

登壇者は関西にゆかりの２人のノーベル賞受賞者、2012（平成24）年、生理学・医学賞を受賞した山中伸弥氏と、2002（平成14）年、化学賞を受賞した田中耕一氏で、ホールがほぼ満席となる950人の参加者を前に、度重なる苦境の中でも成功をつかむに至った、自身の足跡についての講演となりました。

山中氏は「不確実な中でも走り続けること－iPS細胞研究の医療応用に向けて」の演題で、アメリカの先生から教わった「研究者の成功の秘訣はビジョンとワークハード（VW）」を肝に銘じて研究してきたこと、例え苦難の連続でも、ビジョンを持って進めばうまくいくことがある、と自身の研究者生活を回顧。医師を目指したのも父の難病がきっかけで、大学院で薬の研究に取り組んで研究者が天職と思うようになったなど、この道に進んだ経緯を述べたうえで、アメリカ留学から帰国後は研究環境に苦しんだが、ヒト幹細胞の発見と、奈良先端科学技術大学院大学の研究リーダーに採用が決まったことで乗り越え、そこで取り組んだiPS細胞の開発に成功して後のノーベル賞受賞に至ったなど、ビジョンを持ってやり続けたのが成功につながったことを強調しました。

田中氏は「思い通りに行かなかった事ばかりだが、それが思いのほか良かった」の演題で、自分の人生が『人間万事塞翁が馬』を地でいくもので、当てが外れることの繰り返しだったと強調しました。大学

受験当時、日本は家電王国だったので工学部を目指し、半導体の研究室を希望したが抽選に外れてアンテナ工学へ進んだ。就職の時も第一志望の電機メーカーは不採用であったが、教授の勧めで入社した島津製作所の担当部署で、大学で学んだアンテナ工学の研究・発想がノーベル賞受賞につながる化学の発明につながった自身の経験から、異分野の融合が大きなイノベーションにつながるのを身をもって体験したと、研究生活を振り返りました。

続いて国際高等研究所主席研究員で京都大学名誉教授の鈴木晶子氏をコーディネーターに、ご登壇された山中氏、田中氏と、高校生２人、大学生２人、大学院生２人でパネル討論を行い、学生たちからの率直な質問に、両氏がユーモアを交えながら、優しく熱いエールを贈りました。



基調講演２　田中耕一氏



未来対話セッション

「エジソンの会、ゲーテの会、meta鼎談～国際高等研究所の交流事業～」

2025年4月25日（金）～8月21日（木）

事業名	エジソンの会、 ゲーテの会、 meta鼎談
部会名	サイエンス&アート部会
実施の形態	主催：（公財）国際高等研究所、 協力：けいはんな万博2025運営協議会
事業内容 参加者数等	【第49回エジソンの会（2025年4月25日開催）】 <会場>国際高等研究所 レクチャーホール <テーマ>「2024年ノーベル賞 AI（人工知能）研究が初の快挙」 <基調講演>「上田 修功氏（国立研究開発法人理化学研究所 革新知能統合研究センター（AIP）副センター長）（演題：人工ニューラルネットワークによる機械学習～その発明と応用～）」 「大上 雅史氏（東京科学大学 情報理工学院 情報工学系 准教授）（演題：AlphaFold～タンパク質の立体構造予測がもたらす未来の創薬・医療～）」 ※基調講演の後、講演者と参加者のインタラクティブセッションを実施。 <参加者数>48名 【第96回ゲーテの会（2025年5月13日開催）】 <会場>国際高等研究所 コミュニティホール <テーマ>「なぜ資本主義には倫理が必要なのか?～近代文明の再生に向けて～」 <講師>「岩井 克人氏（東京大学名誉教授）」 ※講演の後、 参加者との質疑応答による交流を実施。 <参加者数>122名 【第4回けいはんなmeta鼎談（2025年7月12日開催）】 <会場>国際高等研究所 コミュニティホール <テーマ>「資本論：資本主義の未来を探る（経済倫理×経済人類学×企業経営）」 <鼎談者>占部 まり氏（内科医、 宇沢国際学館 代表取締役）、 松村 圭一郎氏（岡山大学 准教授）、 熊野 英介氏（アミタホールディングス株式会社 代表取締役会長 兼 CVO） ※異分野の学識者3名が「資本主義の未来を探る」鼎談を開催。 鼎談の後、 参加者との意見交換による交流を実施。 <参加者数>72名 【第50回エジソンの会（2025年8月21日開催）】 <会場>国際高等研究所 レクチャーホール <テーマ>「日本の半導体産業復活へ‼～グローバル競争を勝ち抜く鍵とは～」 <基調講演>「黒田 忠広氏（東京大学 特別教授、熊本県立大学 理事長）（演題：半導体が創る未来の地図～阿蘇9万年の自然と最先端技術の融合を通して～）」 「真岡 朋光氏（レゾナック・ホールディングス 取締役 最高戦略責任者、 最高リスク管理責任者（CSO/CRO））（演題：AIと半導体材料イノベーション～グローバル市場への挑戦と展望～）」 ※基調講演の後、講演者と参加者のインタラクティブセッションを実施。 <参加者数>55名

国際高等研究所は、知的資源を社会に発信・還元する「交流事業」として、2013年から哲学カフェ「ゲーテの会」、2016年から立地機関同士の連携や、この街ならではの基幹技術、基幹産業確立に寄与する「エジソンの会」、2022年から異分野の学識者３名が哲学・科学・技術の切り口でテーマを深堀りする「meta鼎談」などを開催してきました。

けいはんな万博の開催期間中には、左表の通り「サイエンス＆アート部会」イベントとして、４月25日と８月21日に「エジソンの会」、５月13日に「ゲーテの会」、７月12日に「meta鼎談」を開催しました。いずれのイベントも会場は満員の盛況で、研究者はもとより一般の方々の関心の高さを物語っていました。



エジソンの会 インタラクティブセッション



けいはんなmeta鼎談

ウェルビーイングフェスティバル

2025年6月13日～15日



ウェルビーイングフェスティバル

ウェルビーイングとは「幸福」。

これは、けいはんな万博2025の大きなテーマの一つです。

６月13日から15日までの日程で、けいはんなプラザにおいて、「健康」「食」「環境」「こころ」をキーワードに、ウェルビーインク・フェスティバルを開催しました。

このフェスティバルは、われわれが直面する社会課題について、科学技術や文化の力を活用した解決策を提示し、それを体験できる機会を創ることを目標として開催しました。

〈狙い〉

・健康の見える化を図り、行動変容を促す
・最新の医療技術、障がいを補うロボティクス等を紹介し、インクルーシブな社会の実現に資する
・食の未来を体感する
・カーボンニュートラル・デジタルグリーン等を通じて、環境の未来を考える
・お茶をとおしてけいはんな学研都市の歴史文化を味わう

また、研究開発や事業化を促進する共創の機会づくりにも努めました。

フェスティバルの主なメニューは以下のとおりです。

〈主なメニュー〉

●展示・体験ゾーン

展示・体験ゾーンでは、「健やかに生きる未来」「食の未来を考える」「未来の環境・エネルギーを考える」の３つの領域で、健康、食、環境等の研究の最前線を紹介する26のブースが並び、様々なデモや体験メニューを提供しました。

●講演

展示の内容と連動して、最新の研究や知見について、よりわかりやすく紹介するため、17件の多彩な講演を行いました。

●MBT みんなで守るいのちの映画祭

難病克服の一環として開催されている映画祭の入賞作品５本を上映し、合わせて有識者が「みんなで守るいのち」について語り合いました。

●心を豊かにするお茶関連のイベント

・裏千家 千 玄室前家元(鵬雲斎宗匠)講演
・記念茶会の開催
・メタバース茶会とロボカフェの開催

ウェルビーイングフェスティバルは、90名以上のスタッフが関わり、5,500名以上の方にご参加いただきました。



展示・体験ブースの一覧

ブース1
四條畷市
四條畷市の田原地域では地域主体のまちづくりに取り組んでいます

ブース2
株式会社SHIN-JIGEN
デモ&体験あり！
ハードテック領域で事業のブレークスルーを一気通貫でサポート

ブース3
環境衛生薬品株式会社
デモ&体験あり！
メディカルソリューションカンパニーとして社会に貢献します

ブース4
木津川を美しくする会
木津川を美しくする会の活動等

ブース5
奈良県立医科大学/MBTコンソーシアム
バイタルと認知機能のチェックを通して健康な未来づくり！

ブース6
奈良学園大学
デモ&体験あり！
人間教育学部と保健医療学部を有する教育と医療の奈良学園大学です。

ブース7
東レ建設株式会社
デモ&体験あり！
高床式砂栽培のトレファームで、たのしく楽に安全に農作業を！

ブース8
株式会社CCHサウンド
デモ&体験あり！
第3の聴覚「軟骨伝導」が未来の音声通信を拓く

ブース9
株式会社島津製作所
デモ&体験あり！
働く世代向けの生活習慣改善を促すヘルスケアロボットの展示

ブース10
ゆめ伴プロジェクト&TEAM EXPO 2025折り鶴JAPAN
認知症になっても輝けるまちへ
～100万羽の折り鶴と伴に～

ブース11
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 関西光量子科学研究所
最先端レーザー技術で量子科学技術の発展と産業応用に貢献します。

ブース12
積水ハウス株式会社 総合住宅研究所
デモ&体験あり！
安全で快適な住まいを追求、絶え間ない技術の進化に挑戦しています

ブース13
京田辺の宝物段上の玉露を体験しよう ー京田辺の茶で至福のひとときー
デモ&体験あり！
玉露の淹れ方をマスターし、自宅で本格的な玉露を楽しみませんか

ブース14
京都光華女子大学／京都光華女子大学短期大学部
デモ&体験あり！
仏教精神に基づく人間教育で"Well-Being"な社会の創造を目指しています

ブース15
学研フードテック 共創プラットフォーム
デモ&体験あり！
フードテックで食の未来を豊かに！

ブース16
未来食研究開発センター株式会社
デモ&体験あり！
未来の食料生産技術を開発しています。

ブース18
古代都食
デモ&体験あり！
古代から未来に繋ぐ「食」のメッセージ

ブース22
奈良先端科学技術大学院大学・発酵科学研究室／学研フードテック 共創プラットフォーム・発酵グループ
デモ&体験あり！
酵母の育種技術を活用した発酵・醸造のイノベーション

ブース23
学研フードテック共創プラットフォーム・未利用資源グループ
デモ&体験あり！
発酵食品の未利用資源の利活用を考えよう！

ブース24
農林水産省
農林水産省とフードテック官民協議会の取組の紹介

ブース25
京都料理芽生会／学研フードテック 共創プラットフォーム・和食グループ
「美蓄食」による豊かな食の未来

ブース19
(公財)地球環境産業技術研究機構(RITE)
RITEは、EXPO 2025 大阪・関西万博に「RITE未来の森」を出展しています。

ブース20
イーセップ株式会社
ナノセラミック分離膜の開発及びその関連機器・システム等の提供

ブース21
大阪大/奈良先端大/LEP
デモ&体験あり！
自ら発光する植物(LEP)が拓く持続的未来社会の創造

サントリー ワールドリサーチセンター
デモ&体験あり！
足裏情報から歩き方や姿勢をAIが解析します。

滋賀大学教育学部 加納圭研究室
6.14!のみ
滋賀大学教育学部で科学コミュニケーションの研究を行っている研究室です。

「健やかに生きる未来」ゾーンでは、高床式砂栽培、非侵襲の血糖値測定などの展示に加え、玉露の淹れ方講習、認知機能チェックやヘルスケアロボット、VRリハビリの体験など14件が紹介されました。

「食の未来を考える」ゾーンでは、京料理の技術を活用した非常食である「美蓄食」や、未来の食を支える可能性を秘めた矮性イネなどの展示に加え、食分野の課題解決を目指す産学官連携のプラットフォームの事例など８件が紹介されました。

「未来の環境・エネルギーを考える」ゾーンでは、大阪・関西万博の会場でも紹介された「RITE※未来の森」や、発光タンパク質の遺伝子が導入された「光る植物」の展示、微細な汚染物質やウイルスを除去するナノセラミック分離膜など４件が紹介されました。

※公益財団法人地球環境産業技術研究機構



講演の一覧

ウェルビーイングに関する最新の知見・情報を多彩な講演でご紹介！
会場：けいはんなプラザ3F 大会議室（ナイル）

テーマカラー：健やかに生きる未来 / 食の未来を考える / 未来の環境・エネルギーを考える

6.13 FRI

ナイル1

11:00 ▸ 11:50
CCUS:二酸化炭素の回収・有効活用・貯留
～化学の力でCO₂を集める～ ～バイオの力でCO₂からものづくり～ ～自然の地層にCO₂を閉じ込める～
公益財団法人地球環境産業技術研究機構
木下 朋大 氏／清水 崇史 氏／三戸 彩絵子 氏

12:00 ▸ 12:50
将来のカーボンニュートラル社会に向けたナノ多孔性セラミック分離膜の開発
イーセップ株式会社　澤村 健一 氏

13:30 ▸ 17:00
フードテックプラットフォーム
農林水産省フードテック官民協議会　株式会社国際電気通信基礎技術研究所（ATR）

ナイル2

10:00 ▸ 10:50
疾患モデル昆虫を利用した医療開発サポートサービスについて
環境衛生薬品株式会社　津田 玲生 氏

11:00 ▸ 11:50
酵母の育種技術を活用した発酵・醸造のイノベーション
奈良先端科学技術大学院大学　高木 博史 氏

14:00 ▸ 14:50
食のバリアフリー化の技術開発と普及促進
京都光華女子大学　関 道子 氏

15:00 ▸ 15:50
無核性カンキツ新品種「瑞季」等の全国展開に向けた高品質安定生産及び高度利用技術の確立
京都大学　中野 龍平 氏

6.14 STA

ナイル1

10:00 ▸ 10:35
オートファジーによる健康長寿を目指して
奈良県立医科大学　中村 修平 氏

10:45 ▸ 11:20
電力データとライフスタイルAI 奈良医大MBTが実現するスマートな未来
～住民の健康を育む地域社会の未来像～
奈良県立医科大学 MBTリンク株式会社　梅田 智広 氏

11:30 ▸ 12:00
2004年発見の軟骨伝導がもたらす日本発の聞こえのイノベーション
株式会社CCHサウンド　中川 雅永 氏

13:00 ▸ 13:50
視覚障がい者と晴眼者が共に遊戯できるゲームの開発
大阪電気通信大学　新川 拓也 氏

14:00 ▸ 14:50
量子メス（重粒子線治療）が描くこれからの未来
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構　若月 優 氏

15:00 ▸ 15:50
自発光植物―電力不要の代替照明に資する基礎技術―
大阪大学 産業科学研究所　永井 健治 氏

ナイル2

11:00 ▸ 11:50
リハビリテーションの未来 ～XRリハビリテーションの可能性
奈良学園大学　辻下 守弘 氏

13:30 ▸ 13:50
古代から未来に繋ぐ「食」のメッセージ
株式会社FDクリエイト　小畑 陽一 氏

14:00 ▸ 14:50
「和食」に見る温故知新 ～発酵が支える日本の食文化～
京都府立大学　辻本 善之 氏

15:00 ▸ 15:20
SFから始まるイノベーションのすすめ
株式会社SHIN-JIGEN　藤本 弘道 氏









展示・体験ゾーンの内容をよりわかりやすく発信するため、連携企画の講演会も行われました。

「健やかに生きる未来」、「食の未来を考える」、「未来の環境・エネルギーを考える」で計17件もの興味深い内容が紹介されました。

国内外のフードテック関係者が集う

「国内の先進的なフードテックの取組紹介」として、農林水産省や関連企業による先進的なフードテックの取組や、けいはんな学研都市で形成された「学研フードテック共創プラットフォーム」の参画団体による発酵や和食等に関する産学官連携事例がありました。

また海外との連携に関しては、「日本と欧州３ヵ国のグローバルなフードテックセッション」として、日本とリトアニア、オーストリア、フランスの政府系機関、企業、スタートアップ等から、発表がありました。













交流会

13日の夜には、ウェルビーイングフェスティバルの出展者や関係者が参加して交流会が開催されました。

学研フードテック共創プラットフォームから飲料等の提供もあり、様々な立場、所属の人々が一堂に会することで、参加者相互の交流が深まり、研究開発や事業化を促進する共創の場づくりにつながりました。

MBTみんなで守るいのちの映画祭

MBTとは、「医学を基礎とするまちづくり」を表し、医学を通じて産業創生や社会貢献活動を行うことをめざしています。

令和７年６月14日、一般社団法人MBTコンソーシアムと奈良県立医科大学が連携して推進する「MBT難病克服キャンペーン」の一環として開催されている「MBTみんなで守るいのちの映画祭」の入賞作品５本が、けいはんなプラザメインホールで上映されました。いずれも、いのちや生き方について考えさせられる作品でした。

また、上映会に先立って、元関西テレビアナウンサーの山本浩之氏の司会で、奈良県立医科大学 理事長・学長 細井裕司氏、薬師寺長老 山田法胤師、木津川市 市長 谷口雄一氏が「みんなで守るいのち」をテーマに医療と地域の連携等について語り合いました。





けいはんな万博2025記念茶会

６月14日、山城喫茶文化連盟、けいはんな記念公園との共催で、けいはんな記念公園観月楼において、記念茶会が開催されました。

裏千家 矢野宗弘氏によるお抹茶の席、煎茶道瀬本章楽氏によるお煎茶の席、日本茶インストラクター 岩本博義氏による趣向を凝らした日本茶を味わう席が整えられ、約90名の方が、同じお茶でも全くタイプの違う三種のお茶を楽しみました。







裏千家 千 玄室前家元（鵬雲斎宗匠）講演



６月15日、けいはんなプラザメインホールに裏千家 鵬雲斎宗匠をお招きして、「Well-Being で前進」と題して講演が行われました。

鵬雲斎宗匠は、自身のけいはんな学研都市との関わりや戦争体験から説き起こし、茶碗の中の抹茶にけいはんなの豊かな緑が感じられること、また宇治・奈良などで育まれたお茶の歴史に触れながら、「お茶をいただく際の『いかがですか』『お先に』という言葉には、相手を思いやる心が込められている。その心があれば争いごとは起こらない」と語られました。

一碗を以て世界の平和に貢献する「一盌からピースフルネスを」の心や、今を大切に生きることなど自身の熱い想いを、時にユーモアを交えながら、102歳とは思えぬ力強さで語られ、約850人の聴衆は、感動とともに聴き入りました。

講演に合わせて、鵬雲斎宗匠をお正客に迎えて、山城喫茶文化連盟による呈茶席が設けられました。けいはんな万博の関係者のほか一般から応募された約150名が、和やかな雰囲気の中でお茶とお菓子を楽しみました。

床には、鵬雲斎宗匠の筆になる「竹起清風」の色紙が掛けられ、お菓子は、けいはんな万博のシンボルキャラクター「みらるる」を模して創作されました。









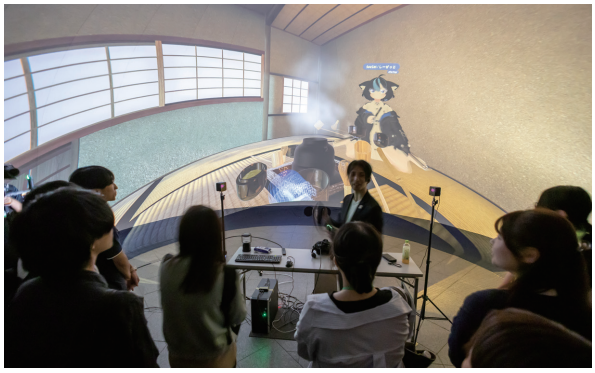


鵬雲斎宗匠は、このご講演から２か月後に急逝されました。
これが生前最後のご講演となったと伺っております。
力強いご講演のお姿を偲びつつ、謹んで哀悼の意を表し、感謝をささげます。

けいはんな万博２０２５運営協議会事務局



ドーム全景



ドーム内





ドーム外の体験コーナー

メタバース茶会

けいはんなプラザのアトリウムに、大きなエアドームが出現。その内部のスクリーンには、お茶室のイメージ映像が映し出され、ドーム内に入った人は、VRゴーグルを着けることなく、仮想空間のお茶会に参加している雰囲気を気軽に味わうことができ、映像の中で茶杓や茶碗、茶筅や柄杓などのお道具を扱うことが可能です。

メタバース茶会は、５月31日から６月22日までの毎週末に開催されました。

ドームの外では、VRゴーグルを着用してドーム内の仮想空間でのお茶会に参加できるブースも設置しました。ドームの外からもコントローラーを操作して、映像の中で茶杓や茶碗などを使って、お茶を点てることが可能で、子どもたちをはじめ幅広い年齢層にメタバース茶会を体験いただきました。

ロボカフェ

ドームの横には、お菓子やお茶のセットが、自動配膳ロボットに載せられて席まで届けられるロボカフェを設置しました。お客さま自身で茶筅を振ってお茶を点てるリアルな体験メニューも大変好評でした。







けいはんな万博2025 in 大阪・関西万博

2025年4月30日、9月30日

大阪・関西万博の舞台『夢洲』から発信

４月30日、大阪・関西万博の大阪ヘルスケアパビリオン「リボーンステージ」から、スタートアップ部会とともに、ウェルビーイング部会からは２機関が参加し、けいはんな万博の取組を発信しました。まずMBT(「医学を基礎とするまちづくり」を表し、医学を通じて産業創成や社会貢献活動を行うことをめざす取組)を展開している奈良県立医科大学の細井裕司 理事長・学長が「未来の健康長寿社会に挑む奈良県立医科大学のMBT活動」と題して講演し、続いて同大学の梅田智広 研究教授が、その一例として.「電力データとライフスタイルAI、MBTリンクが実現するスマートな未来」と題して講演しました。

また、四條畷市は、高齢化が進みつつあり、坂道が多い田原地域内の移動支援対策として実施している自動運転の取組について、実際に運営に携わるボランティアスタッフが、現地と映像を結びながら「けいはんな学研区域(田原地域)における自動運転車を起点とした地域主体のまちづくり」と題してプレゼンテーションを行いました。

２つの機関は、さらにステージ前の広場に設けたブースでの紹介も行いました。

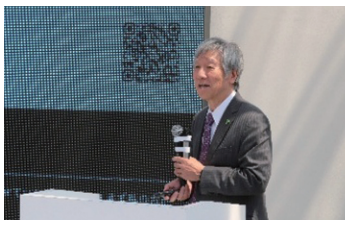
９月30日は、奈良県立医科大学による「MBT活動」や「MBTリンク」の展示・講演のほか、けいはんなのスタートアップ４社により、万博というお祭りにふさわしい、企業や児童・生徒を巻き込んだデモンストレーションや体験型イベントとして情報発信をしました。

まず「森林再生とカーボンニュートラル」をテーマに、エースジャパン株式会社から間伐材や未利用材を活用した「エコベンチ」による森林再生の取組を、森脇健児氏の軽快な司会で、京都府内８小中学校が環境学習の成果を発表しました。

「グリーンエネルギーとロボット支援」のテーマでは、株式会社Krigan からは、様々な現場のニーズに合わせた自律移動ロボットを制作できる「AMRKit」を、徳田社長と一緒に、中学生や大阪・関西万博公式キャラクターのみゃくみゃくが紹介、またイーセップ株式会社からは、クリーンな水素燃料を手軽に利用できる技術ということで、メタノール水を活用した燃料電池の実証デモを実施しました。

「未来のヘルスケア」のテーマでは、ミツフジ株式会社の三寺社長と大阪大学循環器内科中野智彰先生の対談を通じて、未来社会を見据えたヘルスケアの最前線を紹介しました。




奈良県立医科大学　MBTの取組

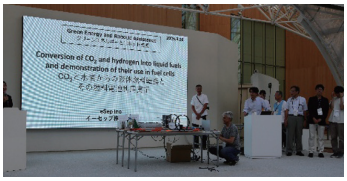



四條畷市　自動運転車を起点とした地域主体のまちづくり


エースジャパン：森林再生とカーボンニュートラル


Keigan：グリーンエネルギーとロボット支援


ミツフジ：未来のヘルスケア



イーセップ：グリーンエネルギーとロボット支援

ロボカフェ

2025年5月25日～2025年6月22日

事業名	ロボカフェ
部会名	ロボット・アバター・ICT部会
実施の形態	実演
参画機関	(株)Keigan、(株)福寿園、(株)ゆずプラス
実施期間	2025年5月25日～2025年6月22日
実施場所	けいはんなプラザ アトリウム
事業の趣旨	「metaCHA」開催時、配膳ロボットでお客様にお茶やお菓子のサービスを行う。
事業内容	自律移動ロボットによる配膳を行う際に、どのような付加的作業がかかるのか、その難易度や工数等を評価するため、自律移動ロボットによる配膳を試行。タブレットのタッチパネル操作によるお茶・お菓子の配膳を実施。
来場者数	約100名

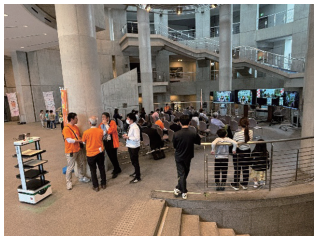


ロボカフェ（自律移動型ロボットによる配膳）

2025年５月25日から６月22日までの土曜・日曜日、けいはんなプラザアトリウムにおいて、ウェルビーイングフェスで実施するお茶体験「metaCHA（メタバース茶会）」と連動した企画として、「ロボカフェ（自律移動型ロボットによる配膳）」を実施しました。

会場では、配膳ロボットが来場者にお茶やお菓子を提供し、未来社会の姿を体感していただくことを目的としました。カフェでは、精華町のロボットベンチャー「Keigan」が開発した配膳ロボットが、センサーで人を避けながら注文品をテーブルまで運ぶなどの接客を行いました。

ロボットは単に働くだけでなく、来場者がロボットとともにお茶を楽しむ体験を提供し、交流を促す役割も担っていました。初日の５月25日には、学生や研究者ら10チームが開発したアバター・ロボットが街路をパレードし、じゃんけんや買い物競技を行うアバターチャレンジが開催され、大いに賑わいました。その結果、多数の来場者にロボカフェのパフォーマンスをアピールし、ご利用いただくことができました。


ロボカフェの初日、アバターチャレンジの来場者にサービス



子どもたちと触れ合う配膳ロボット

けいはんな学研都市に集まる大学・研究機関では、未来に向けたロボット研究開発が進められています。誰もが取り残されず、つながりを感じられるウェルビーイングな社会の実現に向けて、ロボットは新たな活躍の場を広げつつあります。


ウェルビーイングフェスで、ロボカフェとMeta Chaのコラボレーションを実施

シンポジウム「健康寿命伸長への提案～ウェルビーイングと『意識』の関係性」

2025年6月14日

事業名	シンポジウム「健康寿命伸長への提案～ウェルビーイングと「意識」の関係性」
部会名	サイエンス&アート部会
実施の形態	主催：けいはんな万博2025運営協議会 共催：(公財)国際高等研究所
実施日時	2025年6月14日、14時～16時
実施場所	けいはんなプラザ5階 中会議室「黄河」
開催内容	(1) 基調講演 ①島袋隆（ハズしまぶくろクリニック院長） 「がんに関わってわかったこと」 ②亀井士門（ジュジュベハワイクリニック院長、アメリカアーシング研究所諮問委員） 「内在する治癒力の驚くべき働き」 ③幸島究（Lotus Medicine health & beauty clinic 医師、元寺町スキンクリニック理事長） 「本当の健康に向かうために」 (2) 3名の講師によるパネルディスカッション 【コーディネーター】高見茂（京都大学名誉教授、京都光華女子大学学長・短期大学部学長、国際高等研究所チーフリサーチフェロー）
参加者数	122名



開会挨拶（高見茂氏）



パネルディスカッション

国際高等研究所の高見茂・チーフリサーチフェローが「人を健康と幸せに導く『意識』に関する研究」を推進するなかで、日頃から相互に研究協力している３人の医学研究者を講師に招き、６月14日に、けいはんなプラザ５階会議室「黄河」を会場に、シンポジウムを開催しました。

人生100年時代を健康と幸せに生きるには、「意識と健康、幸福の関係性」を見直し、自分の内なる力に気付くことが必要との考えに基づき、基調講演とパネルディスカッションを実施しました。

基調講演には島袋隆氏、亀井士門氏、幸島究氏の３氏が登壇。島袋氏は若い頃に学んだステージ１や４に対する定説とは全く違う結果に幾度となく遭遇し、長い臨床経験や考えの末にたどりついた気付きや考え方を、実際の症例を見せながら説明しました。

亀井氏は、ハワイで長く多くの難病患者を診療し、痛みの治療や予防を推進するデトックス治療や生活習慣医学、「アロハ医学」をおこなってきた経験から、内在する治癒力を引き出す原理について講演しました。

幸島氏は「これまでの食と考え方（意識）で、その人ができあがっている」との考え方を基本に、病気の人は、この二つの見直しが不可欠だとして、最新の治療方法を紹介しながら、健康に向けてのエネルギー医学の活用と意識の大切さを交えて話しました。

パネルディスカッションでは、健康寿命の新たな方向性を参加者122人とともに考えました。

「古代都食（こだいみやこしょく）」探求・開発シンポジウム

2025年9月23日



トークセッション「古代から未来に繋ぐ食のメッセージ」



古代都食コンペの試食品



古代都食コンペ 審査員と参加者の集合写真

古代から現代へ継承される日本の食文化に触れ、けいはんな万博のレガシーとして、未来へ繋がる食文化を探求する『「古代都食」探求・開発シンポジウム』が９月23日、けいはんなプラザ３階大会議室で開催されました。

古代都食とは平城京や平安京で貴族らが口にしていた食事。

古代食文化を研究する吉野秋二・京都産業大教授が「古の食の風景」、料理家の土井敏久・ライフフーズ代表が「古代から未来へ繋ぐ料理の知恵」とそれぞれ題して講演しました。

さらに、両氏に未来食研究者や日本料理店主ら４氏を加えて、「古代から未来に繋ぐ食のメッセージ」をテーマにトークセッションをしました。

最後に「古代都食コンペ」に応募した６チームが開発したメニューを発表しました。京都府立桂高校は古代菓子として「キクタニギク薫る、秋色わらび餅」を、ノートルダム女子大は古代飲料として「十五夜の微笑み」を出品。このほか料理学校や飲食業から知恵を絞った開発メニューの試食品が提供され、参加者どうしが、今後のメニュー化の可能性などを語り合いました。



『「古代都食」探求・開発シンポジウム』

「けいはんなみゅーじあむ展」

第一期:4月19日～5月18日、第二期:5月24日～6月29日

事業名	「けいはんなみゅーじあむ展」
部会名	サイエンス&アート部会
実施の形態	共催（けいはんな万博2025運営協議会、 けいはんな記念公園、 京都日本文化資源研究所）
参画機関	有職御人形司 伊東久重、伊東庄五郎、高津商会、 京都美術工芸大学、 京都伝統工芸大学校
実施期間	第一期：4月19日～5月18日、第二期：5月24日～6月29日
実施場所	けいはんな記念公園 水景園（観月楼）、 京都美術工芸大学
事業の趣旨	「けいはんな」という最先端の研究開発が行われている地において、 その最先端技術と京都の伝統文化・工芸品が、技術の創造と継承において同一線上にある、 その重層性を展示会や講演で紹介する
事業内容	＜展覧会＞第一期　御所人形展、 時代劇展 第二期　妖怪展 ＜講演会＞4月19日　有職御人形司　伊東久重氏（於：観月楼） 5月24日　日文研元所長　小松和彦氏（於：京都美術工芸大学、 終了後バス誘導）
参加者数等	展覧会　6,872名、 講演会197名



妖怪展（提灯を持って会場内を見て回る来場者 けいはんな記念公園「ギャラリー月の庭」）



御所人形展



時代劇展

「けいはんなみゅーじあむ展」は2025年４月～６月に、けいはんな記念公園などを会場に順次開催されました。科学技術の先端都市「けいはんな」の地で披露する、長い歴史を刻み継承された京都伝統の技術が息づく作品・展示の数々。会場を訪れた人たちは、京都の文化風土にあらためて感じ入った様子で見入っていました。

日程の第一期は４月19日（土）から５月18日（日）まで、同公園内観月楼で御所人形展と時代劇展が開かれました。御所人形展は、江戸時代享保年間から皇室の慶事に用いる御所人形を代々制作している有職御人形司の伊東久重氏と後嗣の庄五郎氏が作品を出展。優美で愛くるしい姿の人形たちに参観者から思わず笑みがこぼれていました。時代劇展は、時代劇の草創期から映像美術の小道具を手掛けている髙津商会が展示資料を提供。「水戸黄門」「暴れん坊将軍」の衣装や小道具、徳川家康、真田幸村の甲冑の展示が参観者の関心を集めました。

５月24日（土）から６月29日（日）までの第二期は同会場で妖怪展を開催。京都伝統工芸大学校と京都美術工芸大学の学生らが妖怪をテーマに制作した工芸作品（蒔絵、漆工芸、京手描き友禅など）を「百鬼夜行」を感じさせるような展示で来場者にアピールしました。

また会期中、御所人形展は伊藤久重氏の講演に庄五郎氏のギャラリートーク、時代劇展はこどもの日にあわせてこども武将体験、妖怪展は妖怪研究の大家、小松和彦・国際日本文化研究センター名誉教授の講演などのイベントを開催。参加者数は展覧会が延べ6,872名、講演会等が延べ197名と、盛況のうちに幕を閉じました。

「ジャズフェスティバル／公園でバレエ」

2025年4月27日・4月29日

事業名	ジャズフェスティバル / 公園でバレエ
部会名	サイエンス&アート部会
実施の形態	ジャズフェスティバル 主催：けいはんな記念公園 共催：けいはんな万博2025運営協議会 公園でバレエ 主催：けいはんな記念公園 共催：けいはんな万博2025運営協議会・麻美バレエランド
参画機関	—
実施期間	ジャズフェスティバル：2025年4月27日 公園でバレエ：2025年4月29日
実施場所	けいはんな記念公園
事業の趣旨	地域で活動している団体に出演してもらうことで、地域に根ざした公園としての役割を果たすとともに、気軽に良質な音楽に触れる機会を地域住民に提供する。
事業の内容	■ジャズフェスティバル 11：00～14：30　1バンド40分演奏 4バンドが出演 出演：銀音じゃず楽団・Goody Jazz Orchestra・OCB Jazz Orchestra・The Groovemakers Jazz Orchestra ■公園でバレエ 第1部11時～/第2部14時～　各45分間公演 出演：麻美バレエランド
参加者数等	ジャズフェスティバル：1504人 公園でバレエ：804人

アートの分野は音楽、絵画、彫刻、演劇、映画、建築、デザインなど多岐にわたっています。また、表現の場も、屋内に限らず、屋外で自然を取り込んだ作品や、自然に包まれての表現活動も含まれます。

４月には、けいはんなの景勝地であるけいはんな記念公園の芝生広場を舞台に27日はジャズフェスティバルと、29日はバレエ公演がおこなわれました。

「ジャズフェスティバル」は、京都、奈良、大阪の４つのバンドが出演し、それぞれお得意のナンバーをはじめ、一般になじみ深い曲を次々と披露しました。

「公園でバレエ」は、精華町の近鉄・新祝園駅前でバレエスタジオを運営する「麻美バレエランド」のスクール生たちが、レッスンの様子を紹介したり、「白雪姫と７人のこびと」「白鳥の湖」などを広場いっぱいに広がって踊りました。観客が参加できるストレッチや、輪になっての踊り、体験コーナーもありました。

両日とも好天に恵まれ、多くの観客が訪れて、青空の下、思い思いに芝生広場の木陰や芝生に座って、なごやかにパフォーマンスを楽しみました。



公園でバレエ「白雪姫と７人のこびと」



公園でバレエ「白鳥の湖」



ジャズフェスティバル

けいはんなお豆腐狂言 KYOGEN 未来につなぐ伝統の笑い

2025年5月5日

事業名	けいはんなお豆腐狂言 KYOGEN 未来につなぐ伝統の笑い
部会名	サイエンス&アート部会
実施の形態	主催：株式会社けいはんな 共催：けいはんな万博2025運営協議会
参画機関	株式会社けいはんな
実施期間	2025年5月5日
実施場所	けいはんなプラザ
事業の趣旨	人間国宝の方をお迎えし、 英語字幕付きの狂言を上演することで、外国人を含む地域の方々に本格的な伝統芸能を鑑賞する機会を提供し、さらに小学生と狂言師の共演演目を設けることで、 次世代の伝統文化への興味・関心を育む。
事業内容	■演目/出演 狂言のおはなし /茂山逸平氏 「鬼瓦」/茂山七五三 氏・茂山慶和 氏 「附子」/ 茂山茂氏、茂山逸平氏、山下守之氏 「菌」/ 茂山宗彦氏、 茂山慶和氏、 鈴木実氏、 地元小学生6名 ＜小学生の稽古の実施＞ ◆日 時 4月22日（火）・4月27日（日）・5月2日（金）18：30～19：30 ◆内 容「菌」きのこ役 の稽古 / 講師：茂山逸平 氏 京都府内・奈良県内の地元小学3～6年生 6名が参加
参加者数等	226名（鑑賞者220名　/　参加者6名）

けいはんなお豆腐狂言公演は、大蔵流狂言の茂山千五郎家を迎えけいはんなホールで定期的に実施しています。今回はけいはんな万博を記念して、演目すべてに英語の字幕をつけるなど、一段と工夫した公演をおこないました。

５月５日は、「狂言のおはなし」のあと、人間国宝の茂山七五三氏をはじめとする茂山一門に「鬼瓦」「附子」「菌（くさびら）」の演目を、披露いただきました。

「菌」は、ある男の家に大きなキノコ（菌）が生え、取っても取ってもなくならないので男が法印に祈祷を頼みますが、菌はますます増え、法印や男にいたずらをする狂言です。この菌役に、地元（京都府内、奈良県内）の小学３年～６年生６人が参加し、跳びはねたり「ホイホイ」と言葉を発したりして、ユーモラスに演じました。

会場には外国人や子育て世代の方を含め、220人の観客が訪れ、笑いが絶えないひとときとなりました。狂言クイズもおこなわれ、正解者には「みらるるキーホルダー」も進呈、けいはんな万博のPRにも一役買いました。


狂言師・茂山逸平氏の指導で狂言を稽古する小学生


伝統芸能「狂言」

けいはんなプラザ・プチコンサート『けいはんな万博記念音楽会』

2025年6月1日

事業名	けいはんなプラザ・プチコンサート『けいはんな万博記念音楽会』
部会名	サイエンス&アート部会
実施の形態	主催：けいはんなプラザ・プチコンサート実行委員会 共催：けいはんな万博2025運営協議会
参画機関	けいはんなプラザ・プチコンサート実行委員会
実施期間	2025年6月1日
実施場所	けいはんなプラザ
事業の趣旨	けいはんな万博2025を記念して『けいはんなプラザ・プチコンサート』に出演してきたプロの音楽家と、地域の小・中・高校生で構成されるオーケストラによるコンサートを開催し、幅広い世代の方々に気軽に音楽を楽しむ機会を提供するとともに、次世代の音楽活動を支援する。
事業内容	■プログラム ・第一部　プロの音楽家たちのステージ ＜演奏曲＞　鷗／「流転の王妃・最後の皇弟」よりメインテーマ／いのちの歌／ユー・レイズ・ミー・アップ／オペラ「フィガロの結婚」よりフィガロのアリア〝眼を見開いて／死の舞踏／オペラ「カルメン」よりエスカミーリオ〝闘牛士の歌〟 ・第二部　プロの音楽家たちとけいはんなユースウインドオーケストラ※とのステージ ※【部活動の地域展開】の取り組みの一環として、令和5年度に設立された吹奏楽団 ＜演奏曲＞　すてきな日々（ポップスマーチ）／「千と千尋の神隠し」よりスピリティッド・アウェイ／宝島／「もう一つの京都」より第一・第三楽章／翼をください ■出演 井原秀人（バリトン）／塚田尚吾（ピアノ）／水野真梨子（ヴァイオリン）／西川彩乃（チェロ）／松尾徳子（ハープ）／けいはんなユースウインドオーケストラ
参加者数等	485名



地域の小・中・高校生で構成されるオーケストラによるコンサート

けいはんなプラザのアトリウムロビーで第２、第４水曜日に毎月行っている「けいはんなプラザ・プチコンサート」に出演してきたプロの音楽家と、地域の小学生から高校生までで構成する「けいはんなユースウインドオーケストラ」が出演し、けいはんなプラザのメインホールで６月１日におこなわれました。

第１部はプロの音楽家たちが出演し、井原秀人さん（バリトン）、塚田尚吾さん（ピアノ）、水野真梨子さん（ヴァイオリン）、西川彩乃さん（チェロ）、松尾徳子さん（ハープ）が、オペラ「フィガロの結婚」や「カルメン」からの、よく知られた曲や「いのちの歌」など、計７曲を披露。

第２部はけいはんなユースウインドオーケストラと一緒に、「すてきな日々（ポップスマーチ）」や「翼をください」など５曲を披露しました。

コンサートには485人が来場し、大人から子どもまで、なじみ深い楽曲を聴いたり一緒に合唱したりして楽しみました。共演を通じて、次世代を担う生徒たちの音楽活動に対する意欲が一層高まった様子がうかがえました。



プロの音楽家との共演

万博記念コンサート
～1970年から2025年の名曲たち～

2025年6月21日



けいはんな万博2025にさまざまな協力を続けてきた高の原音楽芸術協会と、京都府立南陽高校吹奏楽部がコラボしたコンサートを６月21日、けいはんプラザ・メインホールでおこないました。

高の原音楽芸術協会は「近場で気軽に音楽を！」をモットーにしたプロの演奏家団体で、演奏会員数は50人を超え、昨年、結成10周年を迎えました。南陽高校吹奏楽部は全国大会出場経験がある実力団体で、附属中学校の吹奏楽団員も加え、学校行事や地域イベントにも積極的に参加しています。

当日は、けいはんな万博2025テーマソング「天使のうた～けいはんなDream」をけいはんな親子コーラスが歌い上げるオープニングで幕をあけ、「プロの生演奏を聴こう！」「全国大会出場校の吹奏楽を体験しよう！」の２部構成で、1970年の大阪万博から、2025年大阪関西万博までの名曲の数々を演奏し、観客を魅了しました。プロの演奏家（ピアノ、弦楽器など計８人）がディズニーの名曲や、ピアノ連弾、ソプラノ独唱などを、南陽高校吹奏楽部が「世界の国からこんにちは」「となりのトトロ」などを演奏しました。

さらに合同演奏では、プロとともにけいはんな万博2025公式テーマ曲「飛天の奏～けいはんなSTORY」を吹奏楽版初演で演奏し、会場から盛んな拍手を受けました。

木津川アート2025

9月27日～10月13日

事業名	木津川アート2025
部会名	サイエンス&アート部会
実施の形態	主催：木津川アートプロジェクト 共催：木津川市、けいはんな万博2025運営委員会、けいはんな記念公園
実施期間	9月27日～10月13日
実施場所	木津川市役所周辺、けいはんな精華・西木津エリア
事業の趣旨	木津川の流れと共に育まれてきた、「人・もの・文化・歴史・交流」を礎に、学研都市の特徴である最先端の「サイエンス」「テクノロジー」「教育」をアートでつなぐことを目指す。
事業内容	15人のアーティストによる16か所の展示を行った。（木津川市役所周辺で8展示、けいはんな精華・西木津エリアで8展示） 展示作品については、木津川市内の子どもとのワークショップで作成したもの、木津川市の地場産業である京ふすま織物や柿渋を用いた作品、研究機関である国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構関西光量子科学研究所の知見や協力をいただいた作品などを展示。
参加者数等	来場者　25,000人（木津川市役所周辺約11,000人、けいはんな精華・西木津エリア約14,000人※イベント含む）



けいはんなプラザ（アトリウム）で木津川アート展示

木津川アートは、従来、木津川市で開かれてきた行事ですが、今回は、けいはんな万博を記念して、展示会場を木津川市役所周辺と、けいはんな精華・西木津地区の２エリアに広げて９月27日～10月13日に実施しました。

15人のアーティストによる「とびら」をテーマとした作品が両エリアに８点ずつ展示されました。木津川市内の子どもたちとのワークショップで作成した作品や、地場産業の京ふすまや柿渋を用いたもの、先端研究機関の国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構関西光量子科学研究所の知見や協力を得たものなど、多彩な作品が展示されました。展示場所も、木津川市内をはじめ、けいはんな記念公園やけいはんなプラザのアトリウムなど多彩で、作品と風景や建物が呼応して、新鮮な印象を与えました。

両エリアをつなぐシャトルバスも運行され、来場者は２万５千人を数えました。来場者からは、古民家や水景園など、展示場所の特性も楽しめた、との声がありました。

展示期間の延長や、恒久展示が決まる作品も出ました。文化や歴史、サイエンスや教育をアートでつなぐ、良い交流の機会となりました。



けいはんな記念公園で木津川アート展示

回遊型コンテンポラリーダンス公演「Peeping Garden 今日の穴」

2025年10月4日　（連携ワークショップ　10月2日）

事業名	回遊型コンテンポラリーダンス公演『Peeping Garden 今日の穴』/（連携ワークショップ「空間が思考を揺さぶるとき～研究と身体表現の交差点」）
部会名	サイエンス&アート部会
実施の形態	主催：株式会社けいはんな 共催：一般財団法人地域創造 協力：けいはんな万博2025運営協議会
参画機関	株式会社けいはんな
実施期間	2025年10月4日　（連携ワークショップ　10月2日）
実施場所	けいはんなプラザ
事業の趣旨	身体表現の魅力を広く発信し、 けいはんな万博2025を彩るとともに、 当地を訪れる人々との交流の機会を創出する。 連携ワークショップについては、 研究者も参加しやすいテーマを設定して実施し、 身体表現の魅力を直接体感してもらうことを目的とする。 あわせて、 地域とダンスとの新たなつながりの醸成を図る。
事業内容	出演：浅井信好　髙瑞貴　山中透 Peeping Garden は、 お客様が自由に移動しながら、 さまざまな角度から鑑賞できる「回遊型」の公演である。 窓を設けたブースを30ブース設置するとともに、 円形の一部を開口し、客席近くまで張り出した舞台を設けた。 これにより、 客席から鑑賞する、 ブースからのぞき込む、 張り出した舞台の近くで鑑賞するなど、 鑑賞位置や鑑賞時間によって感じ方が変化する作品となっている。 「見る」と「見られる」という関係が双方向に作用し、 ダンサーの動きに呼応して、 お客様自身が移動する場面も見られた。 終演後にはアフタートークを実施し、 3名の出演者から作品に対する思いを伺うとともに、 会場からの質疑応答を行った。 また、 10月2日には連携企画としてワークショップを実施し、 10代から60代までの幅広い年代の参加があった。
参加者数等	93名　（内　ワークショップ参加　16名）

本公演は、小さな覗き穴が設けられた円形型の劇場（Peeping Garden）の周りを、観客が動きながら鑑賞する「回遊型」のパフォーマンス・アートです。

演出・出演は元山海塾の舞踏手・浅井信好さん。ダンサー・高瑞貴さん、音楽・山中透さんが出演する関西初演の公演が、10月４日、けいはんなプラザ・メインホールでおこなわれました。

パンデミックを契機に生まれた円形劇場は、観客の視線が舞台の一部となり、視ることそのものがパフォーマンスに変わる異色な体験空間です。当日は観客も自由に動き回りながら、互いの存在を感じつつ、静かに触れあいました。

本公演に先立ち、10月２日には浅井信好さんを講師に公演連携ワークショップ「空間が思考を揺さぶるとき－研究と身体表現の交差点－」もおこなわれ、重力や質感、空間との関係性を通じて、自分自身の思考や身体感覚を探る実験的ワークシップとなりました。



回遊型コンテンポラリーダンス公演

観月の夕べ～お月見の夜、30周年の感謝を込めて～

2025年10月14日

事業名	観月の夕べ～お月見の夜、30周年の感謝を込めて～
部会名	サイエンス&アート部会
実施の形態	主催：観月の夕べ実行委員会・けいはんな記念公園 共催：けいはんな万博2025運営協議会
参画機関	SOUND CREW keihanna・科学普及支援団体てんもんぶ・東洋音響株式会社・CHIKAKEN・GROOVE CONNECT・京都府広報課
実施期間	2025年10月4日
実施場所	けいはんな記念公園
事業の趣旨	けいはんな記念公園の特色である里をイメージした風景の中で日本の伝統行事として続いてきた「お月見文化」を来園者に楽しんでもらい文化に満ちた街づくりに寄与することを目的とする。
事業の内容	・月の音楽会：水上舞台で演奏するコンサート ・お月見どろぼう：お菓子がもらえる地域の伝統文化 ・ドローンショー：お月見をテーマにした演出 ・竹あかり：竹とライトを使った空間演出 ・まゆまろフォトセッション：京都府のキャラクターと記念撮影 ・月のアート展：月をテーマにした公募展 ・月夜の天体観測：天文ガイドの解説付きの観望会 ・ドラムサークル：自由にドラムを叩くレクリエーション ・月の夜店：飲食や地域団体の出店
参加者数等	5808人

けいはんな記念公園は、季節のうつろいが感じられる地域の憩いの場となるだけでなく、学研都市が掲げる「文化」の貢献に欠かせない中核施設の一つです。

「観月の夕べ」は例年、中秋の名月の日などに開催する、けいはんな記念公園の恒例行事です。今年は10月４日の夜におこないました。

特に今年は、記念公園の開園30周年にあたり、けいはんな万博の開催期間中でもあることから、例年にないドローンショーなども盛り込まれました。無料開放された園内の水景園や芝生広場には、多くの来場者でにぎわいました。

残念ながらお天気がいま一つで雲が多く、天体観測会は中止となりましたが、音楽ユニット「天地雅楽」による「月の音楽会」や、園内でスタンプラリーをしてお月見団子などがあたる「お月見どろぼう」、月をテーマにしたアートの公募展「月のアート展」など、楽しい催しが続きました。多くの食べ物がそろった「月の夜店」も賑わいました。

初登場のドローンショーは、水景園の上空を15分にわたって赤や青に光るドローンの群れが彩り、美しく幻想的な雰囲気が観客を魅了しました。



ドローンショーでは「みらるる」も出現



月の音楽会

大阪交響楽団「けいはんな未来への扉」

2025年10月5日

事業名	大阪交響楽団　けいはんな未来への扉
部会名	サイエンス&アート部会
実施の形態	主催：株式会社けいはんな 協力：けいはんな万博2025運営協議会
参画機関	株式会社けいはんな
実施期間	2025年10月5日
実施場所	けいはんなプラザ
事業の趣旨	「けいはんな万博2025」のフィナーレを彩る、未来に向けた華やかな音楽のメッセージを地域に届けることを目的とする。「すべての人にオーケストラの楽しさを!」をコンセプトに、初めて劇場を訪れる子どもたちからクラシック愛好家まで、世代を超えて楽しめる楽曲構成で展開する。公演中に演奏者と観客との交流を深めることで、音楽芸術への興味・関心の醸成を図る。
事業内容	出演：大阪交響楽団　指揮：田中祐子 本公演は、以下の3つのテーマで開催した。 ① それぞれの時代の未来予想図 ポップスや映画音楽など、「未来」をテーマとした親しみやすい楽曲を中心に演奏した。 ② 未来へ向かって ～お祝いの音楽～ けいはんな万博のフィナーレにふさわしい、明るく華やかな楽曲を中心に構成した。また、けいはんな万博テーマ曲「飛天の奏～けいはんなSTORY～」をフルオーケストラ版に編曲し、華やかで迫力ある演奏を届けた。 ③ 演奏者とのコミュニケーション 来場者から事前に募集した質問に対し、指揮者が回答するコーナーを設け、演奏者と観客との交流を図った。
参加者数等	312名

10月５日に、けいはんなプラザ・メインホールで開催しました。『未来』と『祝祭』をテーマとしたコンサートで、19世紀に活躍したドヴォルザークから現代まで、それぞれの時代が思い描いた未来をテーマに、フルオーケストラが記憶に残る旋律を奏でました。

指揮に田中祐子さんを迎えドヴォルザーク「新世界より」第４楽章、ジョン・ウリイリアムス：E.Tより地上の冒険、伊福部昭「SF交響ファンタジー」第１番、横山智昭「飛天の奏～けいはんなSTORY～」、吉田美和「未来予想図Ⅱ」など、多彩な楽曲を演奏しました。

フルオーケストラにアレンジされ演奏された「飛天の奏～けいはんなSTORY～」は、来場者も印象深そうに聴き入っていました。演奏の合間には解説や曲紹介のほか来場者からの質問に指揮者が回答するコーナーも設けられました。音楽に対する姿勢や思いが伝えられ、演奏者や音楽の魅力に触れる機会となりました。



「未来」と「祝祭」をテーマとしたフルオーケストラコンサート

第３章

持続的イノベーションの仕組み

けいはんな万博では、単発的な成果にとどまらず、持続的にイノベーションを生み出す仕組みの構築が重視されました。その中核となるのが、「共創・実証・事業化」を一体化した循環構造です。この仕組みにより、多様な主体が参加する共創の場から実証環境を経て事業化へと接続される一連のプロセスが形成され、継続的な価値創出が可能となりました。

まず、共創のフェーズでは、近未来創造ワークショップや未来創造セッションなどを通じて、研究者、企業、自治体、地域住民が一体となり、課題設定と議論が行われました。これにより、多様な視点やニーズが統合され、単一の分野では捉えきれない社会課題に対する包括的なアプローチが導出されました。この段階では、技術主導ではなく、社会課題起点の発想が重視されています。

次に、実証・事業化のフェーズでは、オープンラボやテックツアーなどを通じて、共創で導出されたアイデアや技術が実環境に近い条件下で検証されました。このプロセスにより、技術的な有効性に加え、社会受容性や運用上の課題が具体的に明らかにされました。特に、ユーザー体験や現場での適用可能性が重視され、実装を見据えた検証が行われた点に特徴があります。

また、「けいはんなグローバルスタートアップPoC（概念実証）チャレンジ」の展開により、国内外のスタートアップが学研都市の多様なフィールドで社会課題解決に向けた実証に取り組む基盤が構築されました。本事業では、単なる技術検証にとどまらず、けいはんな立地機関のコーディネーターによる伴走のもと、住民参加型実証等を通じて技術の社会受容性を丁寧に探るプロセスが重視されました。スタートアップフェスや万博での発信は、大企業との協業ニーズを募るリバースピッチ等を含め、多様な主体が交差する「共創の場」として機能しました。これらの実践は、地域社会と先端技術が深く結びつく「PoC（概念実証）フレンドリー」な土壌を可視化し、けいはんな万博以降に向けた持続的なイノベーション創出のモデルを提示しました。

さらに、けいはんなR&Dフェアのように次世代の人材が最新技術に触れ、科学技術への関心と参加意欲を高める取り組みは、この循環に新たな担い手を加え、議論と人材基盤の将来的な拡充にも寄与します。これにより、イノベーションを担う人材が継続的に育成されるとともに、知識や技術が分野横断的に循環する構造が形成されました。

以上のように、本万博におけるイノベーションは、単発的な成果に依存するものではなく、人材と知の循環によって継続的に創出される仕組みとして成立しています。この点において、本万博は単なる実証の場にとどまらず、イノベーションの制度設計そのものを提示した取り組みであると位置づけることができます。

異分野交流セミナー
近未来創造ワークショップ 5回シリーズ
～2025大阪・関西万博を目指した事業プロジェクトを創出しよう!～

2019年11月13日～2019年12月20日

共　催：けいはんなリサーチコンプレックス
　　けいはんなで大阪・関西万博を考える会
後　援：(公社) 2025年日本国際博覧会協会
事務局：(株) 国際電気通信基礎技術研究所 (ATR)

「けいはんなリサーチコンプレックス事業」と「けいはんなで大阪・関西万博を考える会」が協働し、けいはんなの研究所・企業を会場として「大阪・関西万博を目指した事業プロジェクト」を立案するワークショップを５回シリーズで開催しました。

第１回　個人の在り方の探究と参加者間の相互理解

日時：2019年11月13日（水）19:00-21:30
会場：（株）国際電気通信基礎技術研究所（ATR）
【第１部】話題提供：けいはんなで大阪・関西万博を考える会
【第２部】個人の在り方の探究と参加者間の相互理解

第２回　けいはんなの理念と“いのち輝く”

日時：2019年11月22日（金）19:00-21:30
会場：（公財）国際高等研究所（IIAS）
【第１部】話題提供：けいはんな学研都市の理念
【第２部】私の「いのち輝く」をプロタイピング

第３回　“いのち輝く”けいはんなを発明

日時：2019年11月28日（木）19:00-21:30
会場：オムロン（株）京阪奈イノベーションセンタ
【第１部】話題提供：2025年日本国際博覧会について
【第２部】グループワーク「いのち輝く」を表現

第４回　“いのち輝く”けいはんなの実現案

日時：2019年12月13日（金）19:00-21:30
会場：オムロン（株）京阪奈イノベーションセンタ
【第１部】話題提供：「人と機械の融和に向けて」
【第２部】グループワーク「いのち輝く」プラン検討

第５回　“いのち輝く”けいはんなプランを発表

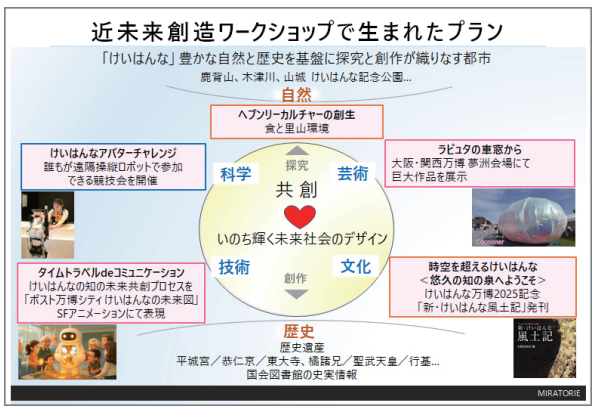
日時：2019年12月20日（金）
会場：京セラ（株）けいはんなリサーチセンター
【第１部】グループワーク
【第２部】各グループの発表と講評
　　講評：(公社) 2025年日本国際博覧会協会

５回シリーズの成果として集約されたプランは、「けいはんな万博2025」におけるロボット・アバター・ICT部会およびサイエンス＆アート部会の基盤となり、本ワークショップはコモンズを形成する「未来創造セッション2024, 2025」へと発展していきました。





個人として延べ155名（実人数54名）が参加し、
立場や所属の枠を超えて活発な議論が展開されました。



多様な市民プランが、万博の取り組みとして結実しました







近未来創造ワークショップ
1分動画をご視聴いただけます。

2025 大阪・関西万博に向けて、「けいはんな学研都市」での機運醸成のための

けいはんな万博セミナー

けいはんな万博セミナーは、2025年大阪・関西万博に向けて、けいはんな学研都市としてどのように関わり、地域として何を発信していくのかを検討することを目的に、2022年５月より(株)けいはんなが主催し、けいはんなプラザを会場として開催されました。セミナーでは、万博への参加意識を地域全体で高めることを重視し、産学公民が一堂に会して、文化・技術・社会課題など多角的なテーマについて議論を行い、以下の役割を担いました。

◇ 大阪・関西万博の開催意義・内容等の情報共有
◇ けいはんな万博に向けた地域の機運醸成
◇「けいはんな」ならではの構想づくり
◇ 産学公民の交流によるネットワーク構築

本取り組みは、2024～2025年に実施された「未来創造セッション」へと発展し、けいはんな万博2025に向けた活動の基盤形成に寄与しました。

第１回　2022年５月27日（金）15:00-17:00

2025大阪・関西万博と「けいはんな学研都市」の取り組み

基調報告　「万博活用と未来ビジネス」
近畿経産局NEXT関西企画室　石原室長補佐
基調報告　「けいはんなアバターチャレンジ」
基調報告　「アバターの操縦体験デモ」



第２回　2022年８月８日（月）15:00-17:00

世界の社会課題と日本の可能性
～平和・地球環境・少子高齢化～

基調講演　「日本社会の成り立ちとその長所・短所」
～岡倉天心『茶の本(The Book of Tea)』に触れながら～
奈良女子大学　小路田特任教授
自由討議　「自分が考える社会課題と自分たちにできること」

第３回　2022年12月８日（木）18:00-20:00

市民プランの成り立ちと今

基調報告　「けいはんなアバターチャレンジ」
NPOけいはんなアバターチャレンジ
浅見理事長
基調報告　「時空超えるけいはんな」
基調報告　「ラピュタ車窓から」巨大バルーン
基調報告　「ヘブンリーカルチャーの創生 里山と食」
ワールドカフェ「市民プランに期待すること」

第４回　2023年４月10日（月）15:00-17:00

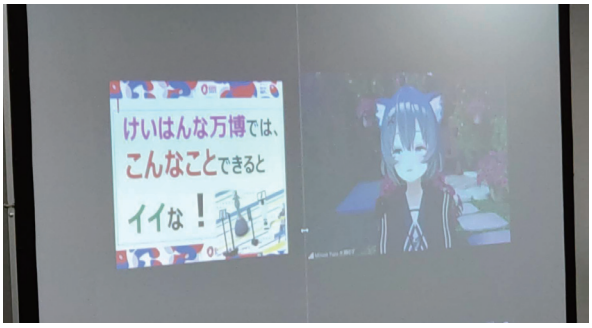
「お茶」をテーマとした「けいはんな万博」
～アイデア出しと実現のための課題～

基調講演　「2025大阪・関西万博に向けて
日本史を考える『けいはんな』茶の道から」
奈良女子大学　小路田特任教授

第５回　2023年６月16日（金）18:30-20:30

未来を切り拓く挑戦者たちVR, メタバース, アバターロボットで共創するみんなが参加できる社会

講演　「XR技術を用いた人間の解放」



奈良先端科学技術大学院大学　清川教授

講演　「メタバースで過ごす4,000時間から見る未来社会」

（一社）プレプラ　水瀬代表理事

Q&Aトークセッション、体験デモ＆交流会

第6回　2023年9月8日（金）15:00-18:30

地域の歴史「武埴安彦の乱」「いごもり祭」を学ぶ

基調講演　「いごもり祭～卑弥呼の甥っ子の謀反を、別の甥っ子が討伐してタタられた件～」

テルモピレー（株）　鬼塚代表取締役

パネルディスカッション、交流会

第7回　2023年12月14日（木）16:00-19:00

「食」×「先進テクノロジー」である「フードテック」

講演　「けいはんな万博への取組み」

講演　「～Foodtech for Well-being～

（公財）関西文化学術研究都市推進機構

小田特命参与

パネルディスカッション

奈良先端科学技術大学院大学 渡辺准教授

他

交流会



第8回　2024年3月10日（日）14:00-16:30

オープンデータを活用したWell beingなまちづくり

講演　「オープンデータ、オープンデータデイ」の紹介

CODE for IKOMA　佐藤代表

講演　「「けいはんな」での活用構想」

講演　「オープンデータの活用事例」

講演　「オープンデータ化アプリ「レポっと」の紹介」

奈良先端科学技術大学院大学　松田助教

交流会

第9回　2024年6月6日（木）15:00-18:30

けいはんな万博2025運営協議会 各部会の取り組み

説明「けいはんな万博2025の進捗現状と今後のスケジュール」

報告　「各部会からの提案内容」

運営協議会事務局、各部会代表

説明　「(さらなる)参画プロジェクト募集」

意見交換、交流会



けいはんな万博セミナー
未来創造セッション2024 ❶❷❸❹

2024年10月25日～2025年3月7日

2025年４月開幕の「けいはんな万博2025」に先立ち、運営協議会主催、ミラトリエおよび(株)けいはんなの企画・運営により、未来創造セッションを開催しました。本セッションでは、分野・世代を超えた多様な参加者が集い、【第１部】では「けいはんなで活躍した先人の知」に学び、【第２部】では「けいはんな万博2025」４つのフェスティバル「ロボット・アバター・ICT」「ウェルビーイング」「スタートアップ」「サイエンス&アート」と連動したトークセッションを通じて、「未来社会への貢献～次世代への解～」を考え、多様な知を共有し合うコモンズの形成を目指しました。

セッション❶ ロボット・アバター・ICT

日時：2024年10月25日（金）15:00～19:00
会場：けいはんなプラザ ラボ棟11階 天の川＋
【第1部】けいはんな風土記
～ 先人の知に学ぶ ～
【第2部】トークセッション
【第3部】交流会

セッション❶の基調講演では、けいはんな地域の歴史や白山信仰を手がかりに、土地の役割を再考する視点が示されました。トークセッションでは、祭りによるコミュニティ形成、アバターによるコミュニケーション拡張、メタバース文化の可能性などが語られ、テクノロジーが人々のつながりや地域社会を豊かにする未来像が提示されました。参加者との対話も活発で、けいはんなが次世代へ継承すべき価値や万博との連動の在り方について多角的に議論が深まりました。

セッション❷ ウェルビーイング

日時：2024年12月20日（金）15:00～19:00
会場：けいはんなプラザ ラボ棟11階 天の川＋
【第1部】けいはんな風土記
～先人の知に学ぶ❷行基から一休へ～
【第2部】トークセッション 「ウェルビーイング」
【第3部】交流会 語り合おう!ポスト万博シティ
～けいはんな万博2025で遺す未来の姿～

セッション❷の基調講演では、聖徳太子の「和」や悟りの共有など、社会と個人の関係性からウェルビーイングを読み解きました。第２部では、IT・医療・茶文化・アートの専門家が登壇し、難病児支援のデータ活用、VRリハビリシステムの開発、茶とアートによる心の豊かさなど、多様な視点からウェルビーイングを議論しました。参加者との対話も活発に行われ、けいはんなが目指す未来の姿として、多様な人が交流し、自分らしく生きられる地域づくりの重要性が共有されました。



セッション❶ ロボット・アバター・ICT



セッション❷ ウェルビーイング

セッション❸ スタートアップ

日時：2025年1月31日（金）15:00～19:00
会場：けいはんなプラザ 交流棟5階 黄河
【第1部】けいはんな風土記
～先人の知に学ぶ ❸　平和の枠組み～
【第2部】トークセッション　「スタートアップ」
グローバルスタートアップPoCチャレンジのご紹介
◆スタートアップPoC ①
「VR技術で地域課題を体感し、住民と共に考える」
◆スタートアップPoC ②
「CO2とグリーン水素からの液体燃料転換とその
燃料電池利用実証」
◆スタートアップPoC ③
「プライバシー保護型スマートアクティビティセンサーを用いた自動フレイル評価」
◆スタートアップPoC ④
「最新測定技術で健康状態を見る：ジムで利用できる革新的測定技術三選」
【第3部】交流会

セッション❹ サイエンス&アート

日時：2025年3月7日（金）15:00～19:00
会場：けいはんなプラザ ラボ棟11階 天の川＋
【第1部】けいはんな風土記
～先人の知に学ぶ ❹ 世界平和と茶～
【第2部】　トークセッション「サイエンス&アート」
「科学と文化が織りなす世界 ～見どころの紹介～」
◆けいはんなR&Dフェア2025
◆木津川アート2025
◆アルス・エレクトロニカとの連携
◆けいはんな大学の構想
◆地域文化の活性化をコーディネート

＜中間整理＞
「明日のけいはんなの戦略」　会場ディスカッション
「共に考え、学び、創り上げる
地域社会へのアプローチ」
【第3部】交流会

セッションの基調講演では、京都遷都や交通網の発展を軸に、けいはんな地域が自治の起点として果たしてきた歴史的役割を解説しました。第２部では、スタートアップ部会より地域特性を生かしたPoCの取り組みが紹介され、VRによる地域課題の可視化、水素エネルギー技術、フレイル予防のためのAIセンサー、健康測定技術など多様な実証が報告されました。けいはんなが住民参加型の実証に適した都市であり、社会実装を生み出す場としての可能性が強調されました。

セッションの基調講演では、日本文化が多様な文明の受容と平和の積み重ねによって形成されてきたことを示し、万博を通じてその価値を世界へ発信すべきと説かれました。第２部では万博後のレガシー創出や共創都市としての未来像が議論され「自己効力感を持つ市民が育む冒険的な社会」を目指す姿勢が示されました。


セッション❹ サイエンス＆アート


セッション❸ スタートアップ



未来創造セッション2025も開催いたします。

けいはんな万博セミナー
未来創造セッション2025 ❶❷❸

2025年6月28日～8月31日

けいはんな未来創造セッションは、産・学・官・住が連携し、未来社会を共に考え、創り、育てる「共創の場」として、2019年のけいはんなリサーチコンプレックス「異分野交流セミナー 近未来創造ワークショップ」を起点に継続してきた取り組みです。2024年度は、けいはんな万博の先にどのような未来を描き、どのように形づくっていくのかを探ることを目的に、３回のセッションを開催しました。さらに2025年度には、万博後の「ポスト万博シティ」の存り方、ひいては「けいはんな学研都市」の未来について行政・研究機関・学生など地域の多様な主体とディスカッションしました。

❶ 文化編「文化と未来」

日時：2025年6月28日（土）15:00～19:00
会場：けいはんなプラザ 交流棟5階 黄河
【第1部】基調講演
「新・けいはんな風土記」発刊記念

◆問題提起　「お茶と平和」
◆パネルディスカッション
　「京阪奈地区の歴史・文化・自然」

【第2部】交流会

❶ 文化編「文化と未来」では、地域に根づく文化の成り立ちと、けいはんなが未来に果たすべき役割について、多角的な視点から議論が行われました。まず、「新・けいはんな風土記」刊行を記念し、著者の小路田泰直氏が登壇。1485年の山城国一揆に象徴される住民自治の歴史や、そこから育まれた茶の湯・能など“対話の文化”を紹介し、お茶を共生の象徴とする文化的価値を日本から世界へ発信する意義を強調しました。続いて、一休寺住職・田邊宗一氏が、一休禅師と茶の湯・能との深い関わりを紹介。さらに、和束町の馬場正実町長と福寿園の緒方恵介氏が、お茶文化と品質を支える持続的な産業の重要性、地域の文化遺産と茶文化を活かした観光資源としての可能性について語りました。質疑応答では、地域の歴史と文化を未来へどう継承し、けいはんなが文化創造の拠点として貢献できるかを意見交換しました。

❷ 技術編「技術と人材育成」

日時：2025年7月27日（日）15:00～19:00
会場：けいはんなプラザ 交流棟5階 黄河
挨拶：「誰もが技術を使いこなすお祭り
けいはんなアバターチャレンジ」
【第1部】基調講演
Ⅰ「ヒトとロボットが共生する明るい未来」
Ⅱ「挑戦する学生へ：壁を超えて育つ“本当の力”」
◆トークセッション
　① アバターチャレンジ2025を経験して
　② こんなアバターロボット あったらいいな
◆総括「けいはんな未来」懇談会から10年を経て
　～技術と人材育成の観点から　～」
【第2部】交流会

❷ 技術編「技術と人材育成」では、アバターチャレンジ2025を中心に、技術と人材育成、地域の未来について議論が行われました。浅見徹氏は、学研都市の高齢化やベッドタウン化の課題を挙げつつ、誰もが役割を持って参加できる「祭り」としてアバターチャレンジを位置づけ、学生の活躍や遠隔ロボットの公道走行実現を成果として紹介しました。学生のトークセッションでは、通信トラブル対応や創意工夫、操作性改善など実践的な学びが語られ、次回に向けた新たな提案も生まれました。基調講演では、飯尾尊優氏がロボット共生社会には心理・文化を含む多角的視点が必要と述べ、鄭聖熹氏は挑戦を通じた学生の成長と「他人がやらないことに挑む価値」

を強調しました。総括で山下晃正氏は、学研都市構想は50年規模で育てる長期プロジェクトであり、アバターチャレンジも理念を掲げ継続することで地域文化として根付くと述べ、健康長寿や社会的役割の重要性にも触れました。

❸ 地域編「明日のけいはんなを考える」
日時：2025年8月31日（日）15:00～19:00
会場：けいはんなプラザ 交流棟5階 黄河
挨拶：「共に創るけいはんな万博の未来」
【第1部】基調講演
Ⅰ「AIと人間・地域社会の共生」
Ⅱ「地域の中核として未来を共創する大学へ」
◆トークセッション
　明日のけいはんなを考える
　～万博後、遺すべきものは何か？～
◆総括「けいはんなの次なるステージへ
　～ポスト万博で築く未来社会～」
【第2部】交流会

❸ 地域編「明日のけいはんなを考える」では、万博閉会式で発表予定の「けいはんな宣言」につなげる議論が行われました。桃井氏はアバターチャレンジの継続と、技術が人の感情を動かす価値を紹介。松本紹圭氏は「AIと人間の共生」をテーマに、気候危機やAI時代の長期思考、地域に根ざした文化の重要性を語りました。続く塩﨑NAIST学長は、異分野連携と共創による研究大学の役割、国際人材育成や研究自律化の取り組みを説明。トークセッションでは、万博後の「けいはんな大学」構想やAIとの共生、日本型の文化的視点が議論されました。最後に、けいはんなをウェルビーイングのモデル都市として発展させる展望が共有されました。



けいはんな学研都市の30年後に向けて
（公財）国際高等研究所
「けいはんな未来」懇談会



❶ 文化編「文化と未来」



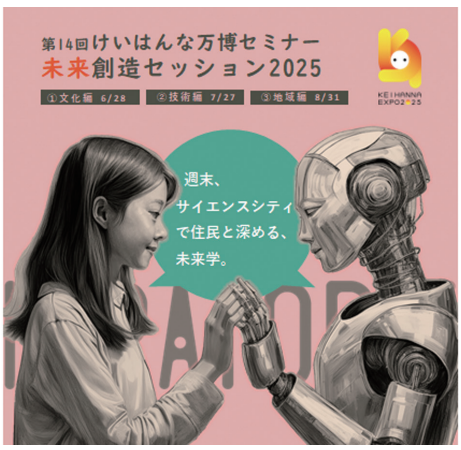

❷ 技術編「技術と人材育成」




❸ 地域編
「明日のけいはんなを考える」



３回のセッションを通じて、けいはんなが未来に向けて育むべき文化・技術・地域の姿が立体的に示されました。世代や立場を超えた多様な参加者とのトークセッションが、多様な視点を交わらせることで課題の本質を浮かび上がらせ、地域の未来像を共に描く力を一層高めました。万博後の宣言を出発点として、夢や希望に満ちた未来への高揚感を感じられる都市を目指し、共に考え、学び、創り上げていく共創の場を今後も育んでまいります。



この語らいを次の30年を創る一歩に。

けいはんな万博2025 プレイベント
オープンラボ・テックツアー

2023年10月5日～7日、2024年8月1日･2日･8日･9日、11月18日～20日

けいはんなオープンラボ・テックツアー プレイベント

けいはんな万博2025開催に向けた機運醸成のため、けいはんな学研都市内の立地機関等が連携し、2023年はけいはんなオータムフェアのコアイベントとして「けいはんなオープンラボ2023」が、2024年は、夏と秋の２回、「オープンラボ・テックツアー2024」が開催されました。

けいはんなオープンラボ2023

（2023年10月５日（木）～７日（土））

「けいはんなオープンラボ2023」では、「東レ建設（株）トレファーム・ラボ」、「サンシード（株）」、「日本ニューロン（株）けいはんなサウスラボ管路防災研究所」、「積水ハウス（株）納得工房」の４社が参画し、90名の方が参加しました。



（株）日本ニューロン　けいはんなサウスラボ



サンシード（株）



積水ハウス（株）　納得工房

オープンラボ・テックツアー2024 Summer

（2024年８月１日（木）、２日（金）、８日（木）、９日（金））

2024年８月の「けいはんなオープンラボ・テックツアー2024 Summer」は、夏休み期間中ということで、日数を４日に、対象も小学生～大学生に、参画機関も、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構の「関西光量子科学研究所」や「きっづ光科学館ふぉとん」、「共栄製茶（株）京都テクノセンター」、「日本機材（株）NKソリューションセンター」、「新日本理化（株）京都R&Dセンター」、「東レ建設（株）トレファーム・ラボ」、「グリンティ和束」の７機関に拡大して開催、延べ250名の親子が参加しました。



きっづ光科学館ふぉとん


東レ建設（株）トレファーム・ラボ

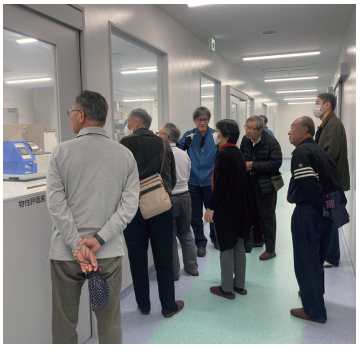

日本機材（株）NKソリューションセンター


グリンティ和束

オープンラボ・テックツアー2024 Autumn

（2024年11月18日（木）、19日（金））

また、11月の「けいはんなオープンラボ・テックツアー2024 Autumn」は、平日２日間、一般・ビジネス向けに、「関西光量子科学研究所」、「共栄製茶（株）京都テクノセンター」、「日本機材（株）NKソリューションセンター（現ACS（株）ACSソリューションセンター）」、「新日本理化（株）京都R&Dセンター」、「東レ建設（株）トレファーム・ラボ」、「グリンティ和束」、「福寿園CHA遊学パーク」の７機関で開催、延べ74名の方が参加されました。


新日本理化（株）京都R&Dセンター


福寿園CHA遊学パーク

秋の領事館ツアー

（2024年11月20日（水））

大阪・関西万博2025の開催に合わせて来日する海外からの誘客を目指し、けいはんな学研都市らしい魅力を体験、発信して頂くことを目的に、関西在の領事館等に呼びかけ秋の領事館ツアーを企画しました。オーストラリア、カナダ、中国、フランス、インド、オランダ、アメリカ、ベトナムの８ヶ国・12名の方が参加され、ATRと福寿園CHA遊学パークにて、けいはんな学研都市の最先端技術とお茶の文化を体感して頂きました。


秋の領事館ツアー（福寿園CHA遊学パーク）

オープンラボ・テックツアー2025

2025年5月23日･24日、6月13日･14日、7月24日、8月7日･8日、10月2日･3日

事業名	けいはんなオープンラボ・テックツアー2025
部会名	オープンラボ・テックツアー部会
参画機関	11機関／新日本理化株式会社、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構関西光量子科学研究所、東レ建設株式会社、和束町、共栄製茶株式会社、国立研究開発法人理化学研究所、株式会社島津製作所、公益財団法人地球環境産業技術研究機構、オムロン株式会社、ACS株式会社、積水ハウス株式会社
実施期間	【ビジネス・一般向け】5月23日（金）、24日（土）、6月13日（金）、14日（土）、10月2日（木）、3日（金） 【小～大学生向け】8月7日（木）、8日（金）
実施場所	新日本理化株式会社京都R&Dセンター、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構（QST）関西光量子科学研究所、きっづ光科学館ふぁとん、京田辺クロスパーク（東レ建設株式会社）、和束町てらす和豆香、共栄製茶株式会社、国立研究開発法人理化学研究所、株式会社島津製作所基盤技術研究所、公益財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）、オムロン株式会社京阪奈イノベーションセンタ、ACS株式会社ACSソリューションセンター、積水ハウス株式会社総合住宅研究所JUNOPARK
事業の趣旨	・けいはんな学研都市の魅力を広くアピールし、国内外の人々の交流促進やオープンイノベーション拠点の機能強化を図る。 ・小学生～大学生を対象とした科学技術等の体験を通じて、将来の理系人材の育成 ・広域観光ルートの形成、大阪･関西万博との連携推進
事業内容	立地機関が施設を開放し、研究や技術のおもしろさの体験機会を提供 ・新日本理化株式会社京都R&Dセンター：会社概要紹介およびR&Dセンター内の見学 ・国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構（QST）関西光量子科学研究所：講義、施設見学等 ・東レ建設株式会社京田辺クロスパーク：高床式砂栽培「トレファーム」栽培・収穫体験（有料） ・和束町てらす和豆香：和束茶茶摘み・おいしいお茶の淹れ方体験（有料） ・共栄製茶株式会社：抹茶製造工程の見学、石臼挽き体験、抹茶製品試飲 ・国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構（QST）きっづ光科学館ふぁとん：実験ショー、科学館体験、工作教室 ・国立研究開発法人理化学研究所：ガーディアンロボット体験 ・株式会社島津製作所基盤技術研究所（みらい共創ラボ）：会社概要紹介、ひさき型分光器の制作、みらい共創ラボ内見学 ・公益財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）：DAC実験棟および炭素回収技術評価センター見学 ・オムロン株式会社京阪奈イノベーションセンタ：R&D拠点見学、デモ機を使ったコア技術体験 ・ACS株式会社ACSソリューションセンター：ロボットプログラミング体験、施設見学 ・積水ハウス株式会社総合住宅研究所JUNOPARK：コンセプト説明、施設見学
参加者数等	参加267人、23回開催

５月から10月にかけ、けいはんな学研都市や周辺施設で小学生から大人までが最先端の技術を体感できる「オープンラボ・テックツアー」を実施しました。けいはんな学研都市でどのようなことが研究開発されているかを実際に見て、知ってもらうとともに、国内外の人々との交流促進や学研都市のオープンイノベーション機能を強化するのがねらいです。

普段は立ち入ることができない研究施設も公開され、光量子の世界から表情豊かな対話ロボットや最新農法まで幅広く最先端の技術に触れてもらうことで学研都市が持つ機能と魅力をアピールすることができました。

けいはんなオープンラボ・テックツアー

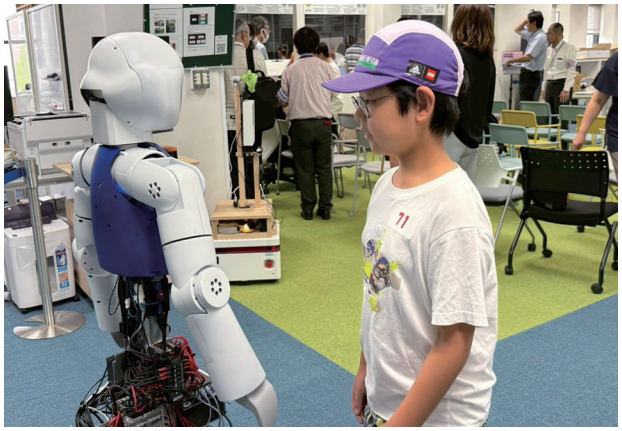
一般・ビジネス向けのほか、８月の夏休み期間は小学生～大学生を対象に、11機関・12施設で開催しました。

５月23・24日は、新日本理化京都R&Dセンターで様々な成形加工装置や物性評価装置と技術交流や一般の実験に活用できる共同実験室などを見学しました。関西光量子科学研究所では、がん治療やトンネル点検、ブラックホール研究などに応用されている「パルスレーザー装置」を見学、参加者は担当者の説明を興味深そうに聞いていました。京田辺クロスパーク（京田辺市）では、立ったまま容易に農作業ができる東レ建設の高床式砂栽培施設「トレファーム」で野菜の植え付けと収穫を体験しました。

６月13・14日は、５月に実施した３施設に加え、お茶の町・和束町のてらす和豆香（わづか）で、美しい茶畑での茶摘みと、インストラクターによるおいしいお茶の淹れ方を教わり、日本茶の味を楽しみました。

８月７・８日のオープンラボ・テックツアーは、夏休み中の子どもが主役。５月実施の３施設を含めた７施設でおこない、150人の親子が参加しました。共栄製茶では、抹茶製造の工程をたどり、検査室で製品検査の様子を見学。石臼体験や抹茶の試飲もしました。きっづ光科学館ふぉとんでは、プラネタリウム観賞や工作にも取り組みました。理化学研究所では、大阪・関西万博会場でも展示されたロボット「Nikola（ニコラ）」「Aetro（エアトロ）」「Indy（インディ）」が登場。人間のように顔の表情豊かにして対話したり、その場の状況を把握して話すことができる自律型ロボットもいて、子どもたちは目を輝かせて会話を楽しんでいました。島津製作所基盤技術研究所（みらい共創ラボ）では、施設見学と惑星観測衛星「ひさき」型の紙製分光器を制作しました。

10月２・３日には32人が参加。公開した７施設のうち、地球環境産業技術研究機構（RITE）では、大気からのCO_2分離回収の試験施設「DAC（Direct Air Capture）実験棟」や、CO_2分離回収素材の評価施設「炭素回収技術評価センター」を見学しました。オムロン京阪奈イノベーションセンタでは、オムロンのコア技術「センシング＆コントロール＋Think」の最新開発内容を体感。ロボットと人が会話しながら、ロボットが人にあわせて返球してくれる卓球ロボット「フォルフェウス」とも実際に体験しました。ACSソリューションセンターでは、協働ロボット操作体験として製造現場で人と一緒に作業ができるロボットのプログラミングを体験。積水ハウスJUNOPARKでは、子どもたちの感性を育む同社の「キッズ・ファースト」の理念と取り組みを体感しました。





関西光量子科学研究所



てらす和豆香



京田辺クロスパーク（東レ建設）



オムロン京阪奈イノベーションセンタ



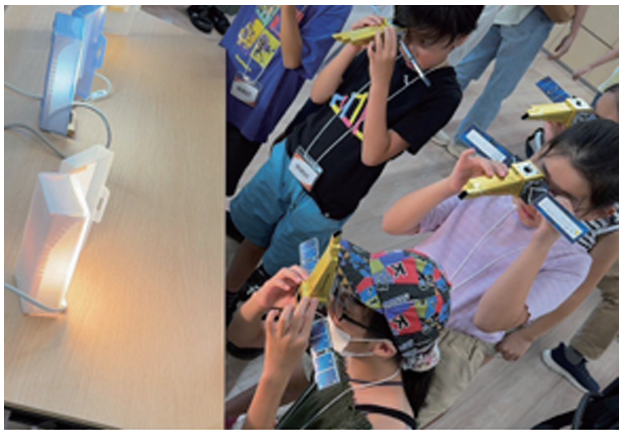
RITE（地球環境産業技術研究機構）



共栄製茶



積水ハウス ＪＵＮＯＰＡＲＫ



島津製作所基盤技術研究所（みらい共創ラボ）

事業名	けいはんな万博2025テックツアー
部会名	オープンラボ・テックツアー
参画機関	9機関／サントリーウエルネス株式会社、SG AITEK、けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）、株式会社PITTAN、AltumVew、OVA Inc.，株式会社国際電気通基礎技術研究所、株式会社けいはんな、公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構
実施時期	7月24日（木）14:00～17:15
実施場所	コンディショニング・ラボ、けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）、けいはんなプラザ　ラボ棟他
事業の趣旨	・けいはんな学研都市の魅力を広くアピールし、国内外の人々の交流促進やオープンイノベーション拠点の機能強化を図る。 ・PoCフレンドリー都市けいはんなに対する社会認知度向上 ・広域観光ルートの形成、大阪・関西万博との連携推進
事業内容	スタートアップPoCを開催している機関を周遊し、実証実験の状況を体験 ・コンディショニング・ラボ：サントリーウエルネス株式会社、SG-AITEK見学、体験 ・KICK：けいはんなロボットイノベーションセンター等見学 ・けいはんなプラザラボ棟：株式会社PITTAN事務所見学 ・けいはんなプラザホール：AltumView、OVA Inc、見学、体験
参加者数等	参加12人



コンディショニング・ラボ



KICK


PITTAN


OVA.Inc


AltumView

けいはんな万博2025テックツアー

けいはんな学研都市では、さまざまなスタートアップ企業が住民の協力を得てPoC（Proof of Concept＝概念実証）に取り組んでいます。これら企業の実証状況を実際に見学してもらうことでビジネスのマッチングやPoCに対する認知度向上をねらい、スタートアップ企業６社を巡る「テックツアー」を「スタートアップ・フェス」に先立ち７月24日に実施、企業経営者から中学生まで12人が参加し、スタートアップ部会の専門家の説明を聞きながらバスで回りました。

コンディショニング・ラボ（精華町）では、足裏の画像からAIが姿勢の特徴を分析（サントリーウエルネス）する技術や、顔の画像から血管の変化をとらえて呼吸・心拍・血圧・血中酸素などを測定（SG AITEK）する技術を実体験。また、新たなイノベーション拠点である、けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）では、次世代ロボットの開発・実証の共同利用拠点・けいはんなロボット技術センター施設の役割などについて説明を聞きました。

けいはんなプラザでは、汗の状態から心身の機能が衰えている状態であるフレイルを推測（PITTAN）、人の動きの映像から危険な行動を察知（AltumView）―といった健康に生きていくための技術や、OVA Inc.の最高級茶葉の製茶工程を体験できる没入型VR（仮想現実）を体感しました。積極的に質問や体験する光景が目立ち、関心の高さがうかがえました。

けいはんなグローバルスタートアップPoCチャレンジの歩みと成果

― 世界のスタートアップと地域社会が交差した一年半 ―

2024年春～2025年10月3日

I.「けいはんなグローバルスタートアップPoCチャレンジ（KPoC）」の構想と選考プロセス

スタートアップ部会では、2024年春から約１年半にわたり、メイン企画として「けいはんなグローバルスタートアップPoCチャレンジ（KPoC）」を推進しました。本事業は、国内外のスタートアップがけいはんな学研都市を舞台に、研究機関、企業、自治体、地域住民と連携し、社会課題の解決に向けたPoC（実証）と共創に挑戦する取り組みです。

高度な研究開発力、住民参加型の実証環境、そして国際的なネットワーク。これらが重なり合うことこそが、けいはんな学研都市の大きな特徴です。KPoCは、この強みを最大限に活かし、世界中のスタートアップが実社会で技術やアイデアを検証し、社会実装への道筋を描くための実践的な場を提供することを目的として設計されました。

KPoCの公募プロセスにはけいはんなのグローバル連携の蓄積が活かされました。海外の募集先は、株式会社国際電気通信基礎技術研究所（ATR）がグローバルイノベーションネットワークを基盤として企画・運営するスタートアップ支援プログラム「KGAP ＋（Keihanna Global Acceleration Program Plus）」の卒業企業に展開されました。

2024年７月８日から開始された募集には、日本を


イーセップの提案発表


最終選考会での質疑応答の様子


選考会会場の全景


SG AITEKの提案発表

含む８か国から19社（海外９社、けいはんな立地８社、国内他地域２社）の応募がありました。書類選考およびヒアリングを経て10社が一次選考を通過し、2024年10月３日、「京都スマートシティエキスポ2024」内の公開セッションとして最終選考会が実施されました。

選考委員は、部会長であるATR 鈴木博之代表取締役副社長をはじめ、協議会およびスタートアップ部会に参画する機関の専門家で構成され、技術の独創性だけでなく、地域社会への受容性や実証の実現可能性を多角的に評価しました。その結果、海外３社および国内（けいはんな立地）３社の計６社が採択され、けいはんな万博を象徴する実証プロジェクトとして位置づけられました。

Ⅱ. KPoC6件の挑戦 ― 技術が社会と出会う場所としての「けいはんな」―

採択された６件のPoCは、学研都市の多様なフィールドで展開されました。本事業の本質は、単なる技術検証にとどまらず、「技術が地域社会の中でどのように受け止められ、活用され、社会課題の解決につながるか」を実践的に探った点にあります。

象徴的な事例：AltumView（カナダ）

特に象徴的だったのが、カナダのスタートアップAltumViewによる実証です。同社は、プライバシーを保護しながら人物の動きを解析できるAI見守りセンサーを開発しています。

今回のPoCでは、高齢者の日常生活の微細な変化を捉え、転倒などのリスクやフレイル（心身機能の低下）の兆候を早期に検知することを目的に、「Clubけいはんな」の会員７名の協力を得て、高齢住民の自宅にセンサーを設置し、３か月間にわたる24時間センシングを実施しました。海外スタートアップが日本の一般家庭に入り込み、生活の変化を継続的に捉える実証は、技術的にも社会的にもハードルの高い挑戦でした。それでも実現できた背景には、けいはんなの住民の高い理解と信頼、そしてスタートアップと地域を丁寧につないだコーディネーターの存在があります。本プロジェクトは、けいはんなが「PoCフレンドリー都市」として機能し得ることを示す、象徴的な事例となりました。

（コーディネーター：株式会社けいはんな、大和ハウス工業株式会社、ロート製薬株式会社、サポーター：奈良先端科学技術大学院大学）



採択されたPoCプロジェクト

その他のPoC事例

▪ 地域課題

OVA（カナダ）：和束町と連携し、VRを活用して地域課題と解決策を体感する仕組みを構築。住民の主体的な意見形成を促す新たな住民参加モデルを提示しました。

（コーディネーター：ATR、サポーター：奈良先端科学技術大学院大学）

▪ 環境課題

イーセップ（けいはんな）：けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）を拠点に、CO_2と水素から液体燃料を生成する脱炭素技術の実証を実施しました。

（コーディネーター：公益財団法人京都産業21）

▪ 健康課題

サントリーウエルネス（けいはんな）：足裏画像解析による身体状態の可視化と健康支援の可能性を検証しました。

（コーディネーター：公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構）

PITTAN（けいはんな）：汗の分析を通じて身体状態を把握し、運動・食事提案につなげる実証を行いました。

（コーディネーター：公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構）

SG AITEK（台湾）：顔画像解析による運動負荷最適化の実証を行い、非接触型測定の有効性を示しました。

（コーディネーター：ATR）

これらの実証を支えたのは、スタートアップと地域社会を橋渡しする「コーディネーター」の存在です。KPoCを通じて、スタートアップ部会に参画する立地機関の担当者がこの役割を担い、ノウハウを蓄積できたことは、けいはんなにとって大きな財産となりました。



コーディネーターの通訳で和束町が製茶工程をOVAに説明



地域のジムでのサントリーウェルネスのPoC

Ⅲ. スタートアップフェス
― 共創都市けいはんなの縮図 ―

KPoCを広く公開し、スタートアップと多様なプレイヤーが交差する場として開催したのが「スタートアップフェス」です。国内外のスタートアップ、大学、企業、行政、支援機関、学生、地域住民が集い、技術やアイデアだけでなく、社会実装に向けたプロセスそのものを共有することで、スタートアップ拠点としてけいはんなが将来的に目指す姿を凝縮した、象徴的なイベントとなりました。

ステージプログラムでは、KPoCの意義と成果が発表され、住民参加型PoCの実践例や技術の社会実装に向けた手応えが共有されました。あわせて、海外スタートアップの日本市場展開を支援するKGAP＋プログラムの紹介と、同プログラム第12期に参加中の４か国４社（企業名は下記参照）によるピッチを実施し、けいはんなを起点とする国際的なスタートアップ連携の広がりを示しました。

また、一般社団法人関西経済同友会との連携によるリバースピッチでは、大企業５社（企業名は下記参照）が、スタートアップとの協業ニーズや期待を提示し、研究開発から事業化までを見据えた具体的な共創テーマが議論されました。さらに、台湾国立成功大学と奈良先端科学技術大学院大学の学生混合チームによる課題解決提案コンテストや、日本政策金融公庫との連携による関西の高校生（学校名は下記参照）によるビジネスアイデア発表も行われ、次世代人材による新たな視点と発想が会場に活気をもたらしました。


KGAP＋スタートップSmart Resilinのピッチ


近鉄ベンチャーパートナーズ株式会社のリバースピッチ


KPoCの発表での質疑応答


ステージ観客席


高校生のビジネスアイデア発表


日台学生課題解決提案コンテストでの審査委員長総評

展示・体験ゾーンでは、KPoCおよびKGAP＋第13期参加スタートアップによるプロトタイプ展示やデモンストレーションをはじめ、支援機関による取組紹介が行われました。来場者は、技術やサービスを直接体験しながら、けいはんなにおけるPoC環境、研究開発基盤、国際連携の強みを実感し、スタートアップと地域社会が交わる新たな可能性を具体的にイメージする機会となりました。

本フェスで展開された多様なプログラムは、スタートアップの創出・誘致・育成と地域社会との連携を同時に進めるという、けいはんな学研都市の今後の方向性を象徴的に示すものとなりました。

こうした多様なコンテンツが一堂に会したことで、会場ではスタートアップ、企業、自治体、大学、学生、地域住民が立場を超えて意見を交わす光景が見られました。この「交差する対話」は、けいはんなにおける共創の現在地を示すと同時に、次の挑戦に向けた可能性を具体的に提示するものとなりました。

- 参加海外スタートアップ：AVAtronics（スイス）、BioAro（カナダ）、Carbelim（UAE）、Smart Resilin（イスラエル）
- 参加大企業：近鉄ベンチャーパートナーズ株式会社、大和ハウス工業株式会社、パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社、NTT西日本株式会社、さくらインターネット株式会社
- 参加高校：洛陽総合高等学校（京都）、雲雀丘学園高等学校（兵庫）、奈良県立商業高等学校（奈良）、滋賀県立虎姫高等学校（滋賀）


PITTANのブース


サントリーウエルネスのPoCデモンストレーション


AltumViewのPoCデモンストレーション


OVAのPoCデモンストレーション


KGAP＋スタートアップAVAtronicsのブース


大阪産業大学のワークショップ

Ⅳ. 大阪・関西万博および国際イベントでの発信

けいはんなにおけるスタートアップ支援の取り組みは、大阪・関西万博の舞台を通じて広く世界へ発信されました。大阪ヘルスケアパビリオンの「リボーンステージ」では、2025年４月30日と９月30日の計２回にわたり、KPoCの成果発表および展示・体験デモを実施しました。あわせて、「KGAP＋」と連動し、KGAP＋参加企業計７か国12社（企業名は下記参照）によるピッチおよび展示を行い、日本展開を志す海外スタートアップに対して、けいはんなが具体的なビジネス機会を生み出すゲートウェイ（玄関口）となり得ることが実証されました。

他にも、４月30日のステージでは、PoCフレンドリーな都市としてのけいはんなの魅力を、部会メンバーと大学生の対談形式で紹介しました。また、国際連携をテーマとするパネルディスカッションでは、ATRのネットワークを通じて招かれた駐日イスラエル大使館 ダニエル・コルバー経済公使、デイヴィッド・パデュー在名古屋カナダ領事、カタルーニャ州政府貿易投資事務所 ACCIÓ東京 安晝園子投資・イノベーション担当官が登壇し、国境を越えた共創がイノベーション創出にもたらすインパクトを世界に向けて訴えました。

９月30日のステージでは、先進的なPoC拠点を有する米国ジョージア州ピーチツリーコーナーズ市ブライアン・ジョンソン副市長をゲストに迎え、実証フィールドが密接に連携することの意義について対談が行われました。

さらに、万博閉幕を控えた2025年10月２日・３日には、KICKで開催された「京都スマートシティエキスポ2025」に参加しました。ここではKPoC６社とKGAP＋参加企業によるピッチと展示・デモを行いました。

これら一連の発信を通じて、「ポスト万博シティ」としてのけいはんなの姿を国内外に強く印象付けることができました。

- ４月30日参加海外スタートアップ：Veritus（日本）、FingerVision（日本）、NeuinX（台湾）、FREE Bionics（台湾）、AirSEM（イスラエル）、ImpersonAlly（イスラエル）、Sultech（カナダ）、Jolt（スペイン）
- ９月30日参加海外スタートアップ：BioAro（カナダ）、Carbelim（UAE）、Wanda Fish（イスラエル）、AVAtronics（スイス）



大阪・関西万博大阪ヘルスケアパビリオン「リボーンステージ」でのイベント終了後（４月30日）

V. 結び：ポスト万博シティとしての役割と継承 ― 共創モデルとしての「けいはんな」 ―

KPoCは、スタートアップと地域社会が出会い、互いに影響し合いながら価値を生み出すプロセスを、けいはんな学研都市の中で具体化した取り組みでした。技術を社会に接続するには、研究開発力だけでなく、人と人を結ぶ関係性や、実証を受け入れる都市の土壌が不可欠であることが、実践を通じて明らかになりました。

スタートアップフェスは、こうした共創の姿を可視化する場として機能しました。多様な主体が交わり、分野や立場を越えて対話と協働が生まれる光景は、けいはんなが目指す都市像そのものであり、実証と共創が連続する都市の可能性を浮き彫りにしました。

本事業で育まれた人材、ネットワーク、実証の経験は、万博という特別な機会にとどまるものではありません。これらを継続的な都市機能として発展させていくことこそが、「ポスト万博」におけるけいはんなの挑戦です。

けいはんな学研都市は今後も、国内外のスタートアップとともに、社会課題に向き合う実証と共創を積み重ねていきます。本事業で形成された共創のプロセスを、けいはんなの持続的な取り組みとして発展させ、次の段階へとつなげていきます。



けいはんなグローバルスタートアップPoCチャレンジ（KPoC）概観



スタートアップフェス概観

第４章

世界の知と産業への展開

けいはんな万博において創出された成果は、地域内にとどまらず、世界の知と産業へと展開されることを前提に設計されています。本万博では、ロボティクスやICTを中心とする先端技術の実証とともに、それらを社会や産業へ接続する取り組みが体系的に進められました。その結果、地域発の技術や知見が国際的な文脈の中で位置づけられ、新たな価値創出へとつながっています。

技術面では、アバターロボットや遠隔操作技術、AI・データ活用技術などが実証され、その成果が社会実装や産業応用へと接続されました。これらは単なる性能向上にとどまらず、人間の能力拡張や社会参加の促進といった文脈の中で価値が提示されている点に特徴があります。特にアバターチャレンジでは、身体的制約を超えた新たな働き方や生活様式の可能性が示され、国際的にも関心を集めるテーマとなりました。

産業展開の観点では、スマートシティやフードテックなどの分野において、実証成果を基にした展示やビジネスマッチングが行われました。これにより、研究開発成果が具体的な産業応用へと接続される過程が可視化され、企業間連携や新規事業創出の契機が生まれました。また、ATRオープンハウスや各種EXPOを通じて、研究機関と産業界の接点が強化され、技術移転や共同研究の促進が図られました。

国際展開においては、国際会議や交流プログラムを通じて、けいはんなで形成されたイノベーションモデルが海外へ発信されました。ここで重要なのは、単なる技術輸出ではなく、「科学・生活・文化・自然環境の調和」を基盤とする価値観や社会モデルが共有された点です。すなわち、技術と社会の関係性を再構築する枠組みそのものが国際的な議論の対象となり、他地域との協働の可能性が広がりました。

以上のように、本万博は、地域における実証活動を出発点としながら、それを世界の知と産業へと接続する構造を示しています。単なる技術の輸出ではなく、理念・仕組み・実装を一体とした「調和型イノベーション」のモデルを国際的に展開した点に、本万博の大きな意義があります。

大阪・関西万博開催半年前イベント「京都イロドリEXPOこといろ」

アバターロボット操縦体験 デモ展示 ①

2024年10月12日

事業名	大阪・関西万博開催半年前イベント 「京都イロドリEXPOこといろ」デモ展示
部会名	ロボット・アバター・ICT部会
実施の形態	「体験ブース」出展 （主催 大阪・関西万博きょうと推進委員会、 一社夢洲新産業・都市創造機構、 京都駅 京都駅ビル開発(株)）
参画機関	京都駅前広場 32ブース
実施日	2024年10月12日
実施場所	(1) 京都駅前広場 (2) ホテルグランヴィア 京都3階 源氏の間 (3) JR西日本 京都駅 6番広場
事業の趣旨	大阪・関西万博開催半年前に合わせて、更なる機運醸成を図るとともに、京都への誘客のため、万博期間中に発信する府域の多様な魅力や、万博に関連した京都の様々な取組を紹介するイベント「京都イロドリEXPO こといろ」で「けいはんな万博」および「アバターチャレンジ2025」をPRする。
事業内容	・アバターロボットの操縦体験のデモ ・アバターチャレンジ2025 のPR
来場者数	約 3500 名

2024（令和６）年10月12日、「大阪・関西万博」開催半年前の機運を高めることを目的として、京都市下京区・京都駅前広場において「京都イロドリEXPOこといろ」が開催されました。本イベントは、京都の行政、経済団体の代表者、文化人、有識者らによって構成される「大阪・関西万博きょうと推進委員会」が主催したものです。

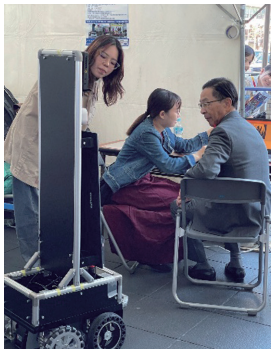
当日は、けいはんな万博2025運営協議会ロボット・アバター・ICT部会も参加し、大阪・関西万博に出展予定のアバター（遠隔操縦ロボット）の操縦体験を来場者に提供するとともに、2025（令和７）年開催予定の「けいはんな万博2025」について積極的にPRを行いました。

イベントは京都市立芸術大学による金管五重奏で幕を開け、西脇隆俊京都府知事、岡田憲和京都市副市長、田中誠二京都商工会議所副会頭、村田純一（公財）京都文化交流コンベンションビューロー理事長らが挨拶を行いました。また、大阪・関西万博における京都ゾーン「一座建立」のデザインおよび展示内容が発表されました。最後にあいさつに立った大阪・関西万博きょうと推進委員会の山極壽一座長は「万博は融和と調和を目指す文化の祭典」とし、環境と文化を調和させて「いのち」を中心に据えることの大切さを強調しました。

けいはんな万博2025の“主役”の一つであるアバターは、自分の分身のように遠隔操作できるロボットで、現地にいなくても対話や作業が可能です。医療、災害対応、教育、ガイドなど多様な分野で活用が進んでおり、けいはんな学研都市でも最先端の研究開発が行われています。アバター体験ブースでは、学研都市に本社を置くKeigan社製ロボットを使用し、奈良先端科学技術大学院大学（NAIST）および同志社大学の学生が操縦をサポートしました。来場者は、初めてのアバター操縦体験を通して、けいはんな万博2025の開催を知り、関心を寄せる機会となりました。



Keigan 社製のアバターロボット



NAIST, 同志社大の学生が操縦をサポート

未来モノづくり国際EXPO 2024

アバターロボット操縦体験 デモ展示 ②

2024年11月13日～15日

事業名	未来モノづくり国際EXPO2024　デモ展示
部会名	ロボット・アバター・ICT部会
実施の形態	「体験ブース」出展 （主催 未来モノづくり国際EXPO実行員会）
参画機関	国内中小企業80社
実施期間	2024年11月13日～15日 10:00～17:00
実施場所	インテックス大阪　3番館
事業の趣旨	けいはんな万博2025のプロモーション およびけいはんな万博開催中に行う「アバター観光」のデモを実施。インテックス大阪からけいはんな記念公園にあるアバターロボットの操縦デモを行う。
事業内容	・アバターロボットの操縦体験のデモ ・アバターチャレンジ2025 のPR
来場者数	未来モノづくり国際EXPO 14,115名（3日間の合計）

けいはんな万博2025において、夢洲会場からけいはんな学研都市の観光スポットである「けいはんな記念公園」および「平城宮跡歴史公園」に設置したアバター（遠隔操縦ロボット）へ“乗り移り”、周遊体験を提供することを目指し、「未来モノづくり国際EXPO」（大阪・関西万博と連携した国際見本市）に出展し、以下の技術検証を実施しました。



インテックス大阪からけいはんな記念公園のアバターロボットを操縦。同志社大学の学生たちが観光を楽しむアバターの介添えを行った。



インテックス大阪の出展ブース（操縦デモを実施中）

■ 検査項目

① 大阪・関西万博の夢洲会場からけいはんな側のアバターロボットを安全かつ安定的に操縦できるか

② NTT docomo ５Ｇワイドの無線通信が、アバター映像を見ながら操作するのに十分なスループットを確保できるか

■ 検査結果

(i) NTT docomoの５Ｇワイドサービスを利用することで、アバターの安定した遠隔操縦が可能であることを確認しました。

(ii) アバター操作PCとアバター付添人のスマートフォンをZoomで接続することで、イベント会場の大画面ディスプレイに、

① アバターが取得している視界映像

② アバター付添人が撮影した周囲の状況を含む映像

を違和感なく同時表示できることが分かり、けいはんな万博におけるデモ実施に技術的な問題はなく、競技設計に瑕疵がないことを確認しました。

操縦体験者は１日あたり十数名程度でしたが、得られたフィードバックから、特殊なインタフェースよりもPCゲーム用コントローラをUSB接続して操作する方式が混雑下のデモをする際、安定していることを確認しました。

アバターチャレンジ 2023プレ大会

2023年11月19日

事業名	アバターチャレンジ 2023 プレ大会
部会名	ロボット・アバター・ICT 部会
実施の形態	主催：特非けいはんなアバターチャレンジ
参画チーム	Keigan、SCC、島津フェイシャルコマンダー KUAS、自由工房中之島 AC(大阪電気通信大)、光遊会、サンシード、WAN、サントリーやってみなはれ、メカ丸、シン・松平、とある鋭い製造業、ATR-KB、ATR-HA、同志社 DAvatar（計15チーム）
実施期間	2023年11月19日
実施場所	けいはんなプラザ 日時計広場
事業の趣旨	アバター（遠隔操縦ロボット）を道具として利活用する日常生活の実現に対して、アバターおよびその利用に必要な通信技術の進化と生活適応の程度を「見える化」することに関する事業を行い、アバターを活用した活力ある未来社会のイメージ醸成と実現の早期化に寄与することを目的とする。
事業内容	精華大通り沿いにある日時計広場で、アバター（遠隔操縦ロボット）を使った老若男女が参加する運動会を開き、アバターおよびその利用に必要な通信技術の進化と生活適応の程度を体験する。
来場者数	約 300 名

2023（令和５）年11月19日、精華町のけいはんなプラザ日時計広場において、けいはんな万博で開催する「アバターチャレンジ」のプレ大会を実施しました。

本イベントは、Wi-Fi経由の遠隔操縦のアバター（遠隔操縦ロボット）を活用した運動会が実施可能かの検証も兼ねていました。参加者はアバターを通じて生活を模した買い物競争、障害物競争に挑戦し、アバターと共生する未来社会を体験する機会となりました。

快晴に恵まれ、市民を含む15チームが参加し、買い物競争や障害物競走に挑戦。出場者は９歳から82歳まで幅広く、約300人の観客が声援を送りました。

本プレ大会は、アバターを日常生活で気軽に活用できる未来社会のイメージ醸成と、本番大会に向けたアバターの性能確認およびネットワーク環境の検証を目的として実施。主催は特定非営利活動法人（NPO法人）けいはんなアバターチャレンジが務め、京都府をはじめ、けいはんな学研都市周辺の自治体、研究機関、大学、企業など多くの団体が後援・協力に参画しました。

15のチームは、ATRおよびNPO法人や大学が提供したアバター、参加者が自作したアバターを操縦して広場に設置された障害物を次々とクリアし、買い物競争では店員との対話を通じて目標の品を入手するなど、実用性を感じさせる動きを見せました。スタッフは大会前日まで、Wi-Fi環境や音響設備の調整など、円滑な運営に向けて工夫を重ねました。立地企業の代表者も事前準備に積極的に参加し、多様な立場の人々が協力し、会場整備や機材点検、課題の洗い出しなどを実施したことで、本大会に向けた貴重なリハーサルの機会となりました。



出場者がアバター（遠隔操縦ロボット）で買い物競技を体験



企業・大学・住民 あらゆる世代の15チームが参加しました

第1回アバターチャレンジ2025大会

2025年5月25日

事業名	アバターチャレンジ 2025 大会
部会名	ロボット・アバター・ICT 部会
実施の形態	主催：けいはんな万博2025 運営協議会
参加チーム	01 サンシードセイカ GUARDIANS 02 同志社あばちゃれ!with 小豆 03 同志社あばちゃれ!with 小雪 04 同志社あばちゃれ!with 小麦 05 KUAS 京都先端科学大学 06 大阪電通大 くっすんズ 07 大阪電通大 ひこぼしーズ 08 奈良学園大おりひめナビゲーターズ 09 NAIST NASC 10 島津製作所 有志
実施期間	2025年5月25日
実施場所	精華大通り
事業の趣旨	日時計広場～けいはんな記念公園入口までの車道で8市町の公式キャラクターパレード、ならびに歩道を使ったアバター（遠隔操縦ロボット）による競技会を開き、小学校の運動会を模して、人とアバターの共存の1事例を示すことを目標にする。
事業内容	日本初の遠隔操縦ロボットによる公道パレード&運動会
来場者数	3,500 名

けいはんな万博のメインイベントの一つである「けいはんなアバターチャレンジ2025」を、令和７（2025）年５月25日に京都府精華町の精華大通りにて開催しました。

当日は、ブラスバンドの演奏とともにアバター（遠隔操縦ロボット）がパレードを行い、続いて市民がアバターを操縦して買い物競争や障害物競走に挑戦する、日本で初めての公道を舞台とした「アバター運動会（競技会）」を実施しました。雨が心配される天候でしたが、多くの市民が来場し、アバターの行進や競技での奮闘に盛んに拍手を送っていました。

アバターチャレンジ開催の目的は、アバターと共生する未来社会の一端を、市民が「遊び」を通して体感できる場をつくることにあります。日本を含む先進国で深刻化している「社会的孤立」の解消に寄与し、地域や人々のつながりを再構築するきっかけをつくるために、多くの人たちと協力してイベントを共に創り上げるプロセスそのものを大切にする取り組みです。

大会は、京都廣学館高等学校吹奏楽部の高らかな演奏とともにスタートしました。３Ｄフィギュア（８市町の公式キャラクター、奈良先端科学技術大学院大学および島津製作所のマスコットキャラクター）を乗せた10体（10チーム）のアバターがノボリを掲げ、精華大通り約900メートルを行進しました。愛らしいキャラクターを乗せたアバターの行進に、沿道の親子連れは歓声を上げ、手を振って応えるなど、



バトラーカーを先頭に京都廣学館高等学校吹奏楽部の演奏で行進



各市町の公式キャラクターを乗せたアバターの行進（安全のためサポータ付き）

和やかな雰囲気に包まれました。

けいはんな学研都市を構成する精華町、木津川市、京田辺市、奈良市、生駒市、四條畷市、枚方市、交野市の８市町の公式キャラクターを模したフィギュアは、同志社大学、大阪電気通信大学、京都先端科学大学、奈良先端科学技術大学院大学、工学院大学の学生たちが制作しました。３Ｄプリンターによる精巧な造形、モーター駆動の工夫、軽量化や耐久性の調整など、ロボット開発と並行して多くの創意工夫が凝らされました。これらのフィギュアはアバターに搭載されることを前提に高い完成度で仕上げられており、大学間の連携と学生の技術力が大会の魅力向上に大きく寄与しました。

本大会には、企業２社（島津製作所有志、サンシード株式会社）、４大学（同志社大学３チーム、大阪電気通信大学２チーム、京都先端科学大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良学園大学）から、計10チームが参加しました。各チームは、アバターの設計・操縦技術・表現力を競い合い、特色あるアバターを披露しました。企業と大学が同じフィールドで競い合うことで、産学連携の新たな可能性が示されました。



けいはんなプラザから各チームのロボットを遠隔で操縦。



子どもたちが歩道で声援を送る姿が微笑ましい。

大会運営に必要なネットワーク構築や音響システムの設計、競技用トラック設営、警備体制の確保には、地域企業と精華町商工会から大きな支援を受けました。専門技術や機材提供に加え、活気あるMCの実況など多方面の協力により、大規模な屋外イベントを地域全体が一体となって安全かつ円滑に実施する体制が整いました。特に商工会有志が木津署と２年間協議し、アバターロボットの公道走行の正式な認可を得たことは、日本初の公道競技会の実現につながった重要な成果の一つといえます。

パレードに続き、公道でのアバター運動会を実施しました。操縦は近隣のけいはんなプラザからインターネット経由で行われ、競技は日常生活に馴染みのある４種目で構成しました。

＜競技１＞ じゃんけんポン

アバターが通行人とじゃんけんを行い、勝利しながらゴールを目指すタイム競争。通信遅延など、技術的課題を可視化しました。



通信遅延で、遠隔操作者のじゃんけん札は数百ミリ秒遅れる。

＜競技２＞ 地蔵盆

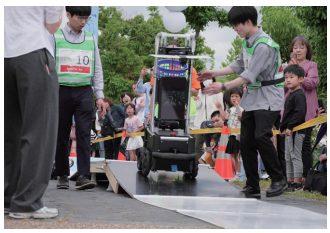
お地蔵さんに見立てた各市町の公式キャラクターを訪問し、インターホンを押してチャイムを鳴らせば合格。完走タイムの速い順に順位を決定します。



腕を使ってインタホンを押したり、鈴を鳴らす動作は難易度が高い。

＜競技３＞ スラローム＆山登り

ガタガタ道や障害物を乗り越え、完走時間の短い順に勝者が決定します。



スロープの上り下りでは、アバターの性能と操縦者の腕前が試される。

＜競技４＞ 買い物競争（決勝）

予選上位者が進出。実際にマクドナルド店内に入り、QRコードでハンバーガーを購入する高度な操作を求められる競技です。



操作者が店員と対話しながら、商品の注文・受取り・支払いを行った。

全般を通して、アバターが思うように動かない場面もありましたが、観客からは温かい拍手が送られ、終始なごやかな雰囲気で競技が進行しました。

一通りの競技が終わり、審査結果を待つ間、日時計広場では観客参加型の「パラレルスラローム競技」を実施し、来場者がアバター操縦の楽しさを体験しました。



会場には和食、イタリアン、深夜食堂など人気店が出店し、多くの来場者でにぎわいました。

総合成績は以下の通りです。

１位：同志社あばちゃれ！ with 小麦

２位：同志社アバチャレ！ with 小雪

３位：奈良学園大 おりひめナビゲーターズ



当日は約3,500人の来場者がアバターと共生する未来社会を体験し、学研都市を構成する自治体・団体・大学間の連帯意識の醸成にも大きく寄与するイベントとなりました。本大会で得られた成果と課題を踏まえ、2026年以降もアバターチャレンジを継続し、アバター技術を活用した新たな社会参加の形をさらに発展させることで、地域のつながりを一層強める取り組みとしてまいります。



今後も引き続き、アバター共生社会の実現に向けた取り組みにご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ロボット・アバター・ICTフェス「ドローン & XRフェス」

2025年5月24日

事業名	イベント ロボット・アバター・ICTフェス「ドローン & XRフェス」
部会名	ロボット・アバター・ICT部会
実施の形態	主催
参画機関	（株）Halle Game Lab、（株）ゆずプラス、奈良学園大学VRプロジェクト、Universal Robot Lab、工学院大学VRプロジェクト、金沢工業大学メディア情報学部、テルモピレー(株)、山腰登記測量事務所、（一社）京都ドローン協会、京都府危機管理防災センター、精華町、K-Scan科学のまちの子供たち、株式会社SonoSaki
実施期間	2025年5月24日
実施場所	けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）けいはんなロボット技術センター
事業の趣旨	ロボット・アバター・ICTフェス の前半のフェスティバルとして、ドローン & XR フェスを行う。（後半は、アバターチャレンジ2025）
事業内容	●災害時のドローン活用からアバタードローンへ ● XRを用いた未来のまちづくり ●ドローン&XR体験イベント
来場者数	約650名

2025（令和７）年 ５月24日、関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）のけいはんなオープンイノベ ーションセンターにおいて「ドローン& XR フェス」を開催しました。本イベントは「災害時のドローン活用からアバタードローンへ」「XR を用いた未来のまちづくり」をテーマに実施したものです。

当日は約650人の市民らが来場し、最新のドローン技術や、現実世界と仮想世界が融合するXRの実際を見学・体験しました。災害対応、まちづくり、教育、医療など、さまざまな分野でこれらの技術が活用される可能性を体感していただき、日々の暮らしに大きく貢献し得ることを実感してもらう機会となりました。

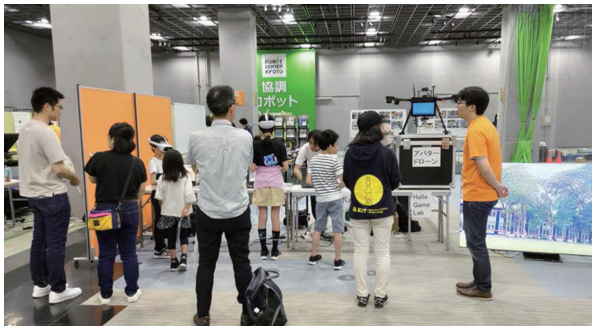
ドローンは災害時に上空から被害状況を把握する手段として広く活用されています。フェスでは、京都府危機管理防止センターおよび京都ドローン協会の協力の下、災害時を想定したドローン映像の伝送実証試験を実施しました。

また、アバター（遠隔操縦）ドローンは、遠隔地にいる操縦者の視覚や動作と連動し、まるで操縦者自身が現場にいるかのように自由に移動できる点が特徴です。対話や作業が可能な機能を備えた機体もあり、Zoomの半分くらいの遅れで映像が受信できるので、アクロバティックな動きにも瞬時に対応できます。こうした特性から、災害対応に限らず、さまざまな分野での活用が進んでいます。

なお、アバタードローンの扱いは、（株）Halle Game Lab が担当し、来場者に最新技術の可能性を体感していただく機会となりました。



マイクロドローンサーキット：（一社）京都ドローン協会



アバター・ドローン：（株）Halle Game Lab



バーチャルリハビリテーション：奈良学園大学

XRを用いた未来のまちづくりの展示では、大学・企業・研究チームによる多彩なプロジェクトを紹介しました。来場者は、教育、医療、防災、まち歩きなど、さまざまな分野でXRがどのように活用されるかを体験的に理解することができました。

▽ マイクロドローンレース（京都ドローン協会）
▽ ドローン体験（同）
▽ 防災ドローン展示（京都府）
▽ アバタードローン（Halle Game Lab）
▽ メタバースからロボットに乗り移る（同、 ゆずプラス）
▽ VR Chatアバター交流体験（ゆずプラス）
▽ メタバース留学 in Park（Universal Robot Lab）
▽ Robtox防災ミニゲーム（同）
▽ けいはんな防災VR動画（工学院大学）
▽ グラビティ・パラドックス（同）
▽ バーチャルリハビリテーション（奈良学園大学）
▽ けいはんな3D散歩（テルモピレー、山腰登記測量事務所）
▽ インタラクティブCGプロジェクト（金沢工業大学）

来場者から特に人気を集めた展示の一つが、メタバース留学 in Parkでした。海外から参加した人々のアバターとリアルタイムで対話できるため、国際交流や語学学習に最適で、多くの参加者が“仮想留学”を楽しんでいました。

また、仮想空間での防災ミニゲームは子どもから大人まで大人気でした。山の噴火により溶岩が家に迫る前に、防災バッグへ必要なアイテムを選んで詰め込み、船に避難するという内容で、親子で楽しみながら防災の大切さを学べる機会となりました。

さらに、能登半島地震で実際に観測された震度7のデータを用い、VR（仮想現実）映像と実際の揺れを再現したブースでは、「災害の恐ろしさをリアルに体感できる」と大きな反響がありました。



グラビティ・パラドックス：工学院大学



来場者の動きに反応するデジタルアート作品：金沢工業大学



けいはんなの名所を3D空間で散策：テルモピレー，山腰登記測量事務所


メタバース留学in Park：Universal Robot Lab

そのほか、デジタル粘土を使った3D作品づくりや、迫力あるマイクロドローンレースの見学など、未来につながる最新技術に触れられる多彩な体験が提供され、来場者にとって充実したイベントとなりました。

アバター訪問

2025年 4月23日～9月19日

事業名	アバター訪問
部会名	ロボット・アバター・ICT部会
実施の形態	操作の体験展示
参画機関	特非けいはんなアバターチャレンジ 同志社大学、 奈良先端科学技術大学院大学 大阪電気通信大学、 京都先端科学大学
実施期間	2025年4月23日～2025年9月19日
実施場所	大阪・関西万博 （大阪ヘルスケアパビリオン、関西パビリオン）
事業の趣旨	アバター操作でけいはんなの名所を観光する。
事業内容	（1）4月23日 けいはんな万博 in 夢洲 大阪ヘルスケアパビリオン / 平城宮跡 （2）5月1日 けいはんな万博へようこそ 関西パビリオン多目的エリア / 平城宮跡 （3）8月2～3日 けいはんな万博 in 京都ゾーン 関西パビリオン / けいはんな記念公園 （4）9月19日 けいはんな万博 in 夢洲 大阪ヘルスケアパビリオン / 同公園
来場者数	（1）約2,000名 （2）約200名 （3）約270名 （4）約2,500名

けいはんな万博の期間中、大阪・関西万博夢洲会場からアバター（遠隔操縦ロボット）を操作し、平城宮跡をはじめとするけいはんな地域の名所を観光するイベント「アバター訪問」を実施し、来場者の皆様にアバター技術がもたらす新しい観光体験の一端を体感していただきました。

1. アバターロボットで体験しよう!
～けいはんなを散策～
＜ けいはんな万博 in 夢洲 大阪ヘルスケアパビリオン ＞

令和７（2027）年４月23日、夢洲会場から奈良市・平城宮跡大極殿前に設置したアバターロボット（同志社大学の学生が制作）を遠隔操縦する体験展示を実施。操縦者の視点で大極殿前を散策できる仕組みは来場者の関心を集め、多くの参加者が足を止めて体験しました。



夢洲会場からアバターを操縦し「平城宮跡」「けいはんな記念公園」を周遊。

2. けいはんな万博へようこそ
＜ オープニングイベント in 関西パビリオン多目的エリア ＞

５月１日、メタバース探求家の水瀬ゆず氏が横浜市の自宅からアバターMCとして参加し、奈良市・平城宮跡に設置した実在アバターロボットに“乗り移る”形で、案内人とともに平城宮跡歴史公園を巡りました。サイバー空間から実在アバターを操縦する演出は来場者の関心を集めました。

3. 水景園アバター観光
＜ けいはんな万博 in 関西パビリオン 京都ゾーン ＞

８月２～３日、同志社大学および奈良先端科学技術大学院大学が、けいはんな記念公園「水景園」を周遊するアバター観光を実施しました。また、大阪電気通信大学と京都先端科学大学によるアバター操縦体験デモも行われ、来場者が夢洲にいながら、けいはんなの名所を巡る機会となりました。

4. アバターロボットで体験しよう!
～けいはんなを散策～
＜ けいはんな万博 in 夢洲 大阪ヘルスケアパビリオン ＞

９月19日には、同志社大学および大阪電気通信大学が、夢洲会場チームとけいはんな記念公園「水景園」チームの二手に分かれてアバター観光を実施しました。３D散歩（３Dディスプレイを用いた立体映像により、山城町森林公園をはじめとするけいはんな地域の観光名所を紹介）を組み合わせた展示により、けいはんな地域の魅力を多角的に発信することができました。

アバター共生社会
五重奏を指揮するアバターロボット

2025年10月11日

事業名	アバター共生社会 五重奏を指揮するアバターロボット
部会名	ロボット・アバター・ICT部会
実施の形態	実演
参画機関	特非けいはんなアバターチャレンジ 大阪電気通信大学
実施期間	2025年10月11日 閉会セレモニー
実施場所	けいはんなプラザ メインホール
事業の趣旨	閉会セレモニーのオープニング 五重奏においてアバターロボットが指揮を実演し、アバターと共生する未来社会の姿を表現する。
事業内容	会場内のWi-Fiを使って、アバターロボットを遠隔から操縦して指揮ができることを立証する。
来場者数	約600名


五重奏を指揮するアバターロボット

ロボット・アバター・ICT部会の集大成として、けいはんな万博2025を締めくくる閉会セレモニーのオープニングにおいて、アバター（遠隔操縦ロボット）が五重奏の指揮を実演する演出を行いました。

この演出は、アバターが人間の分身として高度な文化活動に参加し、人とアバターが協働する未来社会の姿を象徴的に示すものです。指揮という高度な身体表現をアバターが担うことで、距離や身体的制約を超えて誰もが社会参加できる「アバター共生社会」の理念を、視覚的かつ直感的に伝えることを目的としました。

また、音楽という協調性の高い芸術領域にアバターが参加することで、技術と人間が調和しながら共に未来を創るという万博のメッセージを体現するため、通信・動作・音響・安全性といった技術課題にも積極的に挑戦しました。


アバターロボット KOCoA（ココア）

■ 技術的な課題

1. 通信遅延による指揮動作のズレ
2. ロボットの動作精度・表現力の不足
3. 映像・視界の制約による操縦者の判断難易度
4. 音響環境の違いによるテンポ判断の難しさ

検証の過程で、指揮者は制御ループが通常より33～42%長くなることを把握し、その遅延を見越して先読みしながら指揮棒を振る必要があることが明らかになりました。アバター開発を担当した大阪電気通信大学の学生、指揮者、奏者が互いに協力し合いながら、これらの課題を一つずつ克服していきました。

適切な対策を講じた結果、演出としての完成度を高めることができ、未来社会のビジョンを強く印象づける演目として成功裏に実施することができました。ロボット技術と芸術という異なる分野が協力し、融合することで、新たな可能性を切り拓く貴重な機会となりました。


アバターロボットKOCoA（ココア）を開発した大阪電気通信大学生の皆さん

次世代モビリティ事業・草刈りロボット事業

事業名	次世代モビリティ体験・草刈りロボット実演事業
部会名	ロボット・アバター・ICT部会
実施の形態	体験提供、 実演
参画機関	京都府、京都スマートシティエキスポ運営協議会
実施期間	2025年4月～2025年10月
実施場所	けいはんなオープンイノベーションセンター、けいはんなプラザ、 けいはんな記念公園
事業の趣旨	実機展示や体験を通じ、 次世代モビリティやロボットの導入に向けた理解促進を図る
事業内容	自動運転バスをはじめとした次世代モビリティの体験提供や草刈りロボットの実演を通じ、ロボット共生社会の発信を実施
参加者数等	約11,800名　ほか

最先端技術やロボットと共生する未来社会を身近に感じる機会を提供するため、次世代モビリティの試乗体験やロボット活用の実演が行われました。

けいはんなオープンイノベーションセンターを中心に展開された『次世代モビリティ』の体験型イベントでは、自動運転バスの試乗と運行オペレーションの見学が一体的に体験できるツアーの実施や、近距離移動や配送用等の多様な次世代モビリティの実機展示や試乗、サービス提供者との交流を通じ、移動の可能性を広げる新たな技術やサービスに触れる機会となりました。

また、けいはんなプラザの日時計広場やけいはんな記念公園で実施された『草刈りロボット』の実演では、イベント開催時の稼働はもちろん、ロボットが当たり前のように日常生活に溶け込んでいる様子を目にしていただくことで、けいはんな学研都市を訪れる方々に、技術と人の共生社会を想起させる機会となりました。

（1）次世代モビリティの体験

① 自動運転バス試乗ツアー（８月）

けいはんなプラザからけいはんなオープンイノベーションセンターまでの精華大通り（往復約３km）で、大型自動運転バス・レベル２の実証運行を行い、遠隔監視室の見学を含めた試乗体験・見学ツアーが実施されました。



大型自動運転バスの試乗体験の様子

累計約800名がツアーに参加し、未来のモビリティで実際に移動を体験しながら、安全性確保やコスト低減を目指した「１：Ｎ遠隔監視」のオペレーションのデモを見学しました。

安全な運行に必要となる遠隔監視に資する通信環境等の要件の検証に加え、将来的な地域雇用創出も視野に入れた住民協力による監視オペレーションの実演は、参加者に新たな交通サービスへの関わり方を具体的に想起させ、最先端技術が実装される『ポスト万博シティ』としての期待や実感を高めました。



遠隔監視システムのオペレーションに興味が注がれた

②京都スマートシティエキスポ2025（10月）

けいはんなオープンイノベーションセンターで開催された、京都スマートシティエキスポ2025では、特別企画展示としてモビリティエリアが設けられ、体験型の展示や交流、セミナーを通した最新情報や動向の情報発信が活発に行われました。

人流・物流問わず、”移動”の可能性を広げる自動運転車両や配送ロボット、近距離モビリティに触れる・乗れる実機の展示に加えて、担当者の説明で分かりづらいシステム面とサービス面の利点や課題について理解を深めることができました。



様々な”移動”の未来を体感するモビリティが集結

また、エリアに併設された「モビリティBAR」では、電動化・自動化・シェアリングなどを視野に入れた、次世代モビリティのサービス設計や運用環境などについて、誰もが気軽に話すことができる開かれたコミュニケーションの場として設置され、動画やパネルによる紹介や、地域課題に合わせた最適な次世代モビリティの導入・運用に関する意見交換が深められる機会となりました。

次世代モビリティがもたらす未来社会の姿を多くの来場者と共有するとともに、けいはんな学研都市から新たな社会実装モデルが生まれることが大きく期待されます。



試乗体験を通じて乗り心地や技術を実感

（2）草刈りロボットの実演（5月～10月）

けいはんな万博期間中、多くのイベント等で利用されるけいはんなプラザとけいはんな記念公園にて、週2、3日の実演を行い、ロボットが暮らしの中にある社会を体感できる機会を提供しました。



ロボットの草刈りの様子を興味深く見守る来場者

実演では、ロボットの動作を間近で観察できるよう運行ルートをイベントに応じて変えつつ、ロボット本体や充電ステーションにけいはんな万博のシンボルキャラクター「みらるる」を貼るなど、連帯感と親近感を演出する工夫により、子供から大人まで親しみを持って作業の様子を見学しました。

特に、公園のように広大で起伏のある地形でも安定して作業を行う様子は、多くの来場者の関心を引き、日常を支える技術の社会実装を実感していただく機会となりました。

また、雨天や猛暑日でも稼働可能な草刈りロボットは、公園・広場の維持管理における新たな手法としてその有効性を示し、身近にロボットを感じられる社会を広く発信しました。

これらの草刈りロボットは、イベント終了後も同施設で継続して稼働しており、愛らしい動きはけいはんな学研都市のキャラクターの1つとなっています。



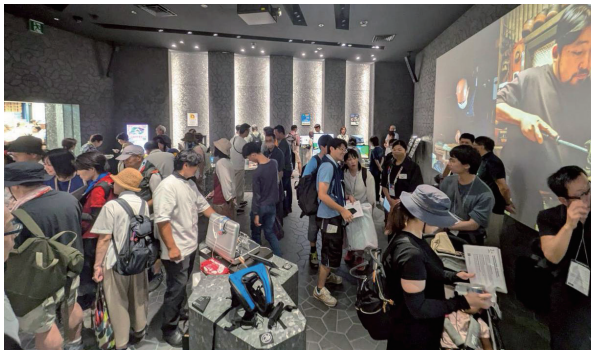
ロボット1台で公園の広い芝生エリアを管理

関西パビリオン 京都ゾーン
けいはんな万博2025の紹介

2025年7月28日～8月3日

事業名	関西パビリオン 京都ゾーン けいはんな万博2025の紹介
部会名	ウェルビーイング部会 ロボット・アバター・ICT部会
実施の形態	出展
参画機関	東レ建設, 未来食研究開発センター, 金沢工業大学, 京都光華女子大学 CCHサウンド, SHIN-JIGEN, けいはんなアバターチャレンジ, 奈良学園大学, 大阪府四條畷市, 奈良県立医科大学・MBTコンソーシアム, ゆずプラス, Universal Robot Lab, 工学院大学
実施期間	2025年 7 月 28 日～8 月 3 日
実施場所	関西パビリオン 京都ゾーン
事業の趣旨	けいはんな万博前半の総集編として、「食」「人間拡張」「VR」をテーマに最新の研究成果を展示。
事業内容	「食」4展示 「人間拡張」6展示 「VR」3展示
来場者数	約20,000名

2025年７月28日から８月３日までの１週間、「けいはんな万博2025」のPRを関西パビリオン京都ゾーンにて実施しました。本企画は、けいはんな万博2025前半の総集編として、「食」「人間拡張」「VR」をテーマに、けいはんな学研都市で進む最新の研究成果を紹介するものです。



■ 食

1. たのしく、楽に。高床式栽培のトレファーム



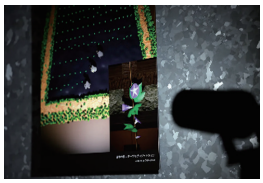
東レ建設（株）は、テーブルの高さ（高床式）で作業が楽になる100％砂栽培の新しい農作業スタイルを紹介。

2. 農業の未来を変える新しいイネ「京のゆめ」



未来食研究開発センター（株）は、通常のイネの２～３倍の速さで育つ新種「京のゆめ」を紹介。

3. 日本の里山 テーブルプロジェクション



金沢工業大学は、触覚ツールを組み合わせて、里山の自然の手触りを再現し、新しい体験型展示を提供。

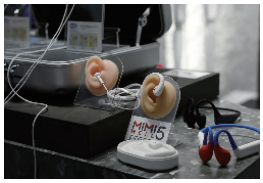
4.「食のバリアフリー」を目指す 京都からの提案

京都光華女子大学・同短期大学部は、食べる力が低下した方でも飲み込みやすいように材料配合を工夫した「やわらか和菓子」を展示。



■ 人間拡張

1. 未来の「聴こえ」がここに



(株)CCHサウンドは、軟骨伝導を応用したイヤホン（耳の軟骨だけを振動させて音を伝える）を展示。

2. 上腕作業支援用電動アシストスーツ



(株)SHIN - JIGENは、電動アシストスーツを出展。電動モーターとセンサーを搭載し、運搬作業をサポート。重量はわずか2kg未満と超軽量運搬作業をサポートする装着型ロボットです。

3. アバターロボットで観光しよう～けいはんなを散策～



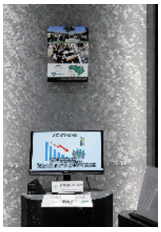
特非けいはんなアバターチャレンジは、京都ゾーンから「けいはんな記念公園」のアバターロボットを遠隔で動かし散策を楽しんでいただきました。

4.「つらい」を「楽しい」へ 未来のリハビリテーション体験



奈良学園大学は、バーチャル転倒体験システムで転倒する感覚を再現。VR ゴーグルとコントローラーを装着して仮想のダンベルを上下すると、時間差で映像が流れ、実際に重さを感じます。

5. 自動運転車を起点とした地域主体のまちづくり



大阪府四條畷市の東部に位置する田原地域の移動を支える自動運転の実証から実装に向けて、令和6年5月からボランティア団体が運航を開始しました。

6. 医学を基礎とするまちづくりと産業創生



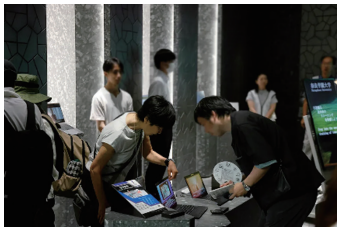
奈良県立医科大学・MBTコンソーシアムが連携して推進するMBT（Medicine-Based Town）は、医師や医学研究者がまちづくりや製品開発にコミットするユニークな取り組みです。

■ VR

1. 新しい学びの形「未来の教室」

株式会社ゆずプラスは、立命館大学と連携し、新しい学びの形として「未来の教室」を提案。「学びのWEBラボ」は京都府教育委員会オンラインで複数の学校をつなぎ、放課後の探究学習を支援する取り組みです。





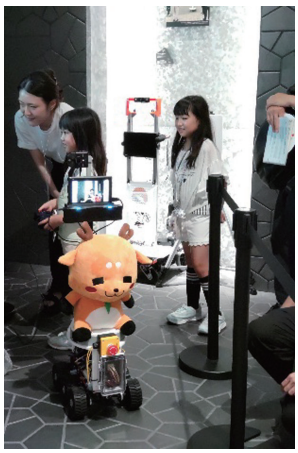
2. けいはんな防災VR動画 ～客室発 ― 実践型ホテル避難ＶＲシミュレーション～

Universal Robot Labは、けいはんな防災VR動画を出展。建物を精密な3Dで再現し、気象庁のデータに基づいた震度7 の地震をシミュレーション、災害時の緊迫感と行動の難しさを仮想空間で学べます。



3. 空中散歩

工学院大学VRプロジェクトは、空中散歩を提供しました。写真や全天球画像を使い、街の景観をリアルに再現。街の構造や特徴を学べます。





京都先端科学大学と大阪電気通信大学は自作アバター（遠隔操縦ロボット）の操縦体験をデモ展示

ナイスポ! NAIST EXPO 2025

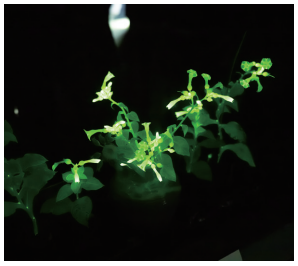
2025年9月27日

事業名	ナイスポ! NAIST EXPO 2025
実施の形態	現地開催 主催：奈良先端科学技術大学院大学
実施期間	2025年9月27日（土）10：00～15：00
実施場所	奈良先端科学技術大学院大学
事業の趣旨	学内施設を公開し、展示やデモンストレーションを通じて、本学の最先端の研究・教育を一般市民の方々に理解してもらうことを目的として実施。また、フリーマーケットやキッチンカーなどのコンテンツにて地域の活性化にも取り組む。
事業内容	体験プログラムやパネル展示等、本学の研究内容を知ることができるものや警察車両乗車体験や自衛隊体験コーナー、フリーマーケットやキッチンカーなどのお楽しみイベントを実施。
参加者数等	来場者数　4,000名程度

2025年９月27日に「ナイスポ！ NAIST EXPO 2025」を開催しました。

このイベントは子どもから大人まで広く地域の方に、奈良先端大の魅力を楽しみながら知っていただくことを目的とし開催している秋の恒例行事です。2025年は、大阪・関西万博及びけいはんな万博2025に合わせ、この時期に開催しました。

未来を支える最新技術として、本学の研究成果を体験できる体験プログラムや、研究室の最新の研究成果を分かりやすく紹介するパネル展示等に加え、２つの万博に出展した技術の一部を体験できる特別




万博出展の（左）電力不要の光る植物と（右）ロボット動物園ROBOZOO



万博出展の360°動画による生駒市のVR観光体験

展示も行い、未来の科学技術に触れる貴重な機会となりました。

また、お楽しみイベントとして、フリーマーケットやキッチンカー、阪急百貨店のスイーツ移動販売、生駒警察署による警察官体験、自衛隊奈良地方協力本部による自衛隊体験コーナー、バディフットサルクラブによるキックターゲット、株式会社アカリクによる縁日あそび、応援マルシェによるエアー玩具くじ引き等も開催したほか、本学の学生によるイベントも行いました。


キッチンカー


自衛隊体験コーナー

本学では最先端の科学技術と地域の魅力が融合した本イベントを通して、今後も科学を身近に感じてもらうとともに本学の魅力を発信し続けることでけいはんな学研都市の活性化に少しでも寄与できればと思います。

ATRオープンハウス2025「社会課題と向き合う科学技術の最前線」

2025年10月2日・3日

2025年10月２日・３日の２日間、株式会社国際電気通信基礎技術研究所（ATR）において「ATRオープンハウス2025」を開催し、800名を超える来場者を迎えて盛況のうちに終了しました。本イベントは、ATRが関連会社や連携機関とともに、最先端の研究分野・技術シーズとその社会実装への取り組みを広く発信する場として実施したものです。

今回は、展示約60件、講演５件（ライブ配信あり）という充実したプログラムで構成しました。従来の脳科学や深層インタラクション、無線・通信など「研究分野別・事業会社別」の展示構成から、「共生社会」「人と知能の融合」「つながるインフラと社会」「持続可能な地域と暮らし」といったソリューション別カテゴリーへと再編しました。これにより、ATRグループの研究開発や関連会社、連携機関の事業が、どのような社会課題の解決に貢献するのかをより明確に示す構成とし、課題解決志向の積極的な発信を行いました。

多彩な展示の中でも、人との対話を拡張するアンドロイドアバターの研究開発、脳内イメージの再構成技術、空芯ビームによる飛行中ドローンへのワイヤレス電力伝送、サイバネティックアバターによる大阪・関西万博での長期実証実験などが特に高い関心を集めました。研究者から直接、最先端かつ最新の知見を得られる点が高く評価され、来場者満足度は88％と非常に高い結果となりました。

講演プログラムではATRの社長・副社長ならびに上級研究者が登壇し、科学技術が社会課題の解決にどのように寄与していくのかについて具体的な展望を示しました。講演はライブ配信にも対応し、現地のみならずオンラインにも広く情報を届けました。

さらに、ATR創立40周年記念事業として「温故知新シンポジウム」も10月４日に開催されました。

参加者からは、「多様な分野の取り組みを一度に拝見できる貴重な機会であり、今後の研究のヒントになった」「初めて訪れたが大変面白かった」「学生でも無料で参加でき貴重な経験だった」などの声が寄せられました。ATRオープンハウス2025は、けいはんな学研都市の研究開発力と社会実装力を広く発信する、質の高いイベントとして期待に応える機会となりました。


社長講演

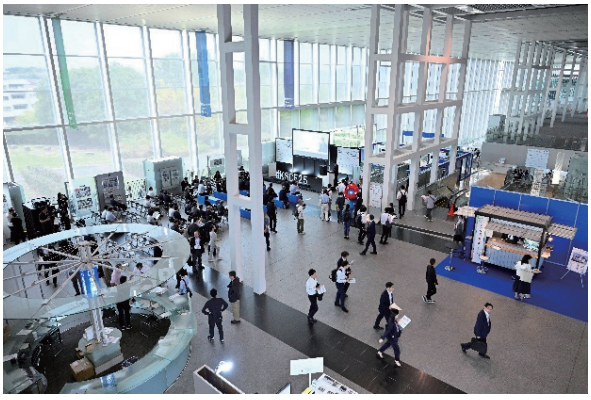

展示会場


スケートボードをするAI駆動ロボット

京都スマートシティエキスポ2025

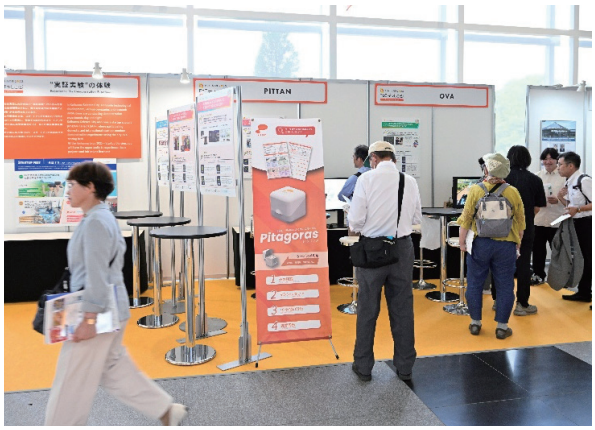
2025年10月2日～3日

事業名	京都スマートシティエキスポ2025
部会名	-
実施の形態	展示会・講演会
参画機関	京都スマートシティエキスポ運営協議会（京都府）ほか
実施期間	2025年10月2日～3日
実施場所	けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）
事業の主旨	スマートシティの新たなイノベーションを創出する国際イベント
事業内容	スマートシティをテーマにした日本最大級の講演・展示・交流イベント。 スマートシティに関する最新技術・サービスの紹介、セミナー・シンポジウムを通じ、サイエンスシティからはじまるビジネス交流を促進する。
参加者数等	来場者数 11,000名（延べ） 出展者数 121企業・団体



本イベントは2014年から継続するスマートシティをテーマとした国際イベントとして、国内外の最先端技術やサービスをけいはんな学研都市に集約し、交流や実証・実装を推進してきました。

今回は、「けいはんな万博2025」のグランドフィナーレを飾るイベントとして、「ポスト万博シティ」をテーマとする講演・セッションや、京都スマートシティエキスポの魅力を集約した特別企画展示が行われ、世界各国のスマートシティの取組を展示する「グローバルエリア」や、次世代モビリティの試乗体験ができる「モビリティエリア」など、特色ある様々な企画が実施されました。



その中の「学研都市体感エリア」は、けいはんな学研都市における研究開発活動や実証実験の成果を広く発信することを目的として設けられました。大阪・関西万博にも出展している研究機関の紹介のほか、PoCチャレンジゾーンとして、「けいはんな万博2025」におけるスタートアップ部会によるプロジェクトなどが紹介され、来場者がこれらの取り組みを実際に体感できる展示が構成されました。

同ゾーンでは、けいはんな学研都市内の実証フィールドを活用して社会課題の解決に取り組んだスタートアップ企業４社が、PoC（概念実証）の成果をデモ体験として提供しました。また、先端技術の概要や成果を説明するパネル展示が設置され、来場者はイノベーションの最新動向を実感しつつ、その社会的意義について認識を深める場となりました。

また、会場内には「テーマ別BAR」として、コンテナ型のコミュニケーションスペースが設置されました。学研都市体感エリアにおいては、「学研都市

BAR」と称し、来場者が気軽に立ち寄り意見交換や情報収集ができるような場が設けられました。



「モビリティエリア」は、来場者が将来の利用シーンを具体的に思い描けるよう設計されており、乗車体験のデモを通じて技術の利便性と社会実装の課題を五感で理解できる貴重な機会を提供しました。こうした身近に触れられる取り組みは、モビリティサービスへの理解促進と社会実装に向けた受容性の醸成に大きく寄与しました。

また、会場内には５つのステージが設けられ、国内外の企業、研究機関、自治体など多様な組織のトップランナーが登壇し、約40件の講演・セッションが行われました。



特にメインステージである「パッションステージ」では、けいはんな学研都市にゆかりのあるキーパーソンが登壇し、地域の特性やこれまでの取り組みを踏まえつつ、「ポスト万博シティ」として期待される将来像や、次世代に向けた研究開発や都市形成の方向性などが語られました。

アンドロイド研究の第一人者である石黒浩氏による講演では、アンドロイド技術がもたらす未来像や万博での取組が地域にもたらす可能性について示され、来場者から大きな期待が寄せられました。さらに、大阪・関西万博のシグネチャーパビリオン「いのちの未来」で展示されたアンドロイドが、エキスポ会場である、けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）へ移設されることが発表され、２月にはこのアンドロイドが一般の方々に向けて公開されました。



今回はロボット・アバター・ICTやウェルビーイングなど、けいはんな万博のテーマと連携した展示や講演が実施されました。また、最先端技術に関する展示に加え、出展者・参加者が交流できるブースツアーや出展者交流会なども実施され、単なる見本市の枠を超えて、イノベーション創出のハブとしての機能を着実に高める結果となりました。

さらに、本エキスポは、けいはんな万博の成果やネットワークを継承する「けいはんなオータムフェア」の中心的イベントとして位置づけられ、けいはんな学研都市が有する産学公連携の基盤と、エキスポが蓄積してきた国内外のネットワークを結び付ける役割を担っています。また、国内外のイベントとの広域的な連携とも相まって、年間を通じてイノベーションが継続的に生まれる環境の形成に寄与しています。

今後についても、京都スマートシティエキスポは「けいはんなオータムフェア」の核となるイベントとして、けいはんな学研都市で培われた技術やアイデアを国内外へ発信する取組を強化していく方針であり、地域発イノベーションの発信拠点としての役割がさらに高まることが期待されています。

京都フードテックEXPO 2025

2025年10月2日～2025年10月3日

事業名	京都フードテックEXPO 2025
部会名	ウエルビーング部会
実施の形態	講演、 セッション、 展示、 ピッチ
参画機関	京都府、 国、 大学、 企業、 研究機関等
実施期間	2025年10月2日～2025年10月3日
実施場所	けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）
事業の趣旨	国内外のフードテックに係る先端技術を有する大学や研究機関、 企業等が参画し、 フードテック活用の機運を高め、 社会実装につながる研究シーズと事業者ニーズ等の連携を促進するために開催
事業内容	展示会場には42の展示ブースが設置され、 ステージでは各種のセミナーや展示品の紹介、 ピッチコンテストを開催 学研フードテック共創プラットフォームからは、「発酵」と「お茶」に係る展示に加え、 農林水産省フードテック官民協議会も展示
参加者数等	京都スマートシティ EXPOと併催することで、 2日間で11，000人が参加

2025年10月２日(木)～３日(金)に、けいはんなオープンイノベーションセンター（ＫＩＣＫ）において、「京都フードテックＥＸＰＯ 2025」が開催されました。

京都の食文化や食品加工技術、気候変動への対応や農林水産業のスマート化と国内外の食に関する先端技術の融合を目指すイベントとして、フードテックの新たな事例や産学官連携の取組の成果が紹介されました。

展示会場には42の展示ブースが設置され、会場内のステージでは、各種のセミナーや展示品の紹介、ピッチコンテストが行われました。

毎年、「京都スマートシティＥＸＰＯ」と併催で開催しており、今回は11,000人が来場し、様々な展示を見学し、企画に参加されました。

産学官連携のフードテック（食×先進テクノロジー）の取組を推進している学研フードテック共創プラットフォーム（関西文化学術研究都市推進機構が事務局）内の「発酵グループ」と「お茶グループ」や農林水産省フードテック官民協議会も展示企画に参画しました。

国内外から多くの来場者があり、会場では活発に名刺交換や情報交換が行われ、大変有意義な次の展開につながる二日間でした。

〇発酵グループ展示
（奈良先端科学大・
高木特任教授他）

「酵母で切り開く発酵イノベーション」をテーマに、NAIST酵母等を使用したクラフトビール等を展示



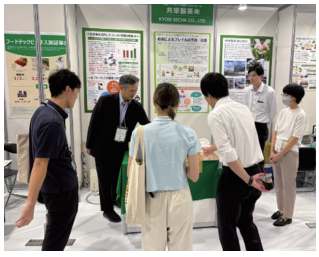
〇発酵未利用資源グループ展示
（京都府立大・
増村副学長他）

京都府立大学、摂南大学、酒造会社、京都府等で連携した取組の成果（飲物、食品等）を展示



〇お茶グループ展示
（共栄製茶・立開京都
テクノセンター長他）

共栄製茶と京都府立大学が「お茶とフレイル研究会」を実施しており、お茶がフレイル対策に有効であることを展示



〇農林水産省フードテック官民協議会展示
（農水省職員他）

協議会に参画している全国の産学官の取組をパネルや資料等で農林水産省職員が紹介



バイオインタラクション研究会 第29回ワークショップ

2025年6月27日～6月28日

事業名	バイオインタラクション研究会 第29回ワークショップ
部会名	国際会議部会
実施の形態	主催：バイオインタラクション研究会 けいはんな万博2025運営協議会との共催
参画機関	バイオインタラクション研究会 けいはんな万博2025運営協議会
実施期間	6月27日～6月28日
実施場所	けいはんなプラザ
事業の趣旨	生体分子間相互作用研究の発展を目指すことを目的とし、国内外の著名な学術研究者を招いて、ワークショップを開催するとともに、一般公開講演として未来に向けた「宇宙と生命・タンパク質」をテーマとして、分子の構造を科学的側面から理解し、宇宙へと広がるサイエンス分野への関心を醸成する
事業内容	6月27日　ワークショップ 時間：13時～17時20分 内容：国内外の著名な学術研究者6名による講演 6月28日　一般公開講演 時間：9時30分～15時 内容：バイオサイエンス研究に関わる企業の代表及び国内外の著名な学術研究者6名による講演、並びにJAXA宇宙飛行士による講演
参加者数等	6月27日：60名　6月28日：250名

生体分子間の相互作用の研究を通して生命科学の発展への寄与を目指すバイオインタラクション研究会の第29回ワークショップが６月27日、けいはんな万博2025の実施事業として、けいはんなプラザ会議室に60人の参加者を集めて開かれました。

この日はあわせて６つの発表があり、徳島大学の齋尾智英氏は、タンパク質が正しい形（立体構造）に折り畳まれるのを助ける分子シャペロンの分子機構を核磁気共鳴法（NMR）などで解析した結果を紹介。この分子はタンパク質の特定部位に結合し、凝集を抑制して最も速く進む経路を辿るよう、反応条件を調整していることに触れられました。

韓国基礎科学研究所のYoung-Ho Lee氏は、疾病に関わるタンパク質凝集の分子機構についてNMRや熱量計を用いた解析事例を紹介、タンパク質凝集を防ぐ方法論についても言及されました。

ジャウメ１世大学のVicent Moliner氏は酵素の反応機構について説明、反応の安定化する遷移状態の仕組みを分子動力学計算などの応用で説明できることを示されました。

京都府立大学のMasayuki Takahashi氏はDNAが二重鎖を形成する際の水和の影響について述べ、DNAの安定性などにも影響することを例示されました。

東京理科大学の西野達哉氏は、染色体分離とDNA複製における真核生物ヒストン複合体の構造分析について、バークレー研究所のSusan Tsutakawa氏は、感染症に関わるタンパク質の動的複合体形成と立体構造をテーマに、それぞれ話されました。

バイオインタラクション研究会の講演会２日目となる28日は「一般公開講演2025」と銘打ち、けいはんなプラザ大会議室に250人の参加者を集めて開催されました。

最初は「宇宙でタンパク質を結晶にする」がテーマで、丸和栄養食品の伊中浩治氏が、JAXAにおける高品質タンパク質結晶生成実験について紹介、タンパク質の結晶化によって立体構造が決定され、医薬品の開発にもつながることを説明されました。

次に徳島大学の齋尾智英氏が「タンパク質の形を

見る」と題し、その立体構造解明のために、X線結晶構造解析やNMRなどの手法があることを紹介されました。

東京理科大学の西野達哉氏はタンパク質の１つミオグロブリンを取り上げ、参加者個々に実習する形で、いかにタンパク質の立体構造が予測されるか説明されました。

続いて、世界各国での生命科学研究の実情についての発表が相次ぎ、韓国基礎科学研究所のYoung-Ho Lee氏は同研究所の様々な実験機器の紹介と活用の実例、ジャウメ１世大学のVicent Moliner氏はスペインの所属大学の研究環境、バークレー研究所のSusan Tsutakawa氏は日米両国で研究に取り組んだ経験から各国研究者の交流の必要性、フランスで研究生活を送った京都府立大学のMasayuki Takahashi氏は海外での研究で得た収穫について、それぞれ話されました。

最後は、国際宇宙ステーションに長期間滞在して、様々な活動に取り組んだJAXA宇宙飛行士の古川聡氏が、宇宙における研究や行動について動画を交えながら講演。「いろいろなことに興味を持ち、自分の好きなことや得意なことをよく見つめ、夢を持って挑戦してください」と、会場の参加者に呼びかけられました。



ＪＡＸＡ宇宙飛行士の古川聡氏による講演

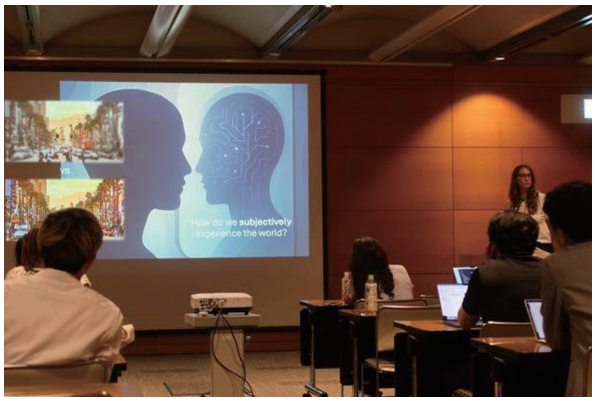


けいはんな万博2025での公開講演関係者（６月28日）

第1回デコーディッド・ニューロフィードバック国際シンポジウム

2025年7月17日～18日

事業名	第1回デコーディッド・ニューロフィードバック国際シンポジウム
部会名	国際会議部会
実施の形態	主催:株式会社国際電気通信基礎技術研究所 けいはんな万博2025運営協議会との共催
参画機関	株式会社国際電気通信基礎技術研究所 けいはんな万博2025運営協議会
実施期間	7月17日～7月18日
実施場所	奈良春日野国際フォーラム、 けいはんなプラザ
事業の趣旨	脳の活動パターンをリアルタイムで計測し、操作・調整することを通じて、学習能力の向上やトラウマの記憶の影響軽減などを実現する技術であるデコーディッド・ニューロフィードバック研究のさらなる発展を目指す。
事業内容	7月17日 時間：9時～17時15分 内容：特別講演に加え、海外を含む研究者12名による講演、併せてポスターセッションを実施 7月18日 時間：10時～15時 内容：DecNef技術の進歩に関する講演を基調としたワークショップ
参加者数等	7月17日：46名　7月18日：41名



カリフォルニア大学アーバイン校のMegan Peters氏による講演

脳活動のデータを解読し、その情報を即座に脳へとフィードバックする手法「デコーディッド・ニューロフィードバック（DecNef）」に関わる研究者らが参加して、DecNefの現況と将来について意見を交わす国際シンポジウムが７月17日と18日の２日間、けいはんな地域で開催されました。

初日の17日は、奈良春日野国際フォーラム甍を会場に46人が参加し、開会セレモニーに続いて最新の研究成果が次々と報告されました。

カリフォルニア大学アーバイン校のMegan Peters氏は、「脳はいかにしてノイズを多く含む不完全な情報に基づき計算を行うか」という自身の研究テーマに関連し、脳が自身のノイズを学習するDecNef課題などが有用であるとして、ノイズを学習し、最小化する強化学習ベースの拡散モデル「NERD」を開発、DecNefにおける人間行動が説明できることを示しました。

BCBL（バスク認知・脳・言語センター）のDavid Soto氏は、fMRIを用いたDecNefにより、参加者が無意識に「犬」などの知覚パターンを脳内に再現できるよう訓練した一連の実験結果を報告しました。その検証から高次の連合学習には意識が必要である一方、低次の神経表象の変化は無意識下でも起こり得ることが示された、と述べました。

このほか11人の研究者が登壇し、国際電気通信基礎技術研究所（ATR）が開発に関わったDecNef技術を取り入れた様々な研究成果が報告されました。

18日は、会場をけいはんなプラザに移し、ワークショップが開催され、DecNefの実践的活用のためのシステムや関連ソフトの紹介、ならびにデモンス



奈良春日野国際フォーラム甍

トレーションが行われました。

ATRのHugo Six氏と岡大樹氏は、「DecNef toolbox」について述べ、「fMRI前処理、機械学習によるデコーダー構築、リアルタイムフィードバック実験を包括的に支援するツール群で、デモ用データやGUIランチャー、MNI空間、ネイティブ空間でのGPU対応処理も備えており、研究者による応用と解析を加速させることが目的である」と、その普及に期待を寄せました。

続いて、モントリオール大学のVincent Taschereau-Dumouchel氏は、標準脳（MNI空間）での全脳活動をリアルタイムに処理・解読可能な新バージョンの「DecNef toolbox」を紹介。「20万ボクセルを超える脳活動データをGPUで並列処理し、一般的なパソコンでも動作可能なので、DecNefの応用範囲が臨床研究および基礎研究の双方に広がる可能性がある」と、今後の展望を語りました。

さらに、前日に引き続き登壇したBCBLのDavid Soto氏は、機械学習を用いた適応的デコーダーの開発について述べ、被験者の脳活動に応じてデコーダーがリアルタイムに更新されることで、シミュレーションと実験の双方で有効性を確認できたことに言及し、「このアプローチはDecNefの精度と信頼性を高め、臨床応用の可能性を広げる。ツールは公開されるので、今後の研究での活用に期待したい」と、参加者に呼びかけました。



けいはんなプラザ

きょうと国際学生サミット2025

2025年8月1日～4日

事業名	きょうと国際学生サミット2025
部会名	国際会議部会
実施の形態	主催：京都府 けいはんな万博2025運営協議会との共催
参画機関	京都府、けいはんな万博2025運営協議会
実施期間	8月1日～8月4日
実施場所	大阪・関西万博会場（夢洲）、けいはんな記念公園、けいはんなプラザ　ほか
事業の趣旨	大阪・関西万博の開催を契機として、京都府の友好提携州省等7地域の外国人学生と府内の日本人学生との国際交流及び京都の地域や文化に関する体験を通じて、広く国内外へのけいはんな地域を含めた京都の魅力を発信し、より多くの外国人学生の誘致及び定着を図る
事業内容	8月1日　大阪・関西万博視察 8月2日　京都市内においてKYOTO地球環境の殿堂「未来会議」学生ワークショップ参加 8月3日　けいはんな万博2025等を視察後、けいはんなプラザにて国際学生サミット開催 8月4日　本プログラムの振り返り
参加者数等	27名


パビリオンスタッフとの交流の様子

京都府が友好提携を結ぶ中国・陝西省や、米国・オクラホマ州など６つの地域とベトナム・フエ市から招へいした留学生14人と、大学・大学院などで学ぶ日本人学生13人が参加して、「きょうと国際学生サミット2025」が８月１日から４日まで、大阪・関西万博やけいはんな万博の会場などを舞台に開かれました。

１日目は大阪・関西万博の視察で、まず関西パビリオンを訪れて、京都ゾーンで、けいはんな万博の一部を体験するなど日本や関西・京都の魅力にふれた後、会場内のミャクポ！テラスで京都府の友好提携先である各国地域やベトナムのパビリオンスタッフと、参加学生による交流、対話の機会が設けられました。学生たちは「ただ予約して入館するだけではできないことを体験できた」「国同士の外交や特別にセットされた訪問など、万博の裏側の仕組みについても学ぶことができた」と、大きな収穫を得た喜びを語っていました。

２日目は、KYOTO地球環境の殿堂「未来会議」が企画する学生ワークショップに参加し、古来文学探求プロジェクトの参加学生とともに、「徒然草」「枕草子」や和歌などの古来文学にふれ、日本古来の文化と自然との共存について学びました。

最初に桂川・嵯峨嵐山でのフィールドワークを実施。和歌や物語などに登場する動植物の観察や、音色を満喫する「虫の音散策」で、古都の風雅を味わうと、次に海外からの賓客をもてなしてきた京都迎賓館の見学で、伝統的な日本建築と最高の職人技が生み出した調度品が織りなす美の世界を体感。最後は和菓子作りのワークショップで、職人の指導を受けながら、上菓子作りに挑戦しました。


桂川・嵯峨嵐山フィールドワークの様子


大阪・関西万博会場と遠隔じゃんけんを楽しむ様子



参加者一人ひとりが明日からできる行動（アクション）を宣言する様子

３日目は、まず、けいはんな万博2025の視察で、この地域の魅力の発見や文化を体験するプログラムに取り組みました。最初に、けいはんな記念公園内でのアバター体験。「ロボット・アバター・ICT」の研究技術を活用したアバターロボット観光を楽しむため公園内の水景園を訪れ、大阪・関西万博の関西パビリオンとリアルタイムでつながったアバターロボットで簡単な会話やじゃんけんなど、ロボットを介しての万博会場との交流を楽しみました。次に日本の文化を代表する茶の栽培や加工、茶の文化について研究する「福寿園CHA遊学パーク」を訪問、抹茶の原料である碾茶を石臼で挽き、挽きたての抹茶を使ってお茶を点てるアクティビティを体験しました。

プログラムの最後には「きょうと国際学生サミット」を実施。参加者がこれまでの人生や今回の体験で得られた自分たちの考えについて話し合い、全員で共有しました。サミットのテーマは「予測不能なグローバル社会において、平和で持続可能な未来を創るために、地域が持つ可能性・価値・役割とは？」で、日本だけでなく地球規模の未来を、国籍を超えたメンバーとの対話を通して考え、最後に自分が明日からできる行動（アクション）を参加者一人ひとりが宣言。学生たちは、プログラムで得た学びを日常生活でも行動に移せるよう努めることを誓い合いました。

地球環境ユースサミット2025 in KYOTO
京都・けいはんなサミット

2025年8月4日～6日

事業名	地球環境ユースサミット2025 ｉｎ KYOTO 京都・けいはんなサミット
部会名	国際会議部会
実施の形態	京都超SDGsコンソーシアム　地球環境ユースサミット2025実行委員会 けいはんな万博2025運営協議会との共催
参画機関	京都超SDGsコンソーシアム　地球環境ユースサミット2025実行委員会 けいはんな万博2025運営協議会
実施期間	8月4日～8月6日
実施場所	木津高校、南陽高校、岩船寺、株式会社国際電気通信基礎技術研究所、福寿園CHA遊学パーク、けいはんなプラザ
事業の趣旨	国内外の中高生を対象に、グローバル社会における課題に対して共感を得る力や、それを実現できるスキルの習得を目指すとともに、多様な社会問題について考えを深め、発信していく力を醸成する
事業内容	8月4日　けいはんな視察 ①木津高校コース ②南陽高校コース ③けいはんな学研都市コース 8月5日 2025年3月からのオンラインによるグループワークを踏まえた成果発表 併せて、一般の方々も参加できる地球環境ユースフェスを実施 8月6日 活動のまとめと、10月の最終発表会に向けてラップアップミーティングを実施
参加者数等	8月4日：76名　8月5日：150名　8月6日：54名

持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けて、環境問題や社会問題の課題解決への道筋を探るべく活動に取り組んでいる内外の中高生が参加して、「地球環境ユースサミット2025 in KYOTO　京都・けいはんな」が８月４日から６日まで、けいはんな地区の各所を会場に開かれました。

「ユースサミット」の活動は、2020（令和２）年から開講した「京都大学SDGsリーダープログラム」を発展させ、2023（令和５）年３月に京都市京北地区で「地球環境ユースサミット2023 in KYOTO」を開催、24年は「同サミット2024」としてオンラインでの年間プログラムと宮津市での実地サミットを実施しました。本年度は、大阪・関西万博や、けいはんな万博も契機として活動の場を広げ、けいはんな学研都市地域での視察や交流を通してさらなる議論の深化を図ろうと企画されました。

初日となる４日は、実地で学びを深めようという



岩船寺拝観


有機農業の田んぼを視察


環境問題や社会問題についての解決策に関する中間発表


ラップアップミーティング

「けいはんな視察ツアー」で、①木津高校コース、②南陽高校コース、③けいはんな学研都市コースの３つのコースに分かれて、①は木津高校における呈茶体験と有機農業、茶畑などの見学、②は岩船寺の拝観と南陽高校でのディスカッション、③はATR（国際電気通信基礎技術研究所）や福寿園CHA遊学パーク見学というメニューで、それぞれ見聞を深めました。

２日目の５日はけいはんなプラザ３階大会議室で、2025年２月から参加ユースメンバーらが準備してきた、環境問題や社会問題の解決策に関する中間発表を10グループがおこないました。この催しは一般の人たちにも参加いただくなど広く門戸を開放して行い、ふだん関わる機会のないさまざまな立場の人の意見も聞いて、メンバーにとっては得難い経験になったようでした。

また、木津高校によるハーブティーブレンド体験やフリーマーケット、環境に関するゲーム、アフリカ出身の研究者とのディスカッションなど、さまざまな企画で会場を盛り上げることができました。

この後、夕刻からは懇親会があり、サミット参加者に加え、常に適切な指導、助言をいただいたメンターの方々や行政関係者らも参加して、立場を超えて成果を喜び合う交流の場を持つことができました。

最終日となった６日は午前９時からラップアップ対話。１日目、２日目で得た知見も踏まえ、グループごとに10月の最終発表に向けて議論を深めました。これが、ユースサミットでは唯一の対面でおこなわれたことで、オンライン活動以上に実のある時間となりました。

生命の起源に関する国際シンポジウム

2025年9月16日～18日

事業名	生命の起源に関する国際シンポジウム
部会名	国際会議部会
実施の形態	けいはんな文化学術協会 けいはんな万博2025運営協議会との共催
参画機関	けいはんな文化学術協会　奈良女子大学 大和・紀伊半島学研究所 共生科学センター けいはんな万博2025運営協議会
実施期間	9月16日～9月18日
実施場所	けいはんなプラザ
事業の趣旨	生命の起源を研究する国内外の研究者が一堂に会して研究の成果や目標を共有することにより、生命の起源の謎を明らかにする
事業内容	9月16日 時間：13時～18時 内容：海外を含む研究者6名による講演、併せてポスターセッションを実施 9月17日 時間：10時～17時 内容：海外を含む研究者10名による講演 9月18日　一般公開講演及びエクスカーション 時間：10時～16時 内容：午前は講演　午後は2班に分かれてエクスカーション
参加者数等	9月16日：54名　9月17日：45名　9月18日：94名



写真右端は、講演するH. Cottin氏

生命の起源を探る研究に取り組む国内外の研究者が一堂に集い、最新の研究成果を持ち寄り議論する「生命の起源に関する国際シンポジウム」が９月16日から18日まで、けいはんなプラザ大会議室で開かれました。

生命の起源に関する研究は、1986（昭和61）年にW.Gilbert氏によって提唱されたRNA（リボ核酸）の自己複製によって形成されたRNAワールドから生命が生まれたというRNAワールド仮説や、地球の初期生命が深海の底にある熱水噴出孔の周辺で誕生したとする仮説、生命そのものや生命誕生に必要な有機化合物を宇宙に求める宇宙起源説を中心に進められてきましたが、生命起源の謎はまだ明らかにされていません。今回のシンポ開催を主導した池原健二・奈良女子大学名誉教授は、2000（平成12）年にRNAワールド仮説と対極にあるGADVタンパク質ワールド仮説を提唱。世界の研究者が集まるこの場で、どう議論が深まるか期待が集まりました。

１日目は、最初に池原氏の講演「なぜ、今なお生命の起源の謎が解けないのか？」で、「アミノ酸配列を形成する前の特別なアミノ酸組成の重要性に対する理解不足によるものではないか」と指摘。持論を展開しました。

２日目はRNAワールド仮説の観点に立つ研究者も登壇、Antonio Lazcano氏（メキシコ国立自治大学）は「生命の起源と初期進化：RNAの役割の再評価」と題し、進化の観点からも生命の起源にRNAが重要な役割を果たしたと考えられることを強調。Ulrich Műller氏（カリフォルニア大学サンディエゴ校）は講演「生命の初期段階における触媒RNA」で、触媒RNA分子（リボザイム）に注目し、生命





ポスターセッション（会場）の様子



写真右端は、講演するU. Müller氏



檀上左から順にU. Müller氏、藤島皓介氏、右端は池原健二氏

の出現においてそれがどんな役割を果たすか検証を繰り返す中で得られた成果を報告しました。

３日目は午前中に一般向けの公開講演会を開き、RNAワールド仮説を基にして生命の起源を研究するUlrich Műller氏、RNAとタンパク質との複合体を基礎に研究する藤島皓介氏（東京科学大学）、GADVタンパク質ワールド仮説を展開する池原氏と、それぞれ立場が異なる３人による講演がおこなわれました。

Műller氏は「生命の初期段階における触媒RNA」の演題で、GTP合成リボザイムが芳香族化合物やペプチド、DNAの補助を受けることによって、より小さいRNAリボザイムを形成できると、次々話を展開して、さまざまなリボザイムの形成を通して得た生命の起源を探る手応えに言及。藤島氏は「生命誕生の舞台を探る；化学進化のための新たな反応場」と題して、深海の超臨界状態の二酸化炭素と水が共存する環境下で、アミノ酸やヌクレオチドの脱水重合によってペプチドやRNAを形成できることから、生命誕生の新たな場として深海における超臨界状態の二酸化炭素と水が共存する環境が提案されました。池原氏は「生命はどのようにして生まれたのか？」のシンプルな表題で、化学進化から生命誕生までの過程を、未熟タンパク質の形成、[GADV]-ミクロスフェアの形成、代謝系の形成、遺伝暗号（tRNA）の形成、遺伝子の形成、そして生命の誕生へと説明できる、としました。

最後に３人の講演者を囲む形で議論がおこなわれ、それぞれ違う立場から生命の起源を探る研究者が集まって議論し合うことが重要となることを確認したうえで、「生命とは何か」などについて、会場の参加者も交えて話し合いました。

ATR温故知新（故きを温ねて新しきを知る）シンポジウム

2025年10月4日

事業名	ATR温故知新（故きを温ねて新しきを知る）シンポジウム
部会名	国際会議部会
実施の形態	主催:株式会社国際電気通信基礎技術研究所 けいはんな万博2025運営協議会との共催
参画機関	株式会社国際電気通信基礎技術研究所 ATR-Graduate けいはんな万博2025運営協議会
実施期間	2025年10月4日
実施場所	株式会社国際電気通信基礎技術研究所
事業の趣旨	これまで研究者の自由な発想を大切にするATRにおいて、行われてきた研究開発に携わってきた研究者を海外から招いて講演会を開催
事業内容	10月4日 時間：13時30分～17時30分 内容：ATR研究歴の5名の海外研究者による講演 併せて、講演者及び国内研究者によるパネルディスカッション
参加者数等	約150名



アレックス・ワイベル教授

国際電気通信基礎技術研究所（ATR）の40周年記念事業として、ATRが切り開いてきた技術開発の進化の道筋を検証し、未来につなぐシンポジウム「ATR温故知新（故きを温ねて新しきを知る）」が10月４日、ATR大会議室とWEB参加により開かれました。

先端的な研究開発が続けられてきたATRにおいて、その先駆的な取り組みが近年の驚異的な技術革新に大きな影響を与えたとされる研究者たちを海外から招き、ATRで研究に励んだ当時の挑戦的な研究環境や、新たな発想へのヒントなどについて語ってもらうのがねらい。駆け付けた５人の研究者がATRでの思い出も含め、自分の研究にかける思いを披露しました。

最初は、コンピューターサイエンスが専門で自動翻訳機の開発に取り組んできた、カーネギーメロン大学およびカールスルーエ工科大学のアレックス・ワイベル教授が「バリアフリーな言語：夢から現実へ」と題して講演。AIと音声・言語システムの発展過程と、これまで開発したものと今取り組んでいる課題を紹介し、長い時間をかけて多くの困難にも屈せず努力を続け、人々の夢を実現するには何が必要だったのかを説き明かしました。

次にオクラホマ大学のトム・レイ動物学教授（計算機科学准教授）が、「強力なアイデアの連鎖：熱帯雨林（大量絶滅の危機）から人工生命、人間の心、そして人工知能へ」の演題で話し、先が見えず、追求する道が未だ存在しない中で生まれたアイデアが長い歳月をかけて実を結んだ過程を説明。自分のキャリアを確立したアイデアの最初の２つは、16歳の時に思いついたものだとして、会場を驚かせました。


トム・レイ教授


クリスタ・ソムラー教授＆ロラン・ミニョノー教授


セトゥー・ビジャヤクマール教授



パネルディスカッション参加者：全講演者およびATRにおいて研究等を行った下原勝憲 同志社大学 名誉教授（写真左端）、片桐 滋 同志社大学 名誉教授（写真左から二人目）、そしてATR 代表取締役社長：浅見 徹（写真右端）

リンツ工科造形芸術大学のクリスタ・ソムラー教授とロラン・ミニョノー教授は「生き物としてのアートワーク：人工生命からインタラクティブ・アートへ」と題し、アーティストおよび研究者として活動したATRでの10年間を回顧。人工生命アルゴリズムや革新的なヒト・コンピューターインターフェイスの開発に携わった経験がその後のキャリア形成にどれほど役立ったかと、その思いを口にしました。

最後はロボット工学が専門のセトゥー・ビジャヤクマール・エジンバラ大学教授が「AI搭載のヒューマノイドロボットとそれが支える未来社会」の標題を掲げて人間社会の支援システムの中核を担うようになった人型ロボットの進化に言及。それでも「何でもできる」までには至らないとして、課題克服に向けての強い意欲を示しました。

この後、発表者の５氏にATRで活動を共にした下原勝憲・同志社大学名誉教授、片桐滋・同大学名誉教授、浅見徹ATR社長が加わってパネルディスカッションをおこない、ATRで培った深い絆で発表の最後を締めくくりました。

第５章

将来展開とロードマップ

けいはんな万博で得られた成果を今後発展させていくためには、単なる技術の進展にとどまらず、議論と人材の循環を維持・強化する制度設計が重要です。本万博の経験は、平時からの議論基盤が危機耐性を生み、大規模プロジェクトの成立を支えることを明確に示しました。

今後のロードマップとしては、まず実証フェーズで得られた知見を基に社会実装を進める段階が想定されます。この段階では、万博期間中に検証された技術やサービスを実社会で継続的に運用し、その有効性や持続可能性を確認していきます。特に、ロボティクスやアバター技術、ウェルビーイング関連の取り組みについては、地域社会や産業分野における具体的な活用が期待されます。

次に、社会実装で確立されたモデルを基に、国際展開へと接続する段階に移行します。この段階では、「調和型イノベーション」の枠組みを国際的に発信し、他地域との連携や共同プロジェクトの創出を目指します。ここで重要なのは、技術そのものの輸出ではなく、理念・仕組み・実装を一体としたモデルの共有です。

これらの段階的発展を支える基盤として、議論と人材の循環を制度的に確保することが不可欠です。特に、「けいはんな大学」サミットのような取り組みを継続・強化し、大学・研究機関・企業間の連携を通じて人材育成と知の共有を進めることが重要です。また、優れた研究成果やシステム・ツールを相互に持ち寄り、学生など次世代の担い手が自由な発想で組み合わせて活用できる環境を整えることも重要です。データ共有に加えて、こうした研究成果そのものの共有が不十分である点は今後の課題であり、人材と知の循環を一層活性化させる基盤整備として検討すべき内容です。共創の場を継続的に提供することで、新たな課題設定と価値創出が繰り返される環境を整備する必要があります。

さらに、本万博の経験が示した重要な教訓は、平時からの議論の蓄積の重要性です。2019年に開始された議論が、コロナ禍による断絶を経てもなお機能したことは、知的基盤の有効性を示しています。今後は、継続的な議論の場を制度的に確保し、危機時にも機能する柔軟な運営体制を構築することが求められます。

以上のように、将来展開とロードマップは、技術の進展だけでなく、議論・人材・制度の三位一体の強化を軸として設計されるべきです。これにより、けいはんなは単なる技術開発拠点にとどまらず、未来社会を構想し続ける持続的な知的基盤として機能することが期待されます。

「けいはんな大学」サミット

2025年9月8日～11日



３チームから、「学び」「居場所」「政治」の三つの切り口で、それぞれが主体的に関わる未来像を発表



活発な質疑応答



学生と指導担当スタッフとの熱のこもった議論

未来の当事者である若者たちが、人口減少とともに縮小が進む日本社会において、これまでとは異なる価値観のもとで豊かさを実感できる未来をどのように描き、どのように実現していくのか。その問いに向き合う場として「けいはんな大学」サミットが９月８日から11日にかけて開催され、けいはんな大学（仮）として全国から集まった学生たちが、未来洞察ゼミで培った視点を携えて議論を深めた。サミットは、未来洞察ゼミの研究成果「2050年縮小日本における新しい豊かさ像」を土台とし、けいはんな学研都市を“未来の実験区”として位置づける構想のもとに実施されたものである。

初日は大阪・関西万博の視察を通じて、学生同士が互いの興味や価値観を共有し、翌日からの議論に向けて感性を整えた。続くワークショップでは、講師との対話を通じて自らの考えを磨き上げ、チームとして未来への提言を形づくっていった。そして最終日の成果発表では、コミュニケーション×「学び」「居場所」「政治」のそれぞれ三つの切り口から、学生たちはそれぞれの未来像を提示したが、その根底には共通する理念が流れていた。

それは、AIやMR（Mixed Reality：複合現実）、メタバースといった先端技術を単なる効率化の手段としてではなく、一人ひとりが自分らしく生きられる社会――“皆の個の実現”を支えるための基盤として活かすという考え方である。学びの領域では、AIが知識習得を支える未来において人間が追求すべき「問いを生み出す力」の重要性が示され、居場所の領域では、技術が孤独を解消し新たなつながりを生む可能性が描かれ、政治の領域では、市民一人ひとりが意思決定に主体的に関わる未来像が提案され



「けいはんな大学」サミットの参加者

た。いずれも、個人の価値観や感性が尊重され、誰もがそれぞれの“個”を発揮できる社会を目指すという点で一致している。

こうした未来像は、けいはんな学研都市そのものの再定義にもつながっている。研究と産業、市民生活が地続きにつながるこの地域だからこそ、若者の構想力を社会実験として受け止め、実装へとつなげる循環が生まれうる。サミットで芽生えた提案の数々は、今後のけいはんなの文化や制度、技術開発の方向性に新たな視点をもたらす可能性を秘めている。

今回のサミットは、未来洞察ゼミの知的成果を社会に開き、けいはんなが未来社会の創造拠点として歩み出すための重要な一歩となった。今後も、けいはんな大学を中心に、若者・企業・研究者・市民が交差しながら、個の尊重と共創を軸とした未来社会の実現に向けた取り組みが進んでいくことが期待される。


学生たちの議論はグラフィックレコーディングで丁寧に可視化され、考えを深めていく過程そのものが、記録にも記憶にも刻まれた。

ポスト万博シティけいはんなの未来図 SFアニメーション

1. 概要

けいはんな万博2025運営協議会は、2050年におけるけいはんな学研都市のありたい姿を「ポスト万博シティけいはんなの未来図」と題して制作しました。SF（サイエンス・フィクション）の物語として未来像を試作品（プロトタイプ）化する手法で描かれています。この作品は2025年10月11日のけいはんな万博2025閉会セレモニーで上映され、目指すべき未来像を共有することで、地域の連帯を深めることを目的としています。

2. アニメーションの構成と内容

（1）基本理念の紹介

作品の冒頭では、けいはんな万博2025シンボルキャラクター「みらるる」が登場し、「文化と科学の融合を通して、人類や地球の幸せを共に考え、誰もが幸せに暮らせる未来社会を創り上げる」という、けいはんなの理念を紹介します。

（2）人とロボットが共生する社会

アニメーションでは、人とロボットが「自然」と調和しながら共生する未来社会の姿を描いています。ロボットは社会を支えるエッセンシャルワーカーとして活躍し、森林保全や生物多様性の維持、CO_2吸収への貢献、洪水や土砂災害の防止、さらには生活支援やインフラ維持など、多岐にわたる分野で重要な役割を担っています。

（3）未来のモビリティとエネルギー

街中では自動運転モビリティが行き交い、誰もが自由に移動できる環境が整備されています。その燃料には、空気中から回収したCO_2を利用して生成する合成燃料が用いられています。

（4）文化・交流・食の未来

言語の壁を越えて世界中の人々と交流できる技術、日常生活に欠かせない「究極の食」の登場、世界の文化・歴史・科学が交差する新たな祭りの開催など、未来社会が持つ豊かさと多様性が表現されています。



新しいスタイルの祭りを楽しむ様子

3. まとめ

本アニメーションは、けいはんな学研都市の未来像を視覚的に示し、未来志向の議論を促すツールとして制作されました。閉会セレモニーでの上映を通じて、ポスト万博シティのビジョンが共有され、今後多様な人々が都市の未来を共に考え、創り上げる担い手となることが期待されます。



あらゆる世代の多様な人々が交流し、新たな価値を共創するコミュニティ

▶ 本作品をご視聴いただけます。
https://www.youtube.com/watch?v=wrsN0MM14wQ

けいはんな万博 2025



みらるる
けいはんな学研都市シンボルキャラクター

けいはんな万博の
愛されるレガシー

みらるるをこれからも
よろしくお願いいたします。

結論

けいはんな万博2025は、「調和」「持続的イノベーション」「世界展開」という三層構造を提示した取り組みです。本万博では、科学技術を単なる目的としてではなく、人間の生活や文化、自然環境との関係性の中で再位置づける「調和」の理念が示されました。また、この理念を実現する仕組みとして、「共創・実証・事業化」の循環構造が構築され、人材と知の循環を基盤とする持続的イノベーションモデルが形成されました。さらに、これらの成果は地域にとどまらず、国際的な知と産業へと展開され、「調和型イノベーション」という価値観が世界に向けて発信されました。

このように、本万博は単なるイベントではなく、理念・仕組み・実装を一体化した社会モデルを提示した取り組みです。特に、議論の蓄積が危機耐性を生み、人材と知の循環が継続的な価値創出を支えるという構造は、今後の政策形成や産業戦略に重要な示唆を与えます。

一方で、本万博は従来の博覧会のように事前に計画を練り上げて構築されたものではなく、新型コロナウイルス感染症の影響により、約３年間にわたり実質的な議論が困難な状況を経て再始動した、不確実性の中で形成された活動です。その中でも、2019年に開始された「万博を考える会」における議論の蓄積が機能し、短期間で構想を具体化することが可能となりました。このことは、大規模プロジェクトの成否が平時からの議論基盤に大きく依存することを示しています。

本万博の運営においては、いくつかの課題も明らかになりました。活動の中心が各組織の一部に偏り、けいはんな地域全体への浸透が十分でなかった点や、分散型・ボトムアップの進行により全体ビジョンの共有や進捗の可視化が十分でなかった点は、今後の改善課題です。また、成果の創出においては、参加者の努力に加え、偶発的要素に依存する側面も見られました。これらは、制度設計や運営体制の強化の必要性を示しています。

今後に向けては、本万博で構築された基盤を継続的に発展させることが求められます。そのためには、共創の場を維持し、多様な主体が参加する議論を制度的に支えるとともに、人材育成と知の共有を継続的に行う仕組みを強化する必要があります。また、実証から社会実装、さらには国際展開へと段階的に発展させることで、けいはんなの取り組みを持続的な価値創出へと接続していくことが重要です。

けいはんな万博の経験は、未来社会の構築において、技術のみならず、議論と人材の基盤が不可欠であることを明確に示しました。この知見を踏まえ、けいはんなは今後、世界に開かれた知的拠点として、未来社会を構想し続ける役割を担っていくことが求められます。

コラム

コラム

塩﨑一裕　奈良先端科学技術大学院大学　学長
（けいはんな万博2025運営協議会　座長）



（写真中央：潮﨑一裕学長）

後になって凄いと分かる物事が、当初はまったく評価されなかったというエピソードは、巷に数多くあります。その新たな例として、けいはんな万博2025や大阪・関西万博も追加されたのではないでしょうか。

けいはんな万博の運営協議会において松本 紘・堀場 厚 共同代表の下、座長を務めさせて頂いた私自身、当初はその成功に確信はありませんでした。けいはんな学研都市コミュニティーを構成する多様な学術・研究機関、企業、住民の方々などが、協働して一つのことに取り組むというような機会がこれまであまり無く、イメージすることが難しかったからでしょう。

ところが一旦、目標が定まると、学研都市の多様な構成員は互いに手をとりあい、それぞれが全力で取り組んでくださいました。周囲も巻き込みながら、４月13日の開幕に向けて準備を進めていき、さらにはその勢いを保ったままで10月11日の閉会式まで走り抜いたのです。うめきたで前年に開催したキックオフから始まり会期中のさまざまなプログラムなど、私自身も参加した数々のイベントの盛会と感動は今も記憶に新しいところです。

けいはんな学研都市が持つ「ポテンシャル」、そして「挑戦スピリット」を再発見させてくれたのが、けいはんな万博だったように思えます。また、それらこそが継承すべき、そして今後も発揮するべき、けいはんな万博のレガシーではないでしょうか。私たちにはポスト万博シティという次なる大きな目標があり、その目標に向けて学研都市の次期ステージプランも策定されました。けいはんな万博2025が、学研都市の新たな時代を拓く重要なステップになったと、いつか私たちは振り返ることになるはずです。

橋爪紳也　大阪公立大学　研究推進機構　特別教授
（けいはんな万博2025運営協議会　副座長）



大阪・関西万博に関して、私は2014年度、大阪府案の構想立案段階から参画した。11年間にわたって、個人的に深く関与した思い入れのある事業である。

万博の計画の立案にあって、「＋BEYOND」の意義を強調した。いかなるイベントも将来の目標を達成する「手段」であるが、現場にあっては手段であるはずの事業の成功が、しばしば「目的化」する。そうではなく、たえず将来の指針となる「＋BEYOND」を具体的に設定することが求められる。

関西文化学術都市にあっても同様である。「けいはんな万博」のレガシーといえば、2025年に可視化された技術やアイデアをいかに将来に継承するかという発想になりがちだ。そうではなく、2025年を通過点として将来に向けて新たな行動を起こすこと、すなわち「＋BEYOND」を具体化しなければいけない。

関西文化学術都市は、クラスターの開発が一定の進捗をみたことで成熟した学術研究都市となっているが、2025年を転機として、新たな知恵や投資を受け入れることで、ふたたび若々しい都市として再出発することができればと願う。

新たな学術研究やスタートアップによる産業振興、地域づくり、人づくりなど、なすべきことは多岐におよぶが、将来に向けた基盤としてなすべきことは、関西文化学術都市と大阪都心、さらにはベイエリアを連絡する東西軸の交通や人流を強化することだと考える。

関西文化学術都市を東の拠点とし、今後、国際観光拠点として整備される夢洲を西のゲートとして、咲洲、中之島、大阪城東部地区を連絡する阪奈都市軸を想定、人流を増やしつつ、軸に沿って学術研究や文化、国際交流、国際観光など関西の将来を担う機能を集積することで、新たな帯状の都市圏を構築していきたい。

駒井章治　東京国際工科専門職大学　教授



けいはんな万博は、単なるイベントではなく、「未来社会をどのように創り、どのように共有するか」を私たちに問いかける場であったと感じています。研究機関・大学・企業・行政・市民が同じ地平で未来像を語り合い、実証し、批評し合うという構図は、けいはんな学研都市が長年培ってきた知的基盤の延長線上にありながら、新たな段階へ踏み出す契機となりました。

特に、けいはんな大学（仮）という共想ネットワークを通じて、複数大学の学生たちがポジティブ・ネガティブ両面から我が国と世界の未来を「ソウゾウ（想像・創造）」した取り組みは象徴的でした。彼らは「個の確立」をテーマに掲げ、それは単に自分自身の確立にとどまらず、「他者の確立」を同時に支える関係性の構築であると捉えていました。誰もが自らの価値を発揮し、同時に他者の価値を尊重し合える社会。その実現のために、科学技術は“個を孤立させる技術”ではなく、“個と他をともに支える技術”として利活用されるべきだという学生の視点は、未来社会の核心を突いていたと思います。

さらに、「けいはんな大学」サミットでは、学生のみならず、大学、企業、住民がともに未来をソウゾウし、多様な立場が交差する場が生まれました。ここでの議論は、技術の展示ではなく「社会の共創」を前面に押し出すけいはんな万博の姿勢を体現していたと言えます。

未来へ継承すべきレガシーとして、私は三点を挙げたいと思います。第一に、分野や組織の境界を越えた“横のつながり”を常態化する仕組みです。第二に、市民も主体的に未来社会の実装に参加する「リビングラボ型」の姿勢です。そして第三に、科学と芸術、研究と文化を往還させる「けいはんならしさ」の継承です。

人の記憶ははかないもので、ともすると様々な出来事を簡単に忘れてしまいます。これは否定的な側面だけでなく、新しい物事を受け入れる余白を生む肯定的な側面もあります。しかし、いずれにせよ「忘却」は人の性です。だからこそ、けいはんな万博で得られた経験や対話、そして共創の精神が一過性の記憶として風化するのではなく、未来社会を形づくる実質的な力として継承されることを心から願っています。

小路田泰直　奈良女子大学　名誉教授



私は神戸生まれの神戸育ちなので、小さい時から、郷土の英雄といえば楠木正成がまずあがる環境の中で育った。湊川の戦いの戦場であり、後に徳川光圀が「嗚呼忠臣楠子之墓」との顕彰碑を建てたことでも知られる地だからだ。だから菊水紋は、神戸生まれの日本初の洋菓子「瓦煎餅」にも描かれ、身の回りのあちこちにあった。ただそれが金剛山麓千早赤阪村にある建（たけ）水分神社の神紋からきているとは知らなかった。古代国家が国土を天上高い所から俯瞰するとき、それは水分の信仰となった。まさに国家を、国家として認識するための信仰であった。その水分の信仰を、王城の地大和に隣接するところで古代以来受け継いできた人たちが、後醍醐天皇蜂起の報に接するや、いの一番に呼応し、十万余の北条軍を千早城にひきつけて戦ったのである。だから我々は菊水紋を楠木正成の旗印として知る。

歴史は受け継がれ、深いところで人の行動を規定している。では「けいはんな」の歴史は、どのように我々の行動を規定しているのか。私は今回『新・けいはんな風土記』の編纂ということに携わり、それを問う立場にあった。

そして分かったことは、様々にあるが、中でも面白いと思ったのは、この地には、相当に濃い叛逆の血が流れているということであった。古代最大の反乱といわれる武埴安彦の乱があり、中世には山城国一揆があった。ではそれは、これからのこの地域の発展にとって吉兆か凶兆か。やはり吉兆だろう。

今日本中で一番栄えているのは東京だと思うが、その中心大手町のビル群の真ん中には平将門の首塚がある。取り除こうと思うと異変が起こるので取り除けない。また、かつて日本経済の中心であった商都大阪の人々の信仰を集める神社に、生駒山麓の石切剣箭神社があるが、その本当の祭神は――一応私見によればとしておくが――実は神武天皇に逆らって殺された長髄彦である。叛逆の魂は反骨の魂となり、繁栄の魂にもなりうる。今回のけいはんな万博が、それをどこかで示していたとすれば、一歩前進ということか。

浅見徹　株式会社国際電気通信基礎技術研究所（ATR）代表取締役社長
特定非営利活動法人けいはんなアバターチャレンジ　理事長



けいはんな万博さらには大阪・関西万博2025は、当社の研究成果である物まねロボットやサイバネティックアバターの発表の場という、得難い機会をいただき、一企業の社長としてありがたいイベントだったと思います。

2018年の大阪・関西万博開催決定の半年後に、当社の松本紘前会長が、「けいはんなで万博を考える会」を立ち上げ、けいはんなの企業、大学、市民からの提案を募り、取りまとめました。この中の市民提案が、けいはんな万博の原型です。

市民提案の一つに私個人の提案「アバターチャレンジ」がありました。市民としても万博に参画する良い機会かと思い、９人の同志を得てＮＰＯを立ち上げました。2023年の秋にプレ大会を開いて問題点を洗い出したのちに、2025年に競技会を開催しました。大阪電気通信大学、京都先端大学、同志社大学、奈良先端大学院大学の学生が自作のアバターロボットを持ち込み、石黒パビリオンの技術で遊ぶイベントになりました。体力的にはきつかったですが、大変面白かったです。警察との交渉に尽力していただいた精華町商工会の皆様はじめ多くの方々の支援の賜物でもあります。この地方には、素晴らしい人材がいます。それを市民提案の一つを自ら実施することで知りました。

ロボット・アバター・ＩＣＴ部会とスタートアップ部会がＡＴＲの担当でしたが、部会活動を通じて、当社がけいはんな、さらにけいはんなに関係する企業・大学・行政といった諸組織と顔の見える関係になり、協働して大規模な事業を進めていくベースをつかんだことは、当社の今後の経営に大きな遺産となったと思います。一研究機関の事業から、地域も含めた事業を行う基盤ができたと思います。

鈴木博之　株式会社国際電気通信基礎技術研究所（ATR） 代表取締役副社長



（写真 右から２人目：鈴木博之副社長）

2020年３月にJSTのリサーチコンプレックス（RC）推進プログラムが終了して以降、けいはんな全体として取り組むプロジェクトは不在となりました。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大という不測の事態が重なり、RC推進プログラムを通じて構築された、けいはんな立地機関間における「顔の見える関係」は、次第に希薄化していきました。こうした状況の中で開催されたけいはんな万博2025は、この流れを転換し、立地機関間の関係性を再構築するための重要な契機でした。

私が部会長を務めたスタートアップ部会では、ポスト万博シティとしてのけいはんなの将来像を見据え、大阪・関西万博2025で創出される革新技術等のレガシーを効率的に社会実装する、グローバルな研究開発型イノベーション拠点としてのあるべき姿を検討しました。また、その将来像からのバックキャストにより、2025年時点での機能や役割を具体化・検証するとともに、それを担うイノベーション人材の育成を重要な目的として位置付けました。

これらの目的のもとで実施したのが、けいはんなグローバルスタートアップPoCチャレンジ（KPoC）です。KPoCの詳細については事業報告書本文に譲りますが、本取り組みにより、立地機関間における「顔の見える関係」の再構築と、イノベーション人材の育成という二つの目的を達成することができたと考えています。

KPoCは、ATRが構築を進めてきたグローバルイノベーション連携ネットワークを基盤として実施されましたが、未来へと継承すべき真のレガシーは、けいはんな内の連携ネットワークと、それを担うイノベーション人材であると考えます。これらのレガシーをさらに継承・発展させていくために、けいはんな万博2025のような、けいはんな全体としての協創プロジェクトを継続的に実施できるよう、皆様の引き続きのご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

荒木康寛　株式会社けいはんな　代表取締役社長



2017年、「大阪で万博を」という声が全国に広がり始めた頃、私は初めて誘致活動に参加しました。それから８年、気づけば私の仕事の中心には、いつも「万博」がありました。2018年に開催地が大阪に決まり、2019年の「けいはんなで万博を考える会」、2022年の「万博開催準備会」、2023年の「運営協議会」へと、段階的に関わりを深め、当社は中核機関として「けいはんな万博」の実現に向け全社を挙げて取り組んできました。

けいはんな万博を成功させることは、都市にとっても当社にとっても、大きく飛躍する絶好の機会でした。2024年には「けいはんな万博2025推進室」を立ち上げ、人員を増強したのも、その未来への投資です。2022年から続けてきた「けいはんな万博セミナー」は、地域の企業、研究機関、住民の皆さんと未来を語り合う貴重な場となり、16回の開催を通じて多くの声と想いを受け取りました。

運営協議会の部会活動では、国際会議部会長、スタートアップ部会でのPoCコーディネーター、ロボット・アバター・ICTフェスティバルのスタッフなど、社員一人ひとりが自分の得意分野を活かし、けいはんなの魅力を形にしていきました。文化イベントでは、音楽や創作ダンス、伝統芸能など、「けいはんな」ならではの魅力を多くの方に届けることができました。

開会式、夢洲での出展、閉会セレモニーでは、企画から演出、会場設営までを担い、全員が心をひとつにして走り抜けました。また、多くのお客様を迎えるため、ホールやホテルの修繕、備品整備、飲食店の充実など、都市としての受け皿づくりにも力を注ぎました。

10月11日の閉会セレモニーを終え、11月12日の慰労会で見た社員の笑顔は、忘れられません。達成感と感謝があふれ、まさに「『けいはんな』ならではの万博」を創り上げた瞬間でした。

そして今、私たちはすでに次の未来へ向かっています。ポスト万博シティとして確かな歩みを始めたことこそ、けいはんな万博が残した最大のレガシーだと感じています。

河合智明　公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構　常務理事



けいはんな万博は奇跡か必然か。けいはんな万博の一番最初の手書きの資料を探し出すと、2021年９月の日付が書き込まれており、私が機構に着任した2021年６月から３か月後にこんなことを考えていたなんてと少々驚いた。当初は、オータムフェアの万博特別版と記され、秋に２週間イベントをグレードアップして実施する提案だった。このペーパーを持って、京都府 山下副知事にご相談したら、夢洲で未来の夢を見て、けいはんなでは未来を現実に見てもらうのはどうかとアドバイスをもらったことを覚えている。

どうやって賛同者を増やすのか。ノウハウもないのでまずは動いてみよう。この時に力を貸してもらえたのは某新聞社さん、しっかりした企画ではなかったが、「けいはんな万博始動」とネットや大きな紙面で取り上げてもらえたおかげで、企業様にお話に伺うと新聞で出てたねと言って話を聞いてもらえた。これは最初のハードルを越えるのにとってもありがたかった。最終的には100を超える企業・団体に賛同いただけたが、最初の１歩が重要だ。

この間、当初２週間だった万博の期間も４月から10月までとなり、４つのテーマでフェスティバルを開催するプログラムへと計画も大きくふくらんだ。本当に出来るのかと言われたがそれは封印。そして、多くの皆様に開催の協賛者になってほしいと協力を仰ぐ。第０次回の準備会に約40社の皆様が集まり準備会のスタートが切れた。この時初めて前進出来そうな予感と、参画いただいた方々への敬意とこれからの重みを感じた。

参画いただいた方々の情熱、知恵、関係者の方々のご協力、報道関係者のご支援により、６か月にわたる万博は成功裏に開催することが出来た。

振り返ると、けいはんな学研都市が約40年間に集積した企業、大学、研究機関、市民などの人と研究成果は、私たちの未来を豊かにするために十分な実力を持つ都市であることが実証出来た。学術研究を人や社会に活用して新たな価値と文化を生み出すという奥田懇の目標は着実に成果になっている。その意味でけいはんな万博の成功は、奇跡ではなく必然であったと言える。

資　　料

資料１

共創パートナーに登録
～けいはんなで大阪・関西万博を考える会～

「けいはんなで大阪・関西万博を考える会（略称「考える会」）」（座長：松本紘 国際高等研究所長）は、けいはんな学研都市（以下「本都市」という）内外の主な公的研究機関や大学のトップクラスの有志からなる団体で、本都市が大阪・関西万博に対し、如何に連携・貢献できるかを考えるために2019年5月に設立されました。

また、2020年6月には「EXPO2025 時空（とき）を超えるけいはんな～グローバリズムとローカリズムの融合～」をコンセプトに描かれた本都市の企業・団体・大学・市民の方々からの提案を松本座長から万博協会の石毛事務総長に提言しました。

さらに、2021年2月には、多様なプランの創出・支援を担う団体として「考える会」が、提案されたプランの具体化に向け、万博協会が主催する「TEAM EXPO 2025」プログラムの共創パートナーとして登録されました。

これにより今後、各プランの事業化や社会での周知、認識の強化や参加者の増加に繋がる支援などを実施していきます。

プランが生み出された背景

けいはんなで
大阪・関西万博を考える会

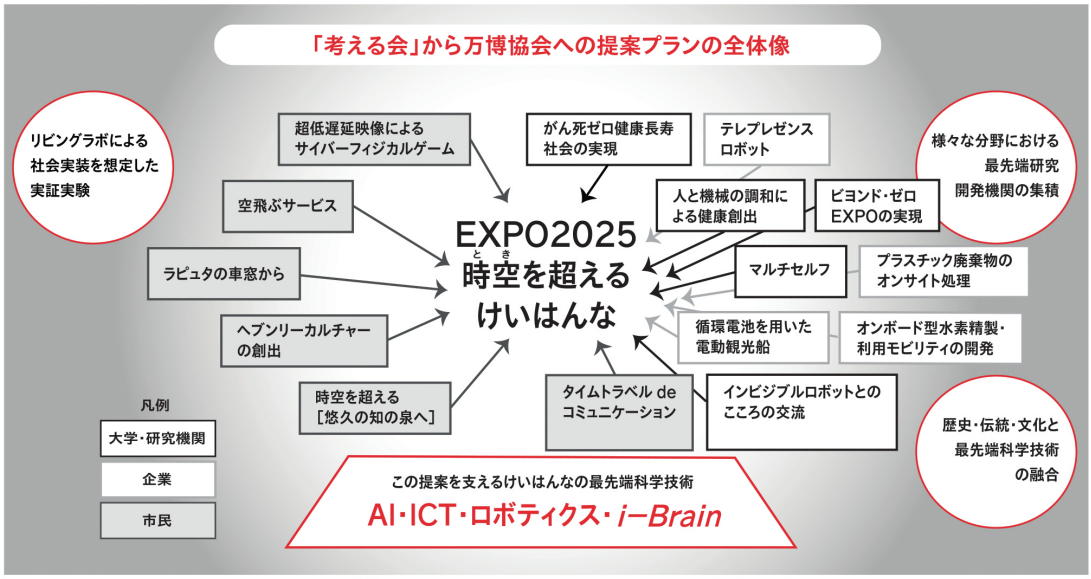
けいはんなに立地する
下記の研究・支援機関・大学からトップクラスのメンバーが参画

- 国際高等研究所
- 理化学研究所
- 国際電気通信基礎技術研究所
- 地球環境産業技術研究機構
- 情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所
- 量子科学技術研究開発機構
- 国立国会図書館関西館
- 奈良先端科学技術大学院大学
- 同志社大学
- 奈良女子大学
- 京都府立大学
- 奈良県立医科大学
- 関西経済連合会
- ㈱けいはんな
- 関西文化学術研究都市推進機構

けいはんなプラットフォーム（KPF）
各機関から若手が参画
大学・研究機関からの5つのプラン
企業も参画
企業からの4つのプラン
市民も参画
けいはんな市民からの6つのプラン
けいはんなRC異分野交流セミナー
近未来創造ワークショップ

共創から 生まれた
時空（とき）を超える
けいはんな





資料２

(仮称)けいはんな万博全体構想(抄)

令和４年５月１７日

新たな都市創造会議
イノベーション推進部会
研究開発推進ワーキング

目次

１	開催意義とねらい	P1
２	テーマ／コンセプト	P2
３	取組みの展開イメージ	P3
４	運営・組織の全体イメージ	P4
５	広域連携の考え方	P5～6
６	実施期間の考え方	P7
７	実施会場と催事計画	P8
８	運営組織	P9
９	ワーキングメンバー	P10

開催意義とねらい

けいはんな学研都市

開催意義（2025大阪・関西万博との連携）

「大阪・関西万博」と積極的に連携、活用することにより、本都市の成長・発展に繋げる

けいはんな学研都市は、都市の多様性により多様な交流やグローバル連携などの広域的な交流が産まれ、住民参加による実証実験等の横断的な取組みが行われるなど、都市の発展に一定の成果を上げてきたところであるが、企業等の集積のメリットを活かした新産業の創出の成果や仕組みの構築は道半ばであり、情報発信力や知名度も不十分である。

本都市の更なる成長のためには、オープンイノベーションの更なる取組み実績を積み上げるとともに、情報発信の強化による都市のブランド確立が重要となる。

そうした状況の中、2025年に開催される「大阪・関西万博」におけるSDGs達成への貢献やSociety5.0の実現を目指す取組みが、本都市が2025年を達成年度とする「新たな都市創造プラン」と合致するものであるため、「大阪・関西万博」との連携を図り、本都市の様々な取組みの推進エンジンとして活用することが、本都市の更なる成長・発展の絶好の機会となる。

ねらい

本都市の強みである「立地施設・研究フィールドの多様性」「実装フィールドの存在」「グローバルネットワーク」を活用し、未来社会の実験場を先導する取組みを示すことにより

■都市外及び世界に向けて本都市の存在価値を高める

〇夢洲会場でのけいはんな発の最先端技術を提案・出展
〇バーチャル万博への参加による世界各国との交流
〇交通ネットワークを活かした夢洲来場者の本都市への呼び込み
〇本都市における研究開発などの成果（実装された未来）を分かりやすく紹介し国内外の人々の理解を深化
〇大阪・関西万博関連に乗じたＰＲ活動による本都市の情報発信を強化　などなど

■イノベーション拠点形成の契機とする

〇本都市の立地機関や市民が、具体的な目標を設定、共有、連携して取組むことでイノベーション・新産業の創出を実行

1

テーマ/コンセプト

けいはんな学研都市

新たな都市創造ビジョン

本都市の役割	具現化すべき都市の姿
世界の未来への貢献 ●人類の平和的・持続的共存に向けた新たな知恵を創出 **知と文化の創造** ●科学・技術の様々な展開を地域で受け止め、知の交流を通じて新しい文化や生活像を生み出す	世界の知と産業を牽引する都市 持続的にイノベーションを生み出す都市 科学・生活・文化・自然環境が融合する持続可能都市

世界トップレベルの研究開発型
オープンイノベーション拠点形成をめざす

大阪・関西万博2025

テーマ
いのち輝く未来社会のデザイン

開催意義
いのち輝く未来社会の模索
SDGsの達成、+beyondへの飛躍
Society5.0への実証
日本の飛躍の契機

コンセプト
未来社会の実験場
・多様な参加者がチャレンジしリアルに描き出す試み
・多様なプレーヤーによるイノベーションを誘発し、社会実装していくための装置

けいはんな万博 2025（案）

■テーマ■
『未来社会への貢献　～次世代への解～』

■サブテーマ■

●**世界の知と産業への「解」**
未来社会が如何にあるべきか。科学技術で未来社会づくりに如何に貢献できるかを提示

●**持続的イノベーションへの「解」**
科学技術の成果を活かした新規企業が持続的に生み出され続け、また歴史・文化と結びついたイノベーションが創出される都市を提示

●**科学・生活・文化・自然環境の調和への「解」**
社会実装等により得られた蓄積を活用し、生活の質や文化的価値を創造できる都市を提示

■コンセプト■
『未来社会を先導するけいはんな』
研究開発型オープンイノベーション拠点の形成をめざすという本都市の志、いわば「けいはんなイズム」に則って、大阪・関西万博で示されるような未来社会の諸相を、多くの地域資源を有するけいはんな学研都市の現実の暮らしの中に実装し、未来を体感できる取組を展開。

2

取組みの展開イメージ

けいはんな学研都市

けいはんな万博（案）

【コアイベント万博特別版】
○けいはんなオータムフェア
京都スマートシティEXPO／R＆Dﾌｪｱ／ATRｵｰﾌﾟﾝﾊｳｽ／けいはんなﾋﾞｼﾞﾈｽﾒｯｾ／
市民公開講座／エジソンの会／ゲーテの会／せいか祭り　など

○プチコンサート、サイエンスカフェ、木津川アートetc

【万博協会への１５の提案】
○「時空を超えるけいはんな」各プランの実施

【国際会議の誘致】～科学と文化の融合～

【広域連携の構築】「夢洲」を核とした研究開発拠点の連携



けいはんな万博、大阪・関西万博2025のレガシーを、研究開発型オープンイノベーション拠点である「けいはんな学研都市」に実装

大阪・関西万博2025

3

運営・組織の全体イメージ

けいはんな学研都市

けいはんな万博 全体実行組織
～全体計画・全体運営等に関わること～

イノベーション推進部会
万博WG
＜全体構想の検討＞

準備委員会
＜基本計画＞

実行委員会
＜実施計画～実施＞

【コア・イベント】
～既存イベントの万博連携～

京都スマートシティEXPO
ATRオープンハウス
けいはんなビジネスメッセ
けいはんなR＆Dフェア　etc

けいはんな
アバターチャレンジ
【実行組織】
計画～実施

ビヨンド・
ゼロEXPO
【実行組織】
計画～実施

時空を超える
けいはんな
【実行組織】
計画～実施

ラピュタの
車窓から
【実行組織】
計画～実施

国際会議
【実行組織】
計画～実施

テレプレゼンス
ロボット
【実行組織】
計画～実施

全体調整

【大阪・関西万博】
博覧会協会

PLL・共創チャレンジ・テーマ事業

4

広域連携の考え方

けいはんな学研都市

1．「けいはんな学研都市」一体としての連携

1．学研都市内の他地区の“情報を出展”というカタチの参画

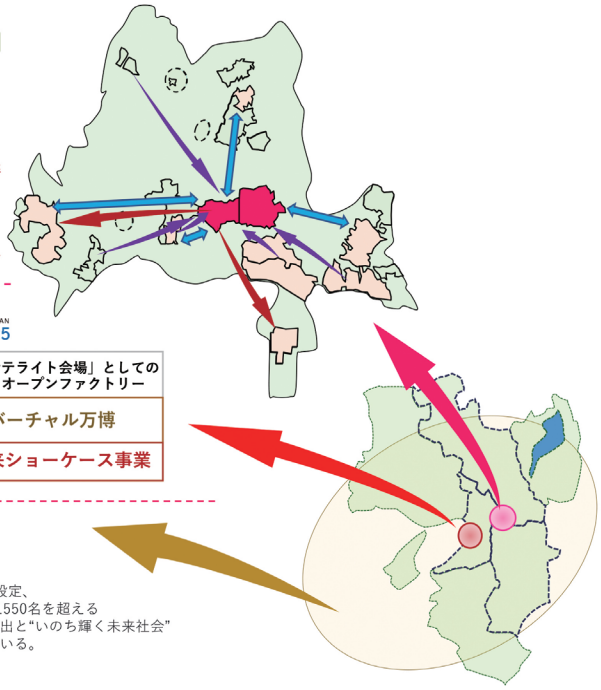
「精華・西木津地区」のみの開催ではなく、「けいはんな都市」全体としての開催を意識し、クラスター内の他地区の情報を一堂に開示するという連携の考え方。

2．学研都市内の他地区へ“ヒトを連れ出す”というカタチの参画

会場に集客するだけでなく、会場をハブ的役割とし、都市内の文化的資源への来場者誘導という連携の模索。

3．学研都市内の教育機関の“ヒトと情報の連携”というカタチの参画

同志社大・先端大・京大などの都市内の大学などの教育機関とのヒト・モノ等との連携という参画の考え方の模索



2．「大阪・関西万博2025」との連携

OSAKA, KANSAI, JAPAN EXPO2025

①「未来ショーケース事業」との連携
「未来ショーケース事業」への参画企業・事業との連携による、当該催事現地会場との連動企画

②「バーチャル万博」との連携
「バーチャル万博」の事業における、会場内外との連携

③「サテライト会場」としてのオープンファクトリー
オープンファクトリーとしての連携模索

3．広域関連団体との連携

一般社団法人
夢洲新産業・都市創造機構

＊主な活動内容【抜粋】
『産学公共創オープンイノベーション拠点の構築・運営とエコシステムの創出』

当該機構の部会活動として主要5領域を設定、
200を超える産学公の法人会員から延べ1550名を超える
会員が参加し、「夢洲モデルの新産業創出と“いのち輝く未来社会”づくり」を目指し、議論や共創を進めている。
https://yumeshimakikou.org/

広域連携の考え方

けいはんな学研都市

4．「大阪・関西万博2025」会場である「夢洲」を核とした研究開発拠点地区の連携

「大阪・関西万博2025」を契機に、関西に点在する研究開発拠点地区における連携を図る。



例えば・・・

博覧会会場である夢洲と大学等知的機関や研究所が集積しているけいはんな学研都市とを結ぶ東西軸の構築。



実施期間の考え方

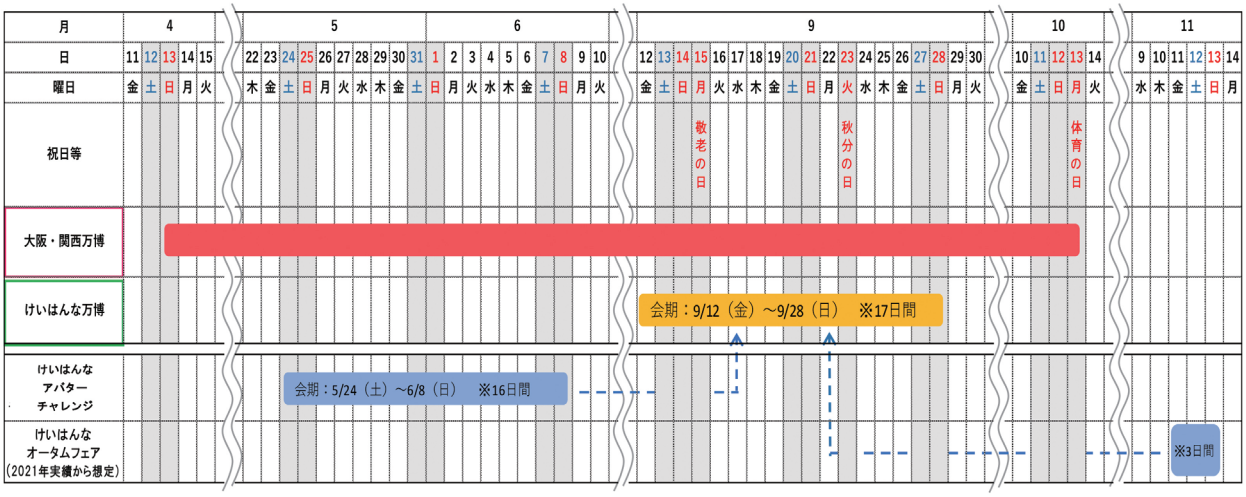
けいはんな学研都市

◆実施期間の考え方：

1．大阪・関西万博の開催期間内において、開催趣旨が浸透した時期の秋にイベントを集約し開催する
→ 気候・気温も比較的安定
→ 例年11月に開催しているコアイベント催事の準備期間を考慮

2．各協力企業の平日の業務停止期間を避けるため、休祝日が連続する期間とする
→ 大阪・関西万博の来場者の誘導
→ 子供やファミリー層の来場者への対応も可）

3．開催コスト削減を図るため、万博会期に対して１回開催とする



7

実施会場と催事計画の例示 (※確定したものではありません)

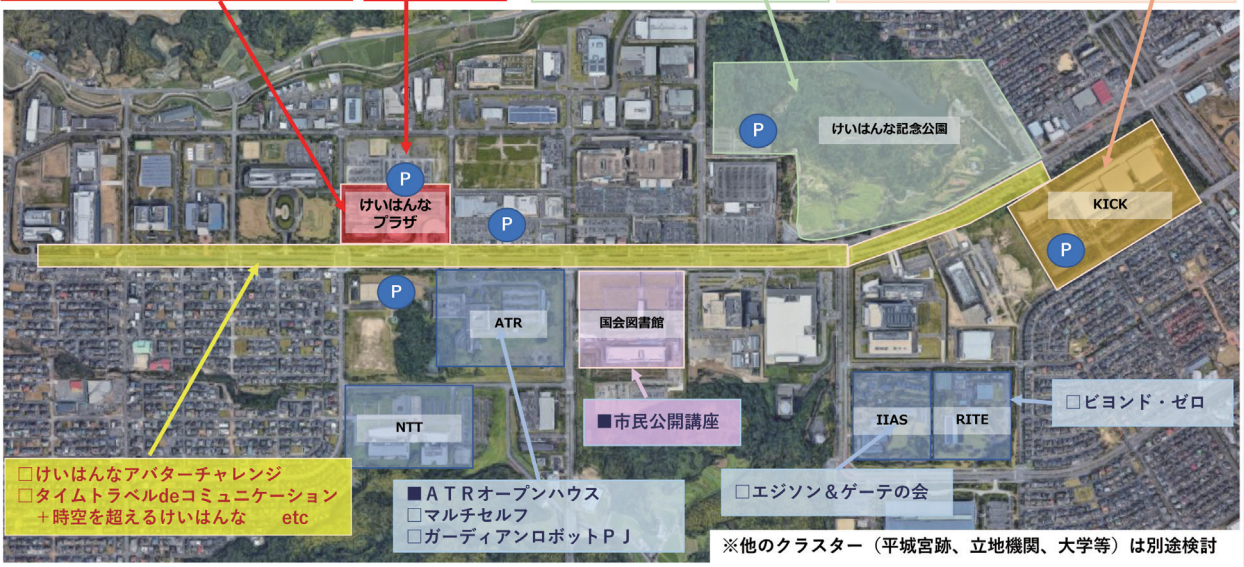
けいはんな学研都市

■Ｒ＆Ｄフェア
■けいはんなプチコンサート
□テレプレゼンスロボット
□がん死ゼロ健康長寿社会（展示）
□人と機械の調和による健康創出
□プラ廃棄物のオンサイト処理　etc

□国際会議

□ラピュタの車窓から
□循環電池を用いた電動観光船
□ヘブンカルチャーの創出

■京都スマートシティEXPO
■けいはんなビジネスメッセ
□テレプレゼンスロボット
□オンボード型水素精製・利用モビリティ
□空飛ぶサービス（展示）



□けいはんなアバターチャレンジ
□タイムトラベルdeコミュニケーション
＋時空を超えるけいはんな　etc

■ＡＴＲオープンハウス
□マルチセルフ
□ガーディアンロボットＰＪ

■市民公開講座

□エジソン＆ゲーテの会

□ビヨンド・ゼロ

※他のクラスター（平城宮跡、立地機関、大学等）は別途検討

世界の知と産業への「解」　持続的イノベーションへの「解」　科学・生活・文化・自然環境の調和への「解」

8

運営組織

けいはんな学研都市

基本構想期（～2022年6月目途） → 基本計画期（2022年7月目途～） → 実施計画～実施（2023年7月～）

研究開発推進WG（万博WG）

機関名	役職名
関西経済連合会	産業部　副参与
近畿経済産業局	地域開発室　室長
大阪府	政策企画部 広域調整室　事業推進課
京都府	商工労働観光部 文化学術研究都市推進課参事
奈良県	県土マネジメント部 県土利用政策室室長
(株)けいはんな	総務部　部長
ATR	事業開発室　リーダー
国際高等研究所	専務理事
NICT	総合企画室　室長
2025年日本国際博覧会協会【ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ】	企画部　企画課　参事
KRI【事務局】	新産業創出交流センター長 事業推進部長 事業推進部　担当部長

けいはんな万博（仮称）開催準備委員会　※運営統括：KRI

委員名	主な役割	機関名想定
委員長	準備委員会統括責任者	
副委員長	統括責任者の補佐	

ユニット名	主な役割	機関名想定
1. 総務・企画	予算の入出管理・広報等	KRI・関経連
2.コアイベント	R＆Dフェア	NICT・KRI
	京都スマートEXPO	京都府
	けいはんなビジネスメッセ	KRI
	ATRオープンハウス	ATR
	市民公開講座	国会図書館・KRI
	プチコンサート	㈱けいはんな
	せいか祭り	精華町
	木津川アート	木津川市
	コンテンツ提供	理化学研究所等
3. オリジナルコンテンツ	15提案の調整・準備	各プラン代表者
4. 会場設営・運営	会場全体の設営・運営計画	㈱けいはんな・KICK
5. 会場輸送・警備	人車の輸送・交通警備計画	交通事業者
6. 広域連携	地区内外との連携計画	大阪府・奈良県・京都府
【オブザーバー】	専門分野の助言・提案	※話題毎に招へい

開催実行委員会

委員名・機関
会長
副会長
関係自治体
準備委員会メンバー
＋
その他必要に応じて追加

9

ワーキングメンバー

けいはんな学研都市

機関名	役職名	氏　名	備考
関西経済連合会	産業部　参事 参事	山　下　善　寛 樋　口　晶　子	
近畿経済産業局	地域開発室　室長	大　平　昌　幸	
大阪府	政策企画部　広域調整室　事業推進課　参事	長　畑　敬　延	
京都府	商工労働観光部　文化学術研究都市推進課　参事	塩　崎　大　祐	
奈良県	県土マネジメント部　県土利用政策室　室長	坂　本　　悟	
（株）けいはんな	総務部　部長	中　川　星　詞	
（株）国際電気通信基礎技術研究所	事業開発室　リーダー	中　川　佳代子	
国際高等研究所	専務理事	加　藤　有　一	
情報通信研究機構	総合企画室　室長	香　山　健太郎	
2025年日本国際博覧会協会 【オブザーバー】	企画部　企画課　参事	植　田　壮　彦	
関西文化学術研究都市推進機構 【事務局】	理事（新産業創出交流センター長） 参与（事業推進部長） 事業推進部　研究開発推進室長 研究開発推進室　調査役	江　見　和　明 藤　原　広　志 遠　藤　亮　之 松　村　憲　一	

※ワーキング開催時期　【第1回：令和3年11月9日／第2回：令和3年12月22日／第3回：令和4年2月14日／第4回：令和4年3月14日／第5回：令和4年5月17日】

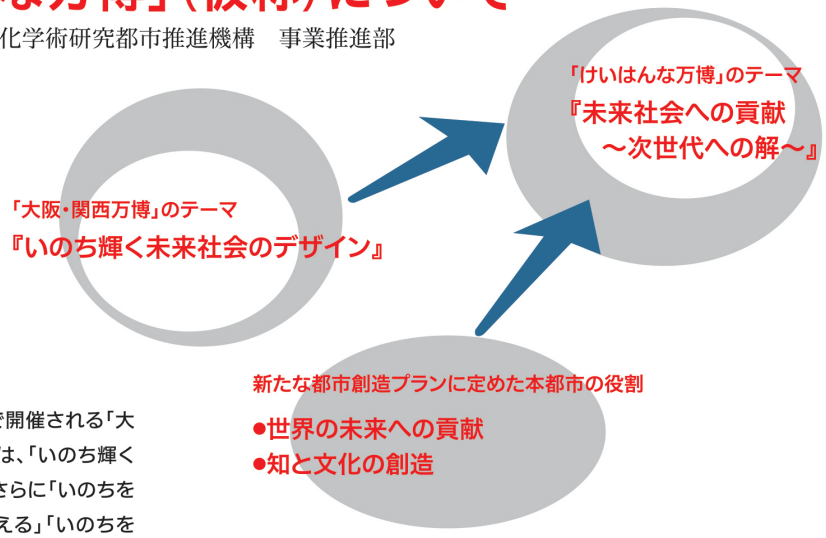
10

資料 3

EXPO2025
に向けて

「けいはんな万博」（仮称）について

公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構　事業推進部



経緯

2025年、大阪・夢洲で開催される「大阪・関西万博」のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」。さらに「いのちを救う」「いのちに力を与える」「いのちをつなぐ」がサブテーマとして掲げられています。地球温暖化や環境破壊、紛争や疫病、貧困や飢餓といった人類共通の課題解決に向けて、最先端技術など世界の英知を集め、新たなアイデアを創造・発信する「未来社会の実験場」と想定されています。

他方、けいはんな学研都市が「新たな都市創造プラン」において自らの役割として認識している「世界の未来への貢献」「知と文化の創造」というビジョンは、この「大阪・関西万博」のテーマと極めて近く、重なり合う部分も多いことから、その機会を積極的に活用して本都市を一層発展させる方策について検討を重ねてきました。

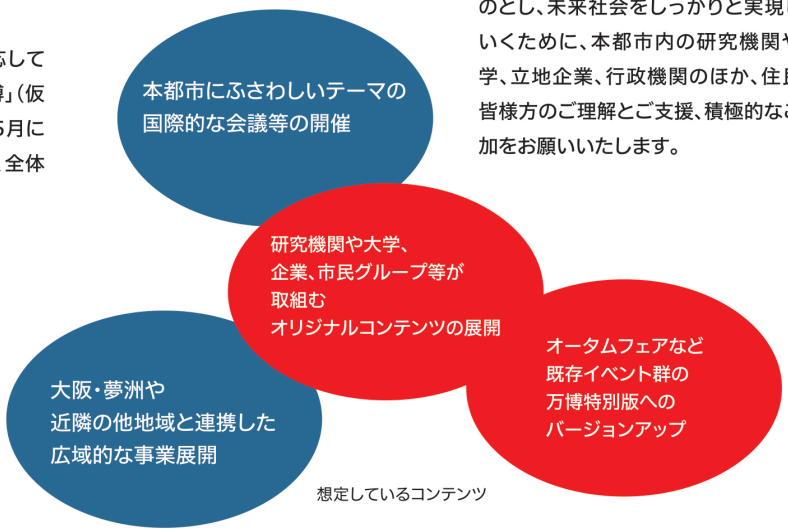
そして、「大阪・関西万博」と呼応して本都市においても「けいはんな万博」（仮称）に取り組むこととし、2022年5月に「けいはんな万博全体構想」（以下、全体構想）をとりまとめました。

全体構想の概要

「けいはんな万博」のテーマは「未来社会への貢献 ～次世代への解～」です。

研究開発型オープンイノベーション拠点の形成をめざすという本都市の志に則って、「大阪・関西万博」で示されるような未来社会の諸相を、多くの地域資源を有する本都市の現実の暮らしの中に実装し、未来を体感できる取組みを展開していくことを目指しています。

本都市内の各地やメタバースなどを活用し、下記のコンテンツに取り組むことを想定しています。



想定しているコンテンツ

今後の取組み

全体構想を受けて、今後、更に詳細な計画の検討を経て、2025年の実現を目指します。

「けいはんな万博」は一過性のイベントではありません。「大阪・関西万博」で示される明るく希望に満ちた未来社会を6ヶ月で終わらせるのではなく、現実の社会、暮らしの中に実装していこうとする取組みです。けいはんな学研都市にはそれを可能にする資源や機会が豊富にあります。

「けいはんな万博」を真に意義あるものとし、未来社会をしっかりと実現していくために、本都市内の研究機関や大学、立地企業、行政機関のほか、住民の皆様方のご理解とご支援、積極的なご参加をお願いいたします。

資料 4

EXPO2025
に向けて

「けいはんな万博」（仮称）開催準備会の設立

公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構　事業推進部



44機関が賛同

本年5月に策定された「けいはんな万博全体構想」（※）の実現に向けて、より具体的な事業案を取りまとめて「基本計画案」を策定するため、第一回の開催準備会が10月27日に開催されました。（※全体構想については、前号vol.54 をご参照ください。）

この開催準備会は、けいはんな学研都市の取組み方針などを審議・決定する「けいはんな学研都市新たな都市創造会議」の堀場厚会長（関西文化学術研究都市推進機構理事長）が、同会議を構成する機関、特にけいはんな学研都市内に立地する機関に参加を呼びかけたもので、44機関からの賛同を得ました。

内訳は、大学9、国の研究機関8、行政機関9、企業・団体等18となっています。



開催準備会 松本紘会長

多様なステークホルダーが同席

準備会当日は、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催され、44機関のうち40機関から出席がありました。

開催準備会設置要綱の承認ののち、国際高等研究所の松本紘所長が会長に、また関西文化学術研究都市推進機構の堀場厚理事長が副会長に選出されました。

また、「コアイベント」「オリジナルコンテンツ」「国際会議」「広域連携」など6つの部会を設置して検討を進めることなどが承認され、続いて「けいはんな万博」に対する意見交換が行われました。大学や国の研究機関、大企業からスタートアップ企業まで、様々な立場からの意見が出され、けいはんな万博への期待感が共有されるものとなりました。

＜主な意見＞

・参加機関の知恵と力とパッションを結集し、一体となって盛り上がることが成功のカギ。

・一過性のイベントではなく、歴史の転換となるようなレガシーを残したい。

・世界中から関心を集め、また若い世代を引き寄せるような工夫が必要。

・大阪・関西万博と連携するため、交通インフラや人流の検討が必要。

今後の取組み

今後、部会ごとに検討を重ねて事業案を練り、「基本計画案」を取りまとめていきます。

また、けいはんな学研都市内の立地機関にとどまらず、幅広く賛同機関を募り、開催準備会の参画メンバーを拡充し、斬新で建設的なご意見、ご提案を集約して、「けいはんな万博」を真に未来社会に貢献する事業としていきたいと考えています。

資料 5

（仮称）けいはんな万博開催準備会　趣意書

けいはんな学研都市は、1987 年の「関西文化学術研究都市建設促進法」の制定以来 36 年。立地施設は 150 を超え、人口も 25 万人を上回るなど着実に発展してまいりました。

都市の多様性を反映した多彩な交流や、グローバル連携等の広域的な交流が産まれ、住民参加による実証実験等の横断的な取り組みが行われるなど、都市の発展に一定の成果を上げてまいりましたが、一方で企業等の集積のメリットを活かした新産業創出の仕組みづくりやその成果は未だ道半ばであります。

本都市の更なる成長、発展のためには、オープンイノベーションの更なる取組み実績を積み上げるとともに、情報発信力の強化による都市のブランド確立が重要であると考えております。

そうした状況の中、2025 年に開催される「大阪・関西万博」における SDGs 達成への貢献や Society5.0 の実現を目指す取組みは、本都市が 2025 年を達成年度とする「新たな都市創造プラン」と合致するものであることから、「大阪・関西万博」との連携を図り、本都市の様々な取組みの推進エンジンとして活用することは、本都市の更なる成長・発展の絶好の機会となります。

このため、2021 年 11 月に「新たな都市創造会議」イノベーション部会に研究開発推進ワーキングを設置し、2022 年 5 月に「（仮称）けいはんな万博全体構想」を取りまとめたところであります。

「大阪・関西万博」の好機を生かし、「（仮称）けいはんな万博」を成功裏に実施するためには、実施主体となり得る多くの機関、団体等のご参画をいただいて「準備会」を組成し、具体的な事業内容の検討を深め、基本計画を策定することが急務であると考えます。

委員各位におかれましては、この「準備会」の発足趣意にご賛同賜り、主体的、積極的にご参画賜りますようお願い申し上げます。

令和 4 年 10 月 14 日

けいはんな学研都市「新たな都市創造会議」
会　長　　堀場　厚（関西文化学術研究都市推進機構理事長）
顧　問　　松本　紘（国際高等研究所所長）

資料６

（仮称）けいはんな万博2025



Theme

『未来社会への貢献 ～次世代への解～』

(仮称)けいはんな万博開催準備会



(仮称)けいはんな万博開催準備会
会長　松　本　　紘
(公益財団法人 国際高等研究所 所長)

ごあいさつ

21世紀の今日、われわれは依然として人口問題、環境破壊や地球温暖化、飢餓や貧困、疫病、テロリズムや戦争など様々な課題に直面しています。

私は、科学技術の進歩の成果を、価値観の成熟、法体系や経済システムなど社会全体の進歩の下で適切に利用することにより、こうした課題は必ず解決され、素晴らしい「未来」を実現することができると信じます。

「大阪・関西万博」を契機として開催する(仮称)けいはんな万博は、高い研究開発力と豊かな歴史文化を有するけいはんな学研都市の総力を挙げて、素晴らしい「未来」の実現に貢献しようとする試みです。

どうか皆さまの力強いご支援、ご協力、そして積極的なご参加をお願いいたします。

(仮称)けいはんな万博のコンテンツとして、

コアイベント<万博特別版>の展開

- けいはんな学研都市内で行われる最新の研究発表や技術展示会等を<万博特別版>として集中的に開催
- 「Club けいはんな」等を活用して都市全体で取り組む実証実験や、グローバルな取組みを積極的に展開
- メタバースの活用により、遠隔地からの参加や障がい者等の参加を容易にし、仮想空間ならではの企画も展開

【想定するイベント例】※順次追加
- 新たな研究・技術の展示・体感
  けいはんな R&D フェア／オープンラボ　等
- ビジネスチャンス
  スマートシティエキスポ／ビジネスメッセ／KGAP ＋　等
- 住民参加
  住民向け公開講座／サイエンスカフェ／エジソンの会　等
- 様々な実証実験の実施
  モビリティ／MaaS／通信／健康増進　等



大学連携市民公開講座



京都スマートシティエキスポ



けいはんなビジネスメッセ

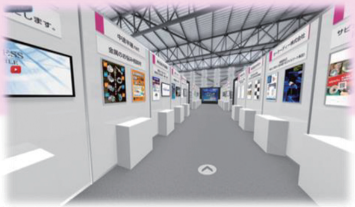


モビリティ実証実験

広域連携事業の展開

- 「大阪・関西万博」との緊密な連携協力
- 様々なテーマ設定による各地のサイエンスシティとの連携協力
- メタバースの活用による時空を超えた連携の展開





メタバースの活用(イメージ)



筑波研究学園都市

(仮称)けいはんな万博のテーマは、「未来社会への貢献 ～次世代への解～」

研究開発型オープンイノベーション拠点の形成というけいはんな学研都市の本旨に則り、多くの地域資源を活かして未来社会の諸相を現実の暮らしの中に実装し、『未来社会を先導するけいはんな』の取組みを展開。

- (仮称)けいはんな万博の開催により、けいはんな学研都市内の立地機関等が一体となって叡知を結集し、健康、平和、豊かさに満ちた素晴らしい未来社会の実現に貢献。
- けいはんな学研都市らしい研究開発力や歴史文化などの地域資源等を積極的に活用することにより、科学技術の素晴らしさや文化の豊かさを表現。
- すべての世代に届く楽しさや期待感のあるコンテンツを展開し、2025年以降も継続。
- 賛同機関の連携協力を一層強化し、研究開発の創発、産業活性化、ビジネスチャンスの拡大を推進。
- 国内外の人々との交流を促進する住民参加型の取組みや、未来型のエンターテインメントの展開を推進。

次のような内容を検討しています。

オリジナルコンテンツ<新規事業>の展開

- 多様な賛同機関が、新たな発想で「未来」を考え、様々な手法で発信
- 起業家、学生、地域住民など多様な人々の発想を結集した独創的でエッジの効いた取組みを展開


空飛ぶサービス


多くのアバターが競争する「アバターチャレンジ」


アバター

国際的な会議の開催

- けいはんな学研都市に世界の叡知が集い、科学技術や社会全体の進歩の方向性など高次のテーマについて議論し、健康で平和で豊かな「未来」の実現に寄与
- けいはんな学研都市が考える「未来」とともに、歴史文化資源等も活用してKEIHANNAの魅力を国内外に強く広く発信


和束町の茶畑


平城宮第一次大極殿


国際会議 (提供：奈良県国際課)

科学や文化に親しむ催事

- 「未来」のテイストにあふれた、楽しく科学や文化に親しむイベントを展開し、けいはんな学研都市の魅力を発信
- 地域資源を活用した取組みを2025年以降も継続

【想定するイベント例】※順次追加
ロボットコンテスト／e-sports大会／ドローンコンテスト／コンサート／演劇／茶会／アートフェスティバル　等


e-sports


茶会


けいはんなフィルハーモニー管弦楽団

(仮称)けいはんな万博開催準備会にご賛同いただいている機関

株式会社国際電気通信基礎技術研究所／公益財団法人国際高等研究所／
公益財団法人地球環境産業技術研究機構／
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 関西光科学研究所／
国立研究開発法人情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所／
国立研究開発法人理化学研究所／国立国会図書館関西館／奈良先端科学技術大学院大学／
同志社大学／同志社女子大学／大阪電気通信大学／奈良女子大学／京都大学大学院／
京都府立大学／大阪大学／奈良県立医科大学／
独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所／けいはんな記念公園 管理事務所／
日本電信電話株式会社 NTTコミュニケーション科学基礎研究所／
パナソニック ホールディングス株式会社／大和ハウス工業株式会社 総合技術研究所／
オムロン株式会社／株式会社島津製作所 基盤技術研究所／
サントリーホールディングス株式会社／
ロート製薬株式会社 ロートリサーチビレッジ京都／参天製薬株式会社 奈良研究開発センター／
積水ハウス株式会社 総合住宅研究所／公益社団法人関西経済連合会
京都府／大阪府／奈良県／京田辺市／木津川市／精華町／四條畷市／奈良市／生駒市／
株式会社けいはんな／奈良学園大学／株式会社福寿園 CHA遊学パーク／イーセップ株式会社／
株式会社Keigan／株式会社Halle Game Lab／株式会社KeDDii ALPHA／アイコム株式会社／
CONNEXX SYSTEMS株式会社／サンシード株式会社／Bioworks株式会社／株式会社dTosh／
グリーンハ～モニー／株式会社森忠建設造園／フロムデータ株式会社／
堀江一級建築設計事務所／株式会社クリーンライフサービス／日本制御株式会社／
ケーピーエス工業株式会社／株式会社イチグチ／環境衛生薬品株式会社／株式会社井上製作所／
マンヨーツール株式会社／共栄製茶株式会社／株式会社きんでん 京都研究所／
株式会社マルタカ／タツタ電線株式会社／株式会社二条丸八／株式会社西村幸太郎商店／
日本ニューロン株式会社／カゴヤ・ジャパン株式会社／清和工業株式会社
株式会社プロテックス・ジャパン／アドコート株式会社／ミツフジ株式会社／株式会社ジーネス
株式会社ヒラノテクシード／株式会社ウィル／抱月工業株式会社／日本機材株式会社／
株式会社ジェヌインR＆D／株式会社環境総合リサーチ／相楽工業株式会社／
株式会社イーシーフロンティア／ダイナミックツール株式会社／
明和ゴム工業株式会社／株式会社加地
経済産業省 近畿経済産業局／公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構
(令和5年２月28日現在　86機関　順不同)

【お問い合わせ先】
公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構 事業推進部
619-0237 京都府相楽郡精華町光台1丁目7 けいはんなプラザ ラボ棟3F
URL: https://www.kri.or.jp/
TEL: 0774-95-6128　FAX: 0774-95-5104

資料７

けいはんな万博2025
基本計画の概要

2023年6月



1. 開催趣旨

「けいはんな万博2025」は、高い研究開発力と豊かな歴史文化資源に恵まれたけいはんな学研都市の総力を挙げて、素晴らしい未来社会の実現に貢献しようとする試みです。
楽しく期待感のある様々なコンテンツを展開することにより、科学技術や文化の力で人類が直面する様々な課題に解を与え、健康で平和で豊かな未来の実現に寄与したいと考えています。
「けいはんな万博2025」は、世界へと広がり、未来へと継続する取組です。

2. 開催概要

開催テーマ

『未来社会への貢献 ～次世代への解～」

●世界の知と産業への「解」　●持続的イノベーションへの「解」　●科学・生活・文化・自然環境の調和への「解」

基本方針

○ けいはんな学研都市内の立地機関等が一体となって叡知を結集し、「健康」「平和」「豊かさ」に満ちた素晴らしい未来社会の実現に貢献。
○ 高い研究開発力や豊かな歴史文化資源等を積極的に活用することにより、科学と文化が融合したけいはんな学研都市の魅力を表現。
○すべての世代に届くような楽しさ、期待感のあるコンテンツを展開し、2025年以降も継続。
○賛同機関の連携協力を一層強化し、研究開発の創発、産業活性化、ビジネスチャンスの拡大を推進。
○国内外の人々との交流を促進する住民参加型の取組みや、未来的エンターテインメントの展開を推進。

事業名称

けいはんな万博2025　(KEIHANNA EXPO 2025)

開催時期

2025年(令和7年)4月～同年10月
※機運醸成のため前年から実施する事業、未来に続くレガシーとして期間終了後に継続する事業がある。

開催場所

けいはんな学研都市の全域が連携して一体的に実施
※仮想空間も積極的に活用し、夢洲だけでなく世界とも連携する。

3

3. けいはんな万博の構成

2025年(令和7年)4月から10月の期間を中心に、４つのフェスティバルや国際会議をはじめ様々な催事を展開します。

式典

先行催事	開会式	閉会式
けいはんな万博の開催を広く発信する序章として祝祭の雰囲気を盛り上げ	けいはんな万博の意義や内容を広く紹介し、祝祭の雰囲気を盛り上げ	けいはんな万博の成果とレガシー、未来への提言を広く発信

催事

FESTIVAL #1	FESTIVAL #2	FESTIVAL #3	FESTIVAL #4
ロボット・アバター・ICT	ウェルビーイング	スタートアップ	サイエンス & アート
けいはんな学研都市をロボットやアバターで賑やかな街に。 ロボット大運動会 アバターチャレンジ 仮想空間、モビリティの活用	よりよく生きるために。食・健康・環境から「ウェルビーイング」の未来を考える。 ウェルビーイング祭典 マルシェ、ロボカフェ 茶の活用	けいはんな学研都市をスタートアップが競って集まる街に。 KGAP+、KOSAINN+など既存事業の枠組も活用し、国際的なピッチ会等を開催	科学と文化の融合による新たな価値の創造。 サイエンス & アート作品展 各種のワークショップ コンサート、美術展

国際会議

様々なシンポジウム、講演会、討論会等を国際色豊かに開催 フェスティバルのテーマに合わせて学会や国際会議を招致	世界の賢人がけいはんなから未来へのメッセージを発信

長期的な取組

- オープンラボ/テックツアー　けいはんな学研都市の魅力発信・オープンイノベーション拠点の機能強化・観光ルートの形成
- 仮想空間の活用　けいはんな万博に関する情報発信、遠隔地の人々との交流など仮想コモンズとして活用
- コモンズの活用　様々な分野、立場の人々が交流し、総合知により新たな価値を生み出す場の創出
- 「学際(GAKUSAI)」プロジェクト　「(仮称)けいはんな大学」の学生による学園祭の開催

4

4. 式典(先行催事、開・閉会式)

開催時期　先行催事：2024年春・秋(予定)／開会式：2025年春／閉会式：2025年秋

趣　旨

けいはんな万博の意義や内容を広く伝え、機運醸成を図るため先行催事を開催します。
また、祝祭感を盛り上げる開会式、様々な催事の成果や未来に続くレガシー、けいはんな学研都市がめざす未来を表明する閉会式も開催します。



概　要

1　シンポジウム・講演会
○けいはんな万博の意義や内容等について、国際色豊かな基調講演やシンポジウム等を通じて発信。国内外のサイエンスシティとも連携。

2　エクスポジションの開催
○けいはんな万博のフェスティバル等で展開するテーマや内容の紹介。
○けいはんな学研都市の歴史回顧とともに、2026年から始まる第5ステージ以降を展望。

3　「TEAM EXPO 2025 Meeting」の招致
○先行催事に、大阪・関西万博の公式共創事業である「TEAM EXPO 2025 Meeting」を招致。大阪・関西万博との連携強化とともに、けいはんな学研都市をアピール。

4　連携催事の展開
○音楽コンサート、古典芸能など既存の文化的催事も併せて開催し、華やかさを演出。



5. 国際会議の開催

開催時期　各フェスティバル開催時

趣　旨

世界の碩学、賢人がけいはんな学研都市に集い、科学、文化、平和、経済、社会など様々なテーマについて議論し、健康で平和で豊かな「未来」の実現に向けてメッセージを発信します。

概　要



国際会議（提供：奈良県国際課）

1　国際会議(賢人会議)の開催
○世界の碩学、賢人がけいはんな学研都市に集い、様々なテーマを議論し、健康で平和で豊かな「未来」の実現に向けてメッセージを発信。

2　シンポジウム・講演会
○4つのフェスティバルなど様々な催事で開催される多くのシンポジウム、講演会等について、海外からも参加者を招き、国際色豊かに展開。【再掲】

3　「茶」の活用
○けいはんな学研都市の周縁に産地が広がる「茶」に因み、世界各地に拡がる「喫茶文化」等をテーマに国際会議を開催。【再掲】

4　国際会議の招致
○大阪・関西万博を契機に開催される多くの国際会議、国際学会等のうち、けいはんな万博の意義に通じるものを招致。
○その際、けいはんな学研都市内の研究機関や企業等を対象とした「オープンラボ/テックツアー」や、歴史文化資源を活かしたエクスカーション等により開催地としての魅力を発信。

※招致の対象として検討するもの　STS Forum、地球環境サミット　等

6

6-1 FESTIVAL #1　Robot, Avatar, ICT

開催時期　2025年4月(予定)　※大阪・関西万博のテーマウィークの日程により変更の場合あり。

趣　旨

けいはんな学研都市をロボットやアバターで賑やかな街に。人間の活動を助け、豊かにする様々なロボット・アバターの紹介、さらにコンピュータや通信技術、仮想空間の活用、モビリティの活用等について展観し、「ロボット・アバター・ICT」と共に生きる未来を考えます。

概　要





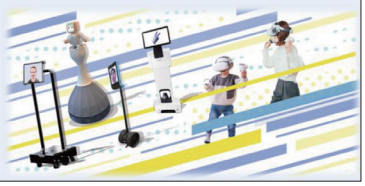
1　シンポジウム・講演会
○「ロボット・アバター・ICT」をテーマに、多くのシンポジウム、講演会等を国際色豊かに展開。また、学生やこども向けの教育プログラム等も用意。

2　「ロボット大運動会」等の開催
○ロボットやアバター、AIや量子コンピュータ、メタバース等に関する最新研究、技術等をわかりやすく展示。
○**「アバターチャレンジ」**をはじめ、様々なロボットやアバターが競技する**「ロボット大運動会」**を開催。
○一般の方、学生、こどもなども参加できるものづくりのコミュニティを拡大。
○大阪・関西万博会場と結んだロボット・アバターの遠隔操作等も実施。



3　共生のための実証実験
○**「ロボカフェ」**など生活の様々な場面で、ロボットやアバターが活躍している街づくり。
○先進的なモビリティやMaaS等の実証実験の実施。





6-2 FESTIVAL #2　Well-Being

開催時期　2025年6月(予定)　※大阪・関西万博のテーマウィークの日程により変更の場合あり。

趣　旨

よりよく生きるために。最新の栽培技術、スマート農業、食品加工・流通技術、バイオテクノロジーなど「食」をめぐる課題、「健康」に資する研究、自然破壊や地球温暖化等「環境」をめぐる課題等について最新の知見や技術を展観し、「ウェルビーイング」の未来を考えます。

概　要



1　シンポジウム・講演会等の開催
○「食」「健康」「環境」などをテーマに、多くのシンポジウム、講演会を国際色豊かに展開。また、学生や子供向けの教育プログラム等も用意。

2　エクスポジション**「ウェルビーイングの祭典」**の開催
○「食」「健康」「環境」等に関する最新研究、技術等をわかりやすく展示。
○古代食、伝統的食文化、宇宙食など様々な「食」とそれを美味しく食べる工夫を紹介。
○「健康」を保つ実践的方法の紹介と体験の機会の提供、「環境」を守り SDGs を達成するための具体的な取組の紹介。

3　マルシェ等
○様々な料理の試食、素材の購入ができる**「マルシェ」**の設置。「ロボカフェ」の設置。

4　「茶」の活用
○周縁に産地の広がる「茶」を活用した**「けいはんな茶会」**等の催事により、地域の歴史性や文化性をアピール。
○世界各地に拡がる「喫茶文化」をキーワードに国際会議を開催。



6-3 FESTIVAL #3　Startup

開催時期　2025年8月(予定)　※大阪・関西万博のテーマウィークの日程により変更の場合あり。

趣　旨

けいはんな学研都市をスタートアップが競って集まる街に。スタートアップエコシステムの機能を最大限に発揮し、国内外の様々な業種のスタートアップや支援機関等が一堂に会し、ビジネスマッチングの機会拡大、研究開発の創発、産業活性化の推進等を図ります。

概　要

1　シンポジウム・講演会
○スタートアップの支援を軸に、様々なステイクホルダーが参加して多くのシンポジウム、講演会、討論会等を国際色豊かに展開。
研究開発や産業の活性化、経済成長方策等について幅広く考察。



2　**スタートアップコングレス／ビジネスメッセ**の開催
○スタートアップや支援機関、ベンチャーキャピタル等が一堂に会してビジネスマッチングや資金調達の機会を拡大するコングレス／メッセを開催。
○大学発スタートアップとの連携や、身近な課題解決につながる分野など、独自のテーマ設定に配意。
○KGAP＋、KOSAINN＋など既存の枠組みも活用。

3　けいはんなイノベーションハブの活用
○2025年以降も継続する総合的なインキュベーション機能として、「けいはんなイノベーションハブ」を活用。



6-4 FESTIVAL #4　Science & Art

開催時期　2025年10月(予定)　※大阪・関西万博のテーマウィークの日程により変更の場合あり。

趣　旨

科学と文化の融合による新たな価値の創造。科学技術を社会実装する装置としてのアート、科学技術の新たな使途を閃かせるアートなど、科学と文化や芸術の融合による総合知が創る豊かな未来社会のイメージを、日本文化濫觴の地であるけいはんな学研都市から発信します。

概　要

1　シンポジウム・講演会
○「科学とアート」をテーマに、自然科学や人文科学の研究者、哲学者、芸術家、文化人らが多くのシンポジウム、講演会等を国際色豊かに展開。
○一般の方や学生、子供も参加できる**創作ワークショップ**を実施。



2　エクスポジション**「サイエンス & アート作品展」**の開催
○技術・産業・社会の革新を刺激し科学技術の社会実装に資するアート、既存の科学技術の新たな使途を閃かせるアートなどの作品展を開催。

3　コモンズの活用
○コモンズを活用して、作品制作の過程に多様な人々が関われるような仕組みをつくり、様々な文化活動や新たな価値創造を促進。

4　既存の文化的催事との協調
○音楽コンサート、古典芸能、絵画展など既存の**文化的催事との協調**により一層の華やかさを演出。



けいはんなフィルハーモニー管弦楽団

7. オープンラボ/テックツアー

開催時期　各フェスティバル開催時　2026年以降も継続

趣　旨

優れた研究開発力の蓄積と数多くの歴史文化資源に恵まれたけいはんな学研都市の魅力を広くアピールし、国内外の人々の交流促進やオープンイノベーション拠点の機能強化を図るため、オープンラボ/テックツアーを展開します。周辺観光地との連携による広域観光ルートの形成、大阪・関西万博との連携による誘客にも配意し、2025年以降も継続して実施します。

概　要

1　オープンラボ(オープンキャンパス含む)の実施
- ○賛同機関がその施設を開放したり又は一つの大きな会場にブースを出展するなどして、それぞれの研究内容、事業内容等を紹介し、各機関の広報、イメージアップを促進。
- ○けいはんな学研都市の情報発信拠点の整備や、機関間の交流促進により、オープンイノベーション拠点としての機能を向上。
- ○学生や子供向けのプログラムも用意し、職業選択につながる情報を提供。


オープンラボの状況

2　テックツアーの開発
- ○複数のオープンラボの周遊や周辺の歴史文化資源と組み合わせた「テックツアー」のルートを開発し、より広域的な連携の中で、誘客を促進し魅力を発信。
- ○大阪・関西万博関連の旅行商品が発売される機会を捉えて、旅行事業者等と連携してプロモーションを促進。
- ○国際会議の際に行われるエクスカーションとして活用。【再掲】




8.「コモンズ」の活用／仮想空間（Metaverse 等）の活用

開催時期　なるべく早期に準備し、2026年以降も継続

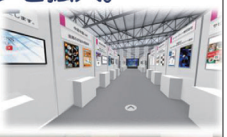
趣　旨

研究者、企業人、住民、学生など様々な分野、立場の人々が交流し、科学と文化や芸術の融合により新たな価値を生み出す場となるコモンズを創出します。

また、Metaverse 等の仮想空間も、世界中の人々と交流する仮想コモンズとして活用し、けいはんな万博に関する情報発信、仮想空間ならではのコンテンツの提供等を行います。

概　要

1　現実の場所としての「コモンズ」の創出
- ○様々な分野、立場の人々が交流し、新たな価値を生み出す場となるコモンズを創出。
- ○既に始動している「AUBAR」や「未来共創アトリエ」を成長させるとともに、「TEAM EXPO 2025」との連携や「学際(GAKUSAI)」により共創のネットワークを拡大。



2　仮想空間の「コモンズ」
- ○けいはんな万博の情報発信、多言語でのコミュニケーションの場として活用。
- ○遠隔地の方や障害があるために直接参加できない方など、世界中の様々な人々との交流、共創の場として活用。
- ○仮想空間ならではのコンテンツの提供



3　けいはんな万博後の活用
- ○けいはんな万博終了後も、共創、オープンイノベーション拠点の機能向上を促進。
- ○モノづくり×Metaverse 等による新サービスの創出や人材育成などの取組に積極的に活用。

12

9.「学際(GAKUSAI)」プロジェクト

開催時期　なるべく早期に準備し、2026年以降も継続

趣　旨

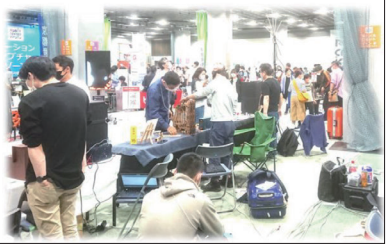
けいはんな学研都市に所縁のある大学の学生たちが中心となって共創コミュニティ「(仮称)けいはんな大学」を形成し、その学園祭として「学際(GAKUSAI)」を開催します。
企業の方やクリエイター等も参加し、ポップカルチャーを含めた創作物、芸術作品、またその創作技術等を展示、発表し、全世界の人々と交流を深めます。

概　要

1　「けいはんな大学」の形成
○けいはんな学研都市に所縁のある大学の学生たちを中心に、企業の方やクリエイター等も参加して共創コミュニティ「(仮称)けいはんな大学」を形成。
○ウェブサイトやSNSを通してコミュニティ内の情報を共有し、拡大を図るためオンラインイベントを企画・実施。

2　「学際(GAKUSAI)」の開催
○「けいはんな大学」の学園祭として「学際(GAKUSAI)」を開催。
○様々な創作物、芸術作品等を展示、発表し、全世界の人々との交流を促進。

3　けいはんな万博後の活動
○けいはんな万博で得られた学生と企業やクリエイターとのつながりを利用して、全世界の学生、企業と連携する催事を展開。
○「グローバルヤングアカデミー」の取組とも連携。



10. 会場・交通について

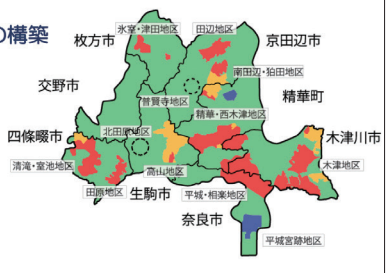
会場の考え方

○けいはんな万博は、既存施設を活用して開催。
○大規模集客催事は、けいはんなプラザ、けいはんなイノベーションセンター(KICK)、けいはんな記念公園等を中心に開催を検討することとなるが、8市町をはじめ多くの賛同機関の協力を得てより広域的に展開できるよう配意。
○シンポジウム、講演会、国際会議等の一部は、国際高等研究所でも開催するほか、賛同機関が個別に開催するイベント、オープンラボ等は、当該機関の施設で開催。

交通の考え方



1　新たなモビリティへの試み
○けいはんなプラザとけいはんなイノベーションセンターの間について、自動運転での輸送システムの導入をめざす。
○古代史における水運の重要性を発信するとともに新たな観光ルートとするため、「木津」と夢洲を結ぶ船の運航について検討をすすめる。
○空飛ぶクルマの運行やデモフライトが可能となるよう検討をすすめる。
○夢洲や周辺観光地との連携による広域周遊ルートの形成と相まって、最適なMaaSの構築をすすめる。



2　スムーズな施設間移動
○離れた会場で複数の催事が行われる場合でも、スムーズに移動できる交通体系となるよう配意する。
○カーシェアリング、電動アシスト付自転車等様々な移動手段の導入を検討する。
○バスやタクシーの運行会社等の協力も得て、施設間やクラスター間を最小の負担、最短の時間で往来できるよう工夫する。

3　夢洲等との連携
○大阪・関西万博を訪れる国内外の来訪者をけいはんな学研都市に誘うため、テックツアーの企画等と相まって、直通バスの運行やMaaS の確立をめざす。また、その他の観光地とも同様の連携をめざす。
○交通機関の運行状況、駐車場の満空、渋滞・混雑等の情報をリアルタイムで把握できるシステムの導入を図る。



ご賛同いただいている機関

株式会社国際電気通信基礎技術研究所／公益財団法人国際高等研究所／公益財団法人地球環境産業技術研究機構／
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 関西光量子科学研究所／
国立研究開発法人情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所／
国立研究開発法人理化学研究所／国立国会図書館関西館／奈良先端科学技術大学院大学／同志社大学／
同志社女子大学／大阪電気通信大学／奈良女子大学／京都大学／大阪大学／京都府立大学／奈良県立医科大学／
独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所／日本電信電話株式会社 NTTコミュニケーション科学基礎研究所／
けいはんな記念公園／パナソニック ホールディングス株式会社／大和ハウス工業株式会社 総合技術研究所／
オムロン株式会社／京セラ株式会社 けいはんなリサーチセンター／株式会社島津製作所 基盤技術研究所／
サントリーホールディングス株式会社／ロート製薬株式会社 ロートリサーチビレッジ京都／
参天製薬株式会社 奈良研究開発センター／積水ハウス株式会社 総合住宅研究所／公益社団法人関西経済連合会／
京都府／大阪府／奈良県／京田辺市／木津川市／精華町／四條畷市／奈良市／生駒市／株式会社けいはんな／
奈良学園大学／株式会社福寿園 CHA遊学パーク／イーセップ株式会社／株式会社Keigan ／
株式会社 Halle Game Lab ／株式会社 KeDDii ALPHA ／アイコム株式会社／CONNEXX SYSTEMS株式会社／
サンシード株式会社／Bioworks株式会社／株式会社 dTosh ／グリーンハ～モニー／株式会社森忠建設造園／
フロムデータ株式会社／堀江一級建築士事務所／株式会社日本クリーンライフサービス／日本制御株式会社／
ケーピーエス工業株式会社／株式会社イチグチ／環境衛生薬品株式会社／株式会社井上製作所／
マンヨーツール株式会社／共栄製茶株式会社／株式会社きんでん 京都研究所／株式会社マルタカ／
タツタ電線株式会社／株式会社二条丸八／株式会社西村幸太郎商店／日本ニューロン株式会社／
カゴヤ・ジャパン株式会社／清和工業株式会社／株式会社プロテックス・ジャパン／アドコート株式会社／
ミツフジ株式会社／株式会社ヒラノテクシード／株式会社ウィル／株式会社ジーネス／抱月工業株式会社／
日本機材株式会社／株式会社ジェヌインR&D ／株式会社環境総合リサーチ（ERS） ／相楽工業株式会社／
株式会社イーシーフロンティア／ダイナミックツール株式会社／明和ゴム工業株式会社／株式会社加地／
モリテックスチール株式会社／東英産業株式会社／京都プレス工業株式会社／
株式会社テクノーブル　サイエンスパーク京都／株式会社オリエンタルベーカリー／エンゼルグループ株式会社／
株式会社アテックス／株式会社広和工業／内外化成株式会社／一般社団法人KEC関西電子工業振興センター／
サイレックス・テクノロジー株式会社／株式会社ミズホ／株式会社ウイスト／新日本理化株式会社／
株式会社CCHサウンド／スッカマ源氏の湯／東京国際工科専門職大学／一般社団法人プレプラ／京都光華女子大学／
経済産業省 近畿経済産業局／
公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構／
（2023年6月23日現在　106機関　順不同）

15

運営協議会の発足と参画について

**「けいはんな万博」を円滑に運営していくため、
「けいはんな万博運営協議会」を組織いたします。
是非、ご参画をお願いします。
みんなで一緒に「けいはんな万博」を創りましょう。**

- 「けいはんな万博」は、けいはんな学研都市全体で創るお祭りです。みんなで一緒にお祭りを創りましょう。
- 「けいはんな万博」は、国内外への情報発信、ビジネスの拡大、共創・交流の絶好の機会です。
- 是非「けいはんな万博運営協議会」の各部会への参画をお願いします。
- 参画方法には、様々な類型が考えられます。ご負担を最小化しながらも積極的なご参画をお願いします。
- もし「基本計画(素案)」の中に適当な企画がなかったなら、是非新しい企画案をご提案ください。よろしくお願いします。

【お問い合わせ先】
公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構 事業推進部
619-0237 京都府相楽郡精華町光台1丁目7 けいはんなプラザ ラボ棟3F
URL: https://www.kri.or.jp/
TEL: 0774-95-6128　FAX: 0774-95-5104

Ver.3.2

16

資料 8

けいはんな学研都市

けいはんな万博 2025

「けいはんな万博2025」は、高い研究開発力と豊かな歴史文化資源に恵まれた
けいはんな学研都市の総力を挙げて、素晴らしい未来社会の実現に貢献しようとする試みです。
楽しく期待感のある様々なコンテンツを展開することにより、科学技術や文化の
力で人類が直面する様々な課題に解を与え、健康で平和で豊かな未来の実現に寄与したいと考えています。

テーマ
「未来社会への貢献　～次世代への解～」



開催時期
2025年（令和7年）4月から10月の期間を中心に、
４つのフェスティバルなど様々な催事を展開

FESTIVAL #1
ロボット・アバター・ICT
- けいはんな学研都市をロボットやアバターで賑やかな街に
- ロボット大運動会　アバターチャレンジ　仮想空間・モビリティの活用 等

FESTIVAL #2
ウェルビーイング
- 食・健康・環境から「ウェルビーイング」の未来を考える
- ウェルビーイング祭典　マルシェ　ロボカフェ　茶の活用 等

FESTIVAL #3
スタートアップ
- けいはんな学研都市をスタートアップが競って集まる街に
- 国際的なピッチ会の開催 等

FESTIVAL #4
サイエンス＆アート
- 科学と文化の融合による新たな価値の創造
- サイエンス＆アート作品展　各種ワークショップ　コンサート　美術展 等

開催場所
けいはんな学研都市の全域が連携して一体的に実施

【お問い合わせ先】
公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構 事業推進部
619-0237 京都府相楽郡精華町光台1丁目7 けいはんなプラザ ラボ棟3F　URL: https://www.kri.or.jp/　TEL: 0774-95-6128　FAX: 0774-95-5104

資料 9



2026年3月9日(月)

1

サポーターの皆様

住友電気工業株式会社　　株式会社堀場製作所
株式会社島津製作所　　積水ハウス株式会社
大和ハウス工業株式会社　　レンゴー株式会社

オムロン株式会社　共栄製茶株式会社　株式会社ヒラノテクシード
株式会社福寿園　ロート製薬株式会社　株式会社国際電気通信基礎技術研究所

カゴヤジャパン株式会社
Coltデータセンターサービス・ジャパン・オペレーティング合同会社
マンヨーツール株式会社　株式会社イチグチ　環境衛生薬品株式会社　山城経済懇話会
京都山城ロータリークラブ　新日本理化株式会社　株式会社テクノフレックス
株式会社ミズホ　株式会社井上製作所　株式会社ウィル　株式会社環境総合リサーチ

京都府　大阪府　奈良県　公益社団法人関西経済連合会

個人1名

株式会社けいはんな
公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構

(32機関　順不同)

2

参画機関一覧

イーセップ株式会社、エースジャパン株式会社、株式会社FDクリエイト、大阪電気通信大学、
大阪府、オムロン株式会社、金沢工業大学、環境衛生薬品株式会社、
公益社団法人関西経済連合会、関西大学、木津川市、木津川を美しくする会、
共栄製茶株式会社、京セラ株式会社、京田辺市、京都光華女子大学、
公益財団法人京都産業２１、京都大学 農学研究科、一般社団法人京都ドローン協会、
京都日本文化資源研究所、京都府、京都府立大学、京都府モラロジー協議会、
公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー、
特定非営利活動法人けいはんなアバターチャレンジ、けいはんな記念公園、
けいはんなフィルハーモニー管弦楽団、公益財団法人国際高等研究所、国立国会図書館、
株式会社国際電気通信基礎技術研究所、サントリーホールディングス株式会社、
滋賀大学、四條畷市、株式会社CCHサウンド、株式会社島津製作所、株式会社SHIN-JIGEN、
国立研究開発法人情報通信研究機構、新日本理化株式会社、せいか音頭保存会、精華町、
精華町商工会、せいか太鼓 波布理、積水ハウス株式会社、大和ハウス工業株式会社、
高の原音楽芸術協会、公益財団法人地球環境産業技術研究機構、テルモピレー株式会社、
東レ建設株式会社、東京国際工科専門職大学、奈良学園大学、奈良県、奈良県立医科大学、
奈良女子大学、日本機材株式会社、株式会社日本政策金融公庫、奈良先端科学技術大学院大学、
株式会社 Halle Game Lab、枚方市、株式会社福寿園、一般社団法人プレプラ、
未来食開発研究センター株式会社、任意団体ミラトリエ、山腰登記測量事務所、
山城喫茶文化連盟、山城経済懇話会、国立研究開発法人理化学研究所、
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構、株式会社Universal Robot Lab、
ゆめ伴プロジェクト、ロート製薬株式会社、和束町、
株式会社けいはんな、
公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構

（７３機関　順不同）

3

けいはんな万博2025　～けいはんなから日本へ、世界へ、そして未来へ～

「未来社会への貢献～次世代への解～」をテーマに、2025年4月13日～10月13日まで開催

式典

先行催事
けいはんな万博の開催を広く発信する序章として祝祭の雰囲気を盛り上げ

開会式
けいはんな万博の意義や内容を広く紹介し、祝祭の雰囲気を盛り上げ

閉会式
けいはんな万博の成果とレガシー、未来への提言を広く発信

催事

FESTIVAL #1
ロボット・アバター・ICT
けいはんな学研都市をロボットやアバターで賑やかな街に。
ロボット大運動会
アバターチャレンジ
仮想空間、モビリティの活用

FESTIVAL #2
ウェルビーイング
よりよく生きるために。食・健康・環境から「ウェルビーイング」の未来を考える。
ウェルビーイング祭典
マルシェ、ロボカフェ
茶の活用

FESTIVAL #3
スタートアップ
けいはんな学研都市をスタートアップが競って集まる街に。
KGAP+、KOSAINN+など既存事業の枠組も活用し、国際的なピッチ会等を開催

FESTIVAL #4
サイエンス & アート
科学と文化の融合による新たな価値の創造。
サイエンス & アート作品展
各種のワークショップ
コンサート、美術展

国際会議

様々なシンポジウム、講演会、討論会等を国際色豊かに開催
フェスティバルのテーマに合わせて学会や国際会議を招致

世界の賢人がけいはんなから未来へのメッセージを発信

長期的な取組

- オープンラボ/テックツアー　けいはんな学研都市の魅力発信・オープンイノベーション拠点の機能強化・観光ルートの形成
- 仮想空間の活用　けいはんな万博に関する情報発信、遠隔地の人々との交流など仮想コモンズとして活用
- コモンズの活用　様々な分野、立場の人々が交流し、総合知により新たな価値を生み出す場の創出
- 「学際(GAKUSAI)」プロジェクト　「(仮称)けいはんな大学」の学生による学園祭の開催

4

けいはんな万博2025の実績

○イベント等参加者数

・けいはんな万博関連イベント：74イベント　　参加者数：約200,000人

○FESTIVALごとの主なイベント

FESTIVAL	主なイベント	会場	参加者数
ロボット・アバター・ICT	5/24ロボット・アバター・ICTフェス 5/25アバターチャレンジ	KICK 精華大通り他	約4,150人
ウェルビーイング	6/13～15ウェルビーイングフェス 5/31～6/22metaCHA	けいはんなプラザ	約5,800人
スタートアップ	4/30けいはんな万博in夢洲 7/25スタートアップフェス 9/30けいはんな万博in夢洲	けいはんなプラザ	約4,700人
サイエンス＆アート	4/19～5/18他　けいはんなみゅーじあむ 10/4けいはんなＲ＆Ｄフェア	けいはんな記念公園 けいはんなプラザ	約6,800人 1,213人
ロボット・アバター・ICT ＆ウェルビーイング	7/28～8/3けいはんな万博in夢洲	大阪・関西万博	約20,000人
国際会議	9/21シンポジウム「不確実性とともに生きる」	けいはんなプラザ	約950人
学際プロジェクト	9/8～11けいはんな大学サミット	けいはんなプラザ	125人
広域連携	4/23・9/19けいはんな万博in夢洲	大阪・関西万博	約5,000人
オープンラボ・テックツアー	5～10月の9日間、15施設で24回開催	各企業・団体施設他	288人

5

けいはんな万博2025の成果

けいはんな万博2025は、けいはんな学研都市始まって以来の最大のイベントとなった。
その成果を次のとおり総括し、時期のステージプランに記述する。

●単なる展示・イベントではなく、科学技術を人々の生活に結び付けて、技術の社会実装の試行を体感することで、科学技術が社会課題を解決する有効な手段であるとの理解を得て、最先端技術への受容性を高めることができた。これらにより、けいはんな学研都市が実証フィールドとして果たす科学技術と人間社会をつなぐ役割の有効性も検証された。

●けいはんな万博2025で設定した4つのテーマが、けいはんな学研都市の強みとなるテーマであることをあらためて確認。

●8市町が連名で地域横断的に実施するイベントが実現し、大学・企業・団体・行政・住民といった多様な参加者の新たな人脈と信頼のネットワークが形成され、連携の礎が強化された。

●連携イベントも含め74イベントにより約20万人の集客と100件を超えるメディアでの掲載があった。また国内外使節団の受け入れなどを通じ、広くけいはんな学研都市の知名度と存在感を高めることに寄与した。

●けいはんな万博2025で開催された「けいはんな大学サミット」という学生ネットワークを核に、企業・行政・大学が若者のビジョンを中心に据えて議論する、これまでのけいはんな学研都市にはない若者を中心とした共創型プラットフォームのひな形が形成された。ここではけいはんな学研都市を学びの場として、従来の知識取得ではない、不確実な未来を自らデザインする問いを生み出す力を学生に獲得させる新たなモデルとして成果を出した。

6

けいはんな万博2025の成果

けいはんな万博2025は、けいはんな学研都市始まって以来の最大のイベントとなった。
その成果を次のとおり総括し、時期のステージプランに記述する。

●単なる展示・イベントではなく、科学技術を人々の生活に結び付けて、技術の社会実装の試行を体感することで、科学技術が社会課題を解決する有効な手段であるとの理解を得て、最先端技術への受容性を高めることができた。これらにより、けいはんな学研都市が実証フィールドとして果たす科学技術と人間社会をつなぐ役割の有効性も検証された。

●けいはんな万博2025で設定した4つのテーマが、けいはんな学研都市の強みとなるテーマであることをあらためて確認。

●8市町が連名で地域横断的に実施するイベントが実現し、大学・企業・団体・行政・住民といった多様な参加者の新たな人脈と信頼のネットワークが形成され、連携の礎が強化された。

●連携イベントも含め74イベントにより約20万人の集客と100件を超えるメディアでの掲載があった。また国内外使節団の受け入れなどを通じ、広くけいはんな学研都市の知名度と存在感を高めることに寄与した。

●けいはんな万博2025で開催された「けいはんな大学サミット」という学生ネットワークを核に、企業・行政・大学が若者のビジョンを中心に据えて議論する、これまでのけいはんな学研都市にはない若者を中心とした共創型プラットフォームのひな形が形成された。ここではけいはんな学研都市を学びの場として、従来の知識取得ではない、不確実な未来を自らデザインする問いを生み出す力を学生に獲得させる新たなモデルとして成果を出した。

6

けいはんな万博2025のレガシー

けいはんな万博2025の成果を、次のとおり継承していく。

●けいはんな宣言に向けた若い世代からの提案(別紙)

令和7年10月11日、閉会セレモニーにおいて、けいはんな万博に参加した若い世代の代表者から、堀場共同代表に提案された。

●けいはんな宣言(別紙)

上記の若い世代からの提案等を踏まえて起草され、令和8年1月9日、けいはんな学研都市新年賀詞交歓会の際に、堀場共同代表から公表された。

●けいはんな万博の成果やけいはんな宣言の理念は、2035年までのけいはんな学研都市の姿を決める新たなステージプランの中に確実に反映され、未来社会に貢献するレガシーとして継承する。

8

シンボルキャラクターの取扱い



けいはんな学研都市シンボルキャラクター

けいはんな学研都市の８市町で開催するイベント等で活用予定
（推進機構のHPから使用申請／デザイン素材及び二次使用ガイドラインを提供）

けいはんな万博2025運営協議会　役員

共同代表　　公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構　理事長　堀場　厚
共同代表　　公益財団法人国際高等研究所　所長　松本　紘（令和７年６月ご逝去）

座　　長　　国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学　学長　　塩崎　一裕
副 座 長　　大阪公立大学 研究推進機構　特別教授　橋爪　紳也

会議の開催状況

第１回（仮称）けいはんな万博開催準備会
開催日：令和４年 10 月 27 日
会　場：けいはんなプラザ「ボルガ」＋オンライン
内　容：準備会の設置について／（仮称）けいはんな万博全体構想について／今後の進め方について

第２回（仮称）けいはんな万博開催準備会
開催日：令和５年４月 25 日
会　場：オンライン開催
内　容：基本計画の策定に向けて

第３回（仮称）けいはんな万博開催準備会
開催日：令和５年６月 22 日
会　場：けいはんなプラザ「ナイル」＋オンライン
内　容：基本計画の策定について／今後の進め方について

2023 年度けいはんな万博 2025 運営協議会総会
開催日：令和５年 11 月９日
会　場：けいはんなプラザ「ナイル」＋オンライン
内　容：基本計画について／運営協議会について／参画・協賛について

2024 年度第１回けいはんな万博 2025 運営協議会総会
開催日：令和６年６月 17 日
会　場：けいはんなプラザ「ナイル」＋オンライン
内　容：取組状況等報告／開催内容について／今後の取組・進め方等について

2024 年度第２回けいはんな万博 2025 運営協議会総会
開催日：令和７年３月 12 日
会　場：けいはんなプラザ「ナイル」＋オンライン
内　容：取組状況等報告／開催内容について／ 2024 年度決算・2025 年度予算について

2025 年度けいはんな万博 2025 運営協議会総会
開催日：令和８年３月９日
会　場：けいはんなプラザ「ナイル」＋オンライン
内　容：実績・成果・レガシー等報告／収支見込について／運営協議会の解散について

けいはんな万博2025運営協議会会則

（名称）
第１条　この会は、けいはんな万博2025運営協議会（以下「協議会」という）と称する。

（目的）
第２条　協議会は、2025 年の大阪・関西万博と連携して、高い研究開発力と豊かな歴史文化を有するけいはんな学研都市の総力を挙げて「けいはんな万博2025」を開催し、以て科学技術や文化の力により健康、平和、豊かさに満ちた素晴らしい未来社会の実現に貢献していくことを目的とする。

（事業）
第３条　協議会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
（１）「けいはんな万博2025」全体の企画、開催及び運営の総合調整に関すること
（２）協議会が実施するイベントの企画、開催及び運営に関すること
（３）「けいはんな万博2025」の成果の総括及び次代への継承に関すること
（４）その他協議会の目的を達成するために必要な事業

（組織）
第４条　協議会は、「けいはんな万博2025」の趣旨に賛同しこれに参画、協賛する機関をもって構成し、当該機関を代表する者が委員となる。
２　「けいはんな万博2025」の趣旨に協賛しこれに参画しようとする機関は、いつでも協議会への加入を申し出ることができ、第７条に定める幹事会の承認を経て、協議会の構成機関となる。
３　委員の任期は、選任の日から協議会の目的が達成され解散するまでとする。ただし、委員が協議会を構成する機関の役職を離れた場合は、その委員は辞任したものとみなし、その後任者が前任者の残任期間を務めるものとする。

（役員）
第５条　協議会の委員の中から次の各号に定める役員を選任する。
（１）共同代表 2名
（２）座長 1名
（３）副座長 1名
２　共同代表は協議会を代表し、第２条の目的を達成するため、事業の推進を先導する。
３　座長及び副座長は共同代表を補佐し、第６条に定める総会の運営等にあたる。
４　役員の任期は、第４条第３項に定める委員の任期に準じる。

（総会）
第６条　総会は、全ての委員をもって構成する。
２　総会は、共同代表が招集する。
３　総会は、次の事項について審議し、決定する。
（１）「けいはんな万博2025」の事業内容及び運営に関すること
（２）その他、第２条の目的を達成するために必要な事項
４　総会の議事の進行は、座長が行う。
５　座長に万一事故があった場合は、副座長がその職務を代理する。
６　総会には、必要に応じて委員以外の者を出席させることができる。

（幹事会）
第７条　事業を適正かつ迅速に推進するため、総会の下に幹事会を置く。
２　幹事会は、共同代表が依頼する委員またはその委員が代理として指名する者(以下、幹事という。)をもって構成する。
３　幹事会は、次の事項について審議し、決定する。
（１）第８条に定める部会の検討を踏まえた「けいはんな万博2025」の事業内容に関すること(総会に付議する事項を除く)
（２）予算及び決算に関すること
（３）その他協議会の運営に関すること
４　幹事会に幹事長を置き、公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構常務理事をもって充てる。
５　幹事長は、幹事会を招集しこれを主宰する。
６　幹事会に副幹事長を置くことができる。
７　副幹事長は、幹事の中から幹事長が依頼する者をもって充て、幹事長を補佐する。
８　監事は、幹事と別に選出し、協議会の財務を監督する。
９　このほか幹事会の運営等に関する事項は、別に規程を定める。

（部会）
第８条　「けいはんな万博2025」の事業内容等を詳細に企画・立案するため、テーマや展開方法等に応じて部会を置く。
２　部会の構成、業務や運営等に関する事項は、別に規程を定める。

（事務局）
第９条　総会及び幹事会の決定に基づき、事業推進のための事務処理を適正かつ迅速に行うため、事務局を置く。
２　事務局は、原則として幹事の属する機関の職員により組織する。
３　事務局長は、幹事長がこれを兼ねる。
４　事務局の業務や運営等に関する事項は、別に規程を定める。

（会計）
第１０条　協議会の会計年度は、毎年４月１日に始まり翌年３月３１日に終わる。ただし、委員会設立初年度は、設立の日からその日以降最初に到達する３月３１日までとする。
２　協議会の経費は、補助金、負担金、寄附金その他の収入をもって充てる。
３　別に定める会計処理規程に基づき、厳正に会計処理を行う。

（解散）
第１１条　協議会は、第３条に定める事業が完了した後、総会の議決を経て解散する。
２　協議会が解散時に有する残余財産は、総会の議決を経て処分する。

（その他）
第１２条　この会則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、共同代表の了解を得て幹事会が別に定める。

附則
この会則は、令和５年１１月９日から施行する。

けいはんな万博2025運営協議会幹事会規程

（目的）
第１条　この規程は、けいはんな万博2025運営協議会（以下「協議会」という。）の幹事会に関し、けいはんな万博2025運営協議会会則（以下「会則」という。）第７条の各項に規定するもののほか、必要な事項を定めるものとする。

（構成及び任期）
第２条　幹事会の構成員は、別表１に記載の者とする。
２　幹事の任期は、会則第４条第３項の規定を準用する。

（会議）
第３条　幹事会は、幹事長が招集する。
２　幹事会は、構成員の過半数の出席をもって成立する。
３　幹事会の議事は、出席者の過半数の賛成をもって決定する。また、賛否同数の時は幹事長の決するところによる。

（部会との連携）
第４条　幹事会は、会則第７条第３項第１号に規定する事項を審議、決定するため、会則第８条に規定する部会と緊密に連携するものとする。

（事務局）
第５条　幹事会の事務は、協議会の事務局において行う。

（その他）
第６条　この規程に定めるもののほか、幹事会の運営に関し必要な事項は、幹事会の了解を得て幹事長が別に定める。

附則
この規程は、令和５年１２月２７日から施行する。
この規程は、令和６年４月２３日から施行する。
この規程は、令和６年６月２６日から施行する。
この規定は、令和７年１月２８日から施行する。
この規程は、令和７年４月１日から施行する。

別表１

機関名	役職	氏名
株式会社国際電気通信基礎技術研究所	代表取締役社長	浅見　徹
公益財団法人国際高等研究所	専務理事	和氣　弘明
国立研究開発法人情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所	所長	内元　清貴
奈良先端科学技術大学院大学	理事・副学長	加藤　博一
京都府	文化学術研究都市推進課長	芝田　雅貴
大阪府	企画室連携課長	山内　哲也
奈良県	県土利用政策課長	内田　実保
公益社団法人関西経済連合会	常務理事	久米　一郎
東京国際工科専門職大学	教授	駒井　章治
一般社団法人プレプラ	代表理事	水瀬　ゆず
株式会社けいはんな	代表取締役社長	荒木　康寛
公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構	常務理事	河合　智明

【監事】米田会計事務所　　米田　茂　　（令和7年４月１日現在）

けいはんな万博2025運営協議会部会規程

（目的）
第１条　この規程は、けいはんな万博2025運営協議会（以下「協議会」という）の部会に関し、けいはんな万博2025運営協議会会則（以下「会則」という）第８条の各項に規定するもののほか、必要な事項を定めるものとする。

（構成及び任期）
第２条　部会の構成は、別表１のとおりとする。
２　部会の構成は、幹事会の決定により新設、廃止または改編することができる。
３　各部会の構成員は、会則第４条に規定する協議会の構成機関からの申出に基づいて決定する。
４　各部会に部会長１名を置く。部会長は、幹事会において決定する。
５　各部会の構成員の任期は、会則第４条第３項の規定を準用する。

（部会の機能）
第３条　各部会は、そのテーマごとに、けいはんな万博2025として実施する事業内容や費用の見込み等について案を策定し、協議会の幹事会、総会に諮る。
２　各部会の構成員は、事業内容等の決定後は、その事業の実施、運営に主体的に携わる。

（会議等）
第４条　各部会は、それぞれの部会長が招集する。
２　各部会の議事は、出席者の総意をもって決定する。

（幹事会との連携）
第５条　けいはんな万博2025運営協議会幹事会規程第４条に規定する幹事会と部会の緊密な連携を図るため、幹事または事務局職員が各部会に参加し、各部会の検討状況や事業の進捗状況を把握することにより、相互の情報共有や連絡調整を行う。

（事務処理）
第６条　部会の事務は、原則として部会内で行う。ただし、会計処理については、協議会の事務局で一元的に行う。

（その他）
第７条　この規程に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、幹事会の了解を得て幹事長が別に定める。

附則
この規程は、令和６年１月１９日から施行する。

別表１

部会の構成
ロボット・アバター・ICT
ウェルビーイング
スタートアップ
サイエンス & アート
国際会議
広域連携
オープンラボ／テックツアー

（令和６年１月１９日現在）

けいはんな万博2025運営協議会事務局規程

（目的）
第１条　この規程は、けいはんな万博2025運営協議会（以下「協議会」という。）の事務局に関し、けいはんな万博2025運営協議会会則（以下「会則」という。）第９条の各項に規定するもののほか、必要な事項を定めるものとする。

（所掌業務）
第２条　事務局は、けいはんな万博2025の開催等に向けて、次の各号に定める業務の事務処理を行う。
（１）参画機関の拡大及び資金の確保に関すること
（２）各部会が策定する事業内容の取りまとめ及び調整に関すること
（３）協議会が主体となる事業の実施、運営に関すること
（４）予算案の策定及び決算に関すること
（５）会計処理に関すること
（６）広報、情報発信に関すること
（７）その他協議会の総会や幹事会の決定に基づくけいはんな万博2025の開催に関する一切の業務

（組織）
第３条　事務局に次の各号に定める職員を置く。
（１）事務局長
（２）事務局次長
（３）会計責任者
（４）事務局員
２　事務局長は、会則第７条第４項及び同第９条第３項の規定により、公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構常務理事が就き、事務局全体を掌理し、意思決定を行う。
３　事務局次長は、事務局長が選任し、事務局長を補佐する。
４　会計責任者は、けいはんな万博2025運営協議会会計処理規定第４条により選任され、同規程に基づき会計処理全般を統括する。
５　事務局員は、会則第９条第２項の規定により原則として幹事の属する機関の職員が就き、第２条に規定する業務にあたる。
６　協議会の参画機関からの要請があり幹事会が承認した場合は、会則第９条第２項の規定にかかわらず、幹事の属する機関以外の機関の職員も事務局員とすることができる。

（文書管理）
第４条　事務局内の意思決定は、全て決裁文書（稟議書）に基づいて行う。ただし、軽微なものについては、これを省略することができる。
２　決裁文書（稟議書）には、必ず一連の記番号を付さなければならない。ただし、軽微なものについては、これを省略することができる。
３　事務局において作成される文書は、関係する法令規等の規定に準拠して、適切な期間を定めて保存しなければならない。
４　このほか、文書の管理等について必要な事項は、事務局長が別に定める。

（印章）
第５条　事務局において、業務を処理するため次の各号に定める印章を使用する。
（１）けいはんな万博2025運営協議会代表印
（２）けいはんな万博2025運営協議会事務局長印
（３）けいはんな万博2025運営協議会会計責任者印
２　前項第１号及び第２号の印章は事務局長が、同第３号の印章は会計責任者が、適切に保管する。

（専決）
第６条　事務局長は、次の各号に定める事項について専決することができる。
（１）物品の購入、役務の提供、物品および会場の使用貸借、委託契約、補助金の交付、その他運営協議会や幹事会等の運営に要する経費のうち、一件当たり１００万円未満の支出
（２）補助金及び負担金、寄付金及びその他の収入の受け入れ
（３）事業の目的を変えない範囲での予算の流用
２　前項の規定にかかわらず、特に重要と認められる事項については、あらかじめ幹事会の承認を受けなければならない。

（守秘義務）
第７条　事務局長をはじめすべての事務局職員は、業務上知りえた事実、情報等を安易に外部の第三者に漏らしてはならない。
２　前項の規定は、当該職員が事務局の職員ではなくなった後も、会則第１１条に定める協議会の解散までの期間において同様とする。

（その他）
第８条　この規程に定めるもののほか、事務局の運営に関し必要な事項は、事務局長が別に定める。

附則
この規程は、令和６年１月１９日から施行する。

けいはんな万博2025運営協議会会計処理規程

（目的）
第１条　この規程は、けいはんな万博2025運営協議会（以下「協議会」という。）の会計処理に関し、けいはんな万博2025運営協議会会則（以下「会則」という。）第１０条第３項の規定に基づき、必要な事項を定める。

（適用範囲）
第２条　この規程における会計処理とは、次の事項をいう。
（１）予算及び決算に関する事項
（２）会計関係帳簿類の作成、整理及び管理に関する事項
（３）金銭の出納に関する事項
（４）契約に関する事項

（会計の原則）
第３条　会計処理にあたっては、法令等に基づくほか、次の原則にしたがって処理しなければならない。
（１）すべての会計処理について、真実な内容及びその根拠を明確に示さなければならない。
（２）前号の規定に基づき、すべての会計処理について、適正に記録を作成し、それを保管・管理しなければならない。
（３）すべての会計処理は、公平、公正かつ効率的に行わなければならない。
（４）会計処理の方法及び手続については、原則としてこれを変更してはならない。ただし、幹事会の決定、監事の指摘による場合はこの限りではない。

（会計責任者）
第４条　会計責任者は、事務局長が選任し、幹事会の承認を得て決定する。

（帳簿書類等の作成・保存・処分）
第５条　会計責任者は、次の帳簿書類等を備え、所用の事項について整然かつ明瞭に記載しなければならない。
（１）会計帳簿、会計伝票
（２）証憑書類（領収書等会計伝票の正当性を証する書類。以下同じ。）
（３）その他の帳簿書類
２　前項の帳簿書類等の保存期間は、決算完結日から起算して５年とし、適正に保存しなければならない。

（会計帳簿）
第６条　会計帳簿は、年度毎に作成・更新しなければならない。
２　会計帳簿は、すべて会計伝票及び証憑書類に基づいて作成しなければならない。

（会計伝票）
第７条　会計伝票は次のとおりとし、一切の取引に関する会計処理は、証憑書類に基づき、取引一件ごとに会計伝票を作成し、会計責任者の承認を得るものとする。
（１）入金伝票
（２）出金伝票
（３）振替伝票

（収支予算）
第８条　収支予算は、会計年度ごとに事務局長が調製し、幹事会の議決により決定し、直近の協議会の総会に報告する。
２　予算決定後、やむを得ない理由により予算を変更する必要が生じた場合、事務局長は補正予算を調製し、幹事会の議決を経なければならない。
３　各会計年度の支出は、原則として当該年度の収入をもってこれに充てなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認められる場合には、幹事会の議決を経たうえで、収入の一部を繰り越すことができる。

（金銭の範囲）
第９条　この規程において「金銭」とは、現金及び預貯金をいう。

（金銭の管理）
第１０条　金銭の出納及び保管は、会計責任者が適正かつ厳格に行う。
２　金銭の出納は、会計責任者及び事務局長の承認に基づき、会計伝票によって行う。
３　預貯金通帳等は、所定の金庫で保管するか、または金融機関に保護預けとする。

（金銭の収納）
第１１条　金銭を収納したときは、領収書を発行しなければならない。
ただし、口座振込により納入があったときは、この限りではない。

（金銭の支出）
第１２条　債権者からの請求に基づく金銭の支出については、成果、出来高、納品等を確認する書類や請求書など、取引を証する書類に基づき支払うものとする。

２　前項の規定にかかわらず、次の支出については、請求書等を要しないものとする。
（１）公署等の発行した納付書等によるもの
（２）切手、収入印紙
（３）その他請求書等により難いと、会計責任者が認めたもの
３　支出は、原則として金融機関への振込によるものとし、当該金融機関の振込金受取書により確認する。
４　金融機関への振込により難いと会計責任者が認めた場合は、現金で支払うことができるものとするが、その場合には必ず領収書を徴収しなければならない。ただし、領収書の徴収が困難な場合は、支払い証明書によることができる。

（特例的な支出）
第１３条　事務取扱上、やむを得ない場合は、会計責任者の承認を得た上で、次の特例的な支出を行うことができる。
（１）資金前渡
（２）概算払
（３）前金払
２　前項第１号または第２号による支払いを受けた場合は、速やかに精算しなければならない。

（契約）
第１４条　協議会が契約を締結しようとする場合は、公平性、透明性を保てる方法によらなければならない。

（随意契約）
第１５条　協議会が、随意契約を締結しようとする場合は、あらかじめ見積りに必要な事項、条件等を提示し、二名以上の事業者から見積書を徴した上で、契約の相手を決めなければならない。ただし、契約金額が３万円以下の場合、または会計管理者がやむを得ないと認めた場合はこの限りではない。

（契約書の作成）
第１６条　契約を締結するときは、契約目的、契約金額、履行期限その他の条件等契約の履行に関し必要な事項を記載した契約書を作成しなければならない。
２　契約金額が３０万円以上１００万円未満の契約については、請書をもって契約書に代えることができる。
３　契約金額が３０万円未満の場合は、見積書をもって契約書に代えることができる。

（消耗品）
第１７条　この規程において、耐用年数が１年未満または取得価額が１０万円未満のものを消耗品として取り扱う。

（決算）
第１８条　会計責任者は、毎会計年度終了後、速やかに決算書類を作成し、幹事会の承認を受けた上で、決算を確定する。

（監査）
第１９条　監事は、協議会の会計処理について、随時に監査を行うことができる。

（その他）
第２０条　この規程に定めるもののほか、協議会の会計処理に関し必要な事項、様式等は、事務局長が別に定める。

附　則

この規程は、令和５年１２月２７日から施行する。

けいはんな万博2025の開催等に向けた資金取扱要領

（目的）
第１条　この要領は、けいはんな万博2025運営協議会（以下「協議会」という。）の開催等に向けた資金の取扱い等に関し、けいはんな万博2025運営協議会会計処理規程（以下「規程」という。）第２０条の規定に基づき、必要な事項を定める。

（適用範囲）
第２条　この要領における開催等に向けた資金とは、次の各号に定めるものをいう。
（１）協議会の各部会等が開催のために必要とする経費に充当する資金
（２）その他各部会の部会長が必要と認めた経費に充当する資金

（取扱いの原則）
第３条　開催等に向けた資金は、協議会がけいはんな万博2025の開催等を目的として設立された法人格を持たない任意の団体であることに鑑み、原則として協議会解散時に均等、公平に分配することができない資産の購入には充当しない。
２　開催に必要となる機材、備品等については、原則としてけいはんな万博2025開催時に限定して賃貸借（いわゆるレンタル）により調達する。
３　けいはんな万博2025を契機として調達される機材や備品等のうち、けいはんな万博2025の開催趣旨に合致する内容で、現在研究の途上にあり、けいはんな万博2025終了後も継続して研究、開発が進められ、「ポスト万博シティ」に位置づけられたけいはんな学研都市の発展に資すると認められるものについては、幹事会の承認を得て、予算の範囲内でその調達を助成することができる。ただし、助成を受けた機材や備品等による研究、開発の内容及び成果は、必ずけいはんな万博2025において発表、公開しなければならない。

（会計処理等）
第４条　開催等に向けた資金は、各部会において「事業承認稟議書類」を調製し幹事会の承認を得た後に、事務局長が支出する。
２　前条第３項の規定を適用する場合は、内容の妥当性を明らかにするとともに、調達される機材や備品等のけいはんな万博2025終了後の利用方法、帰属先等についても予め「事業承認稟議書類」により幹事会の承認を得なければならない。
３　開催等に向けた資金の支出にあたっては、本要領、規程によるほか、関係法令を遵守し、特に機材や備品等の所有権を移転する際の譲渡課税や招聘した講師等への謝金に係る源泉徴収など公租公課を伴うものについては、遺漏のないよう十分配慮するものとする。

（会計処理等）
第４条の２　第４条第１項に規定する支出に際して、事務局長が必要と認めた場合、監事に意見を求め、適正を期するものとする。

（その他）
第５条　本要領に規定のない事項、取扱いについては、関係機関と事務局がよく協議し、幹事会の承認を得た上で決定する。

付　則
この要領は、令和７年１月２８日から施行する。

けいはんな万博 2025 運営協議会稟議書

起　案	令和　●年　●月　●日	索引番号	け万博第●号		
決　裁	令和　●年　●月　●日	起案者	事務局		印
施　行	令和　●年　●月　●日	職氏名	●●担当　● ● ● ●		

代表	代表	幹事長	事務局長	事務局次長			

合議部署/役職	会計責任者	予算決算担当	企画担当	

件　名

けいはんな万博 2025 運営協議会に係る●●について

内　容

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●してよろしいか。

【参考】

【注記】

事業承認稟議書類

事　業　名	
事業実施内容	
構　成　員 （参画機関）	
事　業　費 （積　算）	
実　施　期　間	
契　約　方　法	24年度支出　　円　25年度支出　　円以内
備　　考	【添付資料】

部会確認欄	部会名		部会長		部会担当	

★事業費の積算根拠等必要な資料を添付すること

けいはんな万博２０２５運営協議会

【07入－No_000】

収入伝票

会計責任者

事務局長	事務局次長	事務局員

収入金額		起票者　　：	
起 票 日		【部会名】　：	
収 入 日		【担当者名】：	

収入事項	けいはんな万博2025　協賛金
入金者	

今 回 入 金 額	¥0
現 在 残 高	¥0

備考・特記事項	処理日	通帳照合	処理担当	処理確認
		ページ 番		

けいはんな万博２０２５運営協議会

【07出－No_000】

支出伺い兼支出伝票

会計責任者

事務局長	事務局次長	事務局員

支出金額		¥0	起票者　　：
（内訳）	請　求　額		【部会名】：
	振込手数料		
起 票 日			【担当者名】：
支払方法	精算払・資金前渡払・概算払・前金払		
支払予定日			

支出事項	けいはんな万博2025運営協議会	
支払内容		
債権者 （支払先） 口座情報	（金融機関）	
	（取引店名）	
	（口座種別）	
	（口座番号）	
	（口座名義）	

備考・特記事項 け万博第　号	処理日	通帳照合	処理担当	処理確認
		ページ 番		



けいはんな万博 2025

けいはんな学研都市

【14 時同時配布】　学研都市記者クラブ、京都府政記者室、京都経済記者クラブ

【プレスリリース】　2025 年 2 月 19 日
けいはんな万博 2025 運営協議会

けいはんな万博２０２５シンボルキャラクター
愛称決定のお知らせ

「けいはんな万博 2025」シンボルキャラクターの愛称が決定しましたので、お知らせします。
2024 年 12 月 9 日～2025 年 1 月 20 日の応募期間に計 622 件の応募をいただき、当運営協議会で厳正に審査を行い、このたび最優秀作品を決定しました。



けいはんな万博２０２５シンボルキャラクター　「みらるる」

■愛称　「みらるる」

■愛称の説明
けいはんな万博は会期中だけでなく、未来にも繋がってほしいと思い「未来」を入れました。また、「るる」は日本語では「長く続くさま」、英語では「素晴らしい輝き」、ドイツ語では「大切な」という意味があります。けいはんな万博が「未来」に繋がり、日本にとって、世界にとって「大切な」「輝かしいもの」になってほしいと思い、この愛称としました。またキャラクターの雰囲気にも合うなとも思いました。

■本件に関するお問合せ先■
けいはんな万博 2025 運営協議会
事務局：(公財) 関西文化学術研究都市推進機構内　中路（なかじ）
TEL:0774-98-2245 ／ FAX:0774-95-5104 ／ E-mail : info@keihannaexpo.org



けいはんな万博 2025

「未来社会への貢献 ～次世代への解～」

けいはんな万博2025 シンボルキャラクター みらるる

会期：2025年4月13日(日)～10月13日(月・祝)

会場：けいはんな学研都市エリア

4月13日の開会式を皮切りに、いよいよけいはんな万博がスタート！　4つのテーマを中心に、未来にふれるイベントを実施します

ロボット・アバター ICT(情報通信技術)

けいはんな地区で研究が進むロボット・アバター・ICT(情報通信技術)をテーマとしたイベントで、ひととロボットがともに暮らす社会の新たな1ページを開きます。

- ドローン＆XRフェス
- アバター(遠隔操縦ロボ)の競技会
- 吹奏楽とアバターのパレード

ウェルビーイング

「健康」「食」「環境」「こころ」をキーワードに、直面する社会課題について、科学技術や文化の力を活用した解決策を提示し、体験できる機会を創ることで、ウェルビーイングの未来を考えます。

- 健康の見える化や食の未来を体感
- 次世代の環境エネルギー技術の公開

スタートアップ

新しい分野へのチャレンジに挑むスタートアップ企業を応援します。新しいサービスや商品のアイデアが実現可能か、けいはんな学研都市で大実験！

- 事業アイディア発表会
- 実験成果の発表展示

サイエンス＆アート

「芸術は、人間のセンスと技術によって生み出されるもの」。科学技術とひとが協奏し、共創する新しい文化の形をお楽しみください。

- 未来を体感！参加型科学イベント
- 研究者、哲学者、芸術家などの講演会

オープンラボ・テックツアー

けいはんなの企業、研究所が研究施設を開放。「科学技術のおもしろさ」と「けいはんな学研都市～周辺地域の歴史・文化・自然」を体験する訪問型イベント。

ポスト万博に向けた若者向けイベント

きょうと国際学生サミット・けいはんな地球環境ユースサミット(8月開催)、けいはんな大学サミット(9月開催)等を通じて、若者の意見を開会式の「けいはんな宣言」に織り込みます。

けいはんな万博2025運営協議会

■お問合せ：公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構 事業推進部 TEL:0774-98-2245　E-mail: info@keihannaexpo.org

4月～6月のイベント の一部をご紹介！

4/13日 開会式

けいはんなプラザ

けいはんな万博を機に作曲された「飛天の奏～けいはんなSTORY～」の演奏、「日時計～けいはんなハーモニー」の合唱、見どころ紹介、そして横山由依さんや子どもたちにけいはんな万博への期待を語っていただきます。また、会場外では「和太鼓演奏」などのサイドイベントや地元スウィーツの出店も予定しています。

京都やましろ観光大使の横山由依さんも登場！



5/24(土)～25日 ロボット・アバター・ICTフェス



けいはんなで生まれた技術と好奇心旺盛な住民がともにつくる新時代のお祭り！ドローンやロボット、アバターが街角で出会える2日間。

24(土) ドローン&XRフェス　けいはんなオープンイノベーションセンター

屋内でのドローン操縦体験や、国内外の人とアバター同士でコミュニケーションしてみよう。

25(日) アバターチャレンジ2025 ～ アバター(遠隔操縦ロボット)によるパレード&競技会 ～

精華大通り、日時計広場、記念公園東広場　ほか

プラザから遠隔操縦するアバターロボットが8市町のキャラクターフィギュアを載せて、ブラスバンドとともに精華大通りを行進。「じゃんけん」「地蔵盆」「買い物」「スラローム」「山登り」の順で5種目の競技に出場します。ひととロボットの遊携プレーをぜひ間近で応援してください。

けいはんなアバターチャレンジ	体験コーナーはこちらからお申込みいただけます
https://www.avatarchallenge.org/	https://www.avatarchallenge. org/?page_id=4170

6/13(金)～15日 ウェルビーイングフェス

けいはんなプラザ、けいはんな記念公園

「健康」「食」「環境」「こころ」をキーワードにウェルビーイングの未来を考える展示や成果発表、講演会、茶会、映画祭を開催します。

健康：身体やこころの測定で「健康」の見える化や、最新医療技術・支援ロボットの最先端を体験
食：未来食・古代食・発酵・茶・和食文化などを通して研究開発成果を披露
環境：カーボンニュートラル社会の実現に向けDAC技術や光る植物を展示
こころ：いのちの映画祭、茶道裏千家前家元 千玄室大宗匠による講演、metaCHA(メタバース茶会)など



©株式会社福寿園

けいはんな万博 2025

「未来社会への貢献 ～次世代への解～」

EVENT SCHEDULE

最新情報は WebをCHECK!

https://keihannaexpo.org/

※予定は変更となる可能性があります

4月 April

- 13日 開会式　けいはんなプラザ　●テーマ曲・合唱曲披露ほか
- 19(土)～5/18日 けいはんなみゅーじあむ(第一期)【サイエンス&アート】　けいはんな記念公園
- 23(水) けいはんな万博 in 夢洲(春)【広域連携】　大阪・関西万博会場 大阪ヘルスケアパビリオン リボーンステージ
- 27日 ジャズフェスティバル【サイエンス&アート】　けいはんな記念公園
- 29(水祝) 公園でバレエ【サイエンス&アート】　けいはんな記念公園
- 30(水) けいはんな万博 in 夢洲【ウェルビーイング】【スタートアップ】　大阪・関西万博会場 大阪ヘルスケアパビリオン リボーンステージ

5月 May

- 1(木) オープニングイベントのサテライトセッション「けいはんな万博へようこそ」"Join Us at the Keihanna EXPO!"　大阪・関西万博会場 関西パビリオン(多目的エリア)
- 5(月祝) けいはんなお豆腐狂言 KYOGEN 未来につなぐ伝統の笑い【サイエンス&アート】　けいはんなプラザ
- 24(土)～25日 ロボット・アバター・ICTフェス【ロボット・アバター・ICT】　けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)、精華大通り、日時計広場、記念公園東広場ほか　●ドローン&XRフェス　●アバターチャレンジ2025 ～ アバター(遠隔操縦ロボット)によるパレード&競技会 ～
- 24(土)～29日 けいはんなみゅーじあむ(第二期)【サイエンス&アート】　けいはんな記念公園
- 26(月)～21(土) ロボカフェ　けいはんなプラザ

6月 June

- 1日 音楽公演「プチコンサート万博バージョン」(仙)【サイエンス&アート】　けいはんなプラザ
- 13(金)～15日 ウェルビーイングフェス【ウェルビーイング】　けいはんなプラザ、けいはんな記念公園　●茶道裏千家千玄室大宗匠の講演会、けいはんな万博2025記念茶会　●映画祭(MBT映画祭総集編ほか)　●講演会(フードテック、健康医療、環境)　●展示(未来食・古代食、フードテックPF)　●展示(健康・医療テクノロジー)　●展示(環境、デジタルグリーン、カーボンニュートラル)
- 28(土) バイオインタラクション研究会(BIRA)【国際会議】　けいはんなプラザ　●ワークショップ　●講演会(宇宙と生命・タンパク質)

大阪・関西万博会場で開催されるイベントについては、入場チケットが必要です 各パビリオンへの入場予約については、万博公式サイトでご確認ください

7月 July

- 18(金) 第1回デコーデッド・ニューロフィードバック国際シンポジウム【国際会議】　けいはんなプラザ
- 25(金) スタートアップフェス【スタートアップ】　けいはんなプラザ　●PoC成果発表、ピッチ会ほか
- 28(月)～8/3日 関西パビリオン京都ブースでの出展　大阪・関西万博会場 関西パビリオン京都ブース

8月 August

- 1(金)～3日 きょうと国際学生サミット【国際会議】　けいはんなプラザほか
- 4(月)～6(水) けいはんな地球環境ユースサミット【国際会議】　けいはんなプラザほか
- 8(金)～9(土) 平和をテーマとした「けいはんな映画劇場」　けいはんなプラザ

9月 September

- 8(月)～11(水) けいはんな大学サミット【国際会議】
- 13(土)～15(月祝) 「生命の起源」国際シンポジウム【国際会議】　けいはんなプラザほか
- 17(水)～18(木) 「Global Startup EXPO 2025」に参加　大阪・関西万博会場 EXPOメッセ
- 19(金) けいはんな万博 in 夢洲(秋)【広域連携】　大阪・関西万博会場 大阪ヘルスケアパビリオン リボーンステージ
- 21日 国際シンポジウム2025「不確実性と共に生きる一次世代への鍵」【国際会議】　けいはんなプラザ
- 27(土)～10/13(月祝) 木津川アート2025【サイエンス&アート】　木津川市役所周辺、けいはんな精華西木津地区
- 30(火) けいはんな万博 in 夢洲【スタートアップ】　大阪・関西万博会場 大阪ヘルスケアパビリオン リボーンステージ

10月 October

- 2(木) けいはんなビジネスメッセ2025　けいはんなプラザ
- 2(木)～3(金) 京都スマートシティEXPO、フードテックEXPO　KICK
- 2(木)～3(金) ATRオープンハウス　ATR
- 4(土) けいはんなR&Dフェア2025【サイエンス&アート】　けいはんなプラザ
- 4(土) 創作ダンス公演【サイエンス&アート】　けいはんなプラザ
- 4(土) 観月のタベ【サイエンス&アート】　けいはんな記念公園
- 5日 オーケストラコンサート【サイエンス&アート】　けいはんなプラザ
- 11(土) 閉会式　けいはんなプラザ　●けいはんな宣言　●世界を結ぶけいはんな大合唱ほか
- 12日 せいか祭り、子ども祭り　けいはんな記念公園、けいはんなプラザほか

けいはんな万博２０２５　閉会セレモニー

～けいはんなからみらいへの約束～

２０２５年１０月１１日（土）

１２時４０分

けいはんなプラザ　メインホール

1. オープニング
『日時計～けいはんなハーモニー』 合唱
『飛天の奏～けいはんな STORY～』　指揮：アバターロボット KOCoA（コア）

2. あいさつ
主催者　けいはんな万博２０２５運営協議会 共同代表　堀場　厚
ご来賓　京都府知事　西脇　隆俊 様

3. けいはんな万博２０２５ハイライト　（半年間のふりかえり映像）

4. ポスト万博シティの未来図　（SF アニメーション）

5. けいはんな宣言に向けて～若い世代からの提案
地球環境ユースサミット、「けいはんな大学」サミット、他
けいはんな万博２０２５に参画した若い世代代表のみなさん

6. 世界 12 ヵ国を結ぶけいはんな大合唱
各国からの平和メッセージ
『Believe』 合唱

7. クロージング

― 開催イベント ―

２０２５年４月　４．１３ 開会式
けいはんなみゅーじあむ（第一期）
けいはんなサイクルレース
EXPO KYOTO Meeting　（EXPO ホール）
けいはんな万博 in 夢洲（春）　（大阪ヘルスケアパビリオン　リボーンステージ）
エジソンの会
ジャズフェスティバル
公園でバレエ
けいはんな万博 in 夢洲　（大阪ヘルスケアパビリオン　リボーンステージ）

２０２５年５月　オープニングイベントのサテライトセッション in 夢洲（関西パビリオン）
けいはんなお豆腐狂言 KYOGEN
れじフェス 美まつり
ゲーテの会
TOJ 京都ステージ
オープンラボ・テックツアー
けいはんなみゅーじあむ（第二期）
ロボット・アバター・ICT フェス
アバターチャレンジ２０２５
オーガニック マルシェ
ロボカフェ・metaCHA

２０２５年６月　けいはんなプラザプチコンサート「けいはんな万博記念音楽会」
けいはんなフィルハーモニー管弦楽団演奏会
ウェルビーイングフェス
オープンラボ・テックツアー
万博記念コンサート　～1970 年から 2025 年の名曲たち～
バイオインタラクション研究会（BIRA）
未来創造セッション２０２５ ①文化編
国際ヨガ DAY in 京都

２０２５年７月　香港食祭
けいはんな meta 鼎談
デコーデッド・ニューロフィードバック国際シンポジウム

けいはんな万博２０２５テックツアー
スタートアップフェス
未来創造セッション２０２５ ②技術編
けいはんな万博 in 夢洲　（関西パビリオン　京都ゾーン）

２０２５年８月　きょうと国際学生サミット
けいはんな ふれあいコンサート２０２５
けいはんな地球環境ユースサミット
ほくぶとしょかん 万博２０２５
オープンラボ・テックツアー
平和をテーマとした「けいはんな映画劇場２０２５」
ジュニアロボット教室２０２５
エジソンの会
自動運転バスの体験試乗会
未来創造セッション２０２５ ③地域編

２０２５年９月　発掘された日本列島２０２５
偏光板アートを作ろう
けいはんな大学サミット　～けいはんな学研都市の地で未来について考える～
「歌は時空（とき）を超えてⅢ」
「生命の起源」 国際シンポジウム
「Global Startup EXPO 2025」　（EXPO メッセ）
けいはんな万博 in 夢洲（秋）　（大阪ヘルスケアパビリオン　リボーンステージ）
みんなで和太鼓を叩こう！
親子で一緒に雨が楽しくなる大作戦
「不確実性とともに生きる―未来への鍵」
ジュニアロボット教室２０２５
「古代都食」探求・開発シンポジウム
「けいはんな大合唱」 特別練習日イベント
ナイスポ！NAIST EXPO ２０２５
木津川アート２０２５
けいはんな万博 in 夢洲 （大阪ヘルスケアパビリオン　リボーンステージ）

２０２５年１０月　京都スマートシティ EXPO、フードテック EXPO
ATR オープンハウス
オープンラボ・テックツアー
「Peeping Garden 今日の穴」公演　連携ワークショップ
けいはんな R&D フェア２０２５
回遊型コンテンポラリーダンス公演　「Peeping Garden 今日の穴」
観月の夕べ

ATR４０周年記念事業 「温故知新シンポジウム」
大阪交響楽団 けいはんな未来への扉
EXPO 酒場 京田辺店
エジソンの会
閉会セレモニー　～けいはんなからみらいへの約束
せいか祭り２０２５・子ども祭り

サポーターのみなさま

住友電気工業株式会社
株式会社堀場製作所
株式会社島津製作所
積水ハウス株式会社
大和ハウス工業株式会社
レンゴー株式会社
オムロン株式会社
共栄製茶株式会社
株式会社ヒラノテクシード
株式会社福寿園
ロート製薬株式会社
Colt データセンターサービス・ジャパン・オペレーティング合同会社
株式会社国際電気通信基礎技術研究所
カゴヤ・ジャパン株式会社
マンヨーツール株式会社
山城経済懇話会
株式会社イチグチ
環境衛生薬品株式会社
新日本理化株式会社
株式会社テクノフレックス
株式会社ミズホ
京都山城ロータリークラブ
株式会社井上製作所
株式会社ウィル
株式会社環境総合リサーチ
京都府
大阪府
奈良県
公益社団法人関西経済連合会

資料索引リスト

NO.	開催年	けいはんな万博 2025 プレイベント一覧	掲載ページ	
			本　文	フライヤー
1	草創期	異分野交流セミナー 近未来創造ワークショップ　5回シリーズ	80	202
2		第 1 ～ 3 回けいはんな万博セミナー	82	202
3	2023 年	第 4 ～ 7 回けいはんな万博セミナー	82	202,203
4		ATR オープンハウス 2023「ともに究め、明日の社会を拓く」	—	203
5		けいはんな R&D フェア 2023	—	203
6		けいはんな万博 2025　プレイベント　オープンラボ・テックツアー	88	
7		アバターチャレンジ 2023 プレ大会	106	203
8	2024 年	第 8 ～ 9 回けいはんな万博セミナー	82	203
9		けいはんな万博　キックオフイベント	22	203
10		けいはんな万博 2025　プレイベント　オープンラボ・テックツアー 2024 Summer	88	204
11		京都スマートシティエキスポ 2024	—	204
12		京都フードテックエキスポ 2024	—	204
13		けいはんなビジネスメッセ 2024	—	204
14		ATR オープンハウス 2024「万博、そしてその先へ～科学技術が描く未来～」	—	204
15		けいはんな R&D フェア 2024	—	204
16		大阪・関西万博開催半年前イベント「京都イロドリ EXPO こといろ」アバターロボット操縦体験	104	204
17		けいはんな万博セミナー 未来創造セッション❶ロボット・アバター・ICT	84	204
18		未来モノづくり国際 EXPO2024　アバターロボット遠隔操縦体験	105	204
19		けいはんな万博 2025　プレイベント　オープンラボ・テックツアー 2024 Autumn	88	205
20		けいはんな万博 2025　プレイベント国際シンポジウム「不確実性とともに生きる～次世代への鍵」	51	205
21		けいはんな万博セミナー 未来創造セッション❷ウェルビーイング	84	205
22		大阪・関西万博開幕 100 日前イベント（イオンモール橿原）	—	205
23		けいはんな万博セミナー 未来創造セッション❸スタートアップ	84	205
24		第 34 回国際 MICE エキスポ	—	205
25		けいはんな万博セミナー 未来創造セッション❹サイエンス&アート	84	205
26		大阪・関西万博開幕直前イベント（イオンモール大和郡山）	—	205

NO.	開催月	けいはんな万博 2025 イベント一覧	掲載ページ	
			本　文	フライヤー
1	4月	「けいはんな万博 2025」開幕	26	206
2		けいはんなみゅーじあむ展（第一期）	68	206
3		けいはんなサイクルレース	—	206
4		EXPO KYOTO Meeting　（EXPO ホール）	—	207
5		けいはんな万博 in 夢洲　〜しろう！ふれよう！けいはんな〜 3	28	207
6		エジソンの会	54	207
7		ジャズフェスティバル	69	207
8		公園でバレエ	69	207
9		けいはんな万博 in 大阪・関西万博	63	207
10	5月	けいはんな万博へようこそ	33	207
11		けいはんなお豆腐狂言 KYOGEN　未来につなぐ伝統の笑い	70	207
12		れじフェス 美まつり	—	208
13		ゲーテの会	54	208
14		TOJ 京都ステージ	—	208
15		オープンラボ・テックツアー 2025	90	—
16		けいはんなみゅーじあむ展（第二期）	68	208
17		ロボット・アバター・ICT フェス　「ドローン& XR フェス」	110	208
18		第1回アバターチャレンジ 2025 大会	107	208
19		オーガニック マルシェ	—	208
20		ロボカフェ	64	—
21	6 月	けいはんなプラザ・プチコンサート『けいはんな万博記念音楽会』	71	208
22		けいはんなフィルハーモニー管弦楽団演奏会	—	208
23		ウェルビーイングフェスティバル	56	209
24		オープンラボ・テックツアー 2025	90	209
25		万博記念コンサート　〜 1970 年から 2025 年の名曲たち〜	72	209
26		バイオインタラクション研究会　第 29 回ワークショップ	124	209
27		けいはんな万博セミナー 未来創造セッション 2025 ❶文化編	86	209
28		国際ヨガ DAY in 京都	—	209
29	7月	香港食祭	—	210
30		けいはんな meta 鼎談	54	210
31		第1回デコ―ディッド・ニューロフィードバック国際シンポジウム	126	—
32		オープンラボ・テックツアー 2025	90	210

NO.	開催月	けいはんな万博 2025 イベント一覧	掲載ページ	
			本　文	フライヤー
33		スタートアップフェス	94	210
34		けいはんな万博セミナー 未来創造セッション 2025 ❷技術編	86	210
35		関西パビリオン 京都ゾーン　けいはんな万博 2025 の紹介	116	210
36	8月	きょうと国際学生サミット 2025	128	—
37		けいはんな ふれあいコンサート 2025	—	210
38		地球環境ユースサミット 2025 in KYOTO　京都・けいはんなサミット	130	210
39		ほくぶとしょかん 万博 2025	—	210
40		オープンラボ・テックツアー 2025	90	211
41		平和をテーマとした「けいはんな映画劇場 2025」	—	211
42		ジュニアロボット教室 2025	—	211
43		エジソンの会	54	211
44		けいはんな万博セミナー 未来創造セッション 2025 ❸地域編	86	211
45	9月	発掘された日本列島 2025	—	211
46		偏光板アートを作ろう	—	211
47		「けいはんな大学」サミット	138	211
48		「歌は時空（とき）を超えてⅢ」	—	212
49		生命の起源に関する国際シンポジウム	132	212
50		「Global Startup EXPO 2025」（EXPO メッセ）	—	212
51		けいはんな万博 in 夢洲〜しろう！ふれよう！けいはんな〜	28	212
52		みんなで和太鼓を叩こう！	—	212
53		親子で一緒に雨が楽しくなる大作戦	—	212
54		けいはんな万博 2025 シンポジウム「不確実性とともに生きる―未来への鍵」	52	213
55		ジュニアロボット教室 2025	—	213
56		「古代都食」探求・開発シンポジウム	66	213
57		「けいはんな大合唱」特別練習日イベント	—	213
58		ナイスポ！ NAIST EXPO 2025	118	213
59		木津川アート 2025	73	213
60		けいはんな万博 in 大阪・関西万博	63	—
61	10 月	京都スマートシティエキスポ 2025 ／京都フードテックエキスポ 2025	120/122	213
62		次世代モビリティ事業・草刈りロボット事業	114	—
63		ATR オープンハウス 2025「社会課題と向き合う科学技術の最前線」	119	214
64		オープンラボ・テックツアー 2025	90	214

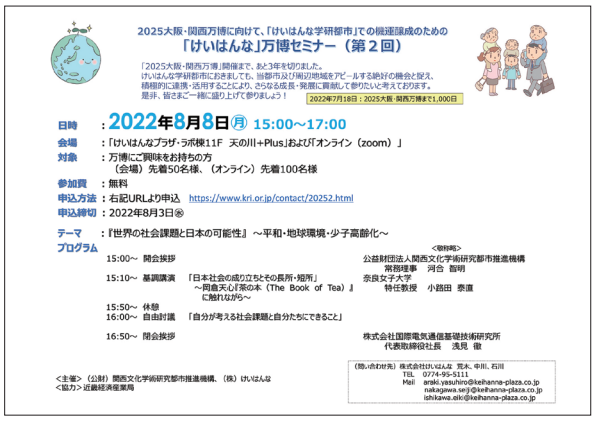
NO.	開催月	けいはんな万博 2025 イベント一覧	掲載ページ	
			本　文	フライヤー
65		回遊型コンテンポラリーダンス公演「Peeping Garden 今日の穴」連携ワークショップ	74	214
66		けいはんな R & D フェア 2025　科学で描こう〜けいはんなの未来キャンパス〜	35	214
67		回遊型コンテンポラリーダンス公演「Peeping Garden 今日の穴」	74	214
68		観月の夕べ〜お月見の夜、30 周年の感謝を込めて〜	75	214
69		ATR 温故知新（故きを温ねて新しきを知る）シンポジウム	134	214
70		大阪交響楽団「けいはんな未来への扉」	76	214
71		EXPO 酒場 京田辺店	—	214
72		エジソンの会	—	215
73		閉会セレモニー	38	215
74		せいか祭り 2025	36	215

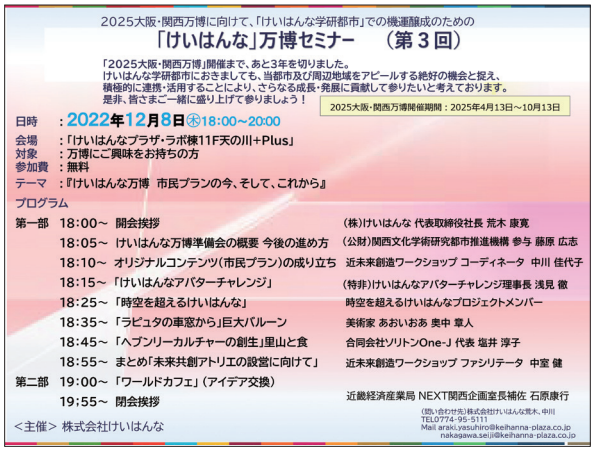
●けいはんな万博 2025 プレイベント（草創期）



異分野交流セミナー 近未来創造ワークショップ







第１～３回けいはんな万博セミナー

●けいはんな万博 2025 プレイベント（2023 年）



第４回けいはんな万博セミナー



第５回けいはんな万博セミナー



第６回けいはんな万博セミナー



第７回けいはんな万博セミナー



ATR オープンハウス 2023「ともに究め、明日の社会を拓く」

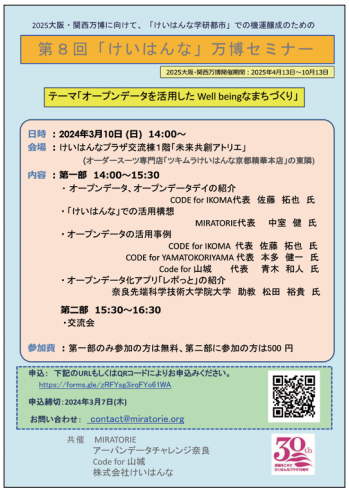


けいはんな R&D フェア 2023

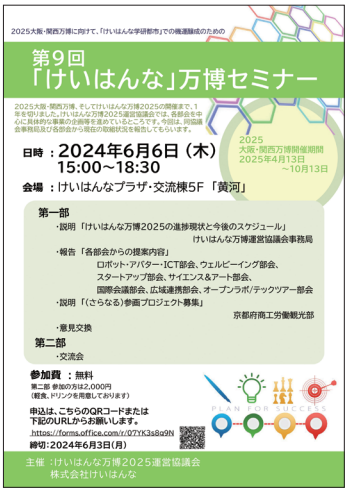


アバターチャレンジ 2023 プレ大会

●けいはんな万博 2025 プレイベント（2024 年）



第８回けいはんな万博セミナー



第９回けいはんな万博セミナー



けいはんな万博 _ キックオフイベント



けいはんな万博 2025 プレイベント オープンラボ・テックツアー 2024-Summer



京都スマートシティエキスポ 2024



ATR オープンハウス 2024「万博、そしてその先へ～科学技術が描く未来～



科学で遊ぼう！ミライを探検しよう！ in けいはんな R&D フェア 2024



19th けいはんなビジネスメッセ 2024



京都フードテックエキスポ 2024.



大阪・関西万博開催半年前イベント 「京都イロドリ EXPO こといろ」 アバターロボット操縦体験



けいはんな万博セミナー 未来創造セッション❶ロボット・アバター・ICT



未来モノづくり国際 EXPO2024　アバターロボット遠隔操縦体験



けいはんな万博 2025 プレイベント オープンラボ・テックツアー 2024 Autumn



けいはんな万博 2025 プレイベント 国際シンポジウム「不確実性とともに生きる～次世代への鍵」



けいはんな万博セミナー 未来創造セッション❷ウェルビーイング



大阪関西万博 100 日前イベント（イオンモール橿原）



けいはんな万博セミナー 未来創造セッション❸スタートアップ



第 34 回国際 MICE エキスポ



けいはんな万博セミナー 未来創造セッション❹サイエンス＆アート

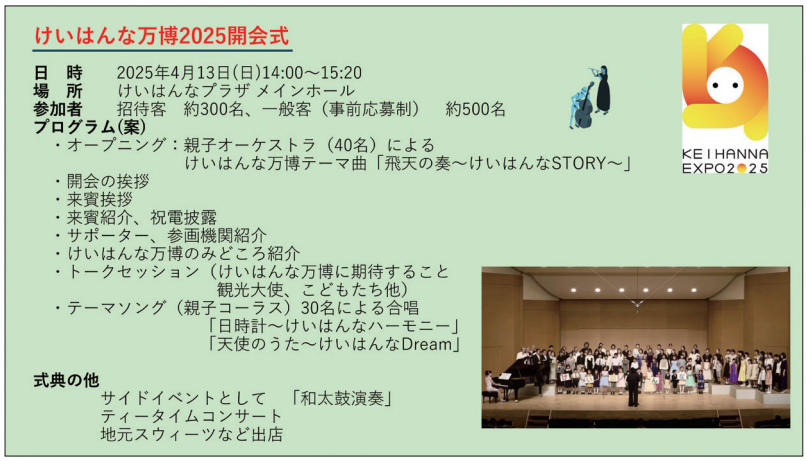


大阪関西万博開幕直前イベント（イオンモール大和郡山）

●けいはんな万博 2025 イベント



「けいはんな万博 2025」開幕



「けいはんな万博 2025」開幕



けいはんなみゅーじあむ展（第一期）
①通期紹介版



けいはんなみゅーじあむ展（第一期）
②御所人形展



けいはんなみゅーじあむ展（第一期）
③ 時代劇展



けいはんなサイクルレース



EXPO KYOTO Meeting（EXPOホール）



けいはんな万博 in 夢洲　～しろう！ふれよう！けいはんな～



エジソンの会



ジャズフェスティバル



公園でバレエ



けいはんな万博 2025 in 大阪・関西万博



けいはんな万博へようこそ



けいはんなお豆腐狂言 KYOGEN　未来につなぐ伝統の笑い



レジフェス　美まつり



ゲーテの会



TOJ 京都ステージ



けいはんなみゅーじあむ展（第二期）妖怪展



ロボット・アバター・ICT フェス「ドローン & XR フェス」



第 1 回アバターチャレンジ 2025 大会



オーガニックマルシェ



けいはんなプラザプチコンサート　『けいはんな万博記念音楽会』



けいはんなフィルハーモニー管弦楽団演奏会



ウェルビーイングフェスティバル



ウェルビーイング　MBT みんなで守るいのちの映画祭



ウェルビーイング　「健康寿命」伸長への提案



ウェルビーイング　千玄室大宗匠講演「Well-Being で前進」



けいはんなオープンラボ・テックツアー 2025



万博記念コンサート　～1970 年から 2025 年の名曲たち～



バイオインタラクション研究会　第 29 回ワークショップ



けいはんな万博セミナー 未来創造セッション 2025 ❶文化編



国際ヨガ DAY in 京都



香港食祭



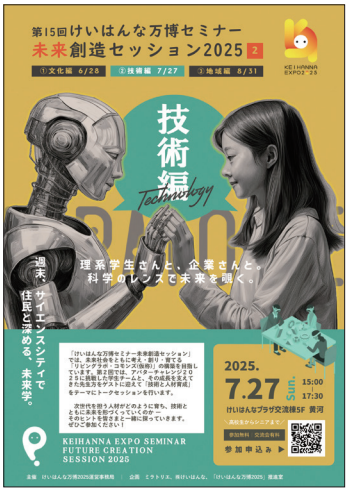
けいはんな meta 鼎談 『資本論』



オープンラボ・テックツアー



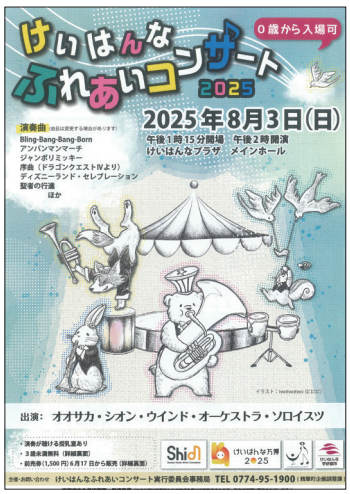
スタートアップフェス



けいはんな万博セミナー 未来創造セッション 2025 ❷技術編



関西パビリオン 京都ゾーン　けいはんな万博 2025 の紹介



けいはんな ふれあい コンサート 2025



地球環境ユースサミット 2025 in KYOTO　京都・けいはんなサミット



ほくぶとしょかん 万博 2025



オープンラボ・テックツアー 2025



平和をテーマとした「けいはんな映画劇場 2025」



ジュニアロボット教室 2025



エジソンの会



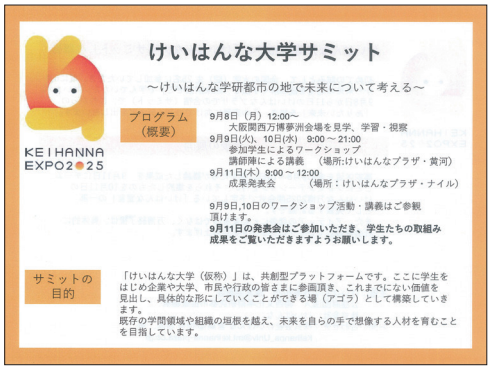
けいはんな万博セミナー 未来創造セッション 2025 ❸地域



発掘された日本列島 2025



偏光板アートを作ろう



「けいはんな大学」サミット



歌は時空を超えて



生命の起源に関するシンポジウム



「Global Startup EXPO2025」（EXPO メッセ）



けいはんな万博 in 夢洲　～しろう！ふれよう！けいはんな～



けいはんな万博 in 夢洲　スタンプラリー



みんなで和太鼓を叩こう！



親子で一緒に雨が楽しくなる大作戦



けいはんな万博 2025 シンポジウム「不確実性とともに生きる一未来への鍵」



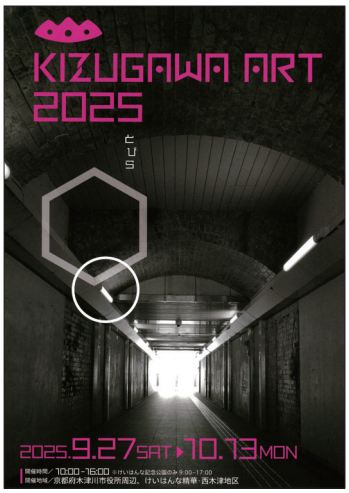
「古代都食」探求・開発シンポジウム



「けいはんな大合唱祭」 特別練習日イベント



ナイスポ！　NAIST EXPO 2025



木津川アート 2025



ジュニアロボット教室 2025



京都スマートシティエキスポ 2025



京都フードテックエキスポ 2025



ATR オープンハウス 2025「社会課題と向き合う科学技術の最前線」



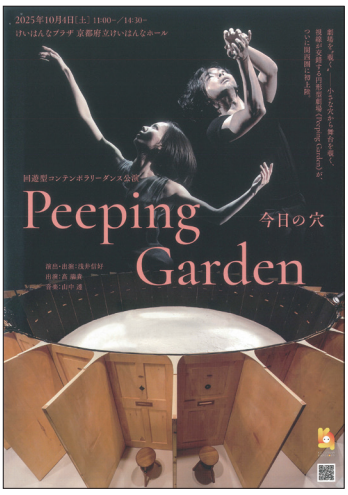
オープンラボ・テックツアー 2025



回遊型コンテンポラリーダンス公演「Peeping Garden 今日の穴」連携ワークショップ



けいはんな R & D フェア 2025　科学で描こう~けいはんなの未来キャンパス~



回遊型コンテンポラリーダンス公演「Peeping Garden 今日の穴」



観月の夕べ~お月見の夜、30 周年の感謝を込めて~



ATR 温故知新（故きを温ねて新しきを知る）シンポジウム



大阪交響楽団「けいはんな未来への扉」



EXPO 酒場 京田辺店



エジソンの会（台風のため 2026 年 3 月 26 日に開催）



せいか祭り 2025



閉会セレモニー

編集後記

東修司　（株式会社けいはんな　取締役営業部長）

けいはんな万博2025ではスタートアップ部会で活動しました。夢洲や学研都市内でのイベント、特にスタートアップフェスティバルの立案・運営をメンバーの皆さんと所属や組織にとらわれず、ベクトルを合わせて取り組んだことが印象に残っています。この団結力は、けいはんな学研都市の未来を切り開く推進源になると信じています。

伊藤佐和子　（株式会社けいはんな　事業部主任）

所属する組織、キャリアや立場が違えば、力になれることもそれぞれ異なります。当たり前のことですが、互いを生かしあいながら前に進むことは、とても素敵で本質的な価値だと感じました。

内田実保　（奈良県まちづくり推進局県土利用政策課　課長）

けいはんな万博2025は、多様な主体が協働し、社会課題の解決と未来社会の姿を具体的に示した意義深い取組でした。引き続き、生駒市学研高山地区第２工区の整備に対する支援など、関西文化学術研究都市の更なる発展に向けて、本万博で培ったつながりを活かし、様々な関係者との連携を深めていきたいと思います。

内元清貴　（国立研究開発法人情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所　研究所長）

けいはんな万博2025では、主にサイエンス＆アートの分野でイベント等に携わり、共創の場の必要性を改めて実感しました。そこで得られた新たなつながりと未来に向けたヒントを今後の取り組みに活かしていきたいと思います。

岡野俊一郎　（株式会社けいはんな　事業部課長）

多くのイベントで賑わったけいはんな万博。その始まりと締めくくりとなった開会・閉会式典は、準備に携わった者としても特別な時間でした。参加者の期待や想いが重なり、現場の熱量が多くの方の心に届き、この万博の記憶が未来へ受け継がれていくことを願っています。

奥田則之　（公益社団法人関西経済連合会　産業部参与）

地域で働き・盛り上げる多くの方々と出会い、思いを広く伝えるため話し合いを重ねました。早朝？、暗がりにライトアップされたリングに胸が高鳴り、子どもから大人までが文化と科学技術を楽しむ姿に心が躍動。この現場で生まれた感動を原動力に、より多くの方々へ広げていきたいです。

鍵田智也　（公益社団法人関西経済連合会　産業部部長代理）

けいはんな万博を通じて、立地機関の皆さまが持つ技術・知見のすそ野の広さに改めて感銘を受けました。また、科学技術や文化の力で社会課題を解決していく、けいはんなの姿もイメージできました。経済界としては、引き続き、けいはんなの拠点機能の強化や認知度向上に努め、けいはんなのさらなる発展に貢献してまいります。

笠原和史　（公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構　広報戦略室　室長）

半年間にわたる「けいはんな万博2025」の広報活動を通じて、多くの関係者の皆さまとの連携が、日々強まっていくことを実感できました。ともに築いたこの結束の力を支えに、今後も「けいはんな学研都市」のPRに努めてまいります。

加藤博一　（奈良先端科学技術大学院大学　理事・副学長）

アバターチャレンジ2025では、けいはんな学研都市を構成する自治体や企業、大学の有志が集まり、手作りのロボットが実際の街の中で競技を行ないました。このような学研都市ならではの取り組みが今後も継続されることを期待します。

河部博　（公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構　調査役）

総額２億円を超える目標額のもと、約９カ月間資金集めに奔走しました。出だしは、訪問しても協賛への反応は鈍く、開催できるか不安を抱えながらの活動でしたが、支援の申し出が相次いだ終盤は、「足を向けて寝られないどころか、立って寝ないといけない」と語り合った日々が心に残っています。

菊池智恵子　（けいはんな万博2025運営協議会事務局　経理担当）

けいはんな万博2025事務局の一員として携われたことは、かけがえのない経験でした。万博成功にご尽力された皆様に感謝すると共に未来へ繋がる取り組みで、けいはんな学研都市を盛り上げてくださることを期待しております。

小山哲史　（株式会社けいはんな　常務取締役）

「けいはんな万博」の成果を次に活かすべく「大学・研究機関共創会議」の事務局として「ポスト万博シティ推進に向けての提言」の策定に携われたことに感謝。

朝夕のインフォメーションセンターの開閉と映像・音楽の準備が半年間の日課になりました。

芝田雅貴　（京都府商工労働観光部文化学術研究都市推進課　課長）

10年の時を経て再び、けいはんな学研都市に携わることとなり、この都市の”未来”を皆さんと共に考え、創ることができ、感慨深い限りです。けいはんな万博で共有した”未来”へのわくわくした期待と確信を出発点に、皆さんと共に次のステージへ挑み続けていきたいと思います。

柴谷光信　（株式会社けいはんな　取締役）

けいはんな万博やイベントの周知など広報チームの活動は手探りでした。HP、チラシに加え『みらるる』、SNS、地元自治体LINEなどを活用。広報活動に協力してくださった方々に感謝。情報の届け方、認知してもらう意識は今後の活動でも必要。けいはんな学研都市の進化発展の為、今回の経験を活かし益々精進したいと思います。

辰巳真起子　（株式会社国際電気通信基礎技術研究所（ATR）　経営企画・イノベーション協創部　担当部長）

KPoCやスタートアップフェス、夢洲でのイベントで、近くに立地しながら協働の機会がなかった機関と知恵を出し合い汗を流せたことは、精華大通りを人力で大型モニターを何台も運んだ思い出も含め、かけがえのない経験となりました。万博の閉幕で終わらせず、この共創の輪をさらに広げ続けたいと思います。

田中寿直　（株式会社けいはんな　事業部長）

けいはんな万博では、６月を皮切りに七つの国際会議を各主催者のご尽力により開催いただきました。この間、初めて接する関係の方々とコミュニケーションを図る中で、会議テーマへの関心がどんどん高まっていったことが思い出されます。今後ともこのご縁を大切にしていきたいと存じます。

田中正樹　（株式会社けいはんな　総務部長）

アバターチャレンジ2025では運営マニュアルから総合案内まで担当。準備万端のつもりが、設営開始と同時に物品不足で早くも迷子。競技中には入賞賞品が足りずダッシュで買い出し。気づけば観戦ゼロで一日終了。次回こそは、もう少しスマートに走りたい。

中居一洋　（公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構　参与）

オープンラボ・テックツアー部会では、けいはんな学研都市らしい先進技術や地域・文化に根差した活動に、ビジネス・一般からお子さままで多くの方に体験して頂きました。ご協力頂きました多くの企業、団体さまに深く感謝申し上げますとともに、このご縁が、けいはんなのますますの発展に繋がりますように…。

中川佳代子　（株式会社国際電気通信基礎技術研究所（ATR）／特定非営利活動法人けいはんなアバターチャレンジ　理事／ミラトリエ　共同代表）

けいはんなで生まれ育った私にとって、「けいはんな万博2025」に携われたことは大きな喜びでした。「けいはんな宣言」の精神を胸に、共に考え、学び、創る仲間と築く共創の輪が、未来への希望を育む力になると感じています。今後も地域の皆様と力を合わせ、けいはんな学研都市の更なる発展に向けて歩みを進めてまいります。

橋本友美　（株式会社けいはんな　営業部主任）

SU部会でのPoCがとても印象に残っています。地域の方に半年間機器設置をしてもらうものだったのですが、定期的な状況確認の際にも毎回温かく受け入れ、趣味のお話などもしてくれる。最後は想像以上のPoCフィードバックをいただき、お別れが寂しいくらいでした。地域の方々のすばらしさを改めて知ることができました。

春名裕太　（公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構 広報戦略室主任）

広報担当としてけいはんな万博2025に参加しました。撮影を主に担当し、特にアバターチャレンジでは、子どもから大人まで多くの方が笑顔でアバターを眺め応援する姿が印象的でした。思わず何度もシャッターを切るほど、広報としても心に残る時間となりました。

廣瀬誓雄　（公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構　特命参与）

2024年の10月から地元企業を訪ね、「招かれざる客」と心得つつ、まず会って話を聞いていただくことに専念しました。初訪問で現金をご用意いただいた驚きや金額交渉、ご辞退等の記憶とともに、けいはんな万博2025開催の熱意をお伝えし、コミュニケーションできたことは、今後の一体感創出につながるものと信じています。

藤井滋　（公益財団法人国際高等研究所　総務部長）

サイエンス＆アート部会関係イベントについて、各事業主体の方々が様々な創意工夫を重ねて、約４万４千人のお客様にご来場いただきました。関係者の方々の多大なるご尽力に改めて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

藤井哲也　（情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所　研究マネージャー）

けいはんな万博には、事務局会議やR&Dフェア、アバターチャレンジ運営支援を通じて関わりました。ここから得られた多様な連携を礎に、けいはんな宣言に掲げる「絶えずイノベーションを生み出す都市」の実現に今後も寄与していきたいと思います。

松村憲一　（公益財団法人 関西文化学術研究都市推進機構　調査役）

４年間「けいはんな万博」を考え続けてきました。その間、”opportunity cost”という言葉が常に脳裏にありました。自分が担当したことで、「最善の選択をしなかったために得られなかった利益」が増嵩したのではないか。その恐怖は今もあります。今後けいはんな学研都市が発展し、恐怖が緩和されることを念願しています。

水瀬ゆず　（一般社団法人プレプラ　代表理事）

福寿園様と共催した「メタバース茶会」は、伝統文化と先端技術が交差する象徴的な場となりました。リアルとバーチャル、双方で「お茶の心」を分かち合った経験は、デジタルが人の温もりを拡張できるという確信に繋がりました。この成果を糧に、境界を超えた新しい文化の創出に挑戦し続けます。

桃井秀幸　（特定非営利活動法人けいはんなアバターチャレンジ　事務局長（理事））

けいはんなアバターチャレンジ2025には、たくさんの皆様にご観覧いただきありがとうございました。また、競技チーム、運営にご協力いただきました皆様に改めて御礼申し上げます。今年度以降もこのイベントを社会実装にむけて続けてまいります。成長を続けるアバターロボットに引き続きご期待ください。

山内哲也　（大阪府政策企画部企画室連携課　課長）

「けいはんな万博in夢洲」では、先端技術の体験展示やワークショップに５千人もの方が来場され、けいはんなについて楽しみながら知っていただく機会となりました。万博後も、夢洲とけいはんなを結ぶ東西軸上に位置する森之宮の大阪公立大学はじめ各拠点と連携交流しながら、府民・企業等にけいはんなの魅力を発信していきたいと思います。

若木利一　（株式会社けいはんな　けいはんな万博2025推進室長）

けいはんな万博2025の運営に携わらせていただき、改めて学研都市の技術・文化のすばらしさを実感しました。また、運営に関わることで、多くの方と知り合い、連携できたことは大きな財産となりました。今後も連携を途切れさせず、学研都市が発展してほしいと思います。

和氣弘明　（公益財団法人国際高等研究所　専務理事）

けいはんな万博2025で得られた「一体感ある連携」というレガシーを大切に継承し、今後の活動の核へと昇華させるべく活動ができればと思います。活動が一過性のものではなく、産官学の枠組みを維持・発展できるよう持続的に取り組むことが大切であると感じています。

（所属・肩書きは2026年３月31日時点）

編集・制作　京都新聞出版センター
装丁　　合同会社無盡藏　上野昌人

けいはんな万博 2025 事業報告書

発行日　　令和 8 年（2026）4 月 27 日　　©2026
発行者　　堀場　厚
発行所　　けいはんな万博 2025 運営協議会事務局
京都府相楽郡精華町光台 1 丁目 7（けいはんな学研都市）
けいはんなプラザ　ラボ棟 3 階
公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構内
TEL：0774-98-2245

印刷・製本　株式会社京都新聞印刷

Printed in Japan